

本 年次報告書는 農業基本法 第5條의
規定에 의하여 農業의 動向과 施策에 관하여
1990年度 定期國會에 提出하기 위하여
作成하였다.

19103250

1990 年度

農業動向에 關한 年次報告書

寄贈

一九九一年五月九日
농림수산부 寄贈

農林水産部

目 次

第 1 部 農業部門

第 1 編 1989年度 農業動向	1
第 1 章 國內外經濟動向	3
第 1 節 海外經濟動向斗 韓國經濟	3
第 2 節 國內經濟動向斗 農業	12
第 2 章 農村經濟와 農村社會	21
第 1 節 農業構造 및 農業生産性	21
第 2 節 農家經濟	28
第 3 節 農產物 價格動向	41
第 4 節 農業投資	48
第 5 節 農村生活水準	50
第 3 章 農產物 需給動向	51
第 1 節 農產物需要變化와 農政	51
第 2 節 農畜產物 需給動向	54
第 4 章 '89年度에 推進한 主要農政	64
第 1 節 '89年度 農政의 展開	64
第 2 節 農漁村發展綜合對策 推進	65
第 3 節 農水產物 輸入自由化豫示와 補完對策	66
第 4 節 農漁村負擔輕減 特別措置	71
第 5 節 農漁民團體의 民主化와 自律性 強化	75
第 6 節 '89 農政의 成果와 反省	76

第2篇 1990年度 農業施策	81
第1章 急變하는 農政與件과 農業政策 方向	83
第2章 '90農業政策의 基本目標	89
第1節 最近 農漁村經濟社會의 動向	89
第2節 重點施策	91
第3節 投資規模	94
第3章 農業의 構造改善	96
第1節 營農規模의 擴大支援	96
第2節 農業勞動力 不足解消	99
第3節 農業生產基盤의 擴大造成	112
第4節 農漁村定住生活圈 開發	117
第5節 農業振興地域 指定推進	119
第6節 農業技術開發促進 및 農村指導	120
第4章 主要農產物의 適正生産과 需給安定	131
第1節 主要園藝作物 및 果實類等 需給安定과 流通改善	131
第2節 쌀 및 麥作物의 安定的 生産	141
第3節 畜産長期發展對策과 畜產物 價格安定	162
第5章 農外所得源 開發	170
第1節 農工團地의 擴大造成 및 農漁民 職業訓練實施	170
第2節 農漁村特産團地 造成擴大	173
第3節 農漁村觀光所得源 開發	174
第6章 農水產物 輸入自由化와 GATT 우루과이 라운드 農產物協商對策方向	175
第1節 GATT 우루과이 라운드 農產物協商對策	175
第2節 輸入自由化 豫示計劃 및 補完對策	180

第3節 農水產物 輸出増大	183
第4節 技術 及 通商協力 強化	185
第7章 農漁民 支援施策 強化	187

第2部 林業部門

第1編 1989年度 林業動向	197
第1章 國內外林業動向과 우리林業	199
第1節 國內 林業動向	199
第2節 海外 林業動向	203
第3節 林業投資	205
第4節 山林의 效用	207
第2章 林產物 需給	209
第1節 木材需給 動向	209
第2節 木材産業	212
第3節 短期所得 林產物 需給	215
第3章 1989년에 推進한 主要林政	218
第1節 林業의 現實與件	218
第2節 林業發展을 爲한 施策의 轉換	219
第3節 林政의 民主化	223
第4節 '89年 林政推進 成果	224
第2編 1990年度 林業施策	227
第1章 山林에 對한 社會的 與件과 '90 林業政策	229

第 1 節	山地開發 與件的 變化	229
第 2 節	山村振興을 爲한 林業政策의 轉換	230
第 3 節	'90 林業政策의 基本方向	232
第 4 節	林業部門 投資	233
第 2 章	산地の 計劃的 利用開發	236
第 1 節	山地利用體系의 再編	236
第 2 節	山地利用 開發體系의 定立	237
第 3 章	山林資源의 經濟林化와 保護育成	238
第 1 節	造林 및 育林	238
第 2 節	海外 山林資源의 開發	241
第 3 節	所重한 山林資源의 保護	242
第 4 章	林業經營 基盤의 擴充	248
第 1 節	集約的인 山林經營	248
第 2 節	經營基盤 施設의 擴充	251
第 3 節	國有林 擴大 集團化	255
第 5 章	農山村 所得源開發과 流通構造 改善	257
第 1 節	산林의 短期所得 增大	257
第 2 節	林產物 流通構造 改善	259
第 3 節	林產物 輸出增大	261
第 6 章	國民레저 休養空間 擴大	262
第 1 節	自然休養林, 林間修鍊場 造成 運營	262
第 2 節	樹木園 造成과 博物館 施設	264
第 3 節	狩獵場 運營	265
附 錄	267

表·그림 目 次

第 1 部 農業部門

第 1 編 1989年度 農業動向	1
<그림 1-1- 1> 世界 經濟成長率 推移	4
< 表 1-1- 1> 先進國의 失業率	5
< 表 1-1- 2> 消費者物價 上昇率	7
< 表 1-1- 3> 交易 伸張率(總額基準)	8
< 表 1-1- 4> 그룹별 經常收支	9
< 表 1-1- 5> 世界 穀物需給動向	10
<그림 1-1- 2> 國際穀物價格 變動推移	11
< 表 1-1- 6> 國際穀物價格 動向	11
< 表 1-1- 7> GNP成長率 推移	14
< 表 1-1- 8> 農林漁業의 成長率	14
< 表 1-1- 9> 物價 上昇率	16
<그림 1-1- 3> 產業別 就業者 構成比	17
< 表 1-1-10> 就業者數와 失業率	18
< 表 1-1-11> 輸出 및 輸入	19
< 表 1-1-12> 經常收支	19
< 表 1-2- 1> 農家人口	21
<그림 1-2- 1> '89年 年齡階層別 人口構成比	22
< 表 1-2- 2> 農林漁業 就業者	23
<그림 1-2- 2> 農耕地面積 變動推移	24
< 表 1-2- 3> 農耕地規模別 農家分布	24
< 表 1-2- 4> 農耕地 利用狀況	25

< 表 1-2-5 >	農家戶當 生產要素 投入量	26
< 表 1-2-6 >	農家戶當 作物別 營農時間	26
< 表 1-2-7 >	農業生產性 指標	27
< 表 1-2-8 >	經濟活動別 附加價值比重	27
< 表 1-2-9 >	農林漁業部間의 附加價值比重	28
< 表 1-2-10 >	農家所得의 構成	29
< 表 1-2-11 >	'89年 耕地規模別 農家所得	29
< 表 1-2-12 >	'89年 地帶別 農家所得	30
< 表 1-2-13 >	農家所得의 構造	31
< 表 1-2-14 >	'89年 耕地規模別 農業所得	32
< 表 1-2-15 >	'89年 地帶別 農業所得	32
< 表 1-2-16 >	農外所得의 構成	33
< 表 1-2-17 >	'89年 耕地規模別 農外所得	34
< 表 1-2-18 >	'89年 地帶別 農外所得	35
< 表 1-2-19 >	農家所得中 現金所得	35
< 表 1-2-20 >	可處分所得 및 家計費	36
< 表 1-2-21 >	農家資産의 構成	37
< 表 1-2-22 >	借入處別 農家負債	38
< 表 1-2-23 >	用途別 農家負債	38
< 表 1-2-24 >	'89年 耕地規模別 農家負債	39
< 表 1-2-25 >	負債規模別 農家分布	40
< 表 1-2-26 >	農家負債와 資産과의 比較	40
< 그림 1-2-3 >	農家交易條件	41
< 表 1-2-27 >	農家販賣價格 指數	44
< 表 1-2-28 >	農家購入價格 指數	45
< 表 1-2-29 >	農業勞動賃金	45
< 表 1-2-30 >	都賣物價 上昇率	46

< 表 1-2-31 >	農産食品 都賣物價 上昇率	47
< 表 1-2-32 >	消費者物價 上昇率	47
< 表 1-2-33 >	農産食品 消費者物價 上昇率	48
< 表 1-2-34 >	農林水産 資金支援	48
< 表 1-2-35 >	農業部門 豫算	49
< 表 1-2-36 >	農家文化用品 保有現況	50
< 表 1-3- 1 >	1人 1日當 供給에너지	51
< 表 1-3- 2 >	1人 1日當 食品供給量(純食品基準) ...	53
< 表 1-3- 3 >	1人當 年間 食糧消費量	54
< 表 1-3- 4 >	糧穀年度別 全體糧穀需給	55
< 表 1-3- 5 >	'89 糧穀年度の 全體糧穀需給	56
< 表 1-3- 6 >	政府管理糧穀 需給	57
< 表 1-3- 7 >	畜産物 消費量	58
< 表 1-3- 8 >	1人當 年間 畜産物 消費量	59
< 表 1-3- 9 >	'89年 畜産物 需給實績	59
< 表 1-3-10 >	飼料 供給量	60
< 表 1-3-11 >	配給飼料 用途別 生産量	60
< 表 1-3-12 >	菜蔬類 需給實績	62
< 表 1-3-13 >	果實類 需給	62
< 表 1-3-14 >	特用作物 需給實績	63
< 表 1-4- 1 >	韓國의 貿易規模 및 經常收支 推移 ...	67
< 表 1-4- 2 >	年度別 輸入自由化 豫示品目 選定基準別 品目類	68
< 表 1-4- 3 >	年度別 自由化 豫示	69
< 表 1-4- 4 >	輸入自由化率 變化推移	69
< 表 1-4- 5 >	輸入開放 補完對策 資金支援內譯	70
< 表 1-4- 6 >	戶當 農漁家所得 및 負債	71

< 表 1-4-7 >	農漁民 負擔輕減效果	72
< 表 1-4-8 >	利子減免 및 償還延期內容	73
< 表 1-4-9 >	惠澤對象戶數 및 金額	74
< 表 1-4-10 >	戶當 對象金額 및 利子輕減效果	74
< 表 1-4-11 >	組合長 選出內譯	75

第 2 編 1990年度 農業施策 81

< 表 2-1-1 >	主要 農漁村指標 展望	83
< 表 2-2-1 >	'89 農林水產資金 支援計劃	94
< 表 2-2-2 >	農林水產部門 豫算比重	95
< 表 2-2-3 >	農林水產部 豫算規模	95
< 表 2-3-1 >	農地購入資金 支援實績 및 計劃	97
< 表 2-3-2 >	農村勞動力 推移	100
< 表 2-3-3 >	農村勞動賃金 推移	100
< 表 2-3-4 >	農漁民後繼者 育成現況	101
< 그림 2-3-1 >	事業別 農漁民後繼者 育成現況	102
< 表 2-3-5 >	年度別 겨울 農民教育現況	105
< 表 2-3-6 >	年度別 農機械供給 및 資金支援	107
< 表 2-3-7 >	主要 農機械 保有臺數	107
< 表 2-3-8 >	機械化營農團 造成計劃	109
< 表 2-3-9 >	農機械 事後奉仕施設 設置現況	111
< 表 2-3-10 >	農業機械 技術訓練 實績	111
< 表 2-3-11 >	耕地整理事業 推進計劃	113
< 表 2-3-12 >	排水改善 事業現況	115
< 表 2-3-13 >	大單位 農業綜合開發事業 推進現況	116
< 表 2-3-14 >	地域類型別 對象地域	117
< 表 2-3-15 >	定住生活圈 開發對象事業	118

< 表 2-3-16 >	'90示範事業 支援計劃	119
< 表 2-3-17 >	農業振興地域 指定基準設定을 위한 '90豫備調査 計劃	120
< 表 2-3-18 >	農水産 特定研究開發事業 研究課題	...	120
< 表 2-3-19 >	'89年度에 育成한 벼 新規獎勵品種의 主要特性	122
< 表 2-3-20 >	成長可能 作目	125
< 表 2-3-21 >	輸出展望이 있는 所得作目 開發成果	...	125
< 表 2-3-22 >	競爭力이 弱한 作目에 대한 對應作目 選定結果	126
< 表 2-3-23 >	無公害農藥開發 成果	127
< 表 2-4- 1 >	主要菜蔬類 價格安定事業計劃	132
< 表 2-4- 2 >	'90果實類 生産計劃	132
< 表 2-4- 3 >	果實類 價格安定事業計劃	133
< 表 2-4- 4 >	菜蔬 示範團地 擴大造成計劃	134
< 表 2-4- 5 >	標準去來單位 規格化事業에 대한 資金支援計劃	136
< 表 2-4- 6 >	農水産物 公營都賣市場 建設計劃	137
< 表 2-4- 7 >	'90年度 農水産物價格安定基金 運用計劃	139
< 表 2-4- 8 >	傳統食品開發事業 支援計劃	140
< 表 2-4- 9 >	加工食品 標準化事業 內容	141
< 表 2-4-10 >	'90쌀 需給計劃	142
< 表 2-4-11 >	'90年度 糧穀管理基金 運用計劃	145
< 表 2-4-12 >	糧穀管理基金 要因別 缺損內譯	145
< 表 2-4-13 >	쌀 生産計劃	146
< 表 2-4-14 >	보리 生産計劃	149

< 表 2-4-15 >	豆類 及 雜穀 生產計劃	150
< 表 2-4-16 >	薯類 生產計劃	151
< 表 2-4-17 >	油脂作物 生產計劃	152
< 表 2-4-18 >	蠶業振興事業計劃	153
< 表 2-4-19 >	普及種供給量 及 更新率	154
< 表 2-4-20 >	年度別 用 種子 散物收買實績	155
< 表 2-4-21 >	種子基金 運用實績 及 計劃	156
< 表 2-4-22 >	農藥需給實績 及 計劃	156
< 表 2-4-23 >	肥料消費量 趨勢	159
< 表 2-4-24 >	'89年 肥料取扱形態別 供給實績	160
< 表 2-4-25 >	'90農協取扱肥料 需給計劃	160
< 表 2-4-26 >	肥料計定 赤字現況	161
< 表 2-4-27 >	肥料 3要素 均衡施肥 現況	161
< 表 2-4-28 >	作物別 專用複合肥料 現況	162
< 表 2-4-29 >	畜產物 長期需給 展望	163
< 表 2-4-30 >	'90쇠고기 需給展望	167
< 表 2-4-31 >	'90돼지고기 需給展望	168
< 表 2-4-32 >	畜產振興基金 運用計劃	169
< 表 2-5- 1 >	農工團地 造成計劃	170
< 表 2-5- 2 >	'90農漁民職業訓練 細部支援計劃	172
< 表 2-5- 3 >	農漁村特產團地 現況	173
< 表 2-5- 4 >	農漁村觀光所得源 開發計劃	174
< 表 2-6- 1 >	平均關稅率 變動推移	181
< 表 2-6- 2 >	農林水產物 輸出入實績	184
< 表 2-7- 1 >	營農資金 支援實績	187
< 表 2-7- 2 >	農漁村發展基金 運用計劃	188

第2部 林業部門

第1編 1989년도 林業動向	199
< 表 1-1-1 > 所有別 山林面積 및 蓄積	199
< 그림 1-1-1 > 先進林業國의 ha當 林木蓄積	199
< 表 1-1-2 > 林相別 齡級別 山林面積	200
< 表 1-1-3 > 國民生産斗 林業生産	202
< 表 1-1-4 > 山林地의 他用途轉用 現況	202
< 表 1-1-5 > 世界 山林資源 現況	204
< 表 1-1-6 > 山林部門豫算 比率	205
< 表 1-1-7 > 事業別 投資豫算	205
< 表 1-1-8 > 林業融資 現況	206
< 表 1-1-9 > 林產物生産 推移	207
< 表 1-1-10 > 山林의 公益的機能 評價額	208
< 그림 1-2-1 > 世界의 地域別 木材 需要量 推移	210
< 그림 1-2-2 > 長期木材需給展望	210
< 그림 1-2-3 > 年度別 製材 施設現況	210
< 表 1-2-1 > 木材需給量推移	211
< 表 1-2-2 > 長期木材需給展望	212
< 表 1-2-3 > 年度別製材施設現況	214
< 表 1-2-4 > 年度別 合板産業 變動現況	214
< 表 1-2-5 > 木材보조類 産業實績	215
< 表 1-2-6 > 主要 短期所得 林產物 生産現況	216
< 表 1-2-7 > 林業資金 融資現況	217
< 表 1-3-1 > 林道 施設 現況	220
< 表 1-3-2 > 私有林 協業體 現況	221

< 表 1-3-3 >	林業人養成 現況	221
< 그림 1-3-1 >	山林組合長 選出現況	223
< 表 1-3-4 >	林業團體懇談會 開催 實績	224

第2編 1990年度 林業施策 227

< 表 2-1-1 >	土地利用 長期 展望	229
< 그림 2-2-1 >	土地利用 體系圖	236
< 表 2-2-2 >	土地利用 關聯法律의 現況	237
< 表 2-3-1 >	造林實績 및 向後計劃	238
< 表 2-3-2 >	育林事業 實績 및 向後 推進計劃	239
< 表 2-3-3 >	養苗生產實績 및 計劃	240
< 表 2-3-4 >	海外山林資源 開發進出現況	241
< 表 2-3-5 >	산불 發生 趨勢	243
< 表 2-3-6 >	氣象變化에 따른 산불 危險 警報制	243
< 그림 2-3-1 >	山林病害蟲 發生趨勢	244
< 表 2-3-7 >	山林病害蟲防除 實績 및 計劃	245
< 表 2-3-8 >	野溪砂防, 砂防댐 實績 및 計劃	246
< 表 2-4-1 >	山林開發 事業團(作業團)組織 運營	249
< 表 2-4-2 >	林業技能人 養成實績 및 計劃	251
< 表 2-4-3 >	林道施設 長期 計劃	252
< 表 2-4-4 >	年度別 國有林 擴大計劃	255
< 表 2-5-1 >	'90年 短期所得林產物 生產計劃	257
< 表 2-5-2 >	短期所得林產物 主產業團地 指定	258
< 表 2-5-3 >	'90資金支援計劃(融資)	259
< 表 2-5-4 >	林產物 流通施設 實績 및 計劃	260
< 表 2-5-5 >	'90林產物 輸出計劃	261

< 表 2-6-1 >	自然休養林 造成計劃	262
< 表 2-6-2 >	自然休養林 造成實績 및 計劃	263
< 表 2-6-3 >	林間修鍊場 運營 및 '90施設計劃	264

第1部 農業部門

第1編 1989年度 農業動向

여백

第1章 國內外經濟動向

第1節 海外經濟動向과 韓國經濟

1. 經濟成長과 雇傭

'88년중 4.3%의 높은 성장율을 기록했던 世界經濟는 '89년중 3.3%로 성장율이 둔화되었다. 이처럼 세계경제가 둔화된 것은 인플레이션을 우려한 주요 선진국들이 金融緊縮政策을 강력히 실시하여 總需要가 減退되었기 때문인 바, 서방 선진7개국의 國內需要增加率이 '88년의 4.6%에서 '89년에는 3.4%로 둔화된 현상이 이를 잘 설명해 주고 있다.

경제성장율을 주요 經濟圈域別로 보면 先進國의 경제성장율은 '88년의 4.3%에서 '89년에는 3.4%로, 共產圈은 5.1%에서 2.3%로 크게 후퇴한 반면 開發途上國의 성장율은 3.4%에서 3.9%로 완만한 신장세를 보였다.

한편 '88년중 4.4%의 높은 경제성장율을 이룩했던 美國經濟가 '89년에는 수출의 純增에도 불구하고 消費支出 및 設備投資의 증가세 둔화에 기인하여 3.0% 성장에 그쳤다.

소비지출이 둔화된 것은 인플레이션을 억제하기 위한 金融緊縮政策 실시와 財政赤字幅을 줄이기 위한 재정지출의 삭감에 의해 總需要增加率이 '88년의 3.3%에서 '89년에는 2.4%로 크게 감퇴되었기 때문이다. 특히 '89년 4/4분기 중에는 年率 1.1%로 성장세가 둔화되었는데 이는 수출의 9.4% 증가에도 불구하고 自動車販賣不振으로 民間消費支出이 0.5% 증가에 그쳤고 法人收益의 악화로 設備投資가 5.4%나 대폭 감소하였기 때문이다.

'88년중 5.7%의 높은 경제성장율을 기록했던 日本經濟는 '89년에도 여전히 4.9%의 견실한 성장세를 나타냈다. 이와같이 일본경제가 높은 성장세를 유지하고 있는 것은 設備稼動率向上 및 建設, 機械受注增大로 企業設備投資가 대폭 증가한데다 可處分所得의 증대로 民間消費支出이 지속

적인 성장세를 나타내는 등 활발한 국내 수요증대에 주로 기인한다.

서유럽 主要國經濟는 나라에 따라 차이는 있으나 1992년 EC통합에 따른 기대심리에 힘입어 설비투자가 크게 늘어나고, 域內에 대한 미국·일본의 투자규모가 확대되어 '88년에 비해 2.8% 성장하였다. 西獨經濟는 지난 '79년이래 최고치인 4.0%의 성장율을 기록하였는데, 이는 수출과 설비투자가 크게 늘어났기 때문이다.

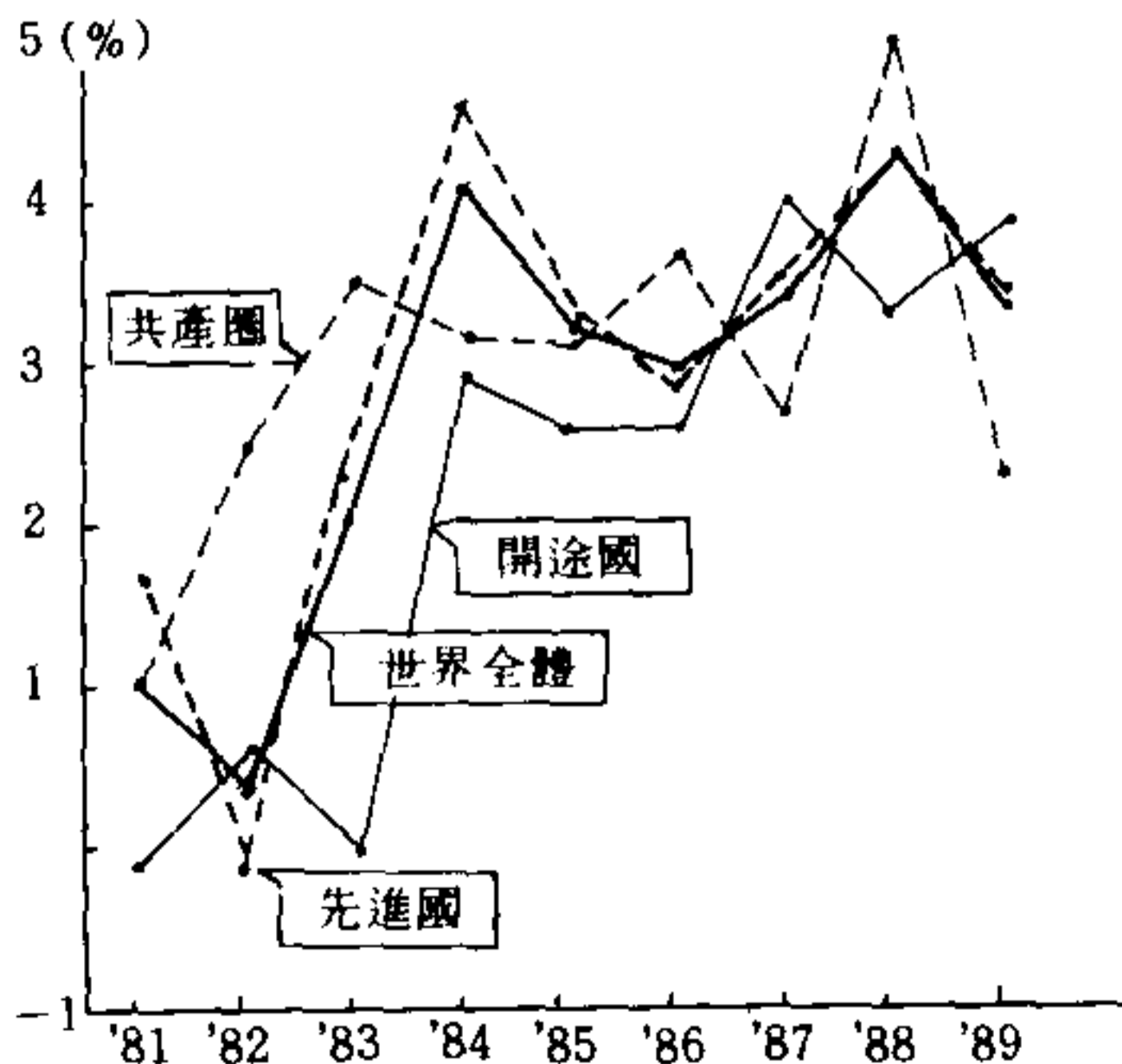
수출의 경우, EC市場統合에 대비한 域內企業들의 투자확대에 힘입어 10.8% 증가하였으며 設備投資도 수출과 海外投資 收益 增大로 9.1%나 크게 증가하였다. 반면 英國經濟는 '88년 이후 通貨緊縮政策의 견지로 성장세가 '88년의 4.2%에서 '89년에는 2.2%로 크게 둔화되었다.

이러한 둔화현상은 通貨緊縮에 의한 높은 이자율로 소비와 투자증가율이 크게 떨어졌고, 특히 낮은 稼動率과 높은 賃金上昇으로 기업의 이윤율이 크게 감소함으로써 투자의욕이 현저히 저하된 것으로 설명될 수 있다.

이외에도 開發途上國經濟는 여타경제권과 다른 양상을 보여 경제성장율이 전년의 3.4%에서 3.9%로 상승하였으며, 太平洋沿岸國家들의 성장

<그림 1-1-1>

世界 經濟成長率 推移



資料 : WEFA (Watton Econometric Forecasting Association)

율은 6.5%, 石油產油國들은 原油價 상승에 힘입어 8.8%의 높은 성장율을 보였고, 南美의 過多外債國들은 國際金利上昇에 따른 負債利子の 지급 부담이 가중된데다 政治的不安이 가중되어 0.6%의 저성장을 기록하였다.

한편 先進國의 雇傭事情은 경기부진에도 불구하고 대부분의 국가에서 개선되는 양상을 보였다. 美國의 경우, 景氣鈍化에도 불구하고 실업율은 전년의 5.5%에서 5.3%로 0.2%포인트 떨어져 비교적 안정세를 보였는데 이는 제조업의 고용감소에도 불구하고 서비스업 및 건설업부문의 고용이 증가하였기 때문이다. 日本의 경우, '89년 평균취업자수는 6,128만명으로 제조업과 서비스업을 중심으로 전년보다 117만명이나 고용이 크게 증가하여 실업율은 '88년보다 0.2%포인트 하락하였다. 西獨도 4.0%의 경제성장에 힘입어 실업율이 크게 하락한 반면 벨지움, 이태리, 스페인, 터키 등은 두자리숫자의 높은 실업율을 기록하였다.

<表 1-1-1>

先進國의 失業率

(單位：%)

	'80	'85	'86	'87	'88	'89
全 體	6.4	8.7	8.5	8.2	7.6	7.2
美 國	7.2	7.2	7.0	6.2	5.5	5.3
캐 나 다	7.5	10.5	9.5	8.8	7.8	7.5
日 本	2.0	2.6	2.8	2.8	2.5	2.3
프 랑 스	6.2	10.3	10.4	10.5	10.1	9.8
獨 逸	3.9	9.3	8.9	8.9	8.8	8.0
이 태 리	7.5	10.5	10.9	11.6	11.4	11.3
英 國	6.1	11.6	11.8	10.4	8.2	6.3

資料：WEFA

한편 世界經濟鈍化가 한국경제 전반에 어떠한 영향을 미쳤는가를 살펴보면, 主要先進國들의 金融緊縮政策실시로 수입수요가 크게 감퇴되고 수입장벽이 강화된 것은 수출의존적인 한국경제성장을 둔화시키는 주요요인으로 작용하였다.

또한 미국을 비롯한 선진국들은 景氣活性化를 위해 市場開放壓力을 가

중시하게 되었다. 이러한 對外的인 經濟與件變化와 국내적인 어려움이 복합적으로 작용한 결과 '89년 제조업부분은 3.7%의 낮은 성장율을 기록하였고 수출은 3% 정도의 성장에 그쳤다. 따라서, 수출산업의 경제성장율에의 寄與度는 負(마이너스)로 변하였다. 또한 수출산업부진으로 인하여 투자여력이 서비스산업으로 이동하여 서비스산업이 비대해지는 불균형한 산업구조를 초래하게 되었다.

특히 輸入自由化가 확대 실시되면서 外國農産物이 유입되어 그나마 취약한 한국농업은 큰 어려움에 직면하게 되었다.

한편 輸入農産物 수요가 늘어나고 國內産農産物 수요가 감소된 결과 일부 품목에서는 과잉생산문제가 발생하기도 하였으며 수입개방압력이 가중되면서 농산물수입품목도 늘어나게 되었는데, 이로 인하여 對應作目 선정에도 어려움이 뒤따르게 되었다.

2. 物價動向

主要先進國 物價는 油價上昇, 稅率引上 및 수요증가에 못미친 供給隘路 등으로 '89년 上半期中 크게 상승하였으나 下半期 이후 상승세가 다소 둔화되었다.

선진국들의 '89년 소비자물가 상승율은 4.4%로 전년의 상승율 3.4%를 크게 상회하였다. 그중 美國의 소비자물가는 물가억제를 위한 金融緊縮政策에도 불구하고 서비스부문의 가격상승 및 에너지가격 상승으로 '81년 이래 가장 높은 4.8% 상승한 것으로 나타났고 日本의 경우 '88년 0.7% 상승하였던 소비자물가가 '89년에는 消費稅 실시 영향으로 2.3% 상승하여 물가상승세가 加速化되었다. 西獨의 소비자물가는 임금인상과 수입물가 상승에 영향을 받아 전년대비 2.8% 상승하였으며 또한 英國의 소비자물가는 경제성장의 둔화에도 불구하고 7.7% 상승한 스태그플레이션 현상을 보였다.

한편 開發途上國은 전체적으로 86.3%의 높은 물가상승율을 기록하였

는데 이중 中南美諸國은 350%의 하이퍼인플레이션 현상을 보였고, 유럽권은 80% 정도의 상승율을 보였다. 中南美國家중 멕시코는 적절한 무역자유화조치의 성과로 인플레이션 억제에 성공하여 '88년 물가상승율 114.2%에서 19.8%로 크게 둔화되었다. 또한 亞細亞地域의 소비자물가는 10.2% 상승한 것으로 나타났다.

<表 1-1-2> 消費者物價 上昇率 (單位：%)

	'71~'80	'82	'84	'86	'87	'88	'89
先進國	8.7	7.5	4.7	2.3	2.9	3.2	4.5
主要7個國	8.2	6.7	4.1	3.1	2.7	2.9	4.5
美國	7.8	6.1	4.4	2.0	3.6	4.1	4.8
日本	9.0	2.7	2.3	0.6	0.1	0.7	2.3
開途國	20.5	25.2	38.2	31.1	40.5	67.1	86.3
產油國	13.4	16.6	20.1	24.6	33.1	33.8	—
非產油國	23.6	29.4	47.9	34.1	43.8	82.5	—

資料：IMF

3. 交易과 國際收支

'86~'88년중 선진국들과 아세아 신흥개발도상국들의 호황에 힘입어 世界交易量은 빠른 속도로 증가하였다. 그러나 '89년도 世界交易은 세계경제성장이 둔화되고 輸入規制措置의 확대, 不公正 貿易慣行을 이유로한 반덤핑 相計關稅賦課등 각종 보호주의 확대로 인하여 신장세가 둔화되었으며 아울러 국제유가의 불안정 또한 세계무역을 더욱 위축시키는 요소로 작용하였다. 수출은 7.1% 신장율을 보였는데 이는 호황기인 '86~'88년도 연평균 신장율 12.8%에 비해 크게 떨어지는 것이다. 한편 수입은 7.3% 늘어나는데 그쳤다. 이를 主要國別로 보면, 일본의 수출신장율은 3.4%에 머물러 전년의 15.5%에 비해 크게 둔화되었는데 이는 수출의 牽引役割을 담당해온 자동차수출이 크게 감소하였고 주요 수출품목인 철강 및 영상기기의 수출도 크게 감소하였기 때문이다. 반면 수입은 전년에 비해

10.2% 증가하였는데 이는 原油價格이 상승기조를 타면서 원유수입액이 크게 늘었기 때문이다. 또한 日本에 대한 수입개방압력이 가중된 것도 일본의 수입증가율이 선진국의 수입증가율을 上廻하는 요인으로 작용하였다.

미국의 輸入伸張率 축소는 미국경제의 둔화로 인한 수입수요 감퇴때문이다. 수출도 전년에 비해 신장율이 크게 둔화되었으나 강력한 對外貿易政策의 추진으로 선진국 수출신장율을 크게 상회하였다.

선진국들의 경기둔화영향으로 개발도상국들의 수출신장율도 전년에 비해서는 다소 둔화되었으나, 低賃金을 바탕으로 한 價格競爭力의 우위성을 기반으로 여전히 높은 수출신장세를 보인 것으로 나타났다.

<表 1-1-3> 交易 伸張率(總額基準) (單位：%)

		'80	'85	'86	'87	'88	'89
輸 出	世界	20.6	1.6	9.5	16.1	12.9	7.1
	先進國	18.2	3.8	15.9	17.1	13.3	7.6
	美國	21.3	△2.4	△ 0.6	16.3	26.0	15.0
	日本	26.2	3.2	19.1	9.6	15.5	3.4
	유 開 途 國	16.4	6.7	22.2	19.5	9.5	6.6
	27.8	△3.9	△ 8.9	13.8	14.5	12.0	
輸 入	世界	19.9	4.5	8.0	14.4	12.6	7.3
	先進國	19.9	4.8	12.6	18.0	12.3	8.3
	美國	18.7	6.0	7.1	11.0	9.0	7.6
	日本	21.9	△5.1	△ 1.4	20.2	24.9	10.2
	유 開 途 國	20.1	7.1	18.2	21.6	10.8	8.2
	23.8	△0.8	△ 6.0	6.1	14.8	11.2	

資料：WEFA

한편 '89년 先進國들의 經常收支 적자는 '88년보다 더욱 심화 된 것으로 나타났다. 미국의 경상수지 적자는 '87년이후 계속 줄어들고 있지만 크게 개선되고 있지 않는데 이는 미국기업들의 저생산성, 달러화 강세로 인한 수출경쟁력약화와 투자기준에 비해 떨어지는 국민저축등의 요인이

복합적으로 작용하였기 때문이다. 일본의 經常收支黑字 규모도 '86년이후 줄어들고 있는데 '89년에는 흑자규모가 크게 축소되었다. 한편 일본의 對美貿易黑字가 전체적으로 감소되고 있지만 對美 무역불균형 시정은 지연되고 있는 것으로 나타났다. 이로 인하여 미국은 對美貿易黑字國들을 상대로 강력한 무역정책을 실행하게 되었다.

이에따라 미국은 한국에 대해서도 절대적인 比較優位性을 가진 농업과 서비스산업분야의 輸入開發을 강력히 요구하게 되었다. 한국은 앞으로도 미국의 무역수지가 크게 개선되지 않은 한 수입압력은 더욱 가중될 것으로 전망되며 농업부문의 피해는 더욱 늘어날 것으로 豫見된다.

<表 1-1-4>

그룹別 經常收支

(單位: 10億 달러)

	'80	'85	'86	'87	'88	'89
先 進 國	△81.0	△ 67.5	△ 32.9	△ 52.2	△ 41.2	△ 60.1
美 國	△36.2	△139.7	△155.1	△170.3	△135.5	△118.6
日 本	△11.6	45.9	82.0	80.1	74.7	53.3
유 럽	△49.7	6.7	38.4	27.0	15.3	△ 2.4
開 途 國	85.2	7.4	△ 5.7	24.9	27.4	34.7
共 産 圈	3.2	△ 10.9	△ 8.4	9.6	2.3	7.8

資料: WEFA

4. 國際穀物需給과 價格動向

가. 穀物需給

'89/'90년도 世界穀物の 總生産量은 전년대비 7.4% 증가된 16억 7,450만톤이며, 交易量은 전년도와 같은 수준인 2억 3,130만톤으로 나타났다. 飼料穀物の 수요증대에 따라 消費量은 전년대비 2.6% 증가한 16억 9,850만톤이며, 在庫量은 전년대비 9.0% 감소한 2억 8,210만톤으로 추정되었다.

穀種別로 살펴보면, 小麥은 주요 생산국인 미국, 호주, 아르헨티나, 캐

나다, 중국등의 作況好調로 전년대비 6.7% 증가한 5억 3,500만톤으로 추정되었다.

米穀은 주요생산국인 인도네시아, 버마, 태국 및 미국등의 作況好調로 前年보다 生産量은 3.2% 증가한 3억 4,080만톤이며, 옥수수는 세계 최대생산국인 미국의 作況好調에 힘입어 전년대비 15.0% 증가한 4억 5,850만톤이 생산되었으나, 在庫量은 飼料用 소비급증에 따라 전년대비 18% 감소한 7,130만톤으로 나타났다.

大豆는 주요 생산국인 미국, 아르헨티나, 브라질등의 作況好調로 生産량은 전년대비 13.1% 증가한 1억 730만톤으로 나타나, 교역량도 전년대비 13.4% 증가한 2,620만톤으로 추정되었다.

<表 1-1-5>

世界 穀物需給動向¹⁾

(單位: 百萬噸)

		生産量	總供給量	交易量	消費量	在庫量
總穀物 ²⁾	1988/89	1,559.8	1,965.1	231.8	1,655.0	310.1
	1989/90	1,674.5	1,983.7	231.3	1,698.5	282.1
小麥	1988/89	501.4	648.6	109.6	530.5	118.1
	1989/90	535.2	653.3	109.2	538.7	114.6
米穀	1988/89	330.1	374.9	15.1	327.6	47.3
	1989/90	340.8	387.5	13.7	335.5	52.0
옥수수	1988/89	398.7	545.1	73.1	458.0	87.0
	1989/90	458.5	545.5	75.5	474.2	71.3
大豆	1988/89	94.9	114.7	23.1	97.5	17.7
	1989/90	107.3	124.9	26.2	104.3	20.0

註: 1) 각 분할년도는 國家別 市場年度基準으로 합산된 자료임.

2) 總穀物에는 小麥, 雜穀, 米穀등의 合計値이며, 大豆는 포함되지 않음.

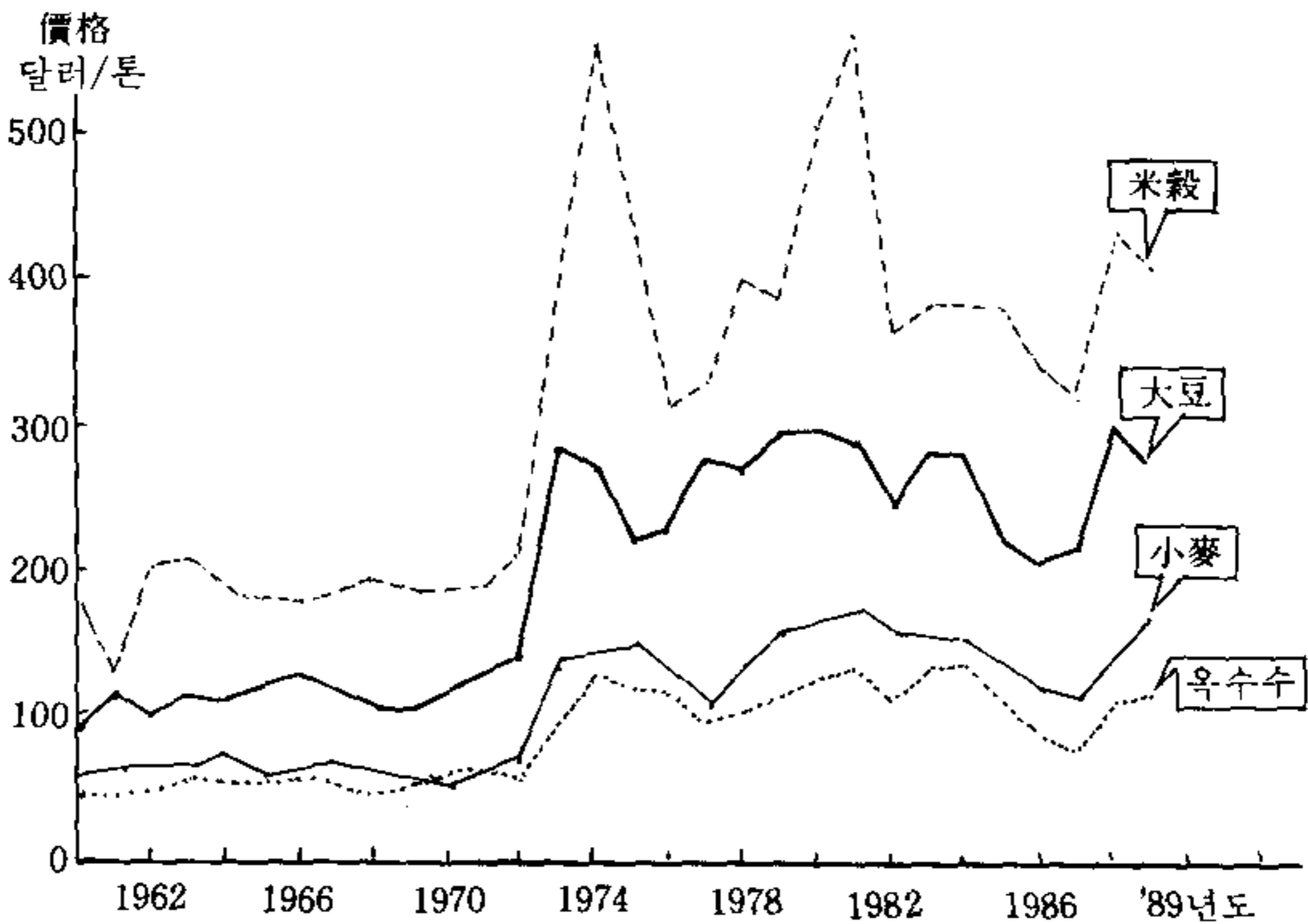
資料: USDA

나. 價格動向

'89년도 國際穀物價格은 수급안정에 힘입어 큰 변화는 없었으나, 小麥과 옥수수는 상승세를, 그리고 米穀과 大豆는 하락세를 나타냈다.

穀種別로 살펴보면, 小麥價格은 생산량 증가에도 불구하고 재고량 감소로 전년도의 大暴騰 따른 가격 급등시보다 16.7% 상승한 톤당 409.3달러를 기록하였다. 옥수수가격도 재고량이 급격히 감소함으로서 전년보다 4.0% 상승한 톤당 111.4달러로 나타났다. 한편 米穀價格은 주요 수입국들

<그림 1-1-2> 國際穀物價格 變動推移



<表 1-1-6> 國際穀物價格 動向¹⁾ (單位: 달러/톤)

	1985	1986	1987	1988	1989
米 穀	382.5	342.8	323.5	429.9	409.3
小 麥	135.9	115.0	112.8	145.1	169.4
옥 수 수	112.2	87.8	75.6	107.1	111.4
大 豆	224.4	208.4	215.8	303.5	275.0

註: 1) 米穀價格은 美國의 New Orleans에서 去來되는 價格이고, 小麥價格은 美國의 US Gulf Pts價格, 옥수수는 US Gulf Pts價格, 大豆는 US Rotterdam 價格임.

資料: IMF, 「International Financial Statistics」, 1990.5.

의 수입감소와 재고량감소에 힘입어 전년대비 4.8% 떨어진 톤당 409.3달러로 나타났고, 大豆價格도 재고량 증가에 힘입어 전년보다 9.4% 하락한 것으로 나타났다.

國民所得의 증가에 따라 식생활이 西歐化되면서 밀가루, 육류소비가 크게 늘어나고 있으며 이러한 추세변화에 대응하여 飼料用穀物의 수요도 크게 늘어나고 있다. 반면 國內 農業興件上, 콩·小麥·옥수수공급은 수요에 훨씬 못미쳐 수입에 의존할 수 밖에 없는 실정이다. 따라서 국제곡물가격 변동은 수입의존도가 높아질수록 국내경제에 미치는 효과가 크게 나타난다.

국제곡물가격의 상승은 축산물 생산비 증가를 유발시켜 이는 곧 축산물가격의 상승을 초래하게 되며, 이는 또한 국내 축산업에 두가지 의미를 내포하고 있다.

첫째, 축산물의 가격상승으로 인한 수요감퇴로 수급불균형이 초래되어 양축농가가 피해를 보게 되며

둘째, 국내 축산물가격의 상승은 國內外 價格差異를 크게 함으로써 畜產物 輸入開放壓力이 가중되는 원인이 될 수 있다.

第2節 國內經濟動向과 農業

1. 經濟成長

우리나라 경제는 '86~'88년 동안 연평균 12.8%의 실질성장을 기록한 過熱景氣를 거친뒤 '89년에는 6.7%의 저성장을 이룩한 것으로 暫定推計되었다. 이는 '82년의 경제성장을 7.2%이후 최저수준인데 저성장의 근본원인은 원화절상과 노사분규로 인한 성장의 주력인 수출이 크게 감소하였기 때문이다.

'89년의 GNP規模는 經常價格으로 141兆663億원(2,101億 달러)으로 전

년대비 12% 정도 증가하였으나 '85년 不變價格으로 환산할 경우 119兆 5,348億 원으로 전년보다 6.7% 성장하였다. 1인당 GNP는 4,968달러로서 5,000달러의 벽을 넘지 못하였으나 '88년의 4,127달러보다 841달러 늘어났다. 그러나 이 중 277달러만이 성장요인에 의해서 증가하였을 뿐 나머지는 물가, 원화절상요인에 의해서 증가한 것으로 추계되었다.

'89년중 國內 總生産에 대한 産業別 生産活動을 살펴보면 주택 및 상업용 건물 건설에 힘입어 건설업이 전년대비 15.4% 성장하였으며 전기, 가스, 수도사업이 10.1%, 서비스업이 8.3% 성장으로 호조를 보인 반면 광공업부문은 전년의 성장율 13.7%에 비해 크게 부진한 3.5%의 성장에 그쳤다. 특히 民間消費, 建設投資등 국내수요의 好調에도 불구하고 원화절상 및 노사분규 등에 따른 수출부진으로 제조업부문은 '88년의 성장율 13.4%에 크게 못미치는 3.7%의 성장에 그쳐 성장기반이 크게 약화되었다. 따라서 製造業部門의 經濟成長率에의 寄與率은 '88년의 39.6%에서 '89년에는 20.7%로 떨어져 제조업부문의 부진함이 경제성장 潛在力을 크게 잠식한 것으로 나타났다.

한편 서비스업은 전년의 성장율 12.7%보다 낮은 8.3%를 기록하였으나 總産業 生産額中 서비스업이 차지하는 비중은 전년의 40%에서 '89년에는 41%로 규모가 확대되었다. 따라서 서비스업의 經濟成長率 寄與率도 전년의 40.3%에서 50.4%로 크게 높아졌으며, 이는 가계의 소비지출 형태와 맞물려 있는 것으로 보인다. 可處分所得이 증가하면서 소득중 소비가 차지하는 비중으로서 소비율은 전년의 61.9%에서 73.7%로 높아진 반면 總貯蓄率은 전년의 38.1%에서 36.3%로 낮아져 과소비풍조를 반영하였다.

分配構造를 살펴보면 企業 및 財産所得의 비중은 전년의 35.2%에서 33.7%로 하락한데 비해 勞動所得 分配率은 賃金上昇을 반영하여 54.2%에서 56.6%로 높아졌다.

<表1-1-7>

GNP 成長率 推移

(單位：%)

	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89(暫定)
全體	6.4	△ 3.7	7.0	12.9	13.0	12.4	6.7
農林漁業	3.9	△19.1	3.8	4.6	△ 6.8	8.0	△ 0.7
非農林漁業	7.2	△ 0.5	7.5	14.2	15.7	12.9	7.6
鑛工業	12.2	△ 1.0	7.0	18.0	18.2	13.1	3.5
(製造業)	(12.0)	(△ 0.7)	(7.1)	(18.3)	(18.8)	(13.4)	(3.7)
建設및電氣· 가스·水道事業	9.7	1.4	6.7	10.4	12.6	9.6	13.8
서비스業	7.3	2.2	8.9	11.2	12.4	11.4	7.9

註：'85년 不變價格基準임.

資料：韓國銀行

'89년 農林漁業部門의 附加價值 生産額은 經常價格으로 14兆5,458億원, '85年 不變價格 기준으로 10兆9,026億원을 기록하여 國民總生産額中 차지하는 비중은 '88년의 9.6%에서 9.0%로 축소되었다 따라서 農林漁業部門의 성장율은 '88년 대비 0.7% 감소하여 경제성장율에의 寄與度는 著이하로 떨어졌다. 이는 일부 菜蔬類에서의 병충해 피해도 있었으나 벼의 경우 '88년의 史上 最大 豊作과 비교되었기 때문이다. 또한 수입자유화로 인하여 일부 품목에서 需給不均衡이 초래되어 가격이 하락한 것도 농업생산

<表1-1-8>

農林漁業의 成長率

(單位：%)

	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88	'89
全體	14.3	7.4	7.7	△1.5	3.8	4.6	△ 6.8	9.0	△0.7
農業	15.6	10.3	7.9	△2.2	4.4	5.0	△ 8.0	10.6	△1.8
栽培業	19.2	8.4	5.9	△3.7	2.2	6.2	△ 7.1	12.7	△2.9
畜産業	△20.6	37.1	30.8	10.8	22.9	△ 4.0	△17.4	△5.1	8.5
農業서비스	22.2	11.7	9.1	4.7	1.7	8.7	4.8	0.6	1.9
林業	1.2	△17.2	23.2	2.1	△8.5	△15.4	4.8	2.4	3.2
漁業	13.8	1.0	△2.2	2.6	6.2	13.5	△ 1.3	△0.4	6.7

註：1985年 不變價格基準임

資料：韓國銀行

액이 축소된 원인이 되었다. 畜産業은 韓牛 飼育頭數가 줄었음에도 돼지, 양계, 젓소부문의 호조로 전년대비 8.5% 성장하였으며, 수입개방의 진전에 따라 성장 필요성이 증가된 농업서비스업도 1.9% 성장을 나타냈다.

2. 物價動向

'89년의 물가는 전년의 상승율보다 상승폭이 떨어져 都賣物價는 년평균 기준으로 '88년보다 1.1% 상승하였고 消費者物價는 전년의 상승율 7.2%보다 떨어진 5.1% 상승하였다. '89년의 消費者物價 上昇率은 전년의 상승율보다 낮으나 低物價時代인 '83~'87년의 년평균 물가상승율 2.8%보다는 매우 높은 편이다. '88年 이후의 物價上昇率은 '86~'88년 동안의 實質 經濟成長率이 潛在 經濟成長率을 上廻하는 과열경기와 해외부문 통화증발로 인한 過剩流動性의 증가, 노사분규에 따른 인건비 상승등 總需要增加와 費用上昇要因이 동시에 작용하였기 때문이다. 이러한 요인들은 時差를 두고 물가에 영향을 미치는 특성이 있기 때문에 '90년 물가에도 적지 않은 영향을 미칠 것으로 보인다.

消費者物價의 내용에 있어서, 주요 농산물의 과잉생산으로 인한 농산물가격 하락요인이 農業用品과 農村 賃料金등의 農業經營費 上昇에 희석되어 食料品價格은 '88년에 비해 4.9% 상승하였다. 식료품이외의 물가는 5.2% 상승하였는데 이중 교통·통신 관련 물가는 약간 하락하였는바, 이는 정부의 물가억제정책으로 일부 통신요금의 조정이 있었기 때문이다. 반면 교육·교양 오락등 서비스산업은 인건비 상승에 의해 약 6.6%정도 상승하였다.

輸出入物價는 수출입품목의 가격동향을 파악하고 그 가격변동이 국내 물가에 미치는 영향을 사전에 측정하기 위해 작성된 特殊目的 指數의 하나인데 '89년중 輸出物價는 6.9% 상승하였으며 輸入物價는 3.3% 상승하여 수입물가가 상대적으로 저렴하였다. 즉, 수출물가 상승으로 인하여 수

출상품이 국제시장에서 가격경쟁을 상실한 결과 수출이 크게 줄게된 반면 수입물가의 상대적인 하락으로 수입은 늘게 되었다.

農村物價는 농가가 생산한 농산물의 판매가격과 이들의 소비생활과 영농에 필요한 재화 및 서비스의 구입가격을 조사 작성하는 것으로 農家交易條件算出 등을 통해 農村經濟動向分析 및 농업정책 수립에 활용하기 위해 작성되는 특수목적 지수이다. 農家販賣價格과 農家購入價格은 각각 전년대비 5.7%, 8.7% 상승하였다. 농가구입가격의 상대적인 상승은 실질 농가소득의 감퇴를 의미한다. 또한 농촌임료금도 16.0% 상승하였는데, 이는 농가구입가격 상승과 함께 농업경영비 상승을 유발시키는 주요한 요인으로 작용하였다.

<表1-1-9>

物價 上昇率

(單位：%)

	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89
都 賣 物 價	26.3	39.0	0.9	△1.5	0.5	2.7	1.5
消 費 者 物 價	25.4	28.7	2.5	2.8	3.0	7.1	5.7
輸 出 物 價	△ 1.1	4.6	△2.3	△0.4	8.3	13.5	6.9
輸 入 物 價	△ 4.0	27.5	△2.7	△6.7	10.9	14.2	3.3
農家販賣價格	24.1	21.8	△0.6	0.3	4.9	12.6	5.7
農家購入價格	23.7	24.7	△2.5	0.8	1.7	7.9	8.7
GNP디플레이터	24.6	25.3	4.1	2.7	3.5	5.9	4.7(暫定)

註：年平均 基準임.

資料：經濟企劃院, 韓國銀行, 農協中央會

GNP를 推計하는 과정에서 산출된 GNP디플레이터는 國民總生産 推計에 관련되는 모든 재화와 서비스의 국내거래가격 뿐만아니라 수출입가격 변동까지도 포함하기 때문에 가장 포괄적인 물가지수라 할 수 있는데 '88년의 112.7에서 '89년에는 118.0으로 4.7%가 상승한 것으로 暫定 推計되었다.

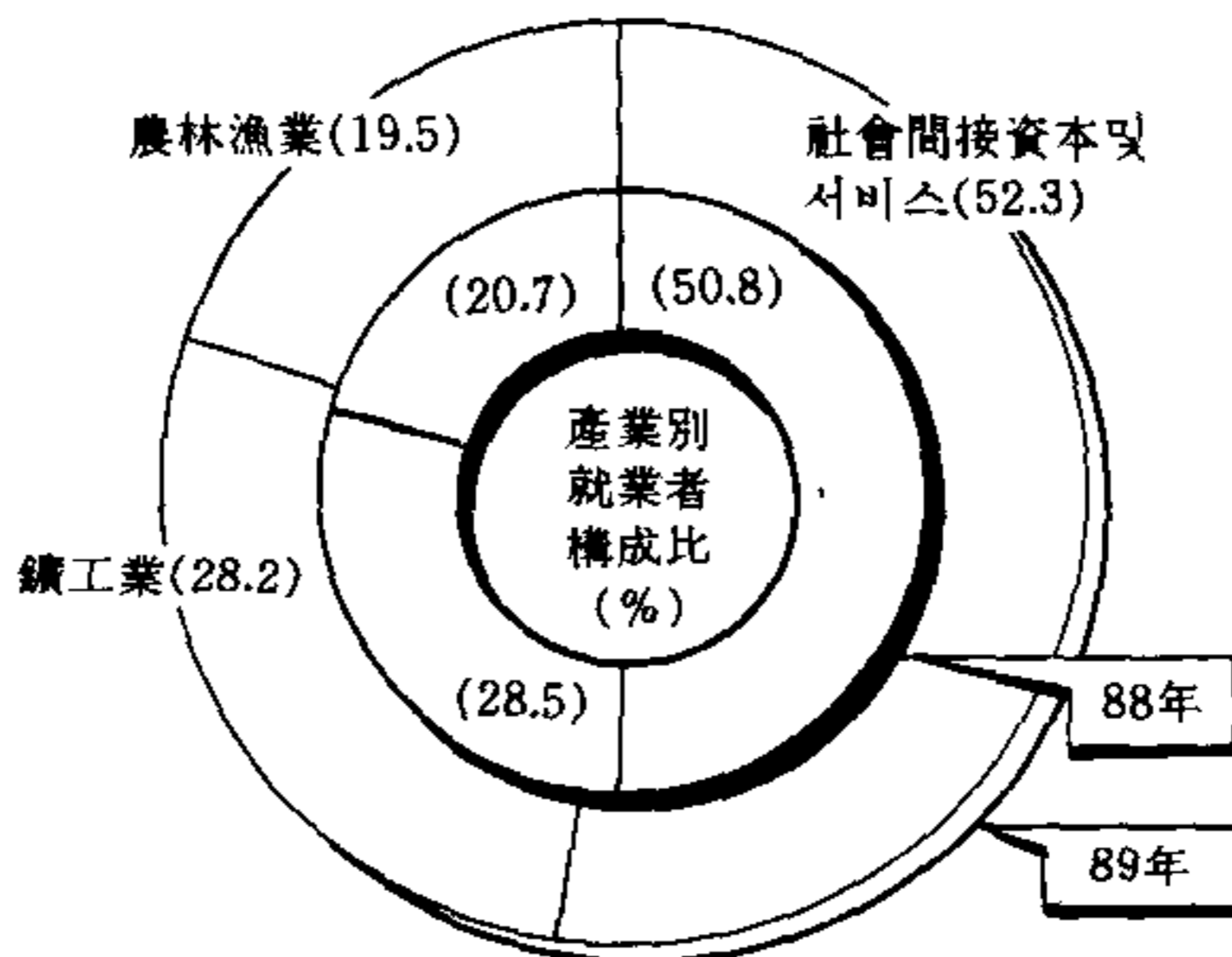
3. 雇 傭

'89년의 經濟活動人口는 '88년보다 3.9% 증가한 17,983천명이었으며,

就業者는 17,515천명으로 전년보다 3.8% 늘어나 失業率은 전년과 비슷한 2.6%를 기록하였다. 제조업부문에서의 부진함에도 불구하고 '88년과 비슷한 실업율을 보인 것은 3次産業에서의 고용이 크게 늘어났기 때문이다. '88년 總 就業者중 50.9%가 3次産業에 종사했던 것에 반해 '89년에는 그 비중이 52.3%로 증가하였다.

<그림1-1-3>

産業別 就業者 構成比



資料：經濟企劃院

한편 農林漁業部門의 就業者數는 전년에 비해 69천명이 줄어든 3,415천명으로 감소하였는데, 이에 따라 전체 취업자중 農林漁業就業者의 비중도 '88년의 20.7%에서 '89년에는 19.5%로 떨어졌고 이러한 추세는 당분간 계속될 전망이다.

이처럼 농림어업부문의 취업자수가 격감하게 된 것은 農產物 輸入開放이 확대되면서 농림어업 장래에 대한 불안감이 증가된데다 힘든 일을 기피하는 현상이 농촌에도 확산되었기 때문이다.

農林漁業部門의 취업자 감소는 農業勞動力 不足現狀을 초래하여 農村賃料金 상승을 유발시키게 되었다. 이는 곧 농산물 가격상승을 유발시켜

도시생활자의 基礎生活費를 상승시키는 하나의 요인이 된 것이다.

또한 노동력을 구하기가 어려워지면서 勞動集約的인 농산물 생산을 기피하여 농산물수급의 불균형을 초래할 것으로 전망된다. 또한 休耕農地가 '88년의 30.7천정보에서 '89년에는 40.8천정보로 크게 늘어났는데 이는 離農增加로 인한 일손부족과 農村賃料金이 많이 올라 농사를 지어도 수지를 맞추기 어렵게 되었기 때문이다.

<表1-1-10>

就業者數와 失業率

(單位：千名, %)

	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89
總 就 業 者	11,692	13,683	14,970	15,505	16,354	16,870	17,515
(農林漁業)	(5,339)	(4,654)	(3,733)	(3,662)	(3,580)	(3,484)	(3,415)
(製造業)	(2,175)	(2,955)	(3,504)	(3,826)	(4,416)	(4,667)	(4,841)
失 業 率	4.1	5.2	4.0	3.8	3.1	2.5	2.6

資料：經濟企劃院

4. 對外去來

'89년의 總 輸出額은 624억달러로서 '88년보다 겨우 2.8% 증가하여 '88년도 증가율 28.4%보다 크게 줄었으며, 總 輸入額은 615억달러로 전년대비 18.7% 증가하였다.

輸出增加勢가 크게 둔화된 것은 '88년과 '89년 상반기 동안의 원貨切上, 企業의 設備投資 不振, 勞使紛糾에 따른 生産性低下 등과 製造業部門에서의 25.2%라는 높은 名目賃金上昇率로 인하여 우리 수출상품이 국제시장에서 質과 價格面에서 모두 경쟁력을 크게 상실하였기 때문이다.

또한 주요 수입국들의 경기둔화로 수입수요가 감퇴된 것도 우리나라의 수출산업을 위축시키는 요인으로 작용하였다. 따라서 수출부진은 경제성장율에의 寄與度가 $\Delta 1.7\%$ 로서 경제성장을 주도하였던 수출산업을 국내 경제성장에 隘路要因으로 작용하게 되었다.

수입에 있어서 消費財輸入이 '88년에 비해 38.6% 늘어나는 등 內需用輸

入이 27.2% 증가하여 過消費風潮의 만연을 그대로 반영하였다. 반면에 輸出用 原資材輸入은 6.2% 증가에 그쳐 對外去來의 構造的인 문제를 드러냈다. 특히 '89년 12월에는 輸出用 原資材 輸入이 前年同月에 비해 7%가 감소하였는데 이는 향후 수출회복전망이 그리 밝지 못함을 시사하고 있다.

한편 '89년의 經常收支 黑字는 전년의 142억달러에서 64%가 감소된 51억달러인 것으로 나타났는데 이는 貿易收支에서 흑자폭의 축소뿐만 아니라 貿易外收支 및 移轉收支도 크게 악화되었기 때문이다. 貿易外收支 黑字도 전년의 13억달러에서 4억달러로 크게 감소됐는데 이는 新技術 導入에 따른 로얄티지급액 증가와 海外旅行自由化에 따른 旅行經費支出이 부쩍 늘어났기 때문이다.

지난 '86년~'88년동안 연평균 12억달러였던 移轉收支 흑자도 '89년에는 3억달러에도 미치지 못했다. 이는 국내에서의 實物投資 및 換差益을 노린 海外資金搬入이 크게 줄어든 반면 개인의 海外送金은 '88년보다 거의 6배정도 늘어났기 때문이다.

<表1-1-11>

輸出 및 輸入

(單位：百萬 \$)

	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89
輸 出 (A)	5,081	17,505	30,283	34,715	47,281	60,696	62,377
輸 入 (B)	7,274	22,292	31,136	31,584	41,020	51,811	61,465
(A - B)	△2,193	△4,787	△853	3,131	6,261	8,885	912

註：通關基準額임.
資料：關稅廳

<表1-1-12>

經常收支

(單位：百萬 \$)

	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89
經 常 收 支	△1,887	△5,321	△ 887	4,617	9,854	14,161	5,103
貿易收支	△1,671	△4,384	△ 19	4,206	7,659	11,445	4,515
貿易外收支	△ 442	△1,386	△1,446	△628	977	1,267	351
移轉收支	226	449	578	1,039	1,218	1,448	237

資料：韓國銀行

對外去來의不振으로 당초 純債權國이 될 것 같았던 당초의 전망은 크게 벗어났지만 純外債規模는 '88년 73억달러에서 29억달러로 크게 축소되었다.

우리나라가 지난 몇년간 대외거래에서 흑자를 기록하면서 농산물을 포함한 전분야에서 문호개방은 불가피하게 되었다. 따라서 농산물의 수입도 크게 늘어났는데, '88년의 27억3천만달러에서 '89년에는 36억8천만달러로 34.5% 증가하였다.

畜産物의 輸入은 4억3천만달러로 전년에 비해 92.3% 증가했는데 이는 쇠고기, 돼지고기등 肉類와 肉類加工品의 수입이 급증했기 때문이다. 이 중 쇠고기는 2억2천만달러어치를 수입하였는데 이는 국내 소飼育頭數가 크게 줄어들어 국내 쇠고기 공급량이 수요량에 크게 미치지 못했기 때문이다.

果實類는 축산물 다음으로 수입증가율이 높았는데 이는 바나나, 아몬드, 오렌지, 자몽, 오렌지濃縮液등의 수입이 크게 늘었기 때문이다.

穀物類는 14억4천만달러어치가 수입되었는데 이는 전체 농산물 수입중 금액기준으로 가장 높은 비중인 39.1%를 차지했다.

이처럼 農産物輸入이 크게 늘어난 것은 國內需給不安에 따른 일부품목의 일시적 수입급증 때문이 아니라 국제적인 貿易環境 변화에 의한 輸入擴大政策, 繼續的인 輸入關稅率의 引下, 소득증대로 인한 국민들의 다양하고 고급추구의 食生活패턴 變化등 여러 요인이 복합적으로 작용했기 때문이다.

第2章 農村經濟와 農村社會

第1節 農業構造 및 農業生産性

1. 農家人口

産業構造의 高度化와 더불어 농업에 종사하는 家口와 人口의 감소는 일반적인 현상이다. 우리 농업에도 이 현상이 나타나 '75~88년동안 농가구와 농가인구는 연평균기준으로 각각 2.0%, 4.5%씩 감소되었다. '89년 말 農家人口는 전년대비 6.7% 감소하고 農家口도 3.0% 감소하여 離農 현상이 가속화되었는데 이는 농산물 수입자유화에 따른 불안감과 힘든일을 기피하는 사회일반 분위기의 영향으로 농어촌경제의 活力이 저하되었기 때문이다.

한편 年齡別 人口推移를 보면 靑壯年層의 감소현상이 현저하여 20~49세의 농가인구는 '88년보다 8.3% 줄어든 반면 50세 이상의 농가인구는 0.5%의 미미한 감소현상을 나타내고 있으며, 농가인구 가운데 여성인구의 비율도 '88년의 51.0%에서 '89년에는 51.3%로 높아져 농촌인구의 老

<表 1-2-1>

農家人口

	單位	'75	'80	'88	'89	年間增減率(%)		
						'89/88	'75~89	
農 家 口	千戶	2,379	2,155	1,826	1,772	△3.0	△2.1	
農 家 人 口	千名	13,224	10,827	7,272	6,786	△6.7	△4.7	
(總人口中比重)	(%)	(37.5)	(28.4)	(17.3)	(16.0)	—	—	
(女性人口比重)	(%)	(49.8)	(50.0)	(51.0)	(51.3)	—	—	
戶當農家人口	名	5.57	5.02	3.98	3.83	△3.8	△2.6	
年 齡 別 農家人口	19세이하	千名	6,760	4,914	2,572	2,289	△11.0	△7.4
	20~49세	"	4,212	3,701	2,306	2,114	△8.3	△4.8
	50세이상	"	2,272	2,212	2,394	2,382	△0.5	△0.3

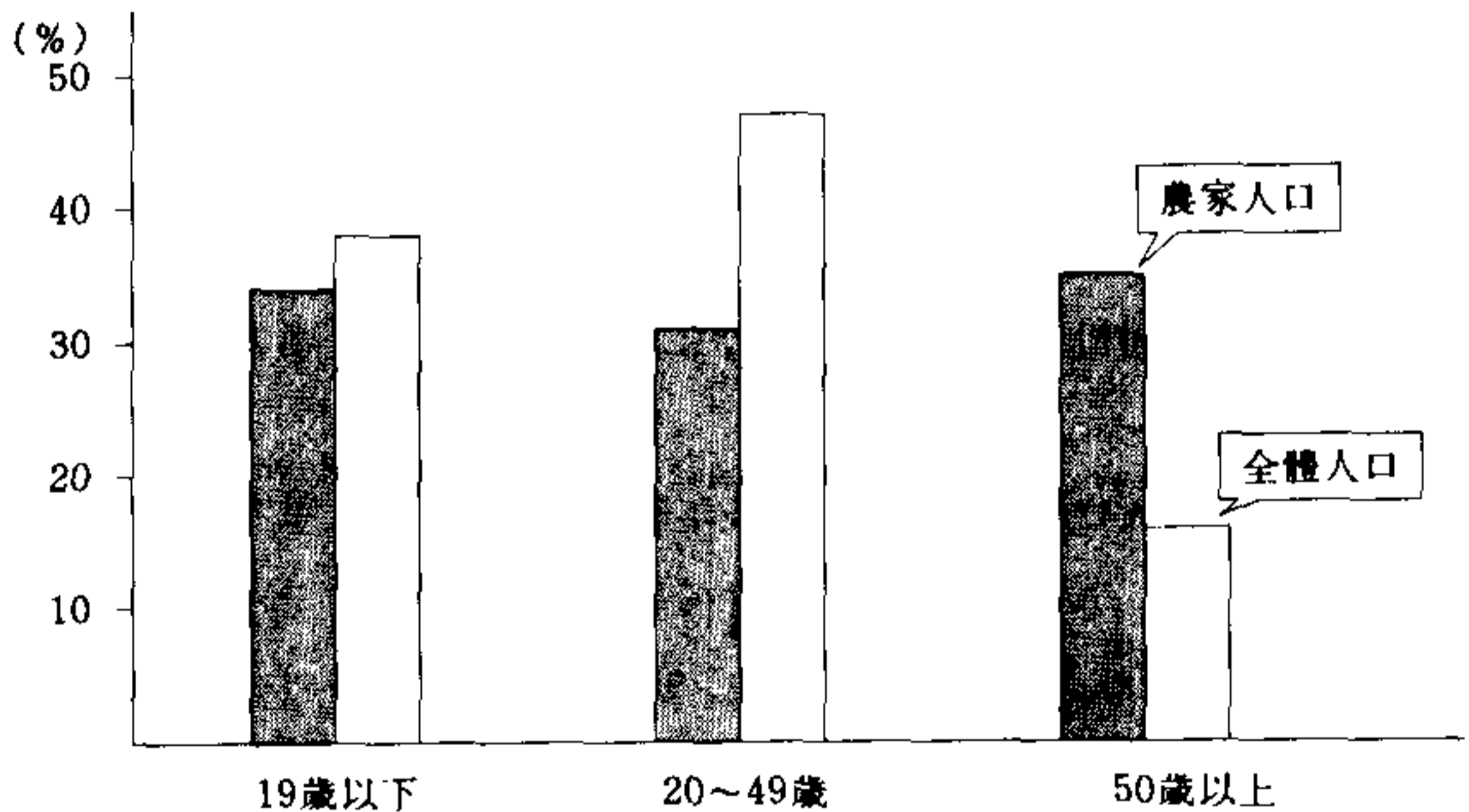
資料：農林水産部 農水産統計官室

齡化, 婦女化가 고착화되고 있는 추세에 있다.

農家人口의 年齡別 構成比率을 우리나라 전체인구와 비교해 보면, 농가 인구의 경우는 '89년말 기준으로 19세이하가 33.7%, 20~49세가 31.2%, 50세 이상이 35.1%를 차지하고 있는데 비하여 우리나라 전체인구의 연령별 구성비율은 각각 37.3%, 47.2%, 15.5%를 차지함으로써 전체인구에 비해 농가인구는 老齡人口比率이 월등히 높은 실정이다.

<그림 1-2-1>

'89年 年齡階層別 人口構成比



資料：經濟企劃院, 農林水產部

한편 우리나라 全體 就業者와 農林漁業 就業者를 비교해보면 농림어업 취업자는 그 절대적인 숫자 뿐만아니라 전체 취업자중 비율 또한 감소하고 있다. '89년의 總就業者는 '88년보다 645천명이 늘어났으나 농림어업 취업자는 64천명 감소함으로써 그 구성비도 '88년의 20.7%에서 19.5%로 낮아졌다. 또한 農林漁業就業者중 50세이상 老齡層의 취업자는 '88년의 48.8%에서 '89년에는 53.1%로 증가하였고, 女性就業者 비중도 '88년의 44.6%에서 '89년에는 45.1%로 증가하여 농림어업취업자의 老齡化, 婦女

化現象이 심화되고 있다.

이러한 농업노동력의 質的·量的 감소는 農村賃料金の 상승을 유발하여 결과적으로 농산물가격 상승의 원인이 되며 노동력 부족을 메꾸기위해 농기계 구입이 늘어나면서 農家負債가 늘어나는 원인으로 작용하고 있다. 아울러 農業勞動力의 고령화·부녀화현상이 심화되면서 勞動生産性이 저하될 우려가 있다.

<表 1-2-2>

農林漁業 就業者

(單位：千名)

	'75	'80	'87	'88	'89
總 就 業 者 (A)	11,692	13,683	16,354	16,870	17,515
農林漁業就業者(B)	5,339	4,654	3,580	3,484	3,420
(B/A, %)	(45.7)	(34.0)	(21.9)	(20.7)	(19.5)
50 세 이 상 (C)	1,423	1,499	1,628	1,699	1,816
(C/B, %)	(26.7)	(32.2)	(45.5)	(48.8)	(53.1)
農林漁業女性就業者(D)	2,253	2,039	1,607	1,552	1,544
(D/B, %)	(42.2)	(43.8)	(44.9)	(44.6)	(45.1)

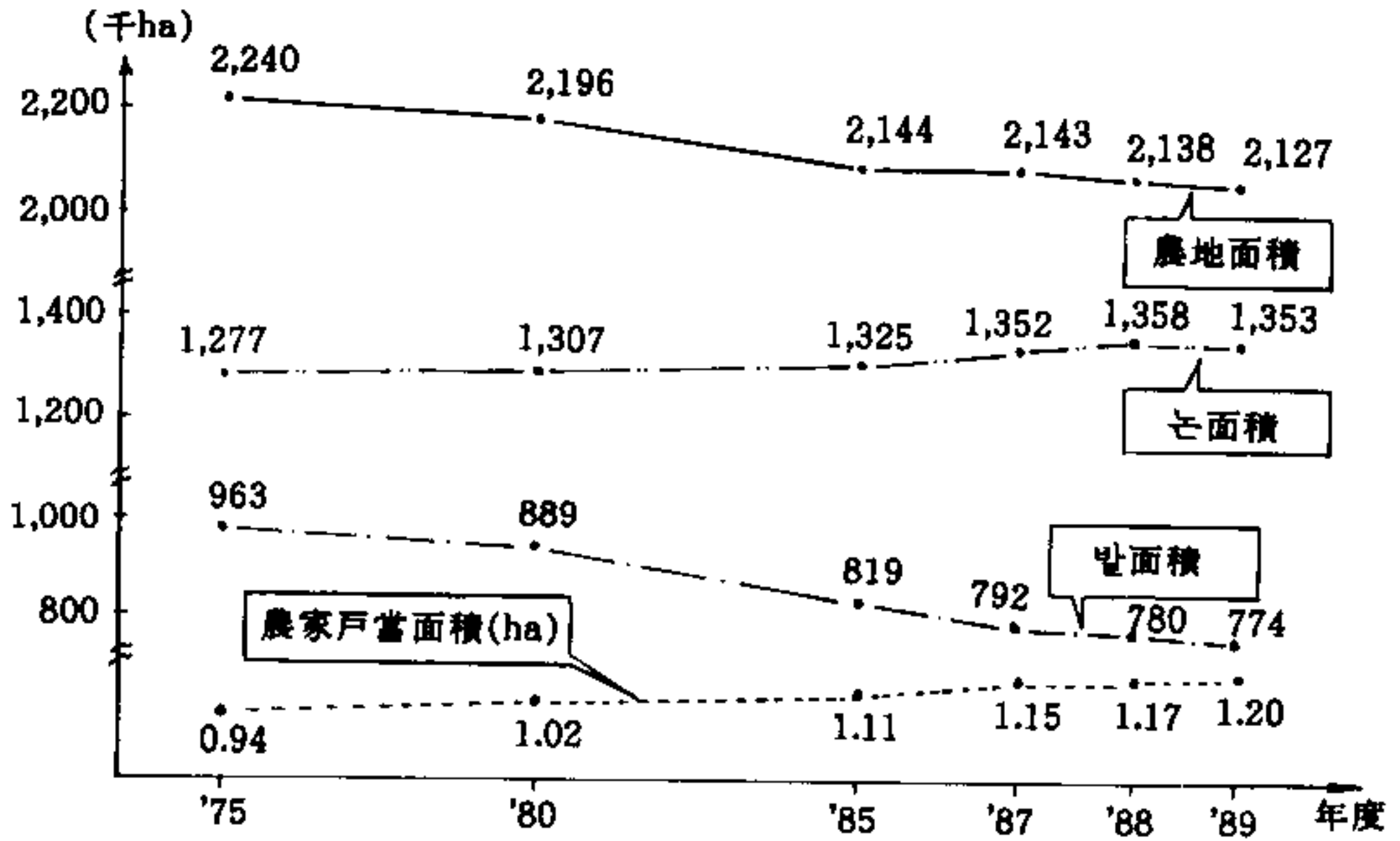
資料：農林水産部 農水産統計官室

2. 農 耕 地

'89년말의 農地面積은 '88년보다 11천ha 줄어든 2,127천ha인 것으로 나타났다. 이중 논은 전년에 비하여 5천ha 감소한 1,353천ha이고 밭은 6천ha 감소한 774천ha로 나타났다. 농지면적의 변동사유를 살펴보면, 공장부지등 건물건축용으로 5.7천ha, 공공시설용으로 2.8천ha, 그리고 유실·매몰 등으로 6.9천ha 감소하였으나 개간으로 3.2천ha, 그리고 복구 등으로 1천ha 증가하였다. 그러나 농지가 줄어든 것보다는 농가호수 감소율($\Delta 2.1\%$)이 더 컸기때문에 農家 戶當 耕地面積은 '88년의 1.17ha에서 '89년에는 1.20ha로 증가하였다.

<그림 1-2-2>

農耕地面積 變動推移



資料：農林水産部 農水産統計官室

<表 1-2-3>

農耕地規模別 農家分布

(單位：千戶, %)

	'75	'80	'85	'88	'89
耕種外農家	94(4.0)	28(1.3)	46(2.4)	32(1.8)	28(1.6)
耕種農家	2,285(96.0)	2,128(98.7)	1,880(97.6)	1,794(98.2)	1,744(98.4)
0.5ha미만	691(29.0)	612(28.4)	534(27.7)	507(27.8)	483(27.3)
0.5~1.0	828(34.8)	748(34.7)	686(35.6)	626(34.3)	594(33.5)
1.0~1.5	431(18.1)	438(20.4)	390(20.3)	376(20.6)	369(20.8)
1.5~2.0	187(7.9)	191(8.8)	160(8.3)	165(9.0)	168(9.5)
2.0~3.0	122(4.7)	108(5.0)	87(4.5)	94(5.1)	101(5.7)
3.0ha이상	36(1.5)	31(1.4)	23(1.2)	26(1.4)	29(1.6)
計	2,379(100.0)	2,156(100.0)	1,926(100.0)	1,826(100.0)	1,772(100.0)

資料：農林水産部 農水産統計官室

한편 우리나라 농가의 98.4%를 차지하고 있는 耕種農家の 경지규모별 農家分布를 보면 0.5ha미만의 농가가 27.3%, 0.5~1.0ha미만 농가가 33.5%로서 1ha미만 농가가 60.8%에 이르고 있는 반면 1ha이상 농가는 겨우 37.6%에 불과한 실정이다. 따라서 '75년에는 1ha이상 농가가 32.2%수준

이었던 것과 비교하면 지난 15년간 耕地面積에서 본 우리농가의 規模의 經濟는 크게 이루어지지 않고 있음을 보여주고 있다.

'89년의 耕地利用面積은 2,485천ha로서 전년보다 44천ha가 감소하였으며, 따라서 耕地利用率도 116%로 떨어진 것으로 나타났다. 내용별로 살펴보면 미맥을 중심으로 한 食糧作物 栽培面積은 0.6% 줄어들었으며, 과수면적의 증가에도 불구하고 菜蔬栽培面積이 크게 감소하여 經濟作物 栽培面積은 전년에 비해 34천ha감소하였다. 이처럼 경지이용율이 감소되고 있는 것은 離農增加로 일손이 부족한데다 農村貸金이 많이올라 농사를 지어도 수지를 맞출수 없는 天水畝, 開墾地등 限界農地를 중심으로 休耕하는 경우가 많아지고 있기 때문이다. 또한 수입개방이 확대되면서 耕地利用率 감소추세는 가속화될 것으로 전망된다.

<表 1-2-4>

農耕地 利用狀況

(單位：千ha)

	'80	'85	'87	'88	'89
耕地利用面積	2,765	2,592	2,598	2,529	2,485
食糧作物	1,982	1,780	1,775	1,736	1,726
(米 穀)	(1,223)	(1,237)	(1,262)	(1,260)	(1,257)
(麥 類)	(360)	(242)	(208)	(197)	(179)
(豆類·其他)	(389)	(301)	(305)	(279)	(290)
經濟作物	783	812	823	793	759
(菜 蔬)	(359)	(337)	(308)	(314)	(283)
(果 樹)	(99)	(109)	(114)	(120)	(127)
(其 他)	(325)	(366)	(401)	(359)	(349)
耕地面積	2,196	2,144	2,143	2,138	2,127
耕地利用率(%)	125.3	120.4	120.0	118.0	116.0
(논)	(118.8)	(114.9)	(112.9)	(111.1)	(109.8)
(밭)	(134.8)	(129.2)	(131.4)	(129.8)	(127.4)

資料：農林水産部 農水産統計官室

3. 農業生産性

'89년에 農家戶當 營農에 투입된 主要要素를 보면, 勞動時間은 농업기계화의 진전으로 '88년보다 34시간이 적은 1,744시간이었으며, 農業生産에 투입된 戶當 農業資本額은 9,400천원으로 '87년 대비 9.1%증가한 것으로 나타났다.

<表 1-2-5> 農家戶當 生産要素 投入量

	'75	'80	'85	'87	'88	'89
營農時間(時間)	1,530	1,654	1,921	1,777	1,778	1,744
農業資本額(千圓)	971	2,497	6,488	6,960	8,614	9,400
耕地面積(10a)	9.62	10.27	11.38	11.54	11.78	12.06

資料：農林水産部 農水産統計官室

作物別 營農時間은 영농기계화가 진전된 水稻作 및 菜蔬類의 경우 '88년에 비하여 다소 감소하는 추세를 보였다.

'89년의 農業生産性을 보면 먼저 단위시간에 대한 농업소득인 勞動生産性은 시간당 3,221원으로 전년보다 458원이 늘었고, 10a當 土地生産性은 전년보다 11.8%증가한 466천원 이었으며, 資本生産性도 다소 증가하는 추세를 보인 것으로 나타났다.

<表 1-2-6> 農家戶當 作物別 營農時間

(單位：時間)

	米 穀	麥 類	雜 穀	豆 類	薯 類	菜 蔬	其 他	計
'75	564	224	26	91	81	156	388	1,530
'80	596	101	19	77	48	286	526	1,654
'84	610	73	19	83	35	378	699	1,898
'85	617	60	20	70	36	419	699	1,921
'86	576	49	20	71	34	448	702	1,900
'87	558	50	19	79	27	389	655	1,777
'88	560	54	17	81	32	449	585	1,778
'89	539	50	20	85	36	433	581	1,744

資料：農林水産部 農水産統計官室

<表 1 -2-7>

農業生産性 指標

	'75	'80	'85	'87	'88	'89
勞動生産性(원/時間)	467	1,061	1,925	2,260	2,763	3,221
土地生産性(千원/10a)	74	171	325	348	417	466
資本生産性(원/원)	0.74	0.70	0.57	0.58	0.57	0.60
勞動集約度(時間/10a)	159	161	169	154	151	145
資本集約度(千원/10a)	101	243	570	603	731	779

註：勞動, 土地, 資本生産性は 農業所得을 基準으로 算出한 것임.

資料：農林水産部 農水産統計官室

4. 農林漁業 附加價值

'89년 農林漁業의 附加價值는 經常價格基準으로 前년의 13조 4,939억원 보다 7.8% 증가한 14조 5,458억원으로 暫定推計 되었으며, 國民總生産에 서 農林漁業이 차지하는 比重은 '88년의 10.7%에서 '89년에는 10.3%로, 또한 농업의 비중은 '88년 8.9%에서 '89년에는 8.4%로 각각 낮아졌다.

<表1-2-8>

經濟活動別 附加價值比重

(單位：%)

	'80	'85	'87	'88	'89(暫定)
國民總生産 (經常 10 億 원)	36,750	78,088	106,025	126,230	141,066
農林漁業 (農業)	15.4 (13.2)	13.3 (11.3)	10.7 (8.8)	10.7 (8.9)	10.3 (8.4)
鑛工業	32.1	32.4	33.8	33.7	32.1
建設 및 電氣, 가스, 水道事業	10.7	10.9	10.6	10.8	12.2
서비스業	45.2	46.9	47.1	46.1	46.2

資料：韓國銀行

農林漁業 附加價值에서 농업이 차지하는 비중은 '88년의 83.7%에서 '89년에는 81.9%로 약간 낮아졌는데, 이는 쌀을 비롯한 栽培作物이 '88년보다 적게 생산됨에 따라 재배업이 '88년의 75.4%에서 '89년에는 73.1%로 2.3%포인트 낮아진데 주로 起因한다.

그러나 畜産業, 林業, 漁業이 農林漁業部門중 차지하는 비중은 각각 7.2%, 5.2%, 13.0%로서 '88년에 비해 높아졌다.

<表1-2-9>

農林漁業部門의 附加價值比重

(單位：%)

					'80	'85	'87	'88	'89(暫定)
農 (經	林 常	10	漁 億	業 원)	5,677.4	10,351.8	11,353.3	13,493.9	14,545.8
農				林	85.2	85.0	82.1	83.7	81.9
栽		培		業	75.6	72.4	73.2	75.4	73.1
甬		產		業	8.3	10.9	7.0	6.6	7.2
서	비		스	業	1.3	1.7	1.9	1.7	1.6
林				業	6.6	5.6	5.2	4.8	5.2
漁				業	8.2	9.4	12.7	11.6	13.0

資料：韓國銀行

第2節 農家經濟

1. 農家所得

'89년의 戶當平均 農家所得은 9,437천원인 것으로 나타났다. 이는 '88년 도 호당평균 농가소득 8,130천원보다 16.1%증가한 것으로 전년의 증가율 24.4%에는 미치지 못하지만 지난 5년간의 연평균 증가율 9.7%를 크게 상회하는 수이다. 농가소득이 이처럼 늘어난 것은 쌀생산이 卞年作 수준 이상의 풍작인데다 추곡수매량 확대와 함께 收買價가 인상되었기 때문이다. 또한 소값등 가축가격이 크게 상승하였고, 임금 및 농업임금등이 크게 상승한 것도 농가소득향상에 큰 도움이 되었다.

농가소득중 농업소득은 農業粗收入의 大宗을 차지하는 쌀 수매량확대(전년대비 74.9%)와 수매가격 인상(多數系 12%, 一般系 14%), 그리고 축산부문의 가격호조에 힘입어 전년대비 14.3%증가한 5,616천원인 것으로 나타났다. 또한 농외소득은 정부의 농외소득증대 정책에 힘입어 농외 취업기회가 확대된데다 임금·노임등의 상승으로 전년보다 18.7%증가한 3,821천원으로 농업소득에 비해 相對的으로 높은 伸張勢를 보임으로써

농가소득중 농외소득이 차지하는 비중은 전년의 39.6%에서 40.5%로 높아졌다.

농가소득중에서 생산물 自家消費額, 現物被贈收入등의 現物所得을 제외한 現金所得은 6,899천원으로 '88년보다 22% 증가하였으며, 농가소득중 현금소득의 비중이 73%로 높아져 농가의 資金流動性이 높아진 것으로 나타났다.

<表 1-2-10>

農家所得의 構成

(單位：千원, %)

	'84	'85	'86	'87	'88 (A)	'89 (B)	증감율 (B/A)
農家所得	5,549	5,736	5,995	6,535	8,130	9,437	16.1
農業所得	3,699	3,699	3,677	4,016	4,912	5,616	14.3
農外所得	1,850	2,037	2,318	2,519	3,218	3,821	18.7
(比率)	(33.3)	(35.5)	(38.7)	(38.5)	(39.6)	(40.5)	-
現金所得	3,253	3,613	3,946	4,393	5,655	6,899	22.0

資料：農林水産部 農水産統計官室

耕地規模別 농가소득을 보면, 0.5ha미만을 耕作하는 농가의 소득은 6,910천원으로 平均農家所得의 73.2% 수준에 해당되며 2.0ha이상을 耕作하는 농가의 소득은 13,663천원으로 평균 농가소득의 1.4배 수준인 것으로 나타났다. 한편, 0.5ha미만의 농가의 農外所得比率은 73.3%에 달하며, 2.0ha이상 농가의 경우 농외소득비율은 22.7%에 불과해 零細農일수록 농가소득은 전반적인 경기변화에 따른 영향을 더 크게 받을 것으로 여겨진다.

<表 1-2-11>

'89年 耕地規模別 農家所得

(單位：千원, %)

	평 균	0.5ha미만	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha이상
農家所得 (平均對比)	9,437 (100.0)	6,910 (73.2)	8,311 (88.1)	9,329 (98.9)	11,011 (116.7)	13,663 (144.8)
農業所得	5,616	1,846	3,962	5,996	8,067	10,559
農外所得 (比率)	3,821 (40.5)	5,064 (73.3)	4,349 (52.3)	3,333 (35.7)	2,944 (26.7)	3,104 (22.7)

資料：農林水産部 農水産統計官室

地帶別 農家所得을 보면, 農外所得이 높은 都市近郊가 10,463천원으로 가장 높고 農業所得과 農外所得水準이 전반적으로 낮은 山間地帶 농가의 소득이 8,517천원으로 가장 낮게 나타났다. 또한 농외소득 비율은 소득이 가장 높은 도시근교가 54.2%로 가장 높고, 농업소득이 많은 평야지대가 38.2%로 가장 낮았다. 산간지대는 농외소득비중도 40%이하로서 도시근교 농가의 농외소득 비율보다는 크게 낮은 것으로 나타났다.

<표 1-2-12>

'89年 地帶別 農家所得

(單位：千원, %)

	平 均	都市近郊	平 野	中 間	山 間
農 家 所 得 (平均對比)	9,437 (100.0)	10,463 (110.8)	9,504 (100.7)	9,680 (102.6)	8,517 (90.3)
農 業 所 得	5,616	4,793	5,871	5,869	5,173
農 外 所 得 (比 率)	3,821 (40.5)	5,670 (54.2)	3,633 (38.2)	3,811 (39.4)	3,344 (39.3)

資料：農林水産部 農水産統計官室

가. 農業所得

'89년의 戶當平均 農業所得은 5,616천원으로 전년보다 14.3% 증가하였다. 이는 農業粗收入의 大宗을 이루고 있는 쌀 및 축산부문의 伸張과 경영비 증가율의 상대적 둔화에 기인한 것으로 여겨진다.

전년보다 13.6% 신장한 農業粗收入 내용을 살펴보면, 쌀은 수매가 인상에도 불구하고 지난해의 일반미 시중가격의 저조와 생산량의 소폭감소로 '88년에 비해 신장율이 다소 둔화되었으나 여전히 農業粗收入중 쌀이 차지하는 비중은 절대적으로 높다. 果實類는 생산량이 전반적으로 늘어난 데다 감귤을 제외하고는 과일 가격의 안정으로 조수입이 전년보다 28.0% 증가하였다. 특히 畜産部門의 신장율이 눈에 띄는데 가축가격이 25.8%로 크게 상승한데다 국민소득증가에 연유한 축산물의 수요증가로 축산수입이 크게 늘었기 때문이다.

이러한 유형별 粗收入의 차이로 農業全體 粗收入중 쌀이 차지하는 비

중은 '88년의 52.4%에서 '89년에는 49.7%로 줄어든 반면, 畜産粗收入은 '88년의 13.9%에서 '89년에는 17.8%로 늘어나 축산업의 비중이 크게 증대되었다. 國民所得增大에 의한 곡류소비가 줄어들고 肉類消費가 증가하는 식생활 소비행태의 변화가 고려된다면, 위의 조수입구성 변화추세는 앞으로도 더욱 심화될 것으로 전망된다.

한편 戶當平均 農業經營費는 농업기계화에 따른 農具費의 15.7% 증가, 농업노임의 22.3% 상승, 賃借耕地增加에 따른 임차료 11.9% 증가 등으로 전년에 비해 12.2% 증가한 2,596천원으로 나타났다.

<表 1-2-13>

農業所得의 構成

(單位：千원, %)

	'87	'88	'89	增 減 率	
				'88/'87	'89/'88
農 業 所 得	4,016	4,912	5,616	22.3	14.3
農 業 粗 收 入	5,984	7,226	8,212	20.8	13.6
쌀	2,922	3,790	4,078	29.7	7.6
其 他 穀 物	346	443	483	28.0	9.0
其 他 蔬 菜	894	1,095	1,118	22.5	2.1
特 用 作 物	349	286	346	△18.1	21.0
果 樹 產 物	456	510	653	11.8	28.0
畜 產 物	945	1,008	1,461	6.7	44.9
其 他	72	94	73	30.6	△22.3
農 業 經 營 費	1,968	2,314	2,596	17.6	12.2
肥 料 費	193	196	200	1.6	2.0
農 藥 費	140	143	154	2.1	7.7
農 具 費	197	236	273	19.8	15.7
養 畜 費	414	461	509	11.4	10.4
勞 賃 費	209	249	268	19.1	7.6
賃 借 料 及 水 利 費	450	576	669	28.0	16.1
其 他	365	453	523	24.1	15.5

資料：農林水産部 農水産統計官室

農業所得을 耕地規模別로 보면, 0.5ha미만을 耕作하는 농가는 1,846천 원이며 2.0ha이상 耕作하는 농가는 10,559천원으로 耕地規模가 커짐에 따

라 농업소득도 증가하고 있다. 또한 農業所得率은 전국평균이 68.4%이며 경지면적 0.5ha미만을 경작하는 영세농가가 59.8%로 가장 낮게 나타났다.

<表 1-2-14> '89年 耕地規模別 農業所得 (單位: 千圓, %)

	平 均	0.5ha미만	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha이상
農業所得 (a)	5,616	1,846	3,962	5,996	8,067	10,559
農業所得率(a/b)	(68.4)	(59.8)	(67.7)	(69.4)	(69.6)	(69.1)
農業粗收入 (b)	8,212	3,089	5,849	8,640	11,585	15,282
農業經營費	2,596	1,243	1,887	2,644	3,518	4,723

資料: 農林水産部 農水産統計官室

地帶別 農業所得은 평야지대 농가가 5,871천원으로 가장 높고, 도시근교 농가가 4,793천원으로 가장 낮았으며, 農業所得率은 산간지대 농가는 70.9%, 중간지대농가가 69.0%로 높게 나타난 반면 도시근교 농가는 59.4%로 나타났다.

<表 1-2-15> '89年 地帶別 農業所得 (單位: 千圓, %)

	平 均	都市近郊	平 野	中 間	山 間
農業所得 (a)	5,616	4,793	5,871	5,869	5,173
農業所得率(a/b)	(68.4)	(59.4)	(67.9)	(69.0)	(70.9)
農業粗收入 (b)	8,212	8,068	8,653	8,503	7,295
農業經營費	2,596	3,275	2,782	2,634	2,122

資料: 農林水産部 農水産統計官室

나. 農外所得

'89년의 戶當平均 農外所得은 兼業所得, 事業以外所得 그리고 移轉收入이 고르게 증가하여 전년보다 18.7%증가한 3,821천원으로 나타났다. 특히 지난해에는 근로자 임금상승에 따른 給料收入의 증가가 상대적으로

커 농외소득 구조가 개선되는 추세를 보이고 있다.

'89년의 農外所得 構成을 보면, 경업소득은 이앙기, 콤바인등 大農具를 이용한 농업부대서비스 수입의 증가와 商·工業收入이 증가하여 28.5%로 늘어났다. 事業以外 所得은 노임, 급료의 전반적인 상승과 農工地區 확대조성에 따른 취업기회의 확대등으로 전년에 비해 16.4% 증가하였고, 移轉收入은 祝·吊儀金등의 被贈補助 부문이 다른 이전수입에 비해 크게 증가한데 힘입어 전년보다 18.7% 늘어났다. 따라서 농가소득에, 대한 農外所得比率도 40.5%로 '88년의 39.6%보다 0.9%포인트 증가하였다.

<表 1-2-16>

農外所得의 構成

(單位：千圓)

	'84	'85	'86	'87	'88	'89
農 外 所 得	1,850	2,037	2,318	2,519	3,218	3,821
兼 業 所 得	192	214	274	281	354	455
兼 業 收 入	422	565	531	581	720	853
兼 業 支 出	230	351	257	300	366	398
事 業 以 外 所 得	763	846	935	1,033	1,458	1,697
事 業 以 外 收 入	979	1,068	1,172	1,280	1,755	2,009
- 勞 賃 · 給 料	717	791	854	958	1,415	1,687
- 賃 貸 料 · 配 當 利 子	155	182	221	235	255	236
- 其 他	107	95	97	87	85	86
事 業 以 外 支 出	216	222	237	247	297	312
- 借 入 金 利 子	211	218	231	238	289	306
- 其 他	5	4	6	9	8	6
移 轉 收 入	895	977	1,109	1,205	1,406	1,669
送 金 補 助	248	270	305	299	370	399
被 贈 補 助	636	695	786	896	1,022	1,257
其 他	11	12	18	10	14	13

資料：農林水産部 農水産統計官室

耕地規模別 農外所得을 보면 농외소득 의존도가 높은 0.5ha미만 농가가 5,064천원으로 가장 많고, 경지규모가 클수록 농외소득은 적은 것으로 나타났다.

한편 0.5ha미만 농가의 농외소득의 구성을 보면 事業以外所得이 58.4%로 절반이상을 차지하며 그중 勞賃 및 給料收入이 2,719천원으로 대부분을 차지하고 있다.

<表 1-2-17> '89年 耕地規模別 農外所得 (單位：千圓)

	평 균	0.5ha미만	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha이상
農 外 所 得	3,821	5,064	4,349	3,333	2,944	3,104
兼 業 所 得	455	595	441	356	465	482
事 業 以 外 所 得	1,697	2,958	2,159	1,390	834	781
移 轉 收 入	1,669	1,511	1,749	1,587	1,645	1,841

資料：農林水産部 農水産統計官室

地帶別 農外所得은 취업기회가 타지역에 비하여 상대적으로 많은 도시 근교지역이 5,670천원으로 가장 높은반면, 소득원이 농업에 집중되어 있는 산간지대는 3,344천원으로 가장 낮게 나타났으며 전국평균 농외소득의 87.5%에 불과하다.

<表 1-2-18> '89年 地帶別 農外所得 (單位：千圓)

	平 均	都市近郊	平 野	中 間	山 間
農 外 所 得	3,821	5,670	3,633	3,811	3,344
兼 業 所 得	455	611	432	420	464
事 業 以 外 所 得	1,697	3,353	1,490	1,691	1,274
移 轉 收 入	1,669	1,706	1,711	1,700	1,606

資料：農林水産部 農水産統計官室

다. 現金所得

農家所得중 農産物販賣나 給料 및 勞賃등과 같이 순수히 현금만으로 이루어진 現金所得은 연간 6,899천원(월평균 575천원수준)으로 농가소득 중 현금소득 비중은 지난해의 69.6%에서 73.1%로 늘어났다. 이와같이

현금소득 비중이 증가한 요인은 주로 쌀 收買量의 확대와 賃金 및 給料 등 농외소득 부문에서 현금소득 증가폭이 컸기 때문이다.

<表 1-2-19>

農家所得中 現金所得

(單位：千원, %)

	'87		'88		'89	
	總額	現金	總額	現金	總額	現金
農家所得	6,535	4,393 (67.2)	8,130	5,655 (69.6)	9,437	6,899 (73.1)
農業所得	4,016	2,336 (58.2)	4,912	2,917 (59.4)	5,616	3,626 (64.6)
農外所得	2,519	2,057 (81.7)	3,218	2,738 (85.1)	3,821	3,273 (85.7)

註：()는 總額에 대한 現金部門 比率임
資料：農林水産部 農水産統計官室

2. 家計費

'89년 農家 戶當平均 家計費는 7,065천원으로 전년보다 17.1% 증가되었다. 음식물비, 광열수도비등 기초적 가계비는 완만한 증가세를 보인 반면 冠婚喪祭費와 交際贈與費등 가계잠비적 성격의 소비지출은 상대적으로 크게 증가하였다. 관혼상제비, 교제증여비등이 크게 증가한 것은 농가현금소득이 늘어나면서 자금의 유동성이 증가되고 도시의 과소비분위기가 농촌에 영향을 미친 것으로 생각된다. 消費增加分을 所得增加分으로 나눈 限界消費性向을 보면, '87~'88년사이 0.52에서 '88~'89년 동안에는 0.79로 나타나 농촌에서의 소비성향이 크게 늘어난 것으로 나타났다. 이는 농업에의 再投資比率이 그만큼 낮아졌음을 의미한다.

한편, 個別農家の 소득수준이 향상되면서 家計費支出중 음식물비가 차지하는 비중인 恩給계수는 24.0%로 88년에 비해 크게 낮아져 농가소비패턴의 변화를 엿볼 수 있다.

<表 1-2-20>

可處分所得 및 家計費

(單位: 千원, %)

	'87		'88		'89		增減率 (89/88)
		構成比		構成比		構成比	
可處分所得	6,490	-	8,075	-	9,385	-	16.0
家計費	5,201	100.0	6,031	100.0	7,065	100.0	17.1
飲食物費	1,401	26.9	1,582	26.2	1,692	24.0	7.0
住居費	435	8.4	541	9.0	603	8.5	11.5
被服 및 신발費	214	4.1	269	4.5	321	4.5	19.3
光熱·水道費	203	3.9	208	3.4	218	3.1	4.8
教育·教養娛樂費 (教育費)	644 (586)	12.4 (11.3)	737 (670)	12.2 (11.1)	832 (762)	11.8 (10.8)	12.9 13.7
交際 및 贈與費	1,001	19.2	1,176	19.5	1,524	21.6	29.6
冠婚喪祭費	675	11.1	621	10.3	864	12.2	39.1
保健醫療費	289	5.6	353	5.9	410	5.8	16.1
交通·通信費	241	4.6	303	5.0	324	4.6	6.9
其他	198	3.8	241	4.0	277	3.9	14.9

資料: 農林水産部 農水産統計官室

3. 農家資産

'89年 戶當平均 農家資産은 '88년보다 29.4% 증가한 57,929천원으로 높은 伸張勢를 보였다. 이중 固定資産은 농지, 농기계등의 구입증가와 각종 開發計劃과 不動産投機 여파로 인한 농지가격이 크게 상승하여 資産價値는 전년보다 29.8% 증가하여 農家資産이 86.7%를 점유하게 되었다.

在庫農産物 등으로 구성되는 流動資産은 쌀수매량 확대에 따른 재고량 감소로 전년대비 7.5%증가에 그쳤다. 한편 현금, 예·적금등 현금화가 용이한 流通資産은 지난해보다 42.7% 증가한 4,861천원으로 각종 農村經濟活性化施策과 함께 농가의 資金餘力이 점차 好轉되고 있는 것으로 여겨진다.

<表 1-2-21>

農家資産의 構成

(單位：千圓, %)

		'86	'87	'88(A)	'89(B)	增減率(B/A)
農 家 資 産		30,043	33,091	44,754	57,929	29.4
固 定 資 産	土 地	20,476	22,251	31,367	41,638	32.7
	建 物	3,544	3,831	4,743	5,276	11.2
	大 農 具	665	657	965	1,056	9.4
	大 動 物	1,033	1,022	1,101	1,671	2.9
	大 植 物	267	288	518	574	10.8
	小 計	25,985	28,049	38,694	50,215	29.8
流 動 資 産	小 動 物	52	62	124	122	1.6
	在 庫 農 産 物	1,761	2,150	2,465	2,663	8.0
	在 庫 生 産 資 材	41	22	64	68	6.3
	小 計	1,854	2,234	2,653	2,853	7.5
流 通 資 産	現 金	212	238	283	316	11.7
	預 · 貯 金	943	1,409	2,028	2,921	44.0
	貸 付 金	465	478	370	624	68.6
	契 拂 入 金	245	265	245	332	35.5
	其 他	339	418	481	668	38.9
	小 計	2,204	2,808	3,407	4,861	42.7

資料：農林水産部 農水産統計官室

4. 農家負債

'89年の 戸當平均 農家負債는 3,899천원으로 지난해에 비해 24.5% 증가 하였으나 그 증가폭은 '88년의 증가율 31.0%보다는 다소 鈍化되었다. '87년 이후 농가부채가 늘어난 것은 농지와 농기계등에 대한 投資增大와 함께 지난 연말에 確定된 「農漁家負債輕減에 관한 特別措置法」의 시행으로 인하여 農·水·畜協의 相互金融資金과 中長期政策資金의 償還到來元金에 대한 猶豫措置에 緣由한 것으로 보인다.

농가부채를 借入處別로 보면, 農協등 金融機關 負債가 3,272천원, 個人 借入負債가 627천원으로 농가부채중에서 차지하는 비중은 각각 83.9%,

<表 1-2-22>

借入處別 農家負債

(單位：千圓, %)

	'84	'85	'86	'87	'88	'89
農家負債	1,784	2,024	2,192	2,390	3,131	3,899
(增加率)	(38.8)	(13.5)	(8.3)	(9.0)	(31.0)	(24.5)
金融機關	1,226	1,440	1,550	1,876	2,652	3,272
(農協)	(1,147)	(1,337)	(1,436)	(1,718)	(2,511)	(3,069)
個人借入	558	584	642	514	479	627
(比重)	(31.3)	(28.9)	(29.3)	(21.5)	(15.3)	(16.1)

資料：農林水産部 農水産統計官室

<表 1-2-23>

用途別 農家負債

(單位：千圓, %)

		'84	'85	'86	'87	'88	'89
生產性負債	生產施設投資	940	977	1,001	1,003	1,366	1,773
	土地・建物	369	419	471	493	658	991
	大動物	311	290	260	234	268	263
	農機械	260	268	270	276	440	519
	營農費等	200	329	356	443	637	751
	小計	1,140	1,306	1,357	1,446	2,003	2,524
	(增減率)	(42.5)	(14.6)	(3.9)	(6.6)	(38.5)	(26.0)
家計性負債	教育費	78	97	103	98	163	183
	生活費	316	290	335	339	430	517
	冠婚喪祭費	61	89	99	95	136	168
	小計	455	476	537	532	729	868
	(增減率)	(25.7)	(4.6)	(12.8)	(△0.9)	(37.0)	(19.1)
債務償還用負債	189	242	298	412	399	507	
(增減率)	(53.7)	(28.0)	(23.1)	(38.3)	(△3.2)	(27.1)	
比重	生產性負債	63.9	64.5	61.9	60.5	64.0	64.7
	家計性負債	25.5	23.5	24.5	22.3	23.3	22.3
	債務償還用負債	10.6	12.0	13.6	17.2	12.7	13.0

註：生活費中에는 文化用品 購入負債가 包含됨.

資料：農林水産部 農水産統計官室

16.1%인 것으로 나타났다.

用途別 農家負債에 있어서, 농지 및 농기계구입에 사용된 生產性負債는

전년보다 26.0% 증가하여 負債總額의 64.7%를 차지하고 있으며 家計性 負債는 868천원으로 전년대비 19.1% 증가하여 '88년의 증가율 37.0%보다 크게 둔화되었다.

따라서 농가부채의 절대규모는 늘어났음에도 불구하고 農家負債構造는 점차 건실해지고 있는 것으로 볼 수 있다. 그러나 債務償還用負債는 負債 蕩減說 등으로 償還忌避現象이 있었던 '88년과는 달리 다시 증가하였다.

또한 '89年 農家負債를 耕地規模別로 살펴보면, 0.5ha미만 경작농가의 부채는 2,138천원으로 平均負債規模의 54.8%수준이며, 2.0ha이상 경작농가의 부채는 호당평균 부채규모의 1.7배 수준에 해당되는 6,654천원으로 호당 경지규모가 커짐에 따라 농기계, 영농시설 등에 대한 生産性 投資가 隨伴되어 부채의 절대규모는 커지고 있다.

<表 1-2-24> '89年 耕地規模別 農家負債 (單位：千원, %)

	平均	0.5ha未滿	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0ha以上
農 家 負 債	3,899	2,138	2,937	4,083	4,946	6,654
借 金 融 機 關	3,272	1,821	2,480	3,362	4,085	5,566
入 (構 成 比)	(83.9)	(85.2)	(84.4)	(82.3)	(82.6)	(83.6)
處 個 人 借 入	627	317	457	721	861	1,088
別 (構 成 比)	(16.1)	(14.8)	(15.6)	(17.7)	(17.4)	(16.4)
生 産 性 負 債	2,524	1,194	1,758	2,693	3,274	4,654
使 (構 成 比)	(64.7)	(55.8)	(59.9)	(66.0)	(66.2)	(69.9)
用 家 計 性 負 債	868	592	770	876	1,025	1,297
處 (構 成 比)	(22.3)	(27.7)	(26.2)	(21.4)	(20.7)	(19.5)
別 債 務 償 還 用 負 債	507	352	409	514	647	703
(構 成 比)	(13.0)	(16.5)	(13.9)	(12.6)	(13.1)	(10.6)

資料：農林水産部 農水産統計官室

負債 規模別 農家分布를 보면 부채가 전혀없는 농가는 18.8%로 전년과 비슷하나 1,000만원이상 부채가 있는 농가는 전체농가의 11.3%로 '88년의 7.0%보다 다소 늘어났다. 高額負債 農家の 비중이 늘어난 이유는

農地購入資金 등 지원규모가 큰 政策資金의 지원이 늘어났기 때문이다.

<表 1-2-25> 負債規模別 農家分布 (單位：%)

	'87		'88		'89	
	分 布	累積分布	分 布	累積分布	分 布	累積分布
負債 없는 農家	20.8	20.8	18.7	18.7	18.8	18.8
200만원未滿	40.6	61.4	32.3	51.0	29.1	47.9
200 ~ 400	19.3	80.7	20.6	71.6	18.4	66.3
400 ~ 600	8.5	89.2	10.8	82.4	10.8	77.1
600 ~ 800	5.4	94.6	6.9	89.3	7.0	84.1
800 ~ 1,000	2.5	97.1	3.7	93.0	4.6	88.7
1,000만원以上	2.9	100.0	7.0	100.0	11.3	100.0

資料：農林水産部 農水産統計官室

한편 農家負債를 資産과 比較하여 보면, '86년 이후 流通資産規模가 부채규모를 상회하여 농가의 負債償還能力이 相對적으로 제고된 것으로 나타났다.

<表 1-2-26> 農家負債와 資産과의 比較 (單位：%)

	'84	'85	'86	'87	'88	'89
負債/農家資産	6.6	7.1	7.3	7.2	7.0	6.7
負債/流通資産	100.3	114.9	99.5	85.1	91.9	80.2

資料：農林水産部 農水産統計官室

第3節 農產物 價格動向

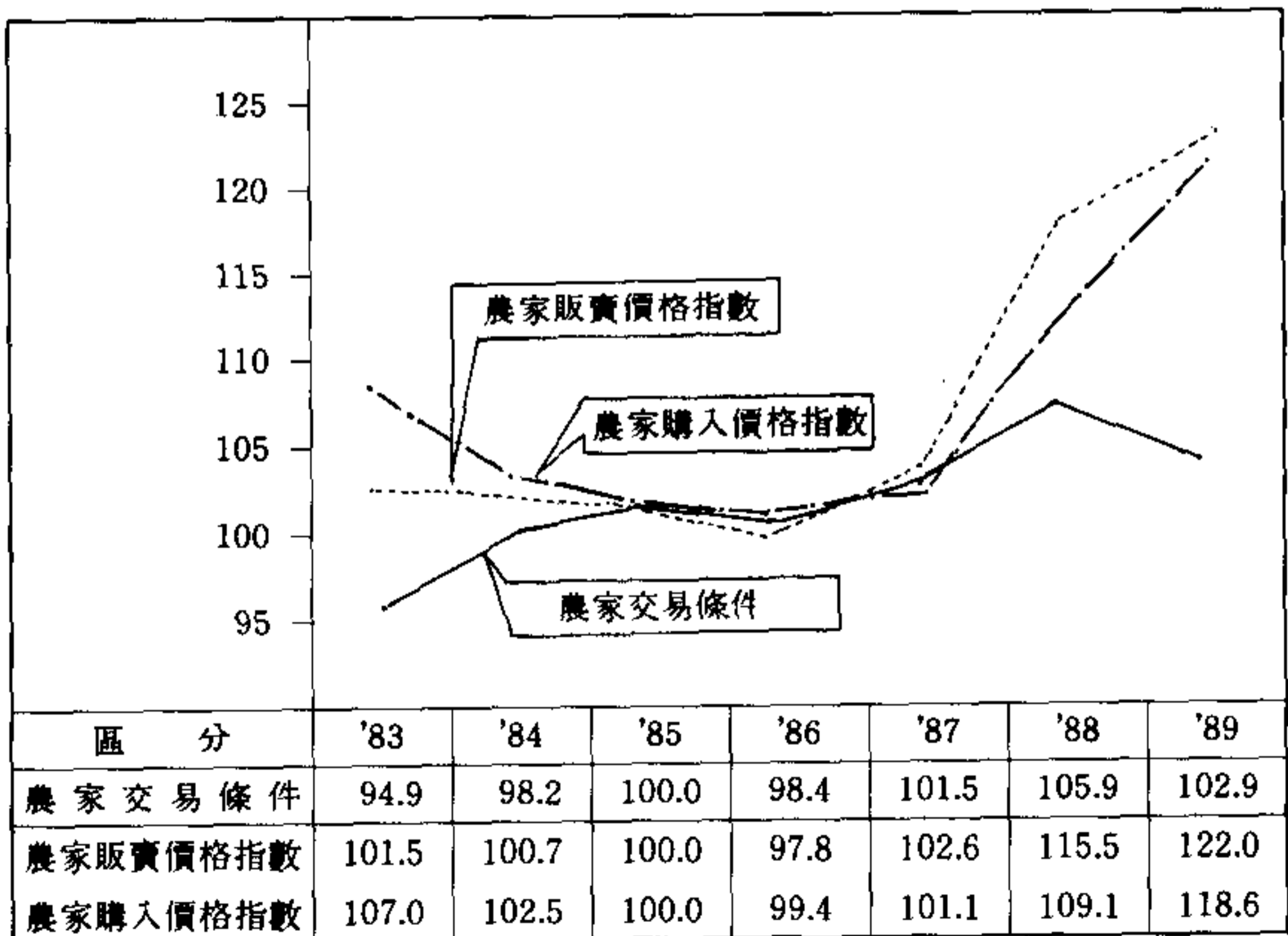
1. 農村物價 動向

'89년중 農村物價는 연평균 기준으로 農家販賣價格이 5.7%, 農家購入價格이 8.7% 상승하여 지난해에 비해 비교적 높은 상승율을 나타냈다.

농가판매가격중 穀物은 薯類, 豆類등이 하락하였으나, 米穀·麥類·雜穀등은 상승하여 전체적으로 1.8% 상승하였으며, 畜產物은 전년대비 24.0% 상승하여 農家販賣價格 상승에 큰 기여를 하였다. 한편 靑果物은 菜蔬와 果實이 전반적인 풍작으로 인하여 9.1% 하락하였으며, 其他 農產物은 特用作物, 蠶繭, 副產物價格이 전반적인 호조를 보여 4.6% 상승하였다.

<그림1-2-3>

農家交易條件



資料：農協中央會

그리고 農家購入價格은 家計用品이 전년대비 4.7% 오른 반면 農業用品과 農村賃料金은 각각 12.3%, 16.0%의 높은 상승율을 기록하였다.

이와 같이 農家購入價格이 農家販賣價格보다 상대적으로 크게 상승함에 따라 가격면에서의 農家交易條件은 '88년의 105.9에서 '89년에는 102.9로 3.0포인트가 떨어져 農家收支는 악화된 것으로 나타났다.

가. 農家販賣價格

(1) 穀物

'89년의 穀物價格은 연평균 기준으로 '88년에 비하여 1.8% 상승하여 전년의 상승율 8.3%보다 상승폭이 크게 줄었다, 類別로는 米穀이 2.8% 상승하였는데 이중 一般米가 40kg기준으로 전년대비 2.7% 오른 42,723원, 참쌀은 16.4% 상승한 51,892원이었다. 一般米 價格의 상승율이 전년의 상승율인 11.4% 보다 크게 낮아진 것은 '88년산 쌀 생산량이 사상최대의 풍작을 기록하여 산지에 一般米 在庫量이 과다하였기 때문이다.

麥類는 정부의 수매가 인상에 힘입어 대맥, 과맥, 맥주맥가격이 모두 올라 6.0% 상승하였다, 雜穀은 전년대비 6.2% 상승하였는데, 이는 옥수수, 메밀가격이 하락한 반면 좁쌀가격이 '88년의 생산감소와 수요증가로 57.9%나 크게 올랐기 때문이다. 豆類는 콩나물콩, 녹두가격이 내려 전년대비 3.8% 떨어졌으며 薯類는 감자의 재배면적이 늘어난데다 가공용 감자 수입량이 증가하여 감자가격이 전년대비 34.7% 떨어져 전체적으로 20.4% 하락하였다.

(2) 靑果物

'89년중 靑果物價格은 생산량 증가로 전년의 12.4% 上昇勢에서 9.1%의 下落勢로 반전하였다, 類別로는 菜蔬가 9.6%, 果實이 7.9% 하락하였다.

主要菜蔬의 年平均 價格을 보면 배추가 3.75kg당 560원으로 전년대비 13.0% 하락하였으며, 무우도 413원으로 26.8% 하락하였다. 고추는 600g당 1,003원으로 전년에 비해 49.4% 하락하였는데 이는 '88년의 가격이

높게 형성되었기 때문이다. 반면에 마늘은 肉類消費增加에 따라 수요가 늘어나 접당 4,708원으로 전년보다 5.4% 올랐으며 양파도 20kg당 3,454원으로 27.4% 상승하였다.

한편 果實중 사과(부사)가 15kg 상자당 연평균 12,263원으로 전년대비 4.0% 하락하였으며 감귤·감도 각각 7,577원, 9,387원으로 19.7%, 16.1% 씩 하락하였다.

(3) 畜產物

農家販賣品目 가운데 곡물 다음으로 加重値가 큰 축산물은 연평균 기준으로 24.0% 오르는 강세를 보여 전체 農家販賣價格의 상승에 가장 큰 寄與를 하였다.

韓牛價格을 보면 400kg짜리 황소가 연평균 1,704천원으로 전년대비 27.8% 올랐으며 300kg 암소는 1,206천원으로 37.9% 상승하였다. 또한 3~4개월된 암송아지가 723천원, 숫송아지가 946천원으로 각각 67.0%, 56.1% 올랐는데 이는 小飼育頭數가 감소하였기 때문이다.

한편 돼지는 사육두수 증가와 돼지고기 통조림의 수입증가 등으로 인하여 판매가격이 하락세를 보였다. 90kg짜리 成豚이 연평균 94천원으로 前年の 107천원보다 12.6% 하락하였고, 생후 40~60일된 새끼돼지도 26천원으로 전년대비 13.3% 하락하였다.

또한 닭은 패스트푸드店의 호황에 따른 수요증가에 힘입어 生體 1kg當 1,009원으로 전년에 비해 8.2% 상승하였으며 鷄卵은 大卵 10개 기준 554원으로 전년보다 8.2% 상승하였다.

(4) 기타農產物

特用作物, 蠶繭, 副產物로 구성된 農產物 其他價格은 전년에 비해 4.6% 상승하였다. 類別로는 特用作物이 3.6% 상승하였는데, 참깨, 들깨등의 가격은 내렸으나 유채, 인삼, 엽연초 등의 가격은 오름세를 보였다. 누에고치는 정부의 수매가격 인상에 힘입어 17.1% 상승하였다, 그리고 副產物인 벧짚가격은 3.75kg당 188원으로 전년에 비해 4.0% 상승하였다.

<表1-2-27>

農家販賣價格指數

(1985=100, %)

	'85	'86	'87	'88 (A)	'89 (B)	騰落率(B/A)
總指數	100.0	97.8	102.6	115.5	122.0	5.7
穀物	100.0	108.2	113.2	122.6	124.8	1.8
(米穀)	(100.0)	(107.7)	(111.9)	(120.8)	(124.1)	(2.8)
青果物	100.0	85.9	97.1	109.1	99.3	△9.1
畜產物	100.0	91.4	88.4	108.2	134.1	24.0
(家畜)	(100.0)	(90.3)	(87.0)	(109.0)	(137.1)	(25.8)
其他農產物	100.0	111.0	126.5	131.2	137.2	4.6

資料：農協中央會

나. 農家購入價格

(1) 家計用品

'89년중 家計用品價格은 전년대비 4.7% 상승하여 '88년의 상승율 5.2% 보다 다소 둔화되었다. 食料品價格은 전년에 비해 3.7% 올랐는데 菜蔬, 調味料價格만 내렸을 뿐 穀類, 海藻魚類, 肉類, 外食費 등은 모두 오름세를 보였다. 住居費는 0.2% 상승하여 안정세를 보였으나 被服費, 雜費 등은 각각 9.5%, 5.4% 상승하여 도시에서의 過消費 風潮가 농촌의 소비지출 형태에 영향을 미친 것으로 분석된다. 家計光熱費는 전년에 비해 0.2% 내렸는데 이는 가스료, 석유가격, 전기요금등이 정부의 價格引下調整으로 인하여 하락하였기 때문이다.

(2) 農業用品

농가의 영농활동에 필요한 農業用品의 農家購入價格은 肥料, 農藥, 營農光熱費등이 하락하였음에도 불구하고 가중치가 큰 家畜價格이 30.3% 상승하고 種子, 資材, 飼料價格도 전반적으로 오름세를 보여 전체적으로 12.3% 상승하였다.

類別로는 肥料가 '89. 1월 附加稅零稅率 適用으로 인해 평균 9.1% 하락하였다. 農藥은 히노산, 키타진, 후치왕유제, 스미치온가격등이 내려 8.2

% 하락하였으며 農機具는 동력분무기, 육모상자 가격 등이 내렸으나 경운기가격이 올라 0.7% 상승하였으며 資材類는 농용비닐, 죽골재가 올라 5.4% 상승하였다.

이밖에 飼料, 種子價格은 전년대비 각각 6.9%, 4.8% 상승하였다.

<表1-2-28>

農家購入價格 指數

(1985=100,%)

	'85	'86	'87	'88 (A)	'89 (B)	騰落率(B/A)
總指數	100.0	99.4	101.1	109.1	118.6	8.7
家計用品	100.0	102.4	104.8	110.2	115.4	4.7
農業用品	100.0	94.5	94.6	105.1	118.1	12.3
(肥料)	(100.0)	(96.9)	(95.4)	(86.3)	(78.5)	(△9.1)
(家畜)	(100.0)	(88.7)	(92.6)	(121.3)	(158.1)	(30.0)
農村賃料金	100.0	103.5	108.1	119.6	138.7	16.0

資料：農村中央會

(3) 農村賃料金

'89년중 農村賃料金은 연평균 기준으로 16.0% 상승하였는데, 類別로는 農業勞動賃金이 22.3% 올랐고, 목수, 미장이 등에게 지급되는 기타 임금과 農牛, 農機具 賃賃料등 農業用 賃料金도 각각 27.5%, 3.7% 상승하였다.

<表1-2-29>

農業勞動賃金

(單位：圓)

		'85	'86	'87	'88	'89
男	現金支給額	7,082	7,441	7,620	9,167	11,605
	給食物評價額	2,613	2,701	2,948	3,108	3,557
	計	9,695	10,142	10,568	12,275	15,162
女	現金支給額	4,471	5,020	5,345	6,467	7,872
	給食物評價額	2,172	2,234	2,354	2,388	2,794
	計	6,643	7,254	7,699	8,855	10,666

資料：農協中央會

'89년중 農業勞動賃金은 1일 기준으로 給食物評價額을 포함하여 남자 성인이 15,162원, 여자 성인이 10,666원으로 '88년에 비해 각각 23.5%, 20.5% 올랐다.

이처럼 農村賃料金이 '88년 이후 急上昇勢를 보이게 된 것은 농업노동력이 크게 부족하고 도시노동자의 임금상승에 영향을 받았기 때문으로 여겨진다. 또한 離農이 가속화되는 상황에서 農業勞動力의 부족은 심화될 것이며, 賃料金의 상승으로 인한 農業 收益率은 저하될 것으로 예상된다.

2. 都賣 및 消費者物價

가. 都賣物價

'89년도의 都賣物價는 연말기준으로 '88년보다 1.1% 상승하여 전년의 2.3% 보다는 둔화되었다. 農林水產品價格은 연평균 기준으로 3.4% 상승하였으며 이중 農水産食品은 3.6% 상승한 반면 非食用 農林水產品은 2.8% 하락한 것으로 나타났다.

穀類는 정부의 收買價 인상의 영향을 받아 3.6% 상승하였으며 薯類가 적은 재배면적 확대에 따른 공급증가로 26.8% 떨어졌다. 果實價格도 전반적인 풍작에 힘입어 전년에 비해 크게 떨어졌으며, 菜蔬價格도 작황호조에 의해 하락세를 보인 반면에 特用作物價格은 전년에 비해 큰 폭으로 下落하였다.

<表1-2-30>

都賣物價 上昇率

(單位：%)

	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89
全體	19.6 (26.5)	42.2 (39.0)	0.5 (0.9)	△2.6 (△1.5)	2.7 (0.5)	2.3 (2.7)	1.1 (1.5)
農水産食品	28.2 (41.6)	47.1 (24.5)	2.6 (5.8)	△9.4 (△1.4)	14.8 (△1.1)	11.6 (16.6)	1.0 (3.6)
食料品以外	16.7 (21.6)	41.4 (44.5)	△0.1 (△0.1)	△1.9 (△1.9)	1.4 (1.0)	0.6 (0.7)	0.6 (0.8)

註：年末基準 上昇率, ()內는 年平均 基準

資料：韓國銀行

<表1-2-31>

農産食品 都賣物價 上昇率

(單位：%)

	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89
農産食品	26.9(41.0)	47.1(24.4)	0.9(5.7)	△12.9(△ 3.1)	16.8(△ 2.6)	10.9(17.8)	△ 1.5(1.8)
穀物	22.2(46.2)	47.8(22.5)	7.1(3.8)	3.9(6.1)	6.6(4.5)	8.2(8.1)	3.6(2.8)
서류	17.3(29.3)	51.6(58.3)	△6.1(10.0)	△27.6(△14.6)	86.1(9.1)	18.6(39.6)	△26.8(△ 0.7)
果實	77.1(67.6)	3.8(22.8)	△3.3(53.1)	2.0(△21.8)	18.0(29.9)	△4.5(4.0)	△11.7(5.1)
菜蔬	8.8(46.1)	51.0(11.7)	△0.2(12.0)	△57.6(△12.9)	125.9(△31.6)	△5.4(80.4)	△ 1.2(△11.3)
特用	18.9(22.6)	30.2(40.4)	16.0(8.8)	6.4(8.4)	12.6(12.0)	△7.9(0.0)	17.4(5.8)
藥用	23.1(21.0)	46.2(36.9)	△1.5(2.9)	△26.5(△ 7.2)	35.0(△ 2.4)	△0.5(13.8)	△ 9.3(△ 8.7)
肉類	39.8(22.4)	58.7(24.7)	△5.4(2.0)	△16.4(△ 3.4)	△5.0(△10.9)	46.1(21.5)	△10.1(4.8)
乳卵	15.2(28.2)	48.3(27.7)	△6.2(△ 2.9)	△ 0.5(△ 5.1)	△9.6(△ 3.8)	18.5(△0.7)	11.7(23.4)
其他畜産	49.9(30.7)	0.0(0.0)	△8.7(△10.9)	1.8(△ 1.4)	△3.4(0.2)	0.5(△3.1)	1.2(2.2)

註：年末基準 上昇率. ()內는 年平均 基準
資料：韓國銀行

나. 消費者物價

'89년도 消費者 全體物價는 前年말대비 5.1% 상승하여 前년의 7.2% 상승보다 상승폭이 둔화되었다.

年平均 基準으로 볼때 食料品價格은 6.9%, 食料品以外 價格은 5.2% 상승하였으며, 食료품중 一般米價格은 生産증가에도 불구하고 많은 量의 정부수매로 인해 價格이 상승하였고, 原乳價格 調整으로 인한 牛乳 및 乳 製品 價格과 달걀價格이 상승하였으며 돼지 및 무우, 배추 등은 生産량 증가로 인하여 價格이 하락하였다.

<表1-2-32>

消費者物價 上昇率

(單位：%)

	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89
全體	26.4 (25.3)	32.2 (28.7)	3.1 (2.5)	1.4 (2.8)	6.1 (3.1)	7.2 (7.1)	5.1 (5.7)
食料品	31.5 (31.8)	40.6 (26.7)	3.3 (3.7)	△1.2 (2.4)	11.6 (3.1)	8.8 (10.3)	4.9 (6.9)
食料品以外	21.3 (18.5)	26.3 (30.4)	2.6 (1.6)	3.1 (3.0)	3.0 (3.0)	6.1 (5.2)	5.2 (5.2)

註：年末基準 上昇率. ()內는 年平均 基準
資料：經濟企劃院

<表1-2-33>

農産食品 消費者物價上昇率

(單位: %)

	'80	'85	'86	'87	'88	'89
食料品	40.6(26.7)	3.3(3.7)	△ 1.2(2.4)	11.6(3.1)	8.8(10.3)	4.9(6.9)
穀類	40.3(23.2)	4.5(4.1)	4.1(5.6)	6.8(3.3)	6.8(7.1)	5.0(3.6)
肉類	56.3(27.6)	△5.6(△1.6)	△ 5.8(△3.0)	△8.8(△5.8)	37.4(13.8)	△2.1(13.4)
乳・卵	31.6(22.3)	△2.0(△0.6)	1.2(△0.3)	△3.1(0.2)	8.9(△1.1)	17.2(21.5)
菜蔬・海草	33.2(△0.4)	10.0(△4.3)	△17.7(0.9)	64.9(9.1)	0.8(25.7)	△3.0(3.8)
果實	13.0(17.4)	△5.6(13.0)	5.4(△3.8)	20.5(19.6)	11.4(10.9)	2.9(8.1)
油脂・調味料	61.3(8.4)	1.1(18.5)	△20.4(△8.9)	19.9(△7.5)	△12.1(11.0)	12.2(△9.9)

註: 年末基準 上昇率. ()內는 年平均 基準.
資料: 經濟企劃院

第4節 農業投資

1. 農林水産 資金支援

'89년 農林水産部門에 지원된 總資金規模는 生産基盤 施設擴充, 農村所得源 開發事業等の 중장기 투융자와 營農資金, 低利 融資金支援등 단기성 자금 및 농수축산물 수매자금등의 증가로 '88년보다 25.0% 증가되었다.

지원내용을 살펴보면, 耕地整理, 農地購入資金 貸出, 農村所得源 開發

<表 1-2-34>

農林水産 資金支援

(單位: 億圓)

	計	投資	融 資			收 買 資 金		
			小計	中長期	短期	小計	糧穀	其他
'88	67,471	10,978	30,807	7,861	22,946	25,686	12,809	12,877
'89	84,314	15,181	39,646	8,463	31,183	29,487	14,902	14,585
增減率(%)	25.0	38.3	28.7	7.7	35.9	14.8	16.3	13.3

資料: 農林水産部 企劃管理室

註: 資金은 農林水産部 소관은 물론 農林水産業과 關聯되는 中央部處, 地方自治團體, 政府投資機關 그리고 農·水·畜協등에서 支援된 것까지 包含된 것임.

支援, 排水改善등 농업투융자에 2조 3,644억원이 지원되었으며, 營農 및 營漁資金, 農水產物 出荷調節資金등 융자기간 3년 이내의 단기성자금으로 3조 1,183억원이 지원되었다. 또한 양곡, 고구마, 과채류, 전매작물, 누에 고치, 소, 돼지등의 수매자금으로 2조 9,487억원이 지원되었다.

2. 農業豫算

'89년 農業部門 豫算規模는 一般會計와 財政投融资 特別會計를 합하여 모두 2조 3,822억원으로 '88년대비 29.3% 증액되었는데 이는 국가전체에 산 증가율 23.0%를 상회하는 수준이었다.

'89년의 주요 예산사업을 보면, 농업부문 예산중 가장 큰 비중을 차지

<表 1-2-35>

農業部門 豫算

(單位: 億圓)

	'88			'89		
	一般	財特	計	一般	財特	計
計	7,204	11,216	18,420	10,348	13,474	23,822
I. 事業費	6,585	5,832	12,417	9,701	3,962	13,663
1. 食糧增産・種子供給	75	4	79	96	-	96
2. 農業機械化	134	550	684	232	494	726
3. 農業用水開發	1,874	286	2,160	2,707	-	2,707
4. 生産基盤擴充	1,513	65	1,578	1,900	-	1,900
5. 大單位農業開發	1,035	-	1,035	941	-	941
6. 防潮堤築造	256	13	269	298	-	298
7. 流通改善	70	550	620	166	560	726
8. 農特事業	25	20	45	28	20	48
9. 畜産事業	61	600	661	80	-	80
10. 農業開發	1,031	1,744	2,775	2,653	1,250	3,903
11. 農村所得源開發	499	310	809	588	388	976
12. 農漁村地域綜合開發	12	1,690	1,702	13	1,250	1,263
II. 經常事業費	234	-	234	207	-	207
III. 基本的經費	385	-	385	440	-	440
IV. 綜合財政收支	-	5,384	5,384	-	9,512	9,512

資料: 農林水産部 企劃管理室

하고 있는 耕地整理, 排水改善 및 農業用水開發 등 생산기반 조성에 5,846억원이 책정되어 '88년과 대비할 때 15.9% 증액되었다.

아울러 營農資金支援과 專業農育成, 農漁民後繼者 育成基金 등 農業開發事業 豫算도 '88년보다 47.1% 늘어난 3,903억원으로 확대 지원되었으며 流通改善 事業豫算도 '88년보다 17.1% 늘어난 726억원이 지원되었다.

第5節 農村生活水準

농가의 生活文化用品 保有現況을 보면, 농가 100호당 칼라 TV 83대, 冷蔵庫 96대 수준으로 대부분의 농가에서 TV, 냉장고 등을 보유하고 있는 것으로 나타났으며 所得水準의 향상과 함께 農村勞動力 不足으로 인해 農村主婦들의 가사일 부담을 덜어 줄 수 있는 냉장고, 세탁기 및 가스렌지등의 보급율도 최근 빠른 속도로 증가되고 있다.

所得 增加와 함께 농가에서의 文化用品 구매 증가는 內需市場 擴大에 의존한 '89년의 경제성장에도 기여를 하였다.

<表 1-2-36>

農家文化用品 保有現況

(單位: 100戶當 量)

			'84	'85	'86	'87	'88	'89	
칼	라	TV	20.3	28.5	38.9	50.6	69.7	83.5	
黑	白	TV	95.1	91.5	85.3	78.9	58.1	49.3	
電		蓄	15.2	16.6	18.2	21.2	17.4	20.8	
扇	風	機	103.2	108.9	113.3	117.0	125.7	129.5	
冷	藏	庫	44.0	57.7	69.6	79.9	91.9	96.5	
電		話	41.9	51.3	61.9	74.9	89.1	95.0	
洗	濯	機	4.3	6.5	10.0	13.1	17.9	26.7	
카	메	라	9.4	9.8	11.3	12.6	17.6	21.0	
오	토	바	이	12.3	14.0	15.6	17.9	22.9	25.3
가	스	렌	지	未調査	未調査	41.4	61.7	83.9	91.1
新		聞		21.0	22.6	23.3	24.6	29.1	29.8

資料: 農林水産部 農水産統計管室

第3章 農産物 需給動向

第1節 農産物需要變化와 農政

1. 營養供給

'88년 國民 1人 1日當 公 급 에 너 지 는 2,814Kcal로 서 전 년 의 2,820Kcal와 비 수 한 수 준 인 것 으 로 나 타 났 다. 穀 類 로 부 터 공 급 되 는 에 너 지 는 '87년 에 비 해 8Kcal 감 소 되 었 지 만 전 체 열 량 증 차 지 하 는 비 율 은 64%로 절 대 적 인 비 중 을 차 지 하 고 있 다. 이 중 쌀 과 보 리 로 부 터 의 에 너 지 공 급 량 은 '87년 에

<表1-3-1>

1人 1日當 供給 에너지

(單位: Kcal)

	'70	'75	'80	'85	'86	'87	'88
穀 類	1,818	1,801	1,730	1,798	1,804	1,796	1,788
쌀	1,215	1,116	1,234	1,245	1,246	1,262	1,234
밀	243	292	284	307	302	316	325
보리	335	361	129	85	70	49	41
기타	25	32	83	161	186	170	187
薯 類	180	129	65	30	37	34	27
雪 糖 類	68	57	112	124	137	162	165
豆 類	85	90	103	115	113	109	113
堅 果 類	0	0	2	4	4	3	3
種 實 類	1	13	7	7	7	8	11
菜 蔬 類	53	57	119	87	98	107	105
果 實 類	14	19	22	32	32	31	35
肉 類	49	50	91	100	101	117	125
鷄 卵 類	14	17	26	28	31	34	37
牛 乳 類	3	6	23	40	44	57	66
魚 貝 類	40	66	61	92	101	93	78
海 藻 類	10	15	2	5	8	5	6
油 脂 類	33	66	123	227	230	255	255
計	2,370	2,390	2,485	2,687	2,746	2,811	2,814

資料: 韓國農村經濟研究院

비해 36Kcal나 감소된 반면 밀가루로 부터의 에너지공급은 9Kcal가 증가된 325Kcal를 기록해 穀類中에서 밀가루 비중이 점차 늘어나고 있는데 이는 식품소비패턴이 西歐化되고 있음을 나타낸다.

또한 소득증대에 따라 肉類, 牛乳등 소득증가에 민감한 高級食品등이 에너지 공급원으로서의 비중이 높아지고 있어 肉類와 牛乳로부터의 에너지공급량은 각각 125Kcal와 66Kcal로서 '87년에 비해 7%, 16%씩 늘어났다.

반면에 魚貝類로 부터의 에너지공급은 '87년에 비해 14Kcal가 감소된 84Kcal로서 전체 공급에너지중 3%를 점유하였다. 한편 에너지 供給源을 動・植物性으로 구별해 보면 動物性食品이 에너지공급량이 늘어남에도 불구하고 植物性食品으로 부터의 에너지는 2,477Kcal로서 전체 에너지공급량의 88%에 해당되어 아직도 동물성식품 섭취가 부족한 것으로 나타났다.

2. 需要變化와 農政

'88년 年間 國民1人當 穀類 總供給量은 184.9kg으로 전년보다 0.5kg이 감소돼 전반적으로 穀類攝取量이 他食品쪽으로 옮겨가고 있음을 뚜렷이 보여주고 있다. 쌀소비량은 1인당 연간 126.9kg으로 전년에 비해 2.95kg이나 감소됐는데 '85년 이후 완만한 감소추세가 '88년 들어 가속화되고 있는 것으로 나타났다. 보리의 경우는 1인당 4.5kg이 소비되어 전년보다 0.4kg이 감소된 반면 밀소비량은 33.9kg으로 '87년에 비해 1.01kg이 증가되어 곡물소비추세의 변화를 뚜렷이 나타냈다.

薯類중 감자와 고구마의 1인당 소비량은 각각 6.1kg, 4.9kg으로서 소득증가와 함께 劣等財로 취급되면서 급속히 감소되고 있는 반면 식품의 西歐化, 高級化趨勢에 따라 설탕류소비가 꾸준히 증가세를 보이고 있다.

動物性食品의 경우는 쇠고기소비량이 의외로 연간 1인당 3.37kg으로 '87년에 비해 약간 감소하였지만 돼지고기, 닭고기, 육류부산물은 각각

<表1-3-2>

1人 1年當 食品供給量(純食品基準)

(單位: kg)

		'70	'75	'80	'85	'86	'87	'88
穀	類	194.9	193.0	185.0	185.4	186.1	185.4	184.9
	쌀	130.4	119.8	132.9	128.0	128.2	129.8	126.9
	밀	25.1	30.1	29.4	32.0	31.5	32.9	33.9
	보리	36.8	39.7	14.1	8.4	7.0	4.9	4.5
	其他	2.6	3.4	8.7	16.6	19.2	17.8	19.6
薯	類	56.0	35.0	21.5	11.8	15.1	13.6	11.0
雪	糖類	6.2	5.2	10.3	11.7	13.0	15.3	15.6
豆	類	7.4	8.3	9.7	10.7	10.4	10.0	10.4
堅	果類	0.1	0.2	0.4	0.8	0.8	0.6	0.7
種	實類	0.1	1.3	0.4	0.5	0.5	0.6	0.8
菜	蔬類	59.9	62.5	120.6	98.6	114.6	112.2	117.3
果	實類	10.0	14.0	16.2	26.6	26.3	26.3	29.5
肉	類	8.3	9.3	13.9	16.5	17.2	19.1	20.6
鷄	卵類	3.2	4.0	5.9	6.2	6.9	7.5	8.2
牛	乳類	1.8	4.4	10.8	23.1	26.2	26.9	34.4
魚	貝類	14.7	24.6	22.5	30.7	32.7	32.5	26.4
海	藻類	2.6	5.3	4.5	6.5	9.2	6.4	7.2
油	脂類	1.5	2.7	5.0	9.2	9.4	10.4	10.3

資料: 韓國農村經濟研究院

10.13kg, 3.55kg, 3.36kg으로 '87년에 비해 증가되었다. 또한 鷄卵類, 牛乳類, 海藻類의 소비량이 꾸준히 늘어난 반면 魚貝類의 소비가 감소되었다.

이러한 식품소비패턴의 변화는 향후 農政樹立에 시사하는 바가 크다 하겠다. 지난날 만성적인 食糧不足狀態에서 정부의 적극적인 증산정책으로 인하여 쌀의 생산은 획기적으로 늘었지만 최근 食生活習慣이 변화하면서 쌀의 소비량은 '80년 이후 꾸준히 줄고 있다. 또한 소득의 증가에 따라 高級米의 選好度가 높아 품종간의 需給不均衡現狀이 초래되었다. 이러한 변화에 부응하기 위해서는 高級米의 생산이 제고되어야 하며 쌀 加工產業의 育成開發로 低級米의 소비확대정책이 요구된다 하겠다.

생활수준이 향상되면서 肉類消費量도 꾸준히 증가세에 있을 뿐만 아니라 앞으로 더욱 늘어날 것으로 예견되는바 소, 돼지의 飼育基盤을 확대하

여 新鮮・加工肉 需要增加에 대비하여야 되겠다.

또한 '88년까지의 추세를 보면, 牛乳類의 소비도 꾸준히 늘어나는 추세에 있으며 그 증가속도가 가속화 되고 있다. 앞으로도 소득이 증가되고, 食生活習慣이 西歐化 되면서 乳製品의 소비는 계속 늘어날 것으로 전망되는 바 점진적인 原乳加工能力의 향상이 요구되며, 乳加工産業의 지원이 필요하다.

第2節 農畜產物 需給動向

1. 糧穀需給

가. 全體糧穀 需給

우리나라 國民 1人當 食糧 消費量의 變化 推移를 보면 60년대부터 70년대초까지 증가추세를 보이다가 그후 매년 감소추세를 보여왔다. 쌀의 경우도 대체적으로 보아 80년을 기점으로 원만한 감소 추세를 나타내고 있다.

'89년 國民 1人當 年間 食糧 消費量은 '88년보다 1.9kg이 감소된 172.0kg으로 추계되었으며, 주요 곡종별로는 쌀이 '88년의 122.2kg에서 89년에

<表1-3-3>

1人當 年間 食糧消費量

(單位: kg)

	全體	쌀	보리쌀	밀가루	옥수수	콩	其他	自給率 (%)	飼料用 除外 (%)
'70	219.4	136.4	37.3	26.1	1.1	5.3	13.2	80.5	86.2
'75	207.3	123.6	36.3	29.5	2.4	6.4	9.1	73.0	79.1
'80	195.5	132.7	13.9	29.4	3.1	8.0	8.4	56.0	69.6
'85	181.7	128.1	4.6	32.1	3.1	9.3	4.5	48.4	71.6
'87	177.4	126.2	2.7	32.9	2.9	7.9	4.8	41.0	66.5
'88	173.9	122.2	2.0	33.9	3.1	8.3	4.4	39.4	64.9
'89(暫定)	172.0	121.4	1.8	32.2	3.7	8.7	4.2	42.9	69.9

資料: 農林水産部 糧政局

는 121.4kg으로, 보리쌀이 2.0kg에서 1.8kg으로 감소된 반면 밀과 옥수수
의 소비는 '80년대 후반부터 늘어나고 있어 食糧消費趨勢에 변화가 있는
것으로 나타났다.

糧穀年度別 全體糧穀 需給動向을 보면 供給에 있어서는 生産量과 前年
度 移越量이 증가추세를 보여 총공급량중 수입량이 차지하는 비중이 '88
년의 53.6%에서 48.2%로 떨어졌으며, 需要의 경우는 食糧用과 加工用을
포함한 食用消費量이 '80년 이후 1천만톤 수준을 유지하고 있으나 꾸준
한 增加趨勢에 있던 飼料穀物의 사용량이 '89년에는 '88년보다 120천톤
감소하였다.

이에 따라 '89 糧穀年度의 全體糧穀 自給도는 쌀과 보리쌀이 생산 측면
에서 풍작을 이룬 반면 소비량은 줄어들었고 飼料穀物의 需要減少로 인
하여 前年度 보다 3.5% 포인트 높아진 42.9%를 기록하였다.

<表 1-3-4>

糧穀年度別 全體糧穀需給

(單位:千톤)

	'70	'75	'80	'85	'87	'88	'89(推定)
(供給)							
前年移越	1,456	1,951	2,676	2,509	2,158	2,559	2,948
生産	7,097	7,295	7,048	7,102	6,813	6,722	7,287
輸入	2,115	3,012	5,051	7,336	10,212	10,714	9,536
(飼料用)	(-)	(414)	(2,253)	(4,423)	(6,643)	(6,917)	(6,085)
計	10,668	12,258	14,775	16,947	19,183	19,995	19,771
(需要)							
當年消費	8,820	9,996	12,596	14,667	16,624	17,047	16,990
(飼料用)	(584)	(779)	(2,472)	(4,746)	(6,373)	(6,690)	(6,570)
輸出	5	-	-	-	-	-	-
次年移越	1,843	2,262	2,179	2,280	2,559	2,948	2,781

資料: 農林水産部 糧政局

한편 최근 3년간의 쌀 소비동향을 보면 食생활의 변화 추세에 따라 1
人當 年間 소비량은 감소되어 인구의 증가에도 불구하고 '87년부터 전체
소비량이 감소 추세를 나타내고 있다.

'89糧穀年度 全體糧穀需給에 있어서 供給量은 전년도에서 이월된 2,948천톤과 생산량 7,287천톤 및 수입량 9,536천톤등 모두 19,771천톤으로 전년도보다 224천톤이 감소된 것으로 暫定推計되는데, 이것은 수입량이 크게 감소했기 때문이다.

또 全體需要量은 16,990천톤으로서, 이중 식량으로 6,573천톤 사료용으로 6,570천톤이 소비되었으며, 나머지 3,847천톤은 加工用, 種子用, 減耗 등이었다. 이에 따라 次年 移越量은 쌀 1,572천톤을 비롯하여 총 2,781천톤이었는데, 이는 전년도보다 167천톤이 감소한 수준이다.

<表 1-3-5>

'89 糧穀年度의 全體糧穀需給

(單位:千톤)

		계	쌀	보리쌀	밀	옥수수	콩	서류	기타
供 給	前年移越	2,948	1,121	174	546	921	167	-	19
	生産	7,287	6,053	516	1	106	239	295	77
	輸入	9,536	-	48	2,292	5,528	932	7	729
	計	19,771	7,174	738	2,839	6,555	1,338	302	825
需 要	食糧	6,573	5,145	75	1,053	53	102	108	37
	飼料	6,570	-	18	525	4,487	830	29	681
	其他	3,847	457	434	1,024	1,427	300	165	40
	計	16,990	5,602	527	2,602	5,967	1,232	302	758
次年移越		2,781	1,572	211	237	588	106	-	67

資料: 農林水産部 糧政局

나. 政府管理糧穀 需給

'89 양곡년도의 政府管理糧穀 需給實績을 보면 공급량은 전년이월량 1,175천톤과 구매량 1,071천톤을 합한 총 2,246천톤으로서 전년도의 2,101천톤보다 145천톤이 증가 되었으며, 수요량은 전년도의 926천톤보다 61천톤이 감소되어 차년이월량은 206천톤이 증가되었다.

需要量을 穀種別로 분류하면, 쌀은 전년도의 828천톤에서 89년도에는 765천톤으로 63천톤이 줄었으며, 보리쌀의 경우는 전년도의 98천톤에서 '89년도에는 100천톤으로 약간 증가 하였다. 이 결과 '89糧穀年度末 政府管理糧穀의 在庫量은 쌀과 보리쌀이 각각 1,263천톤, 118

<表 1-3-6>

政府管理糧穀 需給

(單位:千噸)

		'88			'89		
		쌀	보리쌀	計	쌀	보리쌀	計
供給	移 越	1,101	95	1,196	1,061	114	1,175
	收 買	788	117	905	967	104	1,071
	計	1,889	212	2,101	2,028	218	2,246
需 要	軍 官 需	215	34	249	209	33	242
	穀 價 調 節 用	490	51	541	440	55	495
	貸 與, 交 換 用	78	-	78	6	-	6
	加 工 食 品 用	-	-	-	27	-	27
	種 子, 其 他	45	13	58	83	12	95
	計	828	98	926	765	100	865
次 年 移 越		1,061	114	1,175	1,263	118	1,381

資料: 農林水産部 糧政局

천톤으로서 88양곡년도말 재고량보다 17.5% 증가하여 정부의 재고량 관리에 부담이 가중되고 있다.

2. 畜産物 및 飼料需給

가. 畜産物 需給

'89년 肉類 消費量은 국민소득이 향상되고 식생활이 西歐化되면서 '88년보다 7.5% 정도 증가한 769.9천톤이었다. 이중 쇠고기 소비량은 지난해 보다 1.3% 증가한 143.3천톤이었고, 돼지고기 소비량은 10.9% 늘어난 471.7천톤이었으며, 닭고기 소비량은 154.9천톤으로 전년보다 4.0% 늘어났다.

그러나 우유는 1,641.5천톤이 소비되어 지난해와 비교해 0.7%의 소비감소율을 나타냈는데 이는 우유가격의 상승과 소위 「이상구 신드롬」이 복합적으로 작용하였기 때문이며 계란소비량은 380.5천톤 전년에 비해 4.2% 감소한 것으로 나타났다.

이 같은 畜産物 消費量을 국민 1인당 소비량으로 환산해 보면 '89년

의 총 육류 소비량은 지난해 보다 7.1% 늘어난 18.2kg이었다. 이중 쇠고기 소비량은 국내 소사육두수의 감소로 소 및 쇠고기 가격이 상승되어 지난해와 같은 3.4kg에 머물렀고 돼지고기소비는 9.9% 증가된 11.1kg으로 나타났으며, 닭고기소비는 패스트푸드店の 호황으로 5.7% 증가하였다.

그리고 鷄卵은 産卵鷄 사육두수 감소에 따른 가격상승으로 5.3% 감소되어 국민1인당 9.0kg(164개), 우유는 원유가격 인상에 따른 乳製品 價格 인상등의 영향으로 2.5% 감소되어 국민 1인당 연간 38.7kg을 소비한 것으로 나타났다.

<表 1-3-7>

畜産物 消費量

(單位：千噸, %)

		'80	'85	'87	'88(A)	'89(B)	增減(B/A)
肉類	計	432.7	592.8	665.7	715.9	769.9	7.5
	쇠고기	100.0	120.3	151.9	141.5	143.3	1.3
	돼지고기	241.8	346.3	373.1	425.4	471.7	10.9
	닭고기	90.9	126.2	140.7	149.0	154.9	4.0
牛	乳	411.8	990.5	1,424.8	1,652.3	1,641.5	△0.7
鷄	卵	249.9	296.6	361.5	397.1	380.5	△4.2
(百 萬 個)		(4,543)	(5,390)	(6,573)	(7,220)	(6,919)	

資料：農林水産部 畜産局

한편 '89년의 畜産物 總供給量은 2,926.8천톤이었는데, 이중 2,792.0천톤이 소비되고 나머지 134.8천톤은 차년도로 이월되었다.

移越量 134.8천톤중 우유가 120.3천톤으로서 89%를 차지하여 우유의 심각한 수급불균형 현상을 반영하고 있으며 쇠고기, 돼지고기 이월량은 각각 1.2천톤, 13.3천톤이었다.

쇠고기 수급을 보면 국내공급이 90천톤으로 국내 쇠고기 수요에 미치지 못해 부족분 50천톤이 輸入肉으로 공급되었다.

<表 1-3-8>

1人當 年間 畜產物 消費量

(單位: kg, %)

		'80	'85	'87	'88(A)	'89(B)	增減(B/A)
肉類	計	11.3	14.4	15.7	17.0	18.2	7.1
	쇠고기	2.6	2.9	3.6	3.4	3.4	-
	돼지고기	6.3	8.4	8.8	10.1	11.1	9.9
	닭고기	2.4	3.1	3.3	3.5	3.7	5.7
牛	乳	10.8	23.3	34.3	39.4	38.7	△2.5
鷄	卵	6.5 (118개)	7.2 (133)	8.6 (156)	9.5 (172)	9.0 (164)	△5.3

資料: 農林水産部 畜産局

<表 1-3-9>

'89年 畜產物 需給實績

(單位: 千噸, %)

	供			給		消費	次年移越
	移越	生産	輸入	小計			
計	4.5	2,872.3	50.0	2,926.8	2,792.0	134.8	
肉類	4.5	730	50	784.5	770	145	
쇠고기	4.5	90	50	144.5	143.3	1.2	
돼지고기	-	485.1	-	485.1	471.8	13.3	
닭고기	-	154.9	-	154.9	154.9	-	
牛	-	1,761.8	-	1,761.8	1,641.5	120.3	
鷄	-	380.5	-	380.5	380.5	-	

資料: 農林水産部 畜産局

나. 飼料需給

'89년 養畜用 飼料의 총공급량은 '88년보다 4.1% 증가한 16,927천톤 수준으로 축산업의 호황을 반영하고 있으며, 이중 配合飼料는 전년보다 6.8% 늘어났고, 改良牧草도 1.0% 증가되었다. 그런데 지난 10여년간을 보면, 粗飼料 공급량보다 濃厚飼料 공급량은 크게 늘어나고 있는데 이는 草食家畜인 소보다 돼지, 닭의 飼育頭數가 크게 늘어났기 때문이다.

한편 배합사료의 용도별 생산량은 전년보다 養豚用이 13%, 肥肉牛

用이 13.7% 늘어난 반면, 養鷄用은 0.8%, 酪農用이 3.0% 감소되었다.

이와 같이 배합사료 생산이 늘어난 것은 家畜 飼育頭數의 증가와 飼育形態의 企業化등으로 수요가 늘어나고 축산물의 早期 出荷를 목적으로 한 대량공급등으로 사용량이 늘어났으며 특히, 국민식생활 습관의 변화에 따른 養魚用 등 기타 사료수요가 급증하였기 때문이다.

配合飼料 使用量이 증가됨에 따라 배합사료 제조에 필요한 原料穀 수입량은 필연적으로 증가하게 되며 또한 海外穀物市場의 변동에 국내 축산업계는 크게 영향을 받게 되었다. 濃厚飼料 공급량중 농가자급사료 비중이 '80년의 18%에서 '89년에는 6%로 낮아져 國際穀物市場에

<表 1-3-10>

飼料 供給量

(單位：千噸)

	'75	'80	'85	'87	'88(A)	'89(B)	증감(B/A)
合 計	5,021	7,559	13,234	15,873	16,262	16,927	4.1%
濃 厚 飼 料	1,451	3,994	7,306	9,808	10,494	11,114	5.9
配 合 飼 料	901	3,462	6,451	9,018	9,826	10,498	6.8
農家自給飼料	550	532	855	790	668	616	△7.8
粗 飼 料	3,570	3,565	5,928	6,065	5,768	5,813	0.8
改 良 牧 草	404	781	1,974	2,939	3,133	3,163	1.0
山野草, 芻藁等	3,166	2,784	3,954	3,126	2,635	2,650	0.6

資料：農林水産部 畜産局

<表 1-3-11>

配合飼料 用度別 生産量

(單位：千噸)

	'75	'80	'85	'87	'88(A)	'89(B)	增減(B/A)
合 計	901	3,462	6,451	9,018	9,826	10,498	6.8%
養 鷄 用	569	1,872	2,310	2,933	2,947	2,923	△0.8
養 豚 用	136	769	1,924	2,953	3,604	4,072	13.0
酪 農 用	151	514	994	1,404	1,608	1,561	△3.0
肥 肉 牛 用	33	306	1,209	1,674	1,512	1,719	13.7
其 他	12	1	14	54	155	223	43.9

資料：農林水産部 畜産局

서의 곡물가격이 급등할 경우 가격인상을 흡수할 수 있는 國內的 基盤이 약해지게 되었다.

3. 園藝 및 特用作物需給

가. 菜蔬類 需給動向

'89년의 菜蔬類 생산량은 재배면적 감소에도 불구하고, 기상조건 호조 및 재배기술 발달등으로 전년보다 9%정도 증가되었으며, 김장무, 배추 등 일부품목을 제외하고는 수급이 비교적 안정된 해여서 1인당 채소류 소비량도 '88년보다 10.3kg이 많은 125.4kg으로 추정된다.

고추의 경우 '88년도에 파동을 겪었던 경험과 정부의 流通豫告 등 가격안정을 위한 재배면적 15% 감축시책으로 재배면적이 26% 감소되고 7월말 集中豪雨등으로 생산량이 29% 감소되어 한때 가격폭등이 우려되기도 했으나 '88년산 정부수매분과 민간 재고등이 포함된 44천톤이 '89년으로 이월공급됨에 따라 물량공급이 원활하여 수급안정을 기할 수 있었다.

김장무, 배추는 생육기간중의 충분한 降雨와 寒波가 없는 등 氣象與件 好調로 後期 生育이 크게 호전됨에 따라 생산량은 증가된 반면, 아파트 단지등의 김장소비량 감소등으로 한때 가격이 하락되어 어려움이 있었으나, 김장상황실 운영, 농협 수송차량 지원, 농가에 대한 出荷調節資金 支援등 價格安定對策을 적극 추진한 결과 큰 문제점은 없었다.

또한 新鮮菜蔬類의 원활한 공급을 위하여 43억원을 지원, 174ha의 노후화된 목죽재 비닐하우스를 標準化 施設로 대체하였으며, 盛出荷期 마늘, 양파 乾架施設에 3억원을 지원하여 貯藏性이 약한 농산물은 端境期에 판매할 수 있도록 하였고, 育採種施設에 5억원을 융자하는 등 채소류의 생산기반 조성에 총 52억원을 지원하였다.

<表 1-3-12>

菜蔬類 需給實績

(單位:千噸)

		'80	'85	'86	'87	'88	'89
需 要	計	7,487.1	7,554.8	8,497.9	7,224.8	7,651.2	8,319.2
	內 需	7,462.5	7,545.4	8,482.3	7,205.7	7,633.7	8,306.9
	輸 出	24.6	9.4	15.6	19.1	17.5	12.3
供 給	計	7,487.1	7,554.8	8,497.9	7,224.8	7,651.2	8,319.2
	生 產	7,481.0	7,542.7	8,496.4	7,224.1	7,648.9	8,314.1
	輸 入	6.1	12.1	1.5	0.7	2.3	5.1
1人當消費量(kg)		120.6	98.6	114.6	109.9	115.1	125.4

資料: 農林水產部 農產物流通局

나. 果實類 需給動向

'89년 果實 生産量은 순조로운 기후조건으로 '88년 대비 23% 증산된 총 2,108천톤이 생산되었으며, 특히 감귤은 해거리現象 및 幼木이 漸次 成果期에 달하여 '88년보다 80% 증산되어 대풍을 이룬 결과 가격하락으로 큰 어려움을 겪었고, 사과, 배, 단감 등도 작황이 양호하였

<表 1-3-13>

果實類 需給

(單位:千噸)

		'80	'85	'87	'88	'89
供 給	生 產	833.1	1,463.8	1,582.9	1,713.7	2,108.3
需 要	內 需	830.6	1,454.8	1,556.7	1,698.6	2,091.4
	輸 出	2.5	9.0	26.2	15.1	16.9
1人當消費量(kg)		21.8	35.5	37.0	39.9	49.7

註: 1人當 消費量은 粗食基準임

資料: 農林水產部 農產物流通局

다.

果實 消費量은 계속 증가추세에 있는데 '89년도 1인당 과실소비량은 '88년의 40kg보다 23% 증가한 49.2kg으로 나타났으며, 소득수준의 증가에 따라 과실소비량은 계속 늘어날 전망이다.

사과, 배를 중심으로 한 果實輸出도 '88년보다 약간 증가하였으나 '87년의 수출량에 비하면 낮은 수준이다. 이것은 우리나라 과실의 주요 수출대상국인 自由中國이 '88년부터 자국의 농가보호를 이유로 사과수입을 쿼터제로 바꿔 수입량을 크게 감축하였기 때문이다.

다. 特用作物 需給動向

'89년도 참깨의 생산량은 前年度 收穫期 產地價格 下落으로 栽培面積이 줄어들고 생산시기에 기상조건도 불리하여 전년대비 28% 감소한 39.7천톤으로 생산이 부진하여 수입으로 수요를 충족하게 되었다. 땅콩은 전년보다 생산이 다소 많은 28.7천톤으로 수급안정을 기할 수 있다.

<表 1-3-14>

特用作物 需給實績

(單位：千噸)

		참				콩			
		'86	'87	'88	'89	'86	'87	'88	'89
수 요	計	56.5	55.8	55.9	55.9	22.5	33.3	33.6	33.8
	當年消費	52.0	52.3	52.4	52.4	21.4	28.3	28.5	28.8
	次年移越	4.5	3.5	3.5	3.5	1.1	5.0	5.1	5.0
供 給	計	56.5	55.8	55.9	55.9	22.5	33.3	33.6	33.8
	前年移越	0.3	4.5	3.5	3.5	1.0	1.1	5.0	5.1
	生産	48.2	43.3	52.4	39.7	20.2	32.2	28.5	28.7
	輸入	8.0	8.0	-	12.7	1.3	-	-	-

資料：農林水産部 農産局

第4章 '89年度에 推進한 主要農政

第1節 '89年度 農政의 展開

'89년도 농정을 둘러싼 與件變化는 과거 어느 시점보다 복잡하였다. 즉 '60년대 自給自足的 생계농업을 벗어나 '70년대부터 商業農時代가 전개된 후, 그 기반이 미처 정착되기도 전에 농수산물 수입자유화로 대표되는 국제화의 물결이 밀어 닥침에 따라 농어업의 장래에 대한 불안감이 가중되고 있다. 또한 산업화과정에서 심화되어온 都·農間 不均衡은 해소되지 못한 채 오히려 심화되어 농어촌의 상대적인 빈곤감이 가중되고 생활환경이 낙후되어 농어촌경제의 活力이 저하 되었으며 사회전반적인 민주화 추세에 편승하여 농어민요구의 集團化 政治化 경향은 농정에도 지대한 영향을 끼쳤다.

이러한 변화에 의해 '89년도 농업정책은 새로운 방향제시가 요구되었다. 즉 현재와 같은 영농규모의 零細性으로 인한 농업구조의 취약성 문제를 해결하지 못하면 장차 加速化될 농업의 國際化時代에 효율적으로 대처해 나가기 어렵다는 인식하에 '89. 4. 28일 발표된 農漁村發展綜合對策을 통하여 농업의 構造改善事業을 본격적으로 추진하기로 하였다. 또한 同月에는 開放化時代에 대비하고 교역상대국과의 通商摩擦을 완화하기 위하여 農水產物 輸入自由化 豫示計劃 및 그 보완대책을 추진하게 되었다.

이와 동시에 농가경제의 당면한 어려움을 해결하기 위해 농어촌 부채 경감을 위한 특별조치를 취하게 되었으며 농정 각 분야에 있어서의 민주화도 착실히 추진하였다.

第2節 農漁村發展綜合對策 推進

1. 推進背景

우리경제가 이룩한 고도성장 과정에서 部門間・階層間 不均衡이 심화되었으며, 농업의 경우 그 과정에서 확대되어온 都・農間 相對的인 소득 격차 해소의 필요성이 요구되는데다 최근의 농수산물 輸入開放化에 효율적으로 대처하기 위해 농업정책의 새로운 방향전환이 절실하게 되었다. 또한 '86년 이후 추진해온 農漁村 綜合對策등 일련의 대책들은 당면문제 해결에 치중하였던 바 이를 보완하고 農漁村 長期發展方案의 수립필요성이 제기되어 '89년 4월28일 「農漁村發展 綜合對策」을 발표하게 되었다.

同對策은 농어촌문제 해결에 있어 종래의 對症療法的이고 단편적인 접근에서 탈피하여 구조적이고 본질적인 접근으로 전환하는 본격적인 農水産業 構造改善 정책임을 특징으로 하고 있다.

2. 主要內容

농어촌에서의 근본문제인 農漁家所得 増大의 限界, 規模의 零細性, 競爭力의 低位 등을 해결하기 위한 구조적이고 본질적인 해결방안을 모색하고 있는 동대책의 주요내용을 간추려 보면,

첫째, 農漁村振興公社, 農地管理基金 및 農漁村發展基金을 신설하여 영농규모를 확대하고 專業農을 육성함으로써 농수산업의 生産性向上과 國際競爭力을 제고하고,

둘째, 품목특성에 맞는 價格安定施策을 시행함으로써 안정적인 소득을 보장하며 농수산물 가공산업의 적극적인 육성과 농어민 및 생산자단체의 農水産物加工産業에의 참여를 지원하는 동시에 과실, 화훼류등 수출가능 품목을 집중개발 지원하며,

셋째, 農工團地造成과 함께 農漁村特産團地, 農漁村休養地 開發 등

다양한 농외소득원 개발을 위한 지원을 강화하고 개발절차를 대폭 簡素化하며 농공단지에 대한 농어민의 취업지원을 제도화하는 한편,

넷째, 농어촌지역을 종합적으로 개발하여 영농과 일상생활에 있어서의 불편을 해소하기 위해 면단위 중심의 農漁村定住生活圈 開發을 추진함과 동시에, 농지의 효율적 관리를 위하여 종래의 絶對・相對農地制度를 農業振興地域과 農業保護區域으로 바꾸는 등 제도개선을 도모하며,

다섯째, 이러한 종합대책은 중장기계획으로서 그 효과가 나타나는데는 상당한 시일이 소요되므로, 당면한 농어민의 어려움을 덜어주기 위하여 부채경감 및 농어촌자녀 학자금면제 확대등 農漁民負擔輕減 對策을 함께 추진하기로 하였다.

이러한 시책내용을 원활히 추진하기 위해 農漁村發展特別措置法, 農漁村振興公社 및 農地管理基金法 등 2개 법률은 '90. 4월에, 그리고 同法施行令은 '90. 8월에 제정 공포하였다. 아울러 農林水産部 行政組織을 농업구조개선과 국제화의 여건에 맞도록 農業政策局을 農業構造政策局으로 개편하고, 農業協力通商官室을 신설하였다. 또한 농업구조개선 업무를 전담할 기구로써 農漁村振興公社를 '90. 7월중 설립하는 등 사업추진을 위한 법적, 제도적 뒷받침이 거의 마련됨으로써 '90년 하반기부터 주요사업들이 본격적으로 추진되게 되었다.

第3節 農水産物 輸入自由化豫示와 補完對策

1. 推進背景

우리나라는 올림픽의 성공적인 개최와 함께 무역규모가 확대되고 흑자규모가 증가하는 등 경제가 비약적으로 발전하는 가운데 우리상품의 주요 輸出對象國인 미국·캐나다·EC 등으로 부터 농산물 및 서비스산업 등의 開放 壓力을 받게 되었으며 해외시장의 효과적인 관리를 위해 農水

產物 輸入開放 요구를 외면할 수 만은 없는 실정이다.

GATT우루과이라운드협상을 통해 농수산물의 貿易自由化가 주요쟁점으로 제기되어 각국의 비관세적인 수입제한조치의 철폐문제가 본격적으로 논의되었고, 우리나라는 '89. 10월 GATT 國際收支條項(제18조 B항)으로부터 졸업하여 더이상 國際收支赤字를 이유로한 輸入制限을 할 수 없게 되었다.

다행히 우리나라의 수입개방 노력이 인정되어 '97년까지 8개년간의 유예기간을 확보하여 '91년 3월과 '94년 3월에 자유화할 품목을 豫示하기로 하였다.

韓·美間의 통상관계에 있어서도 미국은 누적되어가는 財政赤字와 貿易收支赤字의 해소를 위해 수퍼301조를 통해 農產物·附加價値·通信서비스·知的所有權·其他서비스部門의 市場開放壓力을 가하고 있다.

<表 1-4-1>

韓國의 貿易規模 및 經常收支 推移

(單位: 億 \$)

	'70	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89
貿易規模	28	124	398	614	663	883	1,125	1,239
輸出	8	51	175	303	347	473	607	624
輸入	20	73	223	311	316	410	518	615
經常收支	△6	△19	△53	△9	46	99	142	51

註: 貿易規模는 通關基準, 經常收支는 國際收支 基準임.

資料: 韓國銀行

2. '89~'91年중 輸入自由化品目 豫示

國內外 通商與件上 수입자유화가 불가피한 상황에서 정부는 '89. 4. 8일 國際統一商品分類基準 243개 농축수산물의 '89~'91년 기간중 년도별 수입자유화 일정을 예시하였다. 수입자유화 계획을 수립함에 있어서 우리 농어촌 및 농어민의 어려움을 감안하여 피해를 최소화하기 위해서 품목 선정에 신중을 기했다.

선정된 품목은 파파야, 망고등 國內生産基盤이 없거나 미미하여 농가에 영향이 적은 품목, 대두박, 배합사료 등 국내공급이 부족한 농산자재로서 經營費節減에 필요한 품목, 신선딸기, 돼지고기 등 경쟁이 가능하거나 교역이 부적합하여 수입이 어려운 품목, 소세지, 계살, 통조림 등 농가에 영향이 적고 국민식생활 향상에 부응하는 품목, 연어, 검정대구, 참치 등 연근해 생산어종과 경쟁이 적거나 경쟁가능한 품목 등이다.

이를 類型別로 살펴보면, 穀類 19개, 果實類 20개, 畜産物 24개, 加工食品 64개, 水産物 95개, 飼料 10개, 其他 11개 품목으로써, 243개 품목을 통상지칭하는 실품목기준으로 하면 142개 품목이 되고, 이 가운데서 40개 품목은 국내에서 생산되지 않는 품목이다.

농업소득에서 중요한 비중을 차지하고 있는 쌀, 보리, 콩, 옥수수, 쇠고기, 사과, 배, 감귤, 및 고추, 마늘, 양파 등은 이번 예시계획에서 제외하였다.

이 계획에 의하면 '91년까지 농수산물 輸入自由化率은 84.9% 된다.

<表 1-4-2> 年度別 輸入自由化 豫示品目 選定基準別 品目數

	'89	'90	'91	計
國內生産이 微微하여 農家所得에 影響이 적은 品目	25	15	22	62
國內供給이 不足한 資材로서 經營費節減에 필요한 品目	5	5	1	11
競爭이 可能하거나 交易이 不適合한 品目	8	10	20	38
農家に 影響이 적고 國民生活向上에 副應하는 品目	24	18	10	52
沿近海 生産魚種과 競爭이 적거나 競爭可能한 品目	20	28	32	80
計	82	76	85	243

資料：農林水産部 農業協力通商官室

<表 1-4-3>

年度別 自由化 豫示

	總品目數	檢討對象 品目數	自由化 豫示 品目數				留 保
			'89	'90	'91	計	
農 林 水 產 物	1,785	643	82	76	85	243	400
- 農 畜 產 物	1,162	420	55	42	41	138	282
- 林 產 物	295	16	1	2	7	10	6
- 水 產 物	328	207	26	32	37	95	112
美國關心品目		119	22	19	21	62	57

資料：農林水産部 農業協力通商官室

<表 1-4-4>

輸入自由化率 變化推移

(單位：%)

	'88. 12	'89	'90	'91
農 林 水 產 物	71.9	76.1	80.3	84.9
- 農 畜 產 物	75.1	79.3	82.8	86.2
- 林 產 物	94.6	94.9	95.3	97.3
- 水 產 物	40.2	48.2	57.9	69.2

資料：農林水産部 農業協力通商官室

3. 補完對策 樹立

輸入自由化 豫示計劃 발표에 따른 농어민의 피해를 최소화하기 위해 補完對策을 수립하였다. 이를 살펴보면,

첫째, 직접피해가 발생할 때는 이를 보상하고, 둘째 수입자유화 대상작물을 재배하는 농어민이 작목을 바꿀때는 자금과 기술을 지원하며, 셋째 수출전망이 있는 품목을 집중 지원·육성하는 한편 생산성 향상을 위한 구조조정을 추진해 나가는 것을 기본으로 하고 있다.

補完對策을 유형별로 살펴보면, 수입개방에 따른 수입가와 국내가의 차액을 보상해주는 差額補償支援, 황도·양조용 포도 등의 재배농가가 과수원을 폐원할 경우에는 폐원당시의 과수로부터 얻을 수 있는 소득을 포기하게 되는데 따른 기대소득을 보상해주는 生産調整補償을 실시하고, 엽연초, 바나나, 파인애플 등 수입개방품목의 재배농가가 다른 작목으로 전환

을 희망할 경우, 경영·기술지도 및 자금을 지원하는 作目轉換融資 등으로 되어있다.

<表 1-4-5>

輸入開放 補完對策 資金支援內譯

(單位：億圓)

	總計	'89	'90	'91	小計 ('89~'91)	小計 ('92~'93)
○ 差額補償支援	2,828	13	222	823	1,058	1,770
- 大豆	1,847	-	-	586	586	1,261
- 옥수수	805	-	205	190	395	410
- 油菜	95	-	-	30	30	65
- 豆	81	13	17	17	47	34
○ 生産調整補償支援	116	-	20	68	88	28
- 豆	62	-	20	14	34	28
- 水産	54	-	-	54	54	-
○ 作目轉換融資	335	-	35	100	135	200
○ 輸入關聯農水産部門構造調整支援	1,931	-	731	500	1,231	700
計	5,210	13	1,008	1,491	2,512	2,698

資料：農林水産部 農業協力通商官室

또한 우리 農産物의 輸出競爭力 提高를 통해 수출을 확대하기 위해 비교적 경쟁력이 있는 사과, 배, 화훼, 양돈, 양계 등에 대한 지원을 강화해 나갈 계획이며, 水産分野에 대해서는 代替漁船建造, 漁船設備改善 등 어로시설의 현대화를 위한 투자를 확대해 나갈 계획이다.

이러한 제반 보완대책의 차질없는 수행을 위하여 '89년부터 '93년까지 5개년동안에 5,210억원의 지원계획을 확정하였으며, 이를 내용별로 보면 差額補償支援에 2,828억원, 生産調整補償支援에 116억원, 作目轉換 融資에 335억원, 構造調整에 1,931억원을 지원토록 되어 있다.

第4節 農漁村負擔輕減 特別措置

1. 推進背景

우리 농어촌은 영세한 營農構造와 就業機會 부족등 빈약한 경제여건에서도 꾸준한 발전을 해왔으나 농가경제는 크게 개선되지 않고 있는 실정이다. 정부에서는 '86년 이후 6차례에 걸친 農漁村支援 特別對策을 실시하였으나 短期對策 중심의 지원과 제도의 미비 등으로 농어촌문제의 根本的 解決이나 自生力 回復에는 미흡한 점이 있다는 인식에서, '89년 4월 28일 農漁村發展綜合對策을 확정·발표하였다. 그러나 중장기적인 農漁村 開發計劃은 그 효과가 나타나는데 상당한 시일이 소요되므로 短期政策方 向에서 당면 농어촌문제의 해결을 위해 몇가지 획기적인 조치를 단행하였다.

이 중 農漁村負擔輕減 特別措置는 소득증가에도 불구하고 늘어나고 있는 부담을 경감시켜 줌으로써 農業再投資를 도모하고 농가경제를 활성화시킬 것을 목적으로 하고있다.

<表 1-4-6>

戶當 農漁家所得 및 負債

(單位：千원, %)

	'84	'85	'86	'87	'88	'89
農家所得	5,549	5,736	5,995	6,535	8,130	9,437
農家負債	1,784	2,024	2,192	2,390	3,131	3,899
漁家所得	4,508	4,869	5,402	6,166	6,821	8,079
漁家負債	2,361	3,378	3,549	4,064	3,818	5,276

資料：農林水産部 農水産統計官室

2. 主要內容

가. 農水產政策資金 金利引下

農漁村發展綜合對策의 일환으로 '89년 7월1일 農水產政策資金의 金利引下 및 償還期間 延장을 '89년 1월1일자로 소급적용하였다.

먼저 農水產資金 金利引下를 단행하여 營農·營漁·養畜資金의 金리를 8%에서 5%로 인하하고, 農機械資金의 金리는 8~11.5%에서 5%로 인하하되, 搗精機등 직접적으로 영농활동에 이용되지 않는 기계는 8%의 이자율을 적용하였다.

아울러 '83~'84년 소入殖資金은 지난 '86년 農漁村綜合對策에서 金利인하조치를 단행(10.0~14.0%에서 8.0%)한 바 있고 '87년 農漁家負擔輕減對策 일환으로 이자를 면제하였으나, 아직도 상환에 많은 어려움이 있어 추가조치로 향후 5년 据置 5년 分割償還토록 상환기간을 연장함과 동시에 이자도 면제하였다.

이렇게 하여 영농·영어·양축자금 金利인하로 514억원, 농기계구입자금 金利인하로 270억원, 소入殖資金 상환기간 연기 및 이자면제로 23억원 등 총 807억원의 농어민 부담을 경감시켜 주었다.

<表 1-4-7>

農漁民 負擔輕減效果

(單位：億圓)	
主 要 內 容	輕 減 效 果
○營農漁, 養畜資金 金利引下(8%→5%)	514
○農機械購入資金 金利引下	270
一般農機械購入資金 金利引下(8%→5%)	
國產農機械購入資金 金利引下(11.5%→5%)	
※搗精機등은 8%로 함	
○'83~'84 소入殖資金 償還期間延長 및 利子免除	23
計	807

資料：農林水產部 農業構造政策局.

나. 農漁家負債輕減에 관한 特別措置

'88년 정기국회에서 農漁村負債問題를 해결하기 위하여 農漁家負債對策費로 2,000억원을 마련하여 與·野間에 논의하여 오던 중 '89년 12월 정기국회에서 여·야합의로 “農漁家 負債輕減에 관한 特別措置法”이 제정·공포됨에 따라('89. 12. 30) 정부는 농어가의 부담을 조기에 실질적으로 덜어주기 위한 “農漁家負債輕減 特別措置 施行指針”을 마련하여 동일자로 시행하였다.

그 내용을 보면 경지면적 2.0ha미만의 農家와 이에 준하는 漁家, 養畜家, 林家를 대상으로 農水産關聯 中長期資金의 金利引下와 償還期間을 연장시켰다.

추진계획에 의하면 '89년 12. 30일까지 “農漁家負債輕減 特別措置 施行指針”을 시달하여 '90년 1. 8일~18일까지 시행지침을 교육시키고 '90년 1. 8일~1. 31일 동안 債務者別, 資金別 대출잔액 명세표를 통보하여 '90년 2. 1일~2. 28일까지 개별열람 및 마을단위 審査委員會에서 심사를 완료하고, '90년 3. 1일~3. 15일사이 邑·面·洞 審査委員會에서 심사확정하게 되었다. 이어서 '90년 3. 16일~3. 31일동안 농어가별 대상자에게 대상자금을 확정하여 개별통지하면 '90년 4. 1일~6. 30일 사이에 농어가의

<表 1-4-8>

利子減免 및 償還延期內容

	中長期資金	相互金融	備考
家口當支援限度	400萬원	200萬원	- '89末 貸出殘額 基準으로 하되 '88末 貸出殘額 을超過할수없음
適用金利			
- 0.7ha未滿	無利子	無利子	
- 0.7~2.0ha	3%	5%	
償還期間	○5年据置 5年 均分償還	○3年据置 7年 均分償還	

지원신청을 받아 완료할 예정으로 하였으나 마감일을 8. 31일 까지로 2개월 연기한 바 있다.

한편 심사과정에서 착오 등으로 인한 누락자는 6. 20일까지 금융기관에 漏落申告후 마을 및 읍·면·동 심사위원회의 심사를 거쳐 금융기관에 대체신청하면 구제받을 수 있도록 하였다.

<表 1-4-9>

惠澤對象戶數 및 金額

(單位：千戶, 億圓)

	中長期資金		相互金融		合計	
	戶數	金額	戶數	金額	戶數	金額
0.7ha 未滿	883	12,481	485	7,788	1,059	20,269
0.7~2.0ha	361	5,362	154	2,652	398	8,014
計	1,244	17,843	639	10,440	1,494	28,283

資料：農林水產部 農業構造政策局

한편 이번 農漁家負債輕減 特別措置를 통하여 농어민은 연간 약 2,397억圓의 利子負擔輕減效果를 보게 되었다.

<表 1-4-10>

戶當 對象金額 및 利子輕減效果

	耕地規模別		資金別		全體平均
	0.7ha未滿	0.7~2ha	中長期資金	相互金融	
戶當對象金額	千圓 1,849	2,014	1,434	1,634	1,893
戶當利子輕減效果	千圓 179	108	86	208	160
全體利子輕減效果	億圓 1,967	430	1,069	1,328	2,397

資料：農林水產部 農業構造政策局

第5節 農漁民團體의 民主化와 自律性 強化

'87. 6월이후 사회전반적인 민주화 열기로 政治的·社會的 興件이 성숙되었고, 대부분 농어민 단체의 조합이 자립 또는 자립단계에 접어듬에 따라 農·水·畜協法 개정('88. 12. 31)과 農·水·畜協組合任員임면에 관한 臨時措置法 폐지('88. 12. 31) 및 農村近代化促進法을 개정('89. 4. 1) 함으로써, 농어민단체의 민주화와 자율화가 실질적으로 이루어지게 되었다. 따라서 농어민단체가 사업계획 및 수지예산 수립시 종전에는 農林水產部長官의 승인을 받게 되어있던 것을 폐지하였으며, 아울러 조합장을 任命制로 하던 것을 直選制로 개정하여, 조합원에 의하여 조합장을 선출하고, 조합장에 의하여 中央會長을 선출하도록 하였던 것이다.

이에 따라 '89. 4~'90. 3월사이에 전국 1,811개 組合(山林組合除外)의 조합장 선출을 완료하고, '90. 4월(농지개량조합의 경우는 '90. 1월)에는 각조합의 中央會長도 선출을 완료하였다.

<表 1-4-11>

組合長 選出內譯

	對象組合數	選出組合數	競 爭 率	投 票 率	中央會長 競 爭 率
農 協	1,470	1,470	2.0 : 1	89.4%	3 : 1
水 協	73	73	2.0 : 1	85.8	4 : 1
畜 協	166	166	1.7 : 1	83.1	2 : 1
農地改良組合	104	102	2.8 : 1	95.0	1 : 1
計	1,813	1,811	—	—	2.5 : 1

註：農地改良組合 未選出 2個 組合은 郡守가 組合長 職務 代行
資料：農林水產部 農業構造政策局

따라서 그동안 조합장 任命制下에서 官治組合이라는 비판과 조합운영에 농어민의 참여와 의견수렴이 불충분하다는 社會的批判을 수용하게 되었으며, 조합장선거등 조합원들의 관심과 참여도가 지대한 점등(투표율

86.1%)을 볼때 조합원이 조합에 대하여 주인의식을 가지고 자율적으로 조합을 운영함으로써 農·水·畜協이 새로이 태어나게 되었다.

第6節 '89年 農政의 成果와 反省

'89년은 80년대를 마감하고 90년대를 여는 준비의 해로 큰 의미가 있는 년도로서 農政史에 있어서도 매우 중요한 해로 기억될 수 있을 것이다.

'89. 4. 8 일에는 243個 農水産品目에 대해서 '89년에서 '91년사이 輸入自由化를 豫示함으로써 農水産業에 대해서도 본격적인 開放體制의 到來가 預告되었을 뿐만 아니라, '89 4. 28에는 農漁村發展綜合對策을 수립해서 農水産業의 構造改善, 農漁家所得增大, 農漁村生活環境改善等を 추진함으로써 農政의 대상이 과거 農林水産業에서부터 農漁民과 農漁村의 問題까지를 포괄하는 綜合的인 對應方案이 모색되었다. 이러한 觀點에서 '89년의 農政成果를 살펴 본다면,

첫째, 農漁村問題의 解決을 위한 基本方向을 정립한 것이다. 과거 農漁村問題에 대한 대응은 주로 農林水産業問題에 중점을 두어 生産性向上, 農水産物의 價格安定과 流通改善等に 중점을 두어왔으나, 農林水産業의 問題 이외에도 農業所得의 限界를 극복하는 문제, 낙후된 農漁村의 生活環境을 改善해나가는 문제, 農漁民의 醫療·教育등의 환경을 개선해 나가는 문제도 이에 못지않는 重要性을 認識하고 農林水産部의 次元에서도 積極的인 推進施策을 강구하게 되었다.

즉, 農外所得增大를 위해서 農工地區, 農漁村休養地, 農漁村特産團地 등의 사업을 적극적으로 추진해 나가는 동시에 농림수산부가 農業構造改善次元에서 農漁民에 대해 職業訓練을 實施키로 하였다는 것은 큰 의의가 있으며, 또한 農漁村定住生活圈 開發事業을 본격적으로 추진키로 하였다는데 큰의의가 있다.

둘째, 農政推進을 위해 法的·制度的인 基盤을 정비하였다. 과거 農漁村對策 推進에 있어 아쉬운점은 대책의 내용이 時間이 지나고 業務擔當者가 바뀔에 따라 그 추진에 있어 當初意圖와 달라지는 면이 있었다.

따라서, 農漁村發展綜合對策의 내용을 “農漁村發展特別措置法”과 “農漁村振興公社 및 農地管理基金法”의 2개의 법률로 입법화하여 앞으로 농정이 나아가야할 방향으로 정하였다는데 큰 의의가 있다. 이에따라 農林水産部の 職制를 개편하고('90. 3. 20), 農漁村發展特別措置法과 農漁村振興公社 및 農地管理基金法('90. 4. 7) 및 同法 施行令을 제정('90. 6. 26)하였으며, 農漁村振興公社를 설립('90. 7. 2)하여 農漁村發展綜合對策에 나타난 시책을 추진하기 위한 法的·制度的 裝置를 마련하였다.

셋째, 農漁民의 負擔輕減과 所得增大 支援을 위한 시책추진이다. 營農漁資金과 農機械 支援資金의 金利를 8-11.5%에서 5%로 인하 조치하였고 “農漁家負債輕減에 관한 特別措置法” 制定('89. 12)으로 戶當 600萬원 한도내에서 利子輕減 및 償還期間을 연장 조치하였다. 또한, 秋穀收買에 있어서도 사상 유례없이 2兆1千億원을 들여 1,175萬石을 수매하여 農漁家所得向上을 지원하였다.

넷째, 農漁民團體의 自律化 推進이다. 農·水·畜協과 農地改良組合, 山林組合등 農漁民團體의 自律的 運營을 위해서 直選 組合長을 선출 완료하였고 中央會의 會長도 單位組合長이 선출토록 하였다.

따라서 과거 農漁民團體가 農漁民의 利益을 대변하지 않고 政府施策을 代行하는 기관에 불과하다는 一部の 批判을不息하고 진정한 農漁民의 利益을 代辯하는 기관으로 발전할 수 있는 기반을 마련하였으며 이와같은 농정의 성과에 못지않게 아쉬웠던점 또한 적지않았다.

첫째, 輸入自由化에 따른 補完對策의 未洽이다. '89. 4. 8일 243個 品目에 대해서 輸入自由化를 豫示하고 '93년까지 5,061억원을 투자키로하는 補完對策을 수립하였으나, 對應作目的 開發과 技術普及, 農水産業構造改善등 輸入開放問題에 대해서 충분한 對應態勢를 마련하지 못한 농어민들

에게는 커다란 衝擊이었음에 틀림없다.

輸入自由化 豫示를 한 243개 품목은 國內 農水産業이나 農漁民의 所得 基盤에 미치는 영향이 적은 品目爲主로 선정되었음에도 불구하고 농어민이 느끼는 충격은 상당한 수준이었음을 감안할때 앞으로 GATT/우루과 이라운드의 진전에 따라 수입개방하여야할 품목에 대한 충분한 補完對策의 樹立과 함께 輸入自由化에 對應하여 對應作目を 開發하고 競爭力을 強化시키는 노력을 더한층 강화하여야할 필요가 있다.

특히 農水産物 輸入에 따른 直接的인 被害뿐만 아니라 예상되는 間接 被害에 대한 농어민의 불안을 어떻게 해소해야 할 것인가 하는 문제가 農政의 主要課題로 부각되고 있다.

둘째, 農水産物 價格不安 問題이다. '89년중 대부분의 農作物이 豐作을 이루어 국민들의 食單을 豐盛하게 하는데는 기여하였으나, 一部品目の 경우 생산이 과잉되어 여전히 農家經濟에 어려움을 주었는데, 특히 쌀의 경우 '88년의 42,038천석에 비해서 '89년에는 40,958천석이 생산되어 그 생산량은 줄어들었으나, 產地價格이 政府收買價格보다 하락하여 큰 어려움을 겪었으며, 우유와 감귤도 生産過剩에 따른 價格下落으로 큰 어려움을 겪었다. 따라서 쌀需給問題에 대한 根本的인 對策樹立과 畜産, 菜蔬類등에 대한 價格安定施策의 內實化가 필요함을 인식하게 되었다.

셋째, 農漁家負債輕減施策과 秋穀收買에 따른 支援施策의 一部 不合理의 문제이다. 戶當 600萬원 限度の 農漁家負債輕減施策의 추진과 1,200萬石이라는 추곡의 大量收買는 與小野大라는 政治狀況에 따른 것이기도 하지만, 負債輕減施策의 경우 빚없이 성실하게 살아온 일부 농어가는 상대적으로 혜택을 적게 받음으로써 불만을 나타내고 있으며, 막대한 負債輕減施策에 따른 豫算所要로 인해서 農水産業의 生産性向上과 構造改善, 農漁家所得増大事業등을 지원해야하는 예산의 몫이 상대적으로 줄어들어 이에 대한 비판의 소리도 없지않았다.

또한 統一벼 收買에 있어 당초 550만석을 수매 예시하였으나, 국회 동

의과정에서 農漁家希望量 全量으로 바뀔에 따라 정부의 收買豫示를 믿고
동일버 植付面積을 줄인 一部農民의 불만이 야기되어 農政不信의 한 요
인이 되었음도 간과할 수 없는 사실이다.

한편, 農家經濟 또는 農業生産을 나타내는 指數로 이러한 문제를 살펴
보면 農林漁業部門이 전년에 비해 쌀의 상대적인 減産이 주원인이 되어
마이너스 0.7%의 성장율을 보였으며, 耕地利用率, 農家交易條件等도 모두
'88년에 비해 악화되었다.

그러나, 農業機械化의 進展과 農產物價格의 好調로 勞動生産性 및 土地
生産性は '88년에 비해 각각 16.6%, 11.8% 증가하였으며, 특히 農地購入
增大, 地價上昇, 大農具保有 增加등으로 農家資産이 29.4% 증가하였고, 農
家經濟剩餘도 호전되어 預・貯金이 '88년보다 42.7% 늘어나는등 農家資
金餘力이 다소 나아지고 있음을 알 수 있다.

이와같이 볼때, '89년은 앞으로 農政이 나아가야할 方向을 定立하고 이
를 위해서 法的・制度的 裝置를 마련한 성과는 이룩하였으나, '89년 한해
동안에만 농가인구가 486千名이나 줄어드는등 農業人口의 減少가 빠른속
도로 진전되는 樣想을 보이고 있고, 앞으로도 이러한 추세가 계속될 것임
을 감안할때 農漁村에 대한 지속적인 投資擴大와 農水産關聯從事者의 倍
前의 努力이 필요함을 인식한 한 해였다 할 수 있을 것이다.

여백

第2編 1990年度 農業施策

여백

第1章 急變하는 農政與件과 農業政策 方向

1. '90年代의 農政與件

政府樹立이후 농정의 계속된 최대과제는 國民 主穀의 자급으로서, 정부는 綠色革命이라 불리우는 多收穫品種開發, 耕地整理, 영농의 機械化 및 二重穀價制등을 지속적으로 추진한 결과 '80년대 후반에 들어서 그 목표가 달성되었다.

'90년대는 이러한 주곡자급 목표달성의 터전위에 다가오는 2000년대 福祉農漁村 건설을 위한 기반을 마련해야 할 轉換期로써 농정을 둘러싸고 있는 여건은 어느때 보다 급격히 변화할 것이다.

'90년대 농정여건으로서는 무엇보다도 농수산물 수입자유화로 인한 國際化의 衝擊, 지방자치제 실시에 따른 地方化時代의 전개와 함께 사회 전반적인 민주화의 영향을 들 수 있으며, 아울러 소비자의 食品消費構造 變化와 과학기술의 발전등도 중요한 여건이다.

이러한 여건변화에 농정이 효율적으로 대처하지 못할 경우 우리 농수산업의 기반은 크게 흔들릴 우려가 높으며, 이렇게 볼때 '90년대야말로 농정에 있어 과거 어느때보다 중요하여 농수산업의 장래가 달려 있는 결정적인 시기라 할 수 있다. 이에 따라 '90년도는 '90년대를 시작하는 첫해로서 이러한 변화에 적극 대응할 수 있도록 준비해 나가야 하는 중요한 시기이다.

<表2-1-1>

主要 農漁村指標 展望

	'89	'93	2001
○ 農 漁 家 人 口 (比 重)	7,347千名 (17.3%)	6,580 (14.6)	5,167 (10.4)
○ 營 農 規 模 (專 業 農)	1.20ha (1.35ha)	1.35 (1.75)	1.67 (2.70)
○ 農 外 所 得 比 率	41%	50	70

資料：農林水産部 企劃管理室

2. 國際化의 衝擊과 積極的 對應

나라 경제의 규모가 커지고 構造가 고도화 되면 경제체제가 開放體制化 되어야 하는 것은 당연하며, 더우기 우리나라와 같이 수출위주의 성장 전략을 택하고 있는 경우는 불가피하다 하겠다.

특히 '80년대 이후 많은 先·後進國들이 경쟁적인 食糧增產施策의 추진으로 발생한 과잉생산량을 貿易自由化를 통해 해결하기를 원하고 있으며, 미국등 선진 각국들이 농업부문에 대한 재정부담의 경감을 위하여 우리나라, 일본등과 같은 貿易 黑字國에 대해 농수산물 輸入自由化를 강력하게 요구하고 있는 실정이어서, 우리나라 農水產物 市場의 개방이 불가피하며 이 추세는 앞으로 훨씬 강화될 전망이다.

이러한 狀況與件에 능동적으로 대처하기 위하여 '89. 4. 8일 '89~'91년 간 243개 농수산 품목에 대한 輸入自由化를 豫示하였고, '89. 10. 27일 GATT/BOP위원회 결정에 따라 8년의 猶豫期間內에 특별한 사유가 없는 한 거의 대부분의 농수산물에 대한 輸入自由化計劃을 '91년, '94년 두차례에 걸쳐 豫示하여야 할 것이다.

또한 현재 진행중인 多者間協商인 우루과이라운드에서는 오는 2000년까지 모든 GATT회원국은 농업생산과 관련된 直接·間接補助와 農產物의 輸入規制를 완전하게 없애자는 주장까지 나오고 있다.

이러한 새로운 환경변화를 맞고 있는 우리 농수산업은 규모의 零細性, 낮은 수준의 技術開發, 기계화의 미흡등으로 구조가 극히 취약한 실정이어서 위와 같은 국제화의 충격은 실로 엄청난 것이다.

따라서 이러한 국제화의 충격을 제대로 흡수하여 새로운 정책방향 정립이 가능할 때 우리 농업이 발전할 수 있을 것이며, 이것이 불가능할 때는 우리 농업은 존립기반마저 크게 흔들릴 우려가 있는 것이다.

따라서 앞으로의 農政 第1의 課題는 國際化, 開放化에 적극 대응하는 것이 되어야 할 것이다.

그러기 위해서 먼저 대외 경쟁력 제고를 위한 생산성 향상을 위하여 현재 추진중인 農漁村開發綜合對策을 착실히 추진하여 營農規模 擴大 등 農水産業 構造改善을 추진하고, 집중적인 기술개발을 통하여 資本·技術 集約形 農業을 육성하며, 농업 노동력 부족 해소를 위해 農業機械化 促進 및 委託營農會社의 설립을 지원해야 할 것이다.

아울러 농수산물 수입개방으로 인한 직간접 피해를 보완하기 위한 輸入開放 補完對策을 적극 추진하여 수입개방으로 인한 피해를 최소화 하는 방향으로 나아가야 할 것이다.

3. 地方化 및 民主化와 農政

'90년대 초부터 地方自治制가 본격적으로 전개됨에 따라 農政推進與件도 中央集中式 行政體制에서와는 많이 다르게 되었다. 즉 종래와 같이 중앙정부에 의한 일방적인 행정지시 또는 행정지도에 의하거나, 각 지역의 특성을 무시한 全國單位의 획일적인 농정시책을 추진할 경우, 그 효율성을 크게 기대하기 어려운 실정이다.

또한 사회전반적인 민주화의 열기는 농정에 있어서 農漁民團體의 自律化 및 團體長의 直選制問題 등 단순한 의미의 민주화 범위를 벗어나 낙후되고 소외된 농어촌·농어민에 대한 적극적인 지원을 요구하는 등 형평성 문제에까지 범위를 확대하는 경향이 크게 증가되었다. 이러한 추세에 따라 앞으로의 농정 또한 새로운 방향전환이 불가피하게 되었다.

먼저 지방화시대에 대비하여 현재까지의 중앙집중 정치구조하의 下向式 劃一行政을 탈피하여 地方特性과 地域 農漁民의 요구에 부응하는 다양한 정책개발이 필요한 바, 특히 地方自治團體 처리사무에 대한 관여를 최소화하고, 국가 고유기능인 전국단위의 農畜產物 需給, 流通, 消費問題, 農林水産統計의 自治團體單位 統計情報의 개발과 보급, 안전한 농산물 생산기준 설정, 공해대책, 농수산 연구개발사업등에 대한 정책개발에 관심을 집중해야 할 것이다.

한편 民主化趨勢에 따라 형평성의 욕구 또한 증대될 것이므로 상대적으로 낙후된 농어촌의 균형발전을 위한 시책의 추진 또한 중요한 문제이다.

특히 농수산물 수입개방의 영향이 점차 可視化 될 경우 농어민의 불만은 더욱 커질 것이며, 이러한 불만에 정부가 적극적으로 대응하지 못할 경우 새로운 社會·經濟不安의 요인이 될 수 있을 것이다. 따라서 농정 각 분야별로 政策樹立過程에서 부터 농어민 또는 농어민단체를 적극 참여시켜 이해와 협조를 구하는 한편, 경제성장의 여력을 낙후된 농어촌분야에 집중 투자하여 農水産業의 生産性 向上과 農漁村 生活環境 改善을 도모하며 아울러 농어민의 삶의 질을 확충하기 위한 각종 복지기반을 조성하는 등의 政策的 配慮가 있어야 할 것이다.

4. 食品消費構造 變化와 農產物 生産

오늘날 같은 商業農時代의 농산물 생산은 시장출하를 전제로 하므로 소비자의 食品消費構造 變化에 직접 영향을 받는다. 따라서 앞으로는 영농계획을 수립하는 농민뿐만 아니라 정부 또한 소비자들의 소비형태가 어떻게 변하는지에 큰 관심을 가져야 하겠으며, 이러한 변화에 얼마나 효율적으로 대처하느냐에 따라 영농 및 農政의 成敗가 달려 있다 해도 과언이 아니다.

최근 지속적인 국민소득의 증가에 따라 국민의 食生活 消費패턴도 크게 변하여 과거와 같이 생존과 영양만을 생각하는 시대는 지나 점차 식품의 안전성과 맛 그리고 멋을 즐기는 시대로 전환되고 있다.

이러한 추세에 따라 有機農業方式으로 재배한 농산물의 수요가 크게 늘고 있으며, 정부에서도 식품의 農藥殘留許容基準과 農藥安全使用基準을 설정하여 지도 단속을 하고 있는 바, 이러한 추세는 앞으로도 더욱 강화될 것이다.

또한 그동안 국민 주곡의 자급이라는 목표달성을 위하여 적극 개발 보급된 統一系 벼 품종이 그 밥맛으로 인하여 소비자에게 외면 당함에 따

라 최근에는 다시 一般系 재배의 확대로 전환되고 있다.

이와 함께 食品消費形態가 곡물중심에서 다른 高級 農產物과 加工食品으로 전환됨에 따라 농업생산의 조정은 물론 食品加工產業의 육성이 시급하게 요청되고 있다.

따라서 앞으로의 농정은 이러한 소비자의 소비패턴 변화를 면밀히 파악하여 수요가 줄어들고 늘어나는 작물에 대한 作付體系 調整, 맛과 멋을 확보해 줄 수 있는 技術開發, 安全한 農產物 生産供給은 물론 農產物 加工產業을 적극 육성해 나가야 할 것이다.

5. 科學技術의 發展과 農業

우리나라 農業技術은 지난 20여년간 과학기술의 발달과 함께 획기적으로 발전하였다.

60년대 까지만 하여도 만성적인 식량부족에 허덕이고 농업생산은 기상 등 자연환경의 영향을 크게 받았으나 70년대 들어오면서 지속적인 품종 개량등 농업기술 혁신을 통하여 우리의 농업기술이 생산을 주도하는 단계까지 발전하였으며, 綠色革命에 의해 주곡을 자급하게 되었다.

80년대에는 주요 園藝作物의 週年生産 供給體系를 확립하여 新鮮菜蔬를 연중 국민 식탁에 공급할 수 있게 됨으로서 본격적인 商業農時代에 대응하는 農業技術體系를 갖추게 되었으며 尖端農業技術의 개발 촉진으로 다수화 양질의 품종 및 새수요 소득작목을 육성함과 동시에 高附加價値 기술개발의 기반을 구축하였다.

그러나 최근 우리의 농업기술은 급격한 國際化 開放化에 따른 農畜產物의 輸入開放, 農村 勞動力 不足, 農產物의 需給과 價格 不安定, 農畜產物의 安全性등 轉換期 農業의 諸問題들로 부터 도전받고 있으며, 종래 중산위주의 기술개발만으로는 이에 적절히 대응할 수 없었던 것이 사실이다.

따라서 농축산물의 수입개방화에 대응하여 국제경쟁력을 확보하고 농

업이 맞고 있는 현안문제를 종합적으로 해결하여 농업을 장래 성장산업으로 육성해 나가기 위하여는 農畜産物의 品質向上, 附加價値 및 商品性提高, 劃期的인 省力栽培技術開發등이 절실히 요구되고 있으며, 이는 生命工學을 중심으로 한 核心農業技術의 집중개발과 周邊 尖端科學技術을 농업분야에 적극 도입하는 등 과감한 기술혁신을 통해 가능할 것이다.

앞으로 구체적인 첨단과학기술의 농업적 이용을 위해 組織培養, 細胞融合, 核置換 및 遺傳子 操作등 遺傳工學의 核心 基礎技術을 중점적으로 개발하고 실용화를 앞당기는 한편, 生理活性物質 開發利用에 의한 농산물의 품질향상과 가축 성장호르몬, 有用微生物 農藥開發 등으로 생산비를 획기적으로 절감토록 하고 아울러 周邊 尖端科學技術의 농업적 이용을 확대하기 위하여 품종육성 및 병해충 종합방제 전산모델 개발연구 등도 병행하여 추진해 나가야 하겠다.

특히 이러한 농업기술의 혁신을 가능토록 하기 위하여 生命工學 등 核心技術 開發課題를 특정연구과제 및 전략과제로 설정 추진하며 農業遺傳工學研究所等 基礎專門研究機關을 보강하고 우수한 전문인력과 최신 첨단장비를 계속적으로 확보할 수 있도록 정책적으로 尖端農業技術分野에 대한 과감한 투자확대가 이루어져야 할 것이다.

第2章 '90 農業政策의 基本目標

第1節 最近 農漁村經濟社會의 動向

지속적인 經濟成長過程에서 農家의 所得도 늘어난것은 사실이나, 그보다 負債가 더욱 빨리 늘어나고 있으며, 都·農間 所得隔差도 오히려 확대되고 있어 농민의 불만이 높아지고 있다. 즉, '85년에서 '89년사이 農家所得은 年평균 13.3% 늘어났으나, 農家負債는 17.8% 늘어났으며, 농가소득을 都市勤勞者 家計所得과 대비하여 볼때도 그 격차는 계속해서 확대되고 있는 점에서도 그 실상을 알 수 있을 것이다.

이와 아울러, 商業農의 進展에 따라 農業資本投資增大, 農家消費水準의 向上등으로 계속 증가하여 '89년말 현재 3,899천원에 이르는 農家負債에 대해서, 일부 農民과 農民團體에서는 農家負債增大의 가장 큰 원인은 農政失敗에서 비롯되었으며, 그 규모가 현재 농가의 상환능력을 초과하고 있다고 주장하며, 負債減免 또는 負債蕩減을 강력하게 요구하고있는등 農漁村社會 動搖의 요인으로 작용하고 있다.

所得水準이 낮은점과 더불어 落後된 農漁村生活環境이 농어촌에 닥친 가장 큰 當面課題중의 하나이다. 즉, 삶의 공간으로서의 農漁村地域 生活環境의 낙후성이 젊은이의 離農을 가속화시키고 있으며, 농촌총각의 結婚問題 발생의 한 요인이 되고있다.

이에따라 농민은 정부에대해 上水道, 道路 擴·鋪裝, 住宅改良(沐浴湯, 水洗式化粧室, 立式부엌)등의 사업을 추진해 줄 것을 강력히 요구하고 있다. 앞으로 農外所得增大를 위한 農村工業化施策推進과 더불어 生活環境改善으로 在村就業을 유도하지 못하면 농어촌의 空洞化現象 및 인구의 都市集中에 따른 交通, 住宅問題등의 발생이 크게 우려되고 있다.

한편, 농어촌 젊은이의 離農 加速化로 農漁村人力의 老齡化 現象이 심

하게 나타나고 있는데, 農林漁業 就業者中 50세 이상의 비중을 보면 '85년에는 39.9%이던것이 '89년에는 53.1%에 이르고 있다.

이에따라 農漁村 地域은 젊은이 및 어린이들이 적어 내일의 희망이 없어 보이는 無氣力한 모습에 대한 不安感이 가중되고 있다. 그러나, 이러한 老齡化趨勢에 대응할 수 있는 각종 營農與件, 예컨대 耕地整理, 機械化 등이 미흡하며, 농어민들이 은퇴한후 노후생활을 보장하는 農漁民年金制등이 준비되어있지 않은 실정이어 대책이 시급하다.

이와 더불어 農水產物 輸入自由化물결은 농수산업의 장래에 대한 不安感을 증폭시키고 있는데, 그중 금년말 타결목표로 하는 GATT 우루과이라운드 農產物 協商에 관한 農產物 그룹會議의 議長의 草案이 각 언론기관의 보도에 의해 알려지고, 그 초안대로 협상이 마쳐 타결될 것으로 잘못 오해되고 있어 우리 農水產業의 장래에 대한 많은 우려를 자아내고 있다.

위와같은 각종 어려움. 즉, 都·農間 所得隔差 擴大, 負債의 持續的 增加, 生活環境의 落後, 福祉基盤의 未洽, 國際化, 開放化에 따른 不安感등이 相互 複合的으로 작용하여 農漁民과 農漁村社會는 안정감을 잃어가고 있으며, 특히 농어민은 최근의 民主化, 自律化 분위기와 함께 요구사항을 집단적으로 표출하고 있는등, 외부의 煽動에 쉽게 動搖하는 경향마저 일어나고 있다.

이러한 어려움속에서 對內外的인 挑戰을 효과적으로 극복하여 農水產業의 基盤을 튼튼히 하고 農漁村社會를 안정시키기 위하여 '90년에도 정부는 農業의 構造改善, 主要農產物의 適定供給과 需給安定, 農外所得源開發, 農水產物 輸入自由化에 대한 對策과 農漁民 支援施策을 강화해 나갈 것이다.

第2節 重點施策

1. 農業의 構造改善

農產物 輸入開放 및 都農間 所得隔差 등 우리농업에 대한 대내외적인 도전을 효과적으로 극복하기 위해서는 무엇보다도 먼저 농업의 구조개선을 추진하여야 한다. 이를위해 '89년 현재 1.20ha인 農家戶當 영농규모를 2001년까지는 2.70ha 수준까지 끌어올려 비농업 취업자와 대등한 생산성을 갖는 專業農家를 육성한다는 목표아래, 農漁村振興公社 設立 및 農地 購入資金 支援 등을 통한 營農規模擴大를 집중 지원하고, 農漁民後繼者育成 및 專業農育成 등을 통해 農漁村人力을 개발해 나갈 것이다.

아울러, 점점 심각해지고 있는 농업노동력 부족을 해소하기 위해 農業 機械化를 촉진하며, 기계화영농의 전제인 耕地整理, 用水開發 및 大單位 農業綜合開發事業 등 農業生産基盤의 擴大 造成에도 힘써 나갈 것이다.

이러한 농업개발뿐만 아니라, 이에 종사하는 농민들의 삶의 터전인 농어촌을 쾌적하고 편리한 定住生活圈으로 개발해 나가기 위한 示範事業을 전개해 나가는 한편, 효율적인 농지보전을 위해 農業振興地域 지정을 위한 基準設定을 금년중 추진할 계획이다. 한편, 開放農政에서도 우리 농업이 성장할 수 있는 길은 기술개발에 있음을 인식하여 農水産 特定研究開發事業을 비롯한 각종 연구사업도 적극 추진해 나갈 것이다.

2. 主要農產物의 適正供給과 需給安定

농업의 第1次的 課題가 食糧을 비롯한 육류, 채소류, 과일류 등 주요 먹거리를 국민들에게 안정적으로 공급하는 일이다.

이를위해 최근 변화하고 있는 食品消費構造를 면밀히 검토하여 대처해 나가야 할 것이다.

먼저, 쌀의 경우 자급기반이 어느정도 마련되었고 소득수준향상에 따라 良質米 선호경향이 강화되고 있는 실정인 바, 앞으로는 증산시책의 추진보다 품질좋은 양질의 생산으로 방향을 전환해 나갈 계획이다.

한편, 園藝作物과 果實類의 경우는 過剩過少生産이 되풀이 되기 쉽기 때문에 가격안정이 아주 중요하므로, 農水産物 價格安定基金을 활용한 價格安定施策開發, 流通改善 및 農水産物 加工産業育成을 위해 적극 노력해 나갈 것이다.

아울러, 성장 잠재력은 있으나, 수입개방에 의해 큰 영향을 받을 우려가 높은 축산업 발전을 위한 畜産長期發展對策의 推進과 畜産物 價格安定에도 만전을 기해나갈 것이다.

3. 農外所得源 開發

영농규모의 영세성으로 인하여 우리나라 농가의 농업소득의 획기적인 증대에는 한계가 있으므로 농가소득증대의 보완책으로 農外所得源을 적극 개발하여 '93년까지 農外所得率을 農家所得의 50% 이상으로 높여나갈 것이다.

이를위해 農工團地造成을 통한 農村工業育成, 農漁村特産團地, 農漁村觀光所得源 및 農漁家 工產品貨加工事業등 농외소득원을 적극 개발 육성하기 위한 시책을 전개해 나갈 것이다. 특히, 農村工業育成이 農漁家所得增大로 나타날 수 있도록 농어민에 대한 職業訓練을 정부가 지원하여 실시해 나감으로써 농어민이 공장에 쉽게 취직할 수 있도록 해 나갈 계획이다.

4. 農水産物 輸入自由化에 대한 對策 推進

國際交易市場에서 우리나라의 비중이 높아지고, 貿易黑字規模가 커짐에 따라 외국으로부터 수입개방 압력이 거세어져 농수산물 수입개방조치를 '89년 4월 부득이하게 발표하게 되었다. 뿐만아니라, 지난해 GATT의 國

際收支條項을 졸업함에 따라 '97년까지의 단계적인 農水產物 輸入自由化 計劃을 '91년, '94년에 각각 발표하지 않으면 안될 상황에 있다.

따라서, 앞으로 우리농업에 심대한 영향을 미칠 농수산물 수입자유화에 대한 向後 豫示計劃과 이에 대한 대책을 깊이 연구해야 할 것이며, 특히 금년부터 可視的으로 드러날 수입자유화 피해에 대한 보완대책을 철저히 마련해야 할 것이다.

이를위해 '90년중 향후 農水產物 輸入自由化 豫示計劃의 기본방향을 연구·설정하는 한편 1,008억원을 들여 직접 피해에 대한 差額補償, 作目轉換支援, 廢園補償 및 構造調整支援 등을 하나갈 계획이다. 아울러, 개방화 시대에 맞는 關稅制度의 確立과 수출증대를 위한 지원시책은 물론 외국과의 技術 및 通商協力도 강화하여 能動的으로 대처해 나갈 것이다.

5. 農漁民 支援施策 強化

농어촌의 발전을 도모하고 농어민이 잘살 수 있도록 하기 위해서는 農水產業育成發展을 위한 시책추진은 물론 각종 資金支援擴大, 農漁民 福祉 施策의 講究, 각종 災害로부터의 被害復舊支援 및 農漁村環境保全을 위한 시책 등에도 큰 관심을 가져야 할 것이다.

이를위해 영농자금 등 농업금융지원을 확대하며, 農漁業災害對策法 改定으로 각종 재화로부터 입은 農漁家被害復舊를 적극 지원할 것이다. 아울러 농어민의 福祉基盤 向上을 위한 農漁民年金制度, 農漁民醫療保險制度 등을 연구 개선하며, 특히 농가계층중 소외계층인 영세농에 대한 特別 對策講究와 함께 畜產廢水, 農藥, 페비닐, 酸性비, 쓰레기 등으로 인해 크게 오염되고 있는 농어촌의 환경을 보전하기 위한 노력도 계속 전개해 나갈 것이다.

第3節 投資規模

1. 農林水產資金 支援

'90년도에 農漁村과 農林水產業部門에 직접 투자되거나 용자지원되는 總資金 支援規模는 9조 6,365억원으로 '89년에 비해 14.3% 증가하였는 바, 농림수산부를 비롯하여 內務部, 建設部, 商工部 등 농림수산 관련부서에서 一般會計, 地方費, 借款 및 各種基金 등 다양한 재원으로 지원되고 있다. 그중 農業生産基盤造成, 農業開發 등 직접투자로 1조 7,699억원을 투자할 예정이고, 中長期資金 1조 2,202억원과 營農漁資金 支援 등 단기성 자금으로 3조 8,057억원을 지원할 계획이며, 정부의 糧穀收買와 농·수·축협을 통한 收買支援 등에 2조 8,407억원을 지원할 계획이다.

<表 2-2-1>

'89 農林水產資金 支援計劃

(單位：億圓)

	計	投資	融 資			收 買 資 金		
			小 計	中・長期	短 期	小 計	糧 穀	其 他
'89	84,314	15,181	39,646	8,463	31,183	29,487	14,902	14,585
'90	96,365	17,699	50,259	12,202	38,057	28,407	17,090	11,317

資料：農林水產部 企劃管理室

2. 農林水產部門 豫算

'90 농림수산부문 예산은 1조 7,071억원으로 經濟開發豫算 5조 2,143억원의 33% 비중을 차지하여, 지난해에 비해 경제개발예산이 16.3% 줄어든데 비해 농림수산부문 예산은 0.2%의 증가율을 나타내고 있다.

'90년도 농림수산부 예산을 사업별로 살펴보면 農業用水開發, 耕地整理, 排水改善 등 영농기반의 정비를 위한 農業基盤 造成事業에 농림수산부 사업예산의 40% 수준인 5,401억원이 투입될 계획이며 이외에도 農業機

械化 984억원, 農水產物流通改善 431억원, 農業開發 2,997억원, 農工地區造成 등 農漁村所得源開發 1,094억원, 農漁村地域綜合開發 2,045억원, 기타 食糧增產, 畜產事業 등에 303억원을 투입할 계획이다.

<表 2-2-2>

農林水產部門 豫算比重

(單位：億圓)

	'89		'90		增 減	
		%		%		%
國家全體豫算	258,252		253,886		△4,366	△1.7
經濟開發豫算	62,312	100	52,143	100	△10,169	△16.3
農林水產部門 ¹⁾	17,040	41.0	17,071	39.0	31	0.2

註：1)은 糧穀管理基金 除外
資料：農林水產部 企劃管理室

<表 2-2-3>

農林水產部 豫算規模

(單位：億圓)

	'89			'90		
	一般	財特	計	一般	財特	計
1. 事業費	9,701	3,962	13,663	8,650	4,605	13,255
○ 食糧增產・種子供給	96	—	96	88	—	88
○ 農業機械化	232	494	726	284	700	984
○ 農業用水開發	2,707	—	2,707	2,138	—	2,138
○ 農業生產基盤擴充	1,900	—	1,900	2,121	120	2,241
○ 大單位農業綜合開發	941	—	941	750	—	750
○ 防潮堤築造	298	—	298	272	—	272
○ 農水產物流通改善	166	560	726	181	250	431
○ 農特事業	28	20	48	31	15	46
○ 畜產事業	80	—	80	69	100	169
○ 農業開發	2,653	1,250	3,903	1,847	1,150	2,997
○ 農村所得源開發	588	388	976	826	268	1,094
○ 農漁村地域綜合開發	13	1,250	1,263	43	2,002	2,045
2. 經常事業費	207	—	207	298	—	298
3. 基本的經費	440	—	440	533	—	533
小計	10,348	3,962	14,310	9,480	4,605	14,085
糧穀管理基金	—	9,512	9,512	—	4,300	4,300
合計	10,348	13,474	23,822	9,480	8,905	18,385

資料：農林水產部 企劃管理室

第3章 農業의 構造改善

第1節 營農規模의 擴大支援

1. 農漁村振興公社 設立

2001년까지 戶當平均 營農規模를 2.70ha 수준으로 높여 비농업취업자와 대등한 생산성을 갖는 專業農家를 육성하고자 영농규모확대를 전담할 農漁村振興公社를 '90년 7월 2일 설립하였다. 同公社는 기존의 農業振興公社를 흡수하여 설립한 바, 營農規模化 事業과 農地造成改良事業뿐만 아니라 農漁村道路網擴充, 聚落構造改善, 農工團地造成, 農漁村用水供給源擴充, 上下水道整備등 농어촌을 定住生活空間으로 개발하기 위한 사업에 직접 참여하거나 필요한 기술을 지원하는 등 農業構造改善事業을 추진하게 되었다. 이러한 사업을 뒷받침하기 위한 공사의 자본규모는 1조원으로 하되, 전액 정부에서 現金 또는 現物로 出資토록 할 것이다.

2. 農地購入資金등 支援

영농규모 확대를 재정적으로 지원하기 위해 '90년중에 農地管理基金을 설치하여 '93년까지 2조원의 기금을 확대조성함으로써 동기금에서 農地購入資金, 農地賣買事業資金, 農地長期貸借先給金등을 지원할 계획이다. 먼저 영농의욕은 있으나 경제여력이 없어 농지를 구입하지 못하는 농민에게 장기저리의 농지구입자금을 지원하여 영농규모의 확대를 유도함으로써 이들을 專業農家로 육성해나갈 계획인데 '90년에는 1,600억원을 확보하여 년이 5%, 2년거치 18년상환 조건으로 가구당 1,100만원 한도내에서 지원하고 있다.

支援對象者는 현재0.5-1.5ha 미만의 농지(35세미만의 경우 0.5ha미만도

포함)를 소유하고 있는 농민중 營農意慾과 農漁村定着意慾이 강한 농민이며 非自耕農地 구입에 자금을 우선 지원함으로써 耕者有田을 실현해 나갈 것이다.

<表 2-3-1> 農地購入資金 支援實績 및 計劃

	支 援 規 模	支 援 農 家 數	購入農地面積
	億 圓	千 戶	千 ha
'88	1,994	34	13
'89	1,998	23	10
'90(計劃)	2,000	20	8

註：'90計劃中 支援規模에는 農漁村振興公社 買入分 400億圓을 포함.
資料：農林水産部 農業構造政策局

아울러 農漁村振興公社가 非農民所有農地와, 轉業을 희망하는 영세농가의 농지를 매입하여 영농의지와 능력있는 농가에 長期分割償還條件으로 매도함으로써 專業農家의 영농규모확대와 아울러 耕者有田을 촉진할 계획이며 금년도에는 사업자금으로 400억圓을 확보하여 하반기에 지원할 계획이다.

한편 轉業을 희망하는 영세농가가 農漁村振興公社에 농지를 長期(5~10년)賃貸할 경우 공사에서 賃借料를 일시에 全額 先支給한후 專業農家에 再賃貸하여 專業農家로부터 임차료를 매년 分割償還토록 함으로써 專業農家의 영농규모확대와 아울러 농업만으로 생계유지가 어려운 농가에 대하여는 안심하고 다른 職業에 就業할 수 있도록 지원할 계획이며 이를 위해 '90년에는 사업자금으로 200억圓을 확보하여 하반기에 지원할 계획이다.

3. 農地賃貸借管理法 施行

현실적으로 이루어지고 있는 農地賃貸借 關係를 合法化하여 賃貸人에게는 所有權을 보호해주고, 賃借人에게는 3년이상 計劃營農保障등 賃借權

을 보장해 줌으로써 농업의 생산성을 제고시키기 위해 '86.12.31 제정 공포한 農地貸貸借管理法의 시행령을 제정, 금년 9월에 시행할 계획이다.

이와 아울러 지역주민에 의한 자율적 農地管理體制를 확립해나갈 수 있도록 구·시·읍·면단위에 農地管理委員會를 설치·운영하고 각농가별로 農地所有 및 耕作狀況을 파악하고자 農地原簿를 재정비해나갈 계획이다.

4. 農地關聯 稅制改編

土地公概念導入의 일환으로 '90년도에는 綜合土地稅와 土地超過利得稅導入등 세제개편을 통해 非自耕農地에 대하여는 重課稅함으로써 賣渡를 유도하는 한편, 이를 農漁村振興公社가 매입하여 專業農家에게 매도하거나 비농민 소유농지를 매입하는 專業農家에게 農地購入資金을 지원함으로써 점진적으로 耕者有田을 실현해나갈 계획이다.

이에 따라 綜合土地稅制(土地分에 대한 財産稅)上 自耕農地에 대하여는 종전과 같이 分離課稅(課標의 0.1%)하게 되나 非自耕農地에 대하여는 세율을 대폭상향 조정하여 合算課稅(과표의 0.2-5%)하게 된다.

한편 土地超過 利得稅制上으로는 超過利得發生時 自耕農地에 대하여는 非課稅되나 非自耕農地에 대하여는 超過利得의 50%를 세금으로 부과하게 된다.

아울러 租稅減免規制法을 지난해에 개정하여 농어촌진흥공사에 農地讓渡時는 讓渡所得稅를 50%를 감면토록 하였다.

5. 營農組合法人の 設立支援

우리나라 農家戶當 耕地面積이 1.2ha로 영세하고, 1ha미만의 零細農이 全體農家の 62%를 차지하고 있는 실정임을 감안하여 1ha미만의 영세농이 法人格을 가진 營農組合法人을 설립하여 농지를 소유하고 전문적인 協同營農을 할 수 있도록 農漁村發展特別措置法 제정시 法的根據를 마련

하였다.

이는 영세농민이 農地・農機械等 現物을 出資하여 營農組合法人을 설립할 수 있도록 함으로써 共同營農을 통한 農業生産性 提高, 營農規模化에 따른 生産費 節減, 農業機械化로 절감된 人力의 農工團地 就業等으로 農家所得増大의 효과를 기대할 수 있을 것이다.

營農組合法人の 組合員이 될수 있는 농민의 자격은 조합법인 사무소의 소재지와 동일 또는 連接한 市・郡에 거주하면서 3년이상 營農에 종사하고 있는 1ha미만의 農地所有者 또는 이에 상당하는 규모의 가축을 사육하는 자로서 1家口當 1人에 한하도록 하였으며, 조합원의 자격을 가진 농민 5인이상이 定款을 작성하여 사무소 소재지를 관할하는 登記所에 設立登記를 하면 성립되도록 하여 설립을 자유롭게 하였다.

이러한 營農組合法인에 대해서는 농민이 농업을 경영하는 것과 같은 稅制上 支援을 하여 출자에 따른 讓渡所得稅, 法人稅, 배당에 따른 所得稅 등을 감면하는 한편, 同法人은 法人格을 가진 농민이므로 一般農家に 준하여 農地購入資金, 農機械購入資金, 營農資金등의 金融上支援과 市・郡, 農村指導所, 農・水・畜協을 통한 經營 및 技術指導를 중점적으로 실시할 계획이다.

한편 효율적인 組合法人設立을 위하여 “營農組合法人 定款例”를 작성 고시하여 이를 정관작성의 기준으로 이용토록 권장할 계획이다.

第2節 農業勞動力 不足解消

1. 農業勞動力의 構造 變化

'80년대 후반기부터 産業化와 工業化에 따른 離農 現象으로 영농에 필요한 農村勞動力 不足現象이 深化되고 있다.

특히 建設과 3次産業 分野의 인력수요 증가는 농촌의 젊은 인력 유출

을 더욱 촉진시키고 이에따른 농촌인력의 老齡化와 婦女化는 農村勞動力의 質的低下를 초래하여 農業勞動力 不足現象을 가중시키고 있다.

<表 2-3-2>

農村勞動力 推移

(單位：千名, %)

	'70	'80	'85	'89	年平均 增加率	
					'71~'80	'81~'89
總 農 家 人 口	14,422	10,827	8,521	6,786	△2.8	△2.3
農 林 漁 業 就 業 者 數	4,846	4,654	3,733	3,420	△0.4	△3.4
(50歲以上比重)	(26.7)	(32.2)	(41.0)	(53.1)	(1.9)	(5.7)

資料：農林水產統計官室, 經濟企劃院

한편 농촌의 생활수준이 향상되면서 육체적 노동인 농사일을 기피하고, 특히 일손을 많이 필요로 하는 菜蔬, 果樹, 畜産分野 등에서 일손부족 현상이 심하게 나타나 농촌의 勞動力 不足現象은 심각한 지경에 까지 이르고 있으며, 앞으로도 더욱 심화될 것으로 우려된다.

農村賃金面에서도 '80년도에 成人男子 1日當 6,509원이던 勞賃이 '89년에는 15,162원으로 2.3배 증가하여 농촌인력을 구하기가 더욱 어렵게 되었으며, 더우기 賃金外에 지급되는 給食物 平價額도 크게 증가되어 농민들의 營農費 負擔을 가중시키고 있다.

따라서 농촌의 不足人力에 대처하고 生産性 向上을 위해 農業機械化을 지속적으로 추진하며 農漁民後繼者 育成과 農漁民에 대한 教育強化등 農漁村 人力을 적극개발할 필요성이 크게 높아졌다.

<表 2-3-3>

農村勞動賃金 推移

(單位：원)

	'75	'80	'85	'89
現 金 支 給 額	978	4,746	7,082	11,605
給 食 物 平 價 額	489	1,763	2,613	3,557
計	1,467	6,509	9,695	15,162

註：成人男子 기준
資料：農協中央會

2. 農漁村 人力開發

가. 農漁民後繼者 育成

農林水産業이 경제여건 변화속에서 성장하는데 여러가지 조건이 수반되어야 하나 그중에서도 필요한 人力을 확보하여 農業勞動生産性이 他分野 勞動生産性에 접근토록 하는 것이 매우 중요하다.

그러나 현실적으로 볼때 68년부터 상대적으로 감소한 농업노동력은 77년에 이르러 절대수가 감소하기 시작했고, 質的인 면에서도 高齡化, 婦女化現象은 생산력을 둔화시키고 農漁村社會開發을 침체시키는 요인이 되었다.

이에따라 '80년 11월 農漁民後繼者育成基金法을 제정, 농어촌에 정착하여 營農·營漁에 종사하고자 하는 의욕이 있는 젊은 농업인을 대상으로 農漁民後繼者를 육성 지원하였다.

그 결과 '81년부터 '89년까지 農漁民後繼者를 45,444명 선발지원 하였고, 앞으로도 全國自然部落 67,400個所當 1人씩의 육성 목표를 두고 매년 2,000명씩 육성할 계획으로 금년에는 2,000명 선정에 214억원을 지원할 계획이다.

<表 2-3-4>

農漁民後繼者 育成現況

(單位：名, 億원)

	'87까지	'88	'89	'90(計劃)
育 成 人 員	39,444	4,000	2,000	2,000
資 金 支 援	2,811	351	194	214

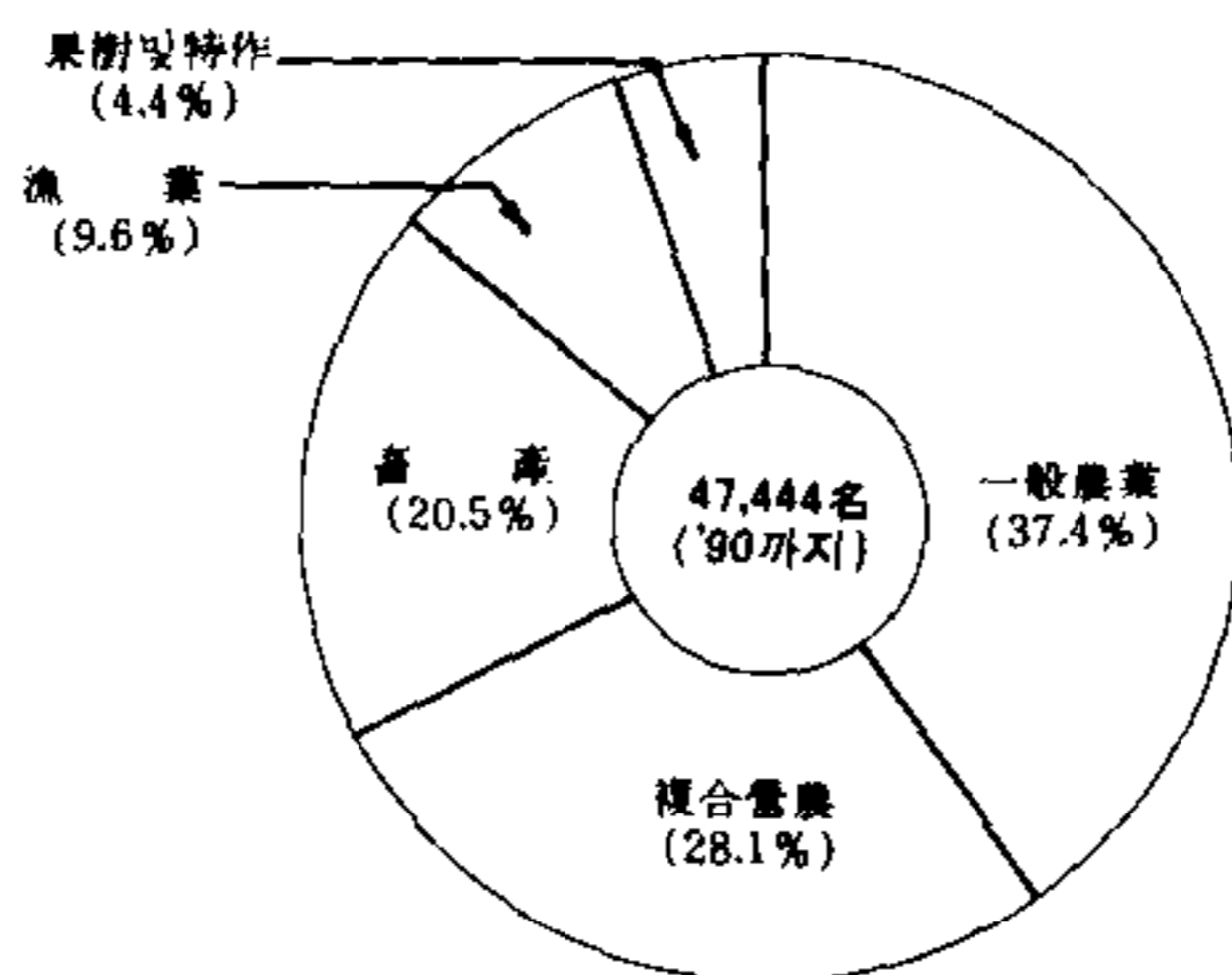
資料：農林水産部 農業構造政策局

또한 이들을 사업별 분포를 보면 農業分野가 90.2%, 漁業이 9.8%수준이며 畚(田)作, 果樹, 特殊作, 畜産, 複合營農 등 분야별로 균형지원을 하고 있다.

農漁民後繼者 육성에 보다 專門的 內實化를 기하기 위하여 종래의 後

繼者 選定, 資金支援, 教育訓練, 事後指導, 海外研修 등의 관리사무를 農林水産部, 農村振興廳, 水産廳, 農協등 필요에 따라 업무를 추진하여 體系性이 결여되었으나 '90년도부터는 農林水産部에서는 후계자 육성에 관한 政策開發과 資金確保 등 主要政策을 추진하고, 農村振興廳(水産廳: 漁民)

<그림 2-3-1> 事業別 農漁民後繼者 育成現況



資料: 農林水産部 農業構造政策局

에서는 농촌인력의 체계적인 양성을 위해 대상자의 선정, 技術經營教育, 海外研修 및 事後管理 등을 담당하고, 農水畜協은 與信管理, 生産物의 共同出荷를 지원토록 하였다.

한편 農漁民後繼者들에게 자금지원과 병행하여 國內外 教育訓練을 실시하는 바 신규선정자에 대한 전문교육을 1週日間 합숙을 통해 2,000명에 대해 실시할 계획이며, 既存後繼者에게는 作目別 補修教育을 900명 대상으로 실시함과 동시에 금년 처음으로 실시하는 現地 研鑽教育은 현지농장에서 발생하는 問題点으로 11,260명에 대하여 실시할 계획이다.

또한 作目別 專門技術協議會를 활성화시키고 後繼者 農場을 示範農場으로 지정하여 4-H會員과 農高生의 實習農場으로 활용토록 하는등 성공적인 營農 定着指導에 힘쓸 것이다.

그리고 先進農業技術 習得을 위한 海外研修도 '89년 日本과 中華民國

110명에 이어 '90년도에 中華民國 46명, 日本 72명등 118명에 대해 실시할 계획이다.

나. 專業農 育成

앞으로의 농가별 지원방향은 과거 개별농가의 특성을 고려치 않고 획일적 균일한 정책지원 형태에서 탈피하여 개별농가별로 經濟的基盤, 勞動能力, 營農規模 및 將來希望에 따라 3가지의 選擇的 支援政策으로 전환시켜야 할 것이다.

- 첫째, 勞動能力이 있고 영농을 희망하는 농가는 專業農으로 육성하고,
- 둘째, 勞動能力은 있으나 농외취업을 희망하는 농어가는 農工地區就業 등 職業斡旋과 職業訓練 등을 도와주며,
- 셋째, 勞動能力이 없으며 노령이거나 빈곤한 농가는 社會保障側面에서 農民年金制度, 學資金 支援 등의 시책을 수립하여야 할 것이다.

'90년도 현재 專業農 育成對象農家は 1,332천호로 전체농가 1,772천호의 75%를 차지하고 있으나 이들의 年齡構造를 감안할 때 2001년에는 약 570千戶가 될 것으로 추산된다.

2001년의 專業農의 발전된 목표는 규모의 경제를 실현키 위하여 영농 규모를 2.7ha수준으로 정하여 이들이 생산한 농산물이 국민에게 良質食品의 안정적 供給源으로 기반을 구축하는 한편 농가소득이 국민1인당 GNP 수준으로 부상하는데 목표를 정하였다.

따라서 年次的 支援體系는 먼저 영농규모 확대를 위한 農地購入資金과 綜合金融支援인 農業施設資金 및 短期營農資金 등의 지원이 지속될 것이며, 아울러 영농기술 및 농업경영 기술향상을 위한 國內教育訓練 뿐만 아니라 수입개방등을 극복하기 위한 先進農業國 海外研修 등 人力開發에도 역점을 두었다.

금년중 專業農에 대한 지원내용을 보면 農地購入資金은 앞에서 본 바와 같이 2,000억원이 지원될 것이며 海外研修는 水稻, 園藝, 花卉, 酪農,

養畜, 複合營農, 林業등 6개분야에 일본, 화란, 덴마크, 호주, 뉴질랜드, 미국등에 200여명을 연수시킬 계획이며, 종합금융지원을 위해 농어촌발전기금에서 50억원을 확보하였다.

한편 農漁民後繼者와 專業農 육성과의 관계를 살펴보면 農漁民後繼者育成事業과 專業農育成事業의 정책목표와 지원대상 및 지원방법은 농어촌에 정착하여 영농에 전념하는 젊은 專門農業人을 육성한다는 차원에서 볼때 거의 大同小異하다. 다만, 專業農育成은 영농을 의망하는 자에 대해 農地購入資金 등을 지원하여 영농규모를 확대시켜 2000년대에 이들로 하여금 전국민에게 농산물을 안정적으로 공급할 수 있게 하며 농가소득이 都市勤勞者 家計所得 수준과 거의 동일하게 육성하는데 있다.

따라서 農漁民後繼者의 경우는 농촌인력 확보차원에서 육성시책이 지속되며, 후계자의 연령과 영농경력등을 감안하여 장기적으로 專業農隊列에 참여케 된다. 왜냐하면 35세이하로서 일단 후계자로 선정된 자가 영구히 후계자로 불리우는것보다 계속적인 지원강화로 앞으로의 농촌과 농업을 이끌고 나갈 指導者로서의 專業農으로 位相定立이 바뀌어지는 것이 보다 바람직스럽기 때문이다.

다. 農村活力化를 위한 農業專門人力 養成

농촌을 활력화하고 地域農業發展을 주도할 專門人力 양성을 위하여 農村指導者, 農民後繼者 및 4-H會員을 상호 연계시켜 중점 육성 지도하며 이들을 통하여 새精神運動을 적극적으로 펴나갈 계획이다.

農村指導者는 영농에 성공한 農村指導者인 동시에 지역발전을 先導하는 指導者로서의 역할을 다 할 수 있도록 지도하며 6만여 회원을 금년까지 10만명으로 확대하고 특히 금년말 예정인 全國 農村指導者 大會를 통하여 단합과 결속을 다져 새로운 農村指導者像 정립의 계기를 마련할 계획이다.

한편 13천회 271천명의 4-H회원은 영농회원과 학생회원으로 구분하

여 건전하고 생산적인 농촌후계 세대로 육성하기 위해 지도하고 있으며 작년에 이어 금년에도 示範農場教育 500명, 課題教育 19천명을 계획대로 추진하고 특히 건전한 職業觀 확립을 위해 6천명을 대상으로 進路指導教育을 실시할 계획이다.

아울러 이들에 대해 농축산물의 수입개방과 商業農에 대응하여 지역특성에 맞는 所得作目 중심의 기술교육을 실시하여 自立經營 능력이 배양되도록 할 것이다.

한편 금년 겨울 農民教育은 농민의 교육 희망 需要調査 결과에 따라 綜合班, 專門班, 生活改善班으로 나누어 1,306천명을 대상으로 作目別 營農技術, 生活改善, 主要施策에 관한 교육을 실시하였다. 所得作目 專門技術教育은 '89년에 中央, 道, 市郡單位에서 94,450명을 대상으로 실시하였으며, 금년에는 312천명을 대상으로 교육을 실시할 계획이다.

<表2-3-5> 年度別 겨울 農民教育 現況

年 度 別	計	綜 合 班 (食糧作物班)	專 門 班 (所得作目班)	生活改善班
	千名			
'81	2,024	1,730	294	—
'82	1,889	1,651	238	—
'83	2,776	1,779	997	—
'84	2,558	1,563	914	81
'85	2,786	1,577	1,007	202
'86	2,633	1,457	967	209
'87	2,555	1,137	1,221	197
'88	2,432	998	1,227	207
'89	1,480	988	333	159
'90	1,306	880	279	147

註：'88년까지는 食糧作物班, 所得作目班으로 區分 實施

資料：農村振興廳

3. 農業機械化 促進

가. 農機械 供給擴大

'80년대 후반들어 농촌노동력 부족현상의 심화에 따른 勞賃의 급격한 상승과 重勞動 忌避, 그리고 수입개방화에 따른 국제경쟁력 제고 등의 제반 문제를 해결하기 위하여 농기계 확대보급의 필요성이 더욱 절실해지고 있다.

농업기계 공급방향은 移秧機, 收穫機 등 水稻作 一貫 機械化 對象 機種을 우선 확대공급하여 수도작의 경우 農作業 機械化率을 '89년 70%에서 '92년에는 80%로 높일 계획이며, 기계화율이 저조한 田作分野는 果樹, 菜蔬, 園藝, 特用作物 등 주산단지 중심으로 多目的 管理機를 보조공급하여 기계화율을 높여가고 있다.

이를 위해 '89년에는 農業機械購入資金 2,309억원을 지원하여 耕耘機 37천대, 移秧機 29천대, 收穫機 19천대, 管理機 17천대, 트랙터 10천대 등 총 116천대를 공급하였으며, '89년말 농가의 농기계 보유량은 2,364천대로서 '88년말보다 98천대 증가하였다. 한편 '89년말 현재 주요 농기계의 농가당 보급율을 보면 농가 100호당 경운기 41.7대 트랙터 1.8대, 이앙기 6.3대, 수확기 5.0대이다.

이처럼 늘어나는 농기계 구입으로 인한 농가의 부담을 완화시켜주고자 '89.1.1일부터 농기계 44개 기종에 대하여 附加價値稅 零稅率 적용으로 농기계 가격이 9.1% 인하되었으며, 아울러 農機械用 免稅油 458천kl(2,290천 D/M)를 공급하여 161억원의 농가 부담을 경감시켰다.

'90년에는 2,900억원의 農機械 購入資金을 융자지원하여 145천대의 농기계를 공급하되 移秧機, 收穫機등 勞動力 代替 機種과 果樹, 菜蔬, 園藝等 田作分野의 機械化 促進을 위하여 多目的 管理機의 공급에 역점을 둘 계획이다.

또한 農業用 免稅油 676천kl(3,380천 D/M)를 공급하여 245억원의 농가부담을 경감할 계획이다.

<表 2-3-6> 年度別 農機械供給 및 資金支援 (單位：臺, 百萬元)

區 分	'75	'80	'85	'88	'89	'90(P)
耕 耘 機	27,970	61,237	62,019	49,743	37,095	55,000
트랙터	200	562	2,719	8,088	10,277	8,000
移秧機	—	9,033	11,924	23,651	28,563	27,000
바인더	—	4,204	3,769	9,288	9,092	10,000
콤바인	—	790	3,191	6,761	10,066	10,000
乾燥機	—	217	596	1,379	1,917	3,000
管理機	—	—	—	10,521	17,258	30,000
其 他	35,835	41,624	19,608	1,945	2,191	2,000
計	64,005	117,667	103,826	111,376	116,459	145,000
資 金 支 援	15,490	88,215	143,352	227,146	270,982	338,178
融 資	14,967	86,905	131,801	204,922	230,892	290,000
補 助	523	1,310	11,551	22,224	40,090	48,178

資料：農林水産部 農業構造政策局

<表 2-3-7> 主要 農機械 保有臺數 (單位：千臺)

機 種 名	'70	'75	'80	'88	'89
耕 耘 機	11.9	85.7	289.8	725.8	739.1
트랙터	0.1	0.6	2.7	24.6	31.3
移秧機	—	—	11.1	92.1	111.9
바인더	—	—	13.7	44.7	49.8
콤바인	—	0.1	1.2	25.2	32.9
管理機	—	—	—	15.0	30.1
防除機	45.0	137.7	331.9	663.8	676.8
揚水機	54.1	66.0	193.9	312.6	326.5
脫穀機	41.0	127.1	219.9	296.9	284.8
乾燥機	—	0.7	1.6	10.9	13.8
其 他	0.6	0.9	3.4	54.5	66.9
計	152.7	418.8	1,069.2	2,266.1	2,363.9

資料：農林水産部 農業構造政策局

나. 機械化營農團 育成

農機械의 共同購入, 共同利用을 통한 農機械 利用率 제고와 구입비 경감을 목적으로 '81년부터 조성한 機械化營農團은 '89년말 현재 大規模 13,087개소, 小規模 6,269개소 등 총 19,356개소를 조성하였고 '90년도에는 6,500개소를 조성하며 '92년까지 총 40천 개소를 조성하여 마을 당 1개소 이상씩 조성목표로 추진하고 있다.

機械化營農團은 大規模와 小規模로 구분하여 大規模營農團은 平野地의 기계화 영농기반이 다져진 지역을 대상으로 농가 10호이상, 경지 10ha이상의 규모를 대상으로 노동력 대체 효과가 큰 이앙기, 콤바인, 전조기 등을 중심으로 공급하고, 小規模營農團은 中·山間地를 대상으로 농가 5호 이상, 경지 5ha 이상의 규모로 이앙기, 소형 콤바인 등을 지원하며 지원 조건은 補助 50%(국고 25%, 지방비 25%) 融資 40%, 自擔 10%이다.

'89년도에는 35,323백만원을 보조하여 대규모 3,123개소, 소규모 3,106개소 총 6,229개소의 영농단을 새로이 조성하여, 트랙터 2,418대, 이앙기 6,354대, 콤바인 5,737대 바인더 612대, 전조기 986대 등 총 16,305대를 공급하였다.

今年度에는 대규모영농단 3,000개소, 소규모영농단 3,500개소 등 총 6,500개소를 신규 조성함에 있어서 39,784백만원을 보조하고 31,829백만원을 융자할 계획이다.

한편, '91년부터는 농촌 인구의 老齡化, 婦女化 및 농외취업 등으로 농업 경영이 곤란한 농가의 營農便宜와 農業生産性を 향상시키고 농가의 過投資 防止를 위하여, 영농작업을 代行해주는 委託營農會社를 설립지원할 계획이며, 이를 촉진하기 위해 법인세, 소득세 등 세제감면과 영농자금등도 확대지원 할 것이다.

<表 2-3-8>

機械化營農團 造成計劃

(單位：個所, 億圓)

	目 標 (’92末)	’89累計	’90 支 援 內 譯				
			事 業 費	計	國 費	地方費	融資, 自擔
計	40,000	19,356	6,500	796	199	199	398
大規模	22,000	13,087	3,000	465	116	116	233
小規模	18,000	6,269	3,500	331	83	83	165

資料：農林水產部 農業構造政策局

다. 委託營農會社 設立推進

農業勞動力의 不足等으로 농업경영이 곤란한 농가의 營農便宜와 農業生産性 향상을 도모하기 위해 농민이 희망할 경우 委託營農會社를 設立運營할 수 있도록 農漁村發展特別措置法에 그 근거를 마련하였다.

委託營農會社가 설립운영 되게 되면 人力 부족으로 농업경영이 곤란한 농가의 農作業을 代行해주므로써 營農便宜에 기여하고, 농가의 農機械를 直接所有하지 않고도 영농을 할 수 있게 되어 농기계로 인한 固定費用負擔等を 덜어 줄 수 있는 효과를 얻게 된다.

이러한 委託營農會社를 설립하고자 하는자는 설립하고자 하는 委託營農會社의 所在地와 同一한 市·郡내에 居住하면서 3年以上 農業을 經營하거나 또는 농업에 종사하고 있는 농민으로 국한하여 非農民의 참여를 제한하였고 委託營農會社의 設立形態는 商法上에 規定된 合名, 合資, 有限, 株式會社의 형태로 商法에 정한 절차에 따라 설립하게 된다.

한편 委託營農會社에 대한 지원으로서 자율적으로 설립된 모든 委託營農會社는 租稅減免規制法에 의거 事業開始 年度를 포함하여 4年間은 法人稅가 免除되며 다음 2年間은 100分の 50을 減免받을 수 있고, 委託營農會社의 農業經營이나 農作業 代行 用役에 대해서는 附加價値稅가 면제되며, 그리고 委託營農會社가 구입하는 農藥, 肥料, 農機械等에 대해서는 零稅率이 적용되게 된다.

또한 地方稅法에 의거 委託營農會社가 業務用으로 취득한 財産에 대하

여는 取得稅, 登錄稅, 財産稅 등이 면제된다.

그리고 특히 '94년까지 市·郡當 1個所씩 200個所에 대하여는 農機械 購入資金, 農機械保管 및 整備作業場 施設資金, 運營資金等 各種資金을 補助 및 融資支援하여 重點적으로 육성할 계획이다.

라. 農機械事後管理 및 技術訓練

농기계의 보급확대에 따른 部品供給과 修理等 事後管理支援을 강화하여 農機械 利用度를 향상하고 농민의 불편을 해소하기 위하여, 농기계 생산자와 공급자로 하여금 공급한 농기계에 대하여는 部品供給과 신속한 修理를 책임지도록 하고, 부품취급업체들이 일정량의 부품을 확보토록 부품확보자금을 1년거치 4년 균분상환의 長期低利 조건으로 '89년도에 80억원을 지원하였으며, '90년에는 250억원을 지원할 계획이다.

또한 '90년부터 農村指導機關의 整備教育 및 修理機能을 강화하기 위하여 금년에는 35개 農村指導所에 국비와 지방비 총 490백만원을 보조하여 巡廻教育用 車輛 및 裝備를 지원함으로써 農機械 点檢·整備教育을 실시하고 마을 단위로 순회하면서 故障 農機械를 수리하는 동시에 현장교육을 실시토록 하는 등 年次的으로 191개 농촌지도 기관에 확대해 나갈 계획이다.

한편, 농협으로 하여금 농민의 部品購入 便宜를 도모하기 위하여 道單位에 綜合部品센터를 설치토록 하여 금년에 5개소, '91년 이후 4개소를 설치할 계획이며, 시설은 농협 자체부담으로 하되 部品 確保資金은 정부에서 용자지원 할 계획이다.

그리고 농기계의 運轉 操作과 整備 能力을 培養하여 농기계의 利用率을 높이며, 농기계이용에 따른 安全事故 豫防을 위하여 農村指導機關을 중심으로 農機械 技術訓練을 실시하며 훈련과정의 전문화로 농기계 기술 훈련에 내실을 기하고 있다.

농기계 기술훈련은 중앙단위인 農村振興廳에서는 教官要員 및 修理技

<表 2-3-9>

農機械 事後奉仕施設 設置現況

(單位：個所)

	'80	'85	'86	'87	'88	'89
整備施設	—	24	28	26	29	30
部品센터	—	34	34	25	27	26
代理店	508	640	654	729	741	724
修理店	966	2,363	2,411	2,425	2,444	2,414

資料：農林水産部 農業構造政策局

士等 專門技術 人力을 양성하고 道單位 農民教育院에서는 機械化營農團 要員을 중심으로 大型機種을 포함한 綜合訓練을 실시하며, 郡單位 農村指導所에서는 婦女子 및 小型機種의 실수요자에 대한 操作訓練 및 補修教育等を 실시하고 있다.

또 트랙터, 콤바인 등 大型精密機種에 대하여는 농기계 구입전에 생산 업체에서 사전에 기술훈련을 이수하여야 용자지원을 받을 수 있도록 제도화 하였다.

<表 2-3-10>

農業機械 技術訓練 實績

(單位：千名)

	'85까지	'86	'87	'88	'89	'90(P)
計	1,380.7	187.0	74.6	82.4	89.8	86.4
專門技術人力	18.0	2.3	2.1	3.0	3.6	3.0
青少年機能士補	28.9	2.3	2.1	—	—	—
婦女子	104.4	10.5	10.2	5.5	5.2	5.0
實需要者	1,229.4	171.9	60.2	73.9	81.0	78.4

資料：農林水産部 農業構造政策局

한편, 訓練施設 및 裝備의 확충으로 기술훈련의 內實化를 기하기 위하여 '89년도에 925백만원을 보조지원(국고 450, 지방비 475)하여 트랙터, 콤바인, 이앙기등 訓練用 農機械 184대를 지원공급하여 '89년말 현재 訓練用 農機械 4,340대를 확보하였으며, '90년에도 966백만원(국고 483, 지방비 483백만원)의 예산을 확보하여 트랙터 30, 콤바인 40, 관리기 40, 이앙기 30대등 총 140대를 보조지원 할 계획이다.

또한 생산업체의 技術訓練施設의 신규설치에 필요한 소득자금 중 20억 원을 '89년도에 15억원, '90년에 5억원 각각 용자 지원하여, 訓練施設 및 裝備의 現代化로 농기계 기술훈련의 내실화를 기할 것이다.

第3節 農業生産基盤의 擴大造成

1. 耕地整理事業의 擴大

기계화영농의 기반이 되는 耕地整理事業은 1차 對象面積 706천ha(傾斜度 1/50이하, 1團地規模 10ha이상인 지구를 대상 '79년도 조사)중 '89년 봄까지 542천ha를 개발완료함으로써 耕地整理率은 77%에 달한다.

한편 농촌노동력의 지속적인 감소에 따른 營農組合法人 및 委託營農會社의 운영확대를 위한 機械化營農 基盤造成의 당위성이 증대되고 있어 1차 대상면적 이외의 구역에 대한 경지정리사업의 확대도 요구되고 있는 실정이다.

따라서 총담면적 1,358천ha에 대한 현재 耕地整理 對象率(52%)을 70% 이상으로 제고할 필요성이 대두되고 있다.

이에 부응하기 위해 1차 대상면적 706천ha의 선정기준을 傾斜度1/15이하, 1단지규모 2ha 이상으로 상향조정하여 2차 耕地整理 對象率을 總 畝面積의 70% 이상(約 1,000 fha)으로 확대하기 위한 검토 작업이 진행중에 있다.

앞으로 경지정리사업은 2차 대상면적으로 확대시행할 -예정이며, 특히 91년 이후 지정될 農業振興地域에 대하여는 집중적으로 지원할 것이다.

금년도 경지정리사업은 '89년 가을에 착수한 35천ha를 이미 마무리하였고 금년 가을에는 27.5천ha를 신규로 착수할 계획으로 있다.

아울러 밭에 대한 경지정리사업은 '86년 및 '87년에 示範事業으로 195ha를 완료하였으나 '88년 이후 농민들의 호응도가 낮아 중단된 바 있

으나 최근 農產物輸入開放等 與件 變動에 따라 再評價分析을 거쳐 필요하다면 '91년이후부터 확대시행해 나아갈 계획이다.

<表 2-3-11>

耕地整理事業 推進計劃

(單位：千ha)

總 畝 面 積	對 象 面 積	'89까지	'90	'91	'93上半期까지
1,358	706	542	35	28	101
果 計		542	577	605	706
比率(%)	(52) ¹⁾	(77) ²⁾	(82)	(86)	(100)

註 1：耕地整理對象率

2：對象面積에 對한 整理率

資料：農林水産部 農換村開發局

2. 安全營農基盤의 持續的 擴充

가. 農業用水開發事業

'81년도에 수립하여 '82년도부터 추진한 農業用水 開發 10個年 計劃에 의거 農業用水開發事業을 꾸준히 시행한 결과 '89년말 현재 水利畝率은 73%에 이르게 되어 물 걱정 없는 농사를 지을 수 있는 영농기반을 어느 정도 조성하게 되었다.

灌溉面積이 50ha이상인 지역을 개발대상으로 추진하고 있는 大·中規模農業用水 開發事業은 '90년에 貯水池 85개지구, 揚水場 15개 지구를 대상으로 사업을 추진하여 7개 지구 1,334ha를 준공할 계획이며, 灌溉面積 50ha미만인 지구에 대해 추진하고 있는 소규모 地表水開發은 '90년에 121개지구 3,780ha를 시행하여 24개지구 662ha를 준공하도록 할 계획이다.

開發與件(立地, 水門條件등)및 투자비 과다등으로 地表水開發이 어려운 旱害常習地域에 대하여는 沖積 및 岩盤管井 178個孔등의 지하수를 개발하여 524ha를 蒙利할 계획이다.

또한 恒久的 水利施設 개발에 적합하지 않은 旱魃 尤甚地域의 用水開

發을 위해 小型管井 8,490個孔, 4,245ha와 河川水를 이용하여 旱魃時 揚水機를 부착하여 급수하는 移動式 揚水施設 87個 地區, 970ha를 개발하는 한편 管井, 揚水裝備들에 대해서도 영농기 이전인 4월말까지 點檢整備 완료함으로써 營農期 農業用水供給에 차질이 없도록 하였다.

이와 함께 水利施設改補修事業을 지속적으로 확대 실시하여 老朽化된 시설을 보강해 나가기 위해 農地改良組合이 관리하고 있는 시설중 노후된 284개소를 改補修 할 계획이다.

이와 아울러 최근 국민소득이 향상되면서 菜蔬, 과일등 밭 작물의 수요가 증가됨은 물론 품질의 고급화가 요구 됨에 따라 밭 作物의 生産性を 향상하기 위한 밭 用水開發事業으로 年內에 大型管井 172개지구, 431ha 및 小型管井 2,608개소, 1,304ha를 시행할 계획이다.

한편 '90년 2월에 農漁村發展特別措置法이 제정공포됨에 따라 그동안 水稻作 위주로만 개발하던 농업용수를 농어촌에서 필요로 하는 生活用水, 農業用水, 環境用水, 工業用水, 水産·畜産用水等を 종합하여 개발하는 農漁村 用水 開發로 전환하여 추진하고자 한다.

이를 위해서 금년부터 '92년까지 農漁村用水利用 合理化計劃을 수립하고자 하며 계획수립이 먼저된 지역은 시범적으로 금년도에 착수코자 검토중이다.

나. 排水改善事業

排水改善 事業은 '70년대초부터 시작하였으나 그 당시에는 대부분의 하천이 未改修된 상태로서 농경지 침수는 당연한 결과였고, 매년 반복되는 旱魃로 인하여 排水改善事業보다는 用水開發에 중점을 둔 상황이었다.

그 후 매년 계속되는 집중호우로 인하여 排水改善事業은 상대적으로 저소득층인 浸水地帶 주민의 숙원사업이 되었고, 특히 '87년도의 西部 忠南地域을 위시한 전국적인 대홍수로 엄청난 인명 및 재산상 피해가 발생함으로써 排水改善事業의 확대실시가 더욱 절실하게 되었다.

현 排水改善 對象面積은 127천 ha로써 '75년까지 10천ha, '80년까지 20천ha, '85년까지 33천 ha가 개발되었으나 대부분의 開發地域이 과거 배수 계획 기준인 48-72시간 浸水許容으로 조치되어 있어, 現 排水計劃 基準인 24시간 이내 浸水排除施設로의 보강이 필요하여 이를 년차적으로 추진 보강할 계획이다.

또한 '90년이후 잔여개발 대상면적인 78천 ha에 대하여는 앞으로 '92년까지 매년 7천ha씩 개발하고, '93년 이후에도 매년 10천 ha씩 개발하여 2000년대 이전까지 개발을 완료함으로써 排水改善事業에 따른 耕地利用率 提高, 營農機械化 促進으로 인한 勞動力 節減, 單位生産量 增加에 의한 所得增大效果외에 동지역의 地價 上昇效果까지 기하므로써 농민이 안심하고 영농할 수 있도록 하는 것은 물론 농가의 絶對資産價値를 높일 수 있도록 추진할 것이다.

<表 2-3-12>

排水改善 事業現況

(單位: ha)

對象面積	75년까지	86년까지	87年	88年	89年	90以後
127,000	9,884 (8%)	38,253 (30%)	6,047	1,703	2,960	78,037 (61%)

資料: 農林水産部 農漁村開發局

3. 大單位農業綜合開發事業

河川水系를 중심으로 一定地域을 圈域化하여 圈域內의 토지와 水資源의 多目的 活用으로 洪水調節 效果와 農業用水의 開發, 耕地整理, 排水改善, 干拓農地의 開發등을 종합적으로 일괄 시행함으로써 개발효과를 극대화시키기 위하여 '70년부터 大單位農業綜合開發事業을 실시하고 있다.

'89년까지는 錦江, 平澤, 慶州, 界火島, 榮山江(I), 昌寧, 臨津, 洛東江, 南江, 美湖川(I)地區等 10個 地區 100천ha에 대하여 國庫 2,949억원과 IBRD, OECF 및 ADB 借款 1,112억원등 總事業費 4,061억원을 투입, 완공하여 8,600ha의 耕地 擴張과 343천 M/T의 食糧增産의 효과를 가져왔

다.

事業施行中에 있는 9個 地區 120천ha에 대하여는 '89년까지 國庫 5,998억원과 IBRD 및 OECF 借款 1,170억원등 7,168억원을 투입하여 45천ha를 개발하였으며, '90년도에는 國庫 514억원과 OECF 借款 70억원등 602억원을 투입, 5천ha를 개발하여 '89년까지의 總工程 49%를 53%까지 제고시킬 계획이며, 이중에는 '78년에 착공하여 총사업비 1,010억원을 투입, 1,841m의 하구둑을 축조하므로써 365백만톤의 水資源을 확보하여 農業用水와 生活用水 및 工業用水 공급함과 아울러 西海岸 開發에 대비한 仁川-木浦間 西海岸 高速道路 및 長項-群山間의 鐵道 連結 基盤을 마련한 錦江 河口둑等 2個 地區를 완공하는 계획이 포함되어 있다. 한편 大單位 農業綜合開發事業을 지속적으로 추진하기 위하여 '90년에 調査費 10억원을 투입한 洪保地區를 '91년에 新規地區로 선정하는등 '91년에는 8개 地區를 추진할 계획이다.

<表 2-3-13>

大單位農業綜合開發事業 推進現況

(單位：百萬元)

地區名	開發面積 (ha)	事業期間	總事業費	'89까지	'90계획	'91	'92以後	累計進度(%)	
								'89까지	'90
計	119,430		1,640,029	716,840	60,194	83,540	778,455	44	47
(小計)	111,330		1,471,729	716,840	60,194	79,540	615,155	49	53
榮山江(Ⅱ)	20,700	'76-'93	280,861	195,416	14,000	22,000	49,445	70	75
大湖	7,700	'80-'92	162,000	104,169	9,100	14,900	33,831	64	70
插橋川	24,700	'75-'92	223,000	195,996	6,639	10,640	9,725	88	91
錦江(Ⅱ)	43,000	'89-2004	415,815	2,585	3,000	5,000	405,230	0.6	1.3
美湖川(Ⅱ)	4,430	'89-'94	79,065	2,415	3,000	5,000	68,650	3	7
論山	10,800	'78-'90	93,858	91,688	2,170	-	-	98	100
榮山江(Ⅲ-I)	(12,200)	'89-'91	70,116	26,871	13,985	17,000	12,360	38	58
榮山江(Ⅲ-II)	(6,800)	'89-'93	46,014	2,000	3,000	5,000	36,014	4	11
錦江河口둑	(43,000)	'83-'90	101,000	95,700	5,300	-	-	95	100
洪保	8,100	'91-'99	168,300	-	(1,000)	4,000	163,300	-	-

註：()은 '90調査費임.
資料：農林水産部 農漁村開發局.

第4節 農漁村定住生活圈 開發

1. 推進背景

국가경제의 성장에 따라 전반적으로 국민소득 수준이 높아지고, 이에 따라 良質의 生活環境 및 教育, 文化施設에 대한 수요가 증대되고 있으나 농어촌지역은 도시에 비해 상대적으로 所得水準이 낮을 뿐만아니라 生活環境 및 教育, 文化施設 등이 낙후하여 農漁民의 士氣低下 및 都市人口集中의 원인이 되고 있다.

이에 따라 농어촌지역을 生活環境, 生産基盤 및 教育文化施設 등의 합리적인 整備擴充 등을 통해 쾌적하고 안락한 도시수준의 田園都市 形態로 건설하여 전인구의 25% 수준까지 農漁村地域에 定住토록 유도하기 위하여 농어촌 발전 종합대책의 일환으로 農漁村定住生活圈 開發事業을 추진하게 되었다.

2. 事業推進 概要

開發 對象地域은 전국의 面地域을 원칙으로 하되, 奧地開發促進法 및 島嶼開發促進法에 의해 개발지원되는 落後地域面을 제외할 全國 794個面을 대상으로 실시할 계획이며, 地域類型別 對象地域面數는 아래와 같다.

<表 2-3-14>

地域類型別 對象地域

類 型 別	總 面 數	定住生活圈 開發對象	除 外 對 象			
			計	奧地地域	島嶼地域	無人面
計	1,260개면	794	466	403	53	10
都 市 近 郊	54	53	1	1	—	—
平 野 地 域	321	277	44	44	—	—
中 間 地 域	329	212	117	112	—	5
山 間 地 域	320	116	204	199	—	5
海 岸, 島 嶼 地 域	236	136	100	47	53	—

資料：農村振興廳

開發 對象事業은 農漁村地域의 生活環境施設, 便益福祉施設 및 產業基盤整備 등 地域住民의 宿願事業에 대해 집중 투자할 계획이며, 주민의 自發的 參與度 및 開發波及效果가 높은 지역을 중심으로 우선 투자할 계획이다.

한편 사업추진 체계를 보면 군수는 農漁村發展特別措置法에 의거 農漁村 定住生活圈開發事業을 원활히 추진하기 위하여 農漁村振興公社에 委託樹立한 開發計劃書에 대하여 公聽會를 통해 지역주민의 의견을 적극 수렴 반영하여 개발계획을 수립할 것이다.

그리고, 이를 郡 및 道 農漁村發展審議會를 거쳐 농림수산부가 주관하는 關聯部署로 構成된 中央單位 定住生活圈開發委員會의 심의를 거쳐 확정된 대상지역에 대하여 군수는 사업계획을 수립하여 실시한다.

<表 2-3-15> 定住生活圈 開發對象事業

	對 象 事 業
生活環境施設	農漁村道路, 마을內 道路, 地域排水, 街路燈, 農漁村用水(上, 下水道), 쓰레기處理場, 住居環境改善(부엌, 변소), 下水終末處理場 等
便益福祉施設	社會會館(圖書館, 老人福祉施設, 休憩施設), 病院救急車, 公園開發, 體育施設, 어린이놀이터, 私的便益施設(沐浴湯, 駐車場 等)
產業基盤施設	農路整備, 農漁村用水, 共同利用施設 等

事業推進은 '90년부터 2000년까지 第 1段階로 10개년 계획을 수립하여 전국 794個 面을 대상으로 年次的으로 확대 실행할 계획이며 우선 '90년에는 示範事業으로 전국 16個 面을 대상으로 국고 32억, 지방비 80억, 용자 96억 등 總 208억이 지원되며, 3개년동안 투자개발하여 농어촌지역을 安樂하고 快適한 定住生活圈으로 건설할 계획이다.

<表 2-3-16>

'90 示範事業 支援計劃

事業內容	事業量	事業費			
		計	國庫	地方費	融資
聚落整備事業等	16個面	64億	32	32	—
農漁村用水	〃	96	—	48	48
住民生活與件改善	〃	48	—	—	48
合計	16個面	208	32	80	96

註：融資는 農漁村發展基金임.

資料：農林水産部 農漁村開發局

第 5 節 農業振興地域 指定推進

現行 農地의 保全 및 利用制度는 “農地의 保全 및 利用에 관한 法律”에 근거하여 絶對農地, 相對農地로 구분하여 관리하고 있으며, 이 제도의 운영으로 농지의 絶對面積 確保에는 상당한 효과를 거두어오고 있으나,

産業化, 都市化 등 사회여건이 급격히 변화하는 과정에서 현행의 筆地別 保全方式으로서는 농지의 效率的인 保全, 合理的인 利用등에 限界性이 드러나게 되었다.

이에 따라 현재의 筆地別 保全方式에서 圈域別 保全方式으로 전환하여 優良農地는 農業振興地域으로 지정하고, 우량농지의 農業環境을 보호하기 위하여 保護區域을 지정하며, 山間溪谷農地, 限界農地등은 지정대상에서 제외하여 他用度 利用을 용이하게 하므로서 국토이용의 효율성도 제고하고자 하였다.

'90년에는 農業振興地域 指定의 合理的 基準設定을 위하여 道別 2個郡씩 지대별 표본군을 대상으로 豫備調査를 실시하여 진흥지역지정 기준을 마련하고, 동 기준에 따라 '91-'92년에 걸쳐 전국 시군을 대상으로 現地 調査를 실시, 진흥지역을 본격적으로 지정할 계획이다.

<表 2-3-17> 農業振興地域 指定基準設定을 위한 '90豫備調査 計劃

區 分	總 計 劃	對 象 市 郡	備 考
計	8個道 16個市郡		○ 調査費 : 480百萬元
平 野 地	6個郡	平澤, 鎭川, 唐津, 金堤, 咸平, 醴泉	○ 事業施行者 : 農漁村振興公社
中 間 地	5個郡	橫城, 沃川, 公州, 聞慶, 固城	
山 間 地	5個郡	漣川, 襄陽, 鎭安, 和順, 山淸	

資料: 農林水産部 農業構造政策局

第 6 節 農業技術開發促進 및 農村指導

1. 農水産特定研究開發事業 推進

농수산자원의 효율적인 開發利用과 농수산업의 生産性向上을 위한 기술개발로 農漁家所得増大를 도모하고, 수입 개방화시대하의 競爭力提高를 위하여 農漁村發展綜合對策의 일환으로 農水産特定研究開發事業을 '90년부터 추진할 계획이다.

研究課題로서는 먼저 농업분야의 경우, 수출유망작목의 品質向上과 生産性増大, 주요작목의 省力技術開發, 農家經營構造改善등 25개 課題, 水産分野는 養殖漁場 底質改善 技術開發등 3개 課題, 林業分野는 短期 林産新所得開發 등 4개 課題등 총 32개 課題를 선정하여, 대학교 및 연구기관의 분야별 전문가에 '90. 5월 연구를 의뢰하여 추진중에 있다.

이러한 연구사업을 뒷받침하기 위한 연구비로서는 '90년중 1,140백만원 (농업 740, 수산 200, 산림 200)을 투자할 계획이다.

<表 2-3-18> 農水産特定研究開發事業 研究課題

分 野 別	研 究 課 題 名
<農業分野: 25個課題>	
1. 輸出有望作目の 品質向上과 生産性増大 研究(6)	○ 果樹輸出擴大를 위한 綜合技術研究 ○ 菜蔬 輸出産業育成 研究

分 野 別	研 究 課 題 名
<p>2. 輸入開放에 對應한 農畜產物 對應作目 技術開發 (5)</p> <p>3. 農畜產物의 安定性 研究 (3)</p> <p>4. 主要作目的 省力技術 開發(4)</p> <p>5. 良質米 生産과 品質體系 確立(4)</p> <p>6. 農家經營 構造改善 研究 (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 輸出用 花卉 品質向上 研究 ○ 輸出 머섯品目 多邊化 研究 ○ 輸出有望 複合絹絲 製品 開發 ○ 輸出規格豚·養鷄 生産技術 研究 ○ 國內賦存作物의 生産現況과 開發 ○ 國內特殊家畜 飼養現況과 開發戰略 ○ 暖地地域 代替作目開發 ○ 施設園藝作物(菜蔬, 花卉) 現代化 ○ 畜産競爭力提高를 위한 總體 飼料生産利用 技術 開發 ○ 農業環境汚染對策 綜合技術開發 ○ 農畜產物의 農藥安全性 研究 ○ 農畜產物의 有害物質 安全性 研究 ○ 農機械賃作業 및 共同利用類型分析 ○ 밭作目 灌水方法 研究 ○ 논물管理 體系의 自動電算化 ○ 양잠管理 作業의 省力化體系 ○ 栽培環境이 米質에 미치는 影響 ○ 良質米生産 流通體系 合理化 研究 ○ 벼후기品質管理實態 및 改善方案研究 ○ 쌀 消費擴大 研究 ○ 農畜產物 產地加工處理 研究 ○ 農外所得 增大研究 ○ 營農規模 增大方案
<p><水産業分野：3個課題></p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 養殖漁場 低質改善 技術開發 ○ 複合養殖開發에 관한 研究 ○ 魚類바이러스 疾病診斷 및 治療技術 開發
<p><林業分野：4個課題></p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 短期林産 新所得源 開發 ○ 間伐材 收穫作業 시스템開發 및 利用度 增進 ○ 林産所得增大를 위한 最適作業方法 技術構造 改善研究 ○ 農産所得增大를 위한 山林資源의 合理的 利用開發 模型研究

資料：農林水産部 農産局

2. 主要作目の 安定的 生産技術 開發普及

가. 벼

벼는 그동안 최대의 育種目標였던 多收性 問題가 해결됨에 따라 새로운 목표를 “高度良質米 品種育成”으로 재정립하여 추진하고 있으며, 國民嗜好에 맞는 良質米 安定生産을 위하여 '89년도에 육성한 4個 新品種등 36個品種을 선정하여 농가에 확대보급하고 있고 高度의 良質米를 생산하여 淸淨米로 가공하여 대도시에 직접 출하함으로써 농가소득을 올릴 수 있는 방안을 모색하기 위해 生産示範團地 32個所를 설치 운영할 계획이다.

<表 2-3-19> '89년도에 育成한 벼 新規獎勵品種의 主要特性

品 種 名	主 要 特 性	收量(kg/10a)
珍 味 벼	良質, 早熟, 多收	486
晴 明 벼	良質, 耐冷, 耐晩植	511
長 安 벼	良質, 干拓地, 適應性	520
五 峰 벼	良質, 早熟, 耐冷	503

資料：農村振興廳

또한 育苗箱子에 싹틔운 종자를 파종한 후 비닐하우스에서 육묘하여 모가 8~10일 정도 자랐을때 本畝에 機械移秧하는 획기적인 벼 省力栽培 技術인 어린묘 기계모내기 기술을 확립하여 '89년도에 시범재배한 결과, 育苗勞力이 87% 절감되고 育苗費用을 54% 절감할 수 있어 농민들로부터 좋은 반응을 얻었다.

이에따라 금년에는 農家栽培面積이 16천ha로 늘어나, 앞으로 이를 확대보급하기 위해 示範團 944個所를 설치 운영하고 지역단위로 演示大會 개최와 中央技術支援團 현지지도등 단계적인 기술지도를 해 나갈 계획이다.

나. 보 리

보리는 加工用, 酒精用 및 飼料用 總體보리 등 각 용도에 알맞는 品種 育成과 生産費節減 및 多收穫 栽培技術開發에 주력할 계획이며, 특히 '89년에 트랙터 附着用 로타리播種機를 이용하여 파종한 후 收穫, 乾燥, 調製까지의 모든 작업을 機械化 一貫作業으로 추진하여 播種時間과 收穫時間을 획기적으로 단축시킬 수 있고 26%의 증수효과가 있는 보리大單位 機械化 示範團地 72個所(881ha)를 조성하므로써 機械化省力栽培의 기틀을 마련하였고, 금년에는 本 示範事業을 150개소로 확대 추진할 계획이다.

다. 콩

콩은 장류콩, 나물콩, 밥밀콩 및 풋콩등 傳統固有食品用 品種開發과 生産費를 절감할 수 있는 多收穫 栽培技術開發에 주력할 것이며, 自給度가 낮은 식용콩의 생산성 향상을 위하여 密植多收性 품종인 短莖種을 확대 보급하고 콩 증산단지에 核心技術을 투입하여 생산성을 높이는 한편 보리 로타리播種機를 활용한 콩 播種示範團 70個所를 설치 운영하는등 機械化 省力栽培技術을 중점 지도하여 재배면적을 확대할 계획이다.

라. 韓 牛

한우는 能力改良과 肉質改善이 주요 연구목표로서 지금까지 수소 위주의 개량을 해왔으나 이제는 암소와 수소 同時改良으로 방향을 재조정하고 18個月齡의 체중을 현재의 500kg에서 550kg으로 상향조정하여 연구를 추진하고 있는 바, 基礎資料를 얻기 위하여 '89년에 都市近郊, 畝裏作地帶, 田作地帶 등으로 구분하여 180농가에 대한 한우 飼育實態를 조사하였고 수소 57두에 대한 能力檢定을 통하여 日當增體가 1.28kg(중전 1.12kg)이나 되는 우량수소 10두를 선발하여 강원도 평창군 4개부락에서 集

團改良을 추진중 이다.

그리고 샤로레, 심넬탈등 交雜種의 良質쇠고기 생산시범 10개소와 마을 단위 韓牛繁殖과 肥育技術示範 274개 마을을 선정하여 畚裏作 飼料의 連繫生産, 肥育促進劑 利用 및 一貫 飼育技術을 지도하여 안정된 소득을 올리도록 할 계획이다.

3. 輸入開放에 따른 對應技術開發과 競爭力 向上

가. 競爭可能性있는 成長作目 集中開發

農畜産物의 輸入開放化에 따른 國內 농업의 보호육성과 농가소득의 지속적증대를 위한 기술적 대응방안을 마련하기 위해 먼저 '89년에 수입개방이 豫示된 143個品目(54作目)을 분석검토한 결과 直·間接으로 영향을 받은 國內 농축산물은 43개작목으로 이중 15個作目은 競爭力이 優位에 있거나 대등하고 28個作目은 競爭力이 劣位에 있거나 약한 것으로 나타났다.

그중 수입개방에 대응하여 우리나라 農畜産物中 國際競爭力이 있고 수출이 가능한 成長作目은 표에서 보는바와 같이 果實類, 花卉類, 菜蔬類, 蠶業, 養豚, 養鷄등이며, 이에 대하여 生産性과 品質向上으로 경쟁력을 확보하기 위해 새로운 品種育成, 栽培技術開發 및 高度省力化를 집중적으로 추진한 결과 '89년에 사과, 배, 포도, 표고버섯 등으로 수출전망이 있는 새로운 품종을 개발하였다.

앞으로 사과, 배는 最高品質의 과일생산기술을 집중개발하고 새로 육성된 품질좋은 果實을 世界各國에 수출하여 選好度를 조사할 것이며, 새기술보급을 위한 示範圃 80個所를 설치하여 農民教育場으로 활용할 계획이다.

<表 2-3-20>

成長可能作目

	作 目
果 實 類	사과, 배, 단감, 매실, 유자, 양다래 등
花 卉 類	장미, 카네이션, 자생화훼 등
果 菜 類	토마토, 딸기, 오이, 수박 등
新 鮮 菜 蔬	무우, 배추, 당근, 양배추, 채소종자 등
蠶 畜	생사, 양돈, 양계

資料：農村振興廳

<表 2-3-21>

輸出展望이 있는 所得作目 開發成果

	品 種 名	主 要 特 性
사 과 배	園交2號, 3號	후지보다 색깔 좋음
	園交7號, 8號	新高보다 바람이 적게 들고 糖度 높음
포 도	清水無核	씨없는 高級포도로 加工用 代替可能
포 고 버 섯	農技3號	툼밭菌床에 알맞는 品種

資料：農村振興廳

花卉類에 있어서는 수출규격에 맞게 切花類의 품질을 향상시키고 수입이 많은 球根類, 苗木類의 집중개발 및 고유특성이 있는 自生植物의 수출 商品化 開發을 중점적으로 추진하고, 示範圃 60개소를 설치하여 꽃재배기술을 보급할 계획이다.

菜蔬는 딸기·수박·토마토·피망 등 日本市場 中心의 輸出作目開發, 品種開發, 加工·貯藏을 연계한 김치의 四季生産技術 開發, 施設栽培의 安全性向上 및 수출전망이 좋은 種子와 種苗의 生産기술을 확립하고 示範圃地 364개소를 설치하여 菜蔬類의 年中 安定生産技術을 보급할 것이다.

버섯은 周年生産技術을 확립하고 수출용 표고버섯의 품질을 향상시켜 시험수출을 추진하는 한편 示範圃 190개소를 설치하여 새품종 및 새기술을 확대 보급할 계획이다.

蠶業에 있어서는 省力養蠶 綜合體系의 확립에 주력하되 南美産 桑葉乾 燥粉末의 活用 가능성을 검토하고 天水畚의 뽕밭대체기술 연구를 적극

추진하며 省力養蠶 綜合技術 시범마을 146개소를 육성하여 速成密植뽕발
造成 및 省力管理, 큰누에가지뽕치기, 收繭機械化等 科學養蠶을 실천토록
할 계획이다.

畜産分野에 있어서는 高能力 젓소의 受精卵 移植技術의 實用化, 對日輸
出 規格豚의 生産技術 및 닭의 飼料利用率 향상 등의 연구를 추진하고,
마을단위 養豚·養鷄協業團地 각 9개소를 설치 운영하여 생산비절감에
의한 生産性向上과 商品性提高에 힘써 기업축산에 대응하며, 豚肉輸出擴
大를 위한 規格豚 生産과 生産費節減을 위한 出荷體重 調節指導에 힘쓰
겠으며, 家畜疾病豫防과 防除技術指導를 강화하기 위해 '90년에 예산이
확보된 15개군에 家畜疾病診斷所를 설치 운영할 계획이다.

나. 競爭力이 弱한 作物에 대한 對應可能作物 開發

경쟁력이 약한 작목에 대하여는 특수 수요가 있는 作物, 小果類 및 殼
果類 등과 같이 成長作物과 경합되지 않는 새로운 作物 및 栽培 減少作
目이라도 고도로 품질향상이 가능한 작목등은 계속 발전시킨다는 전략이

<表 2-3-22> 競爭力이 弱한 作物에 대한 對應作物 選定結果

作物	對 應 可 能 作物
• 강남콩, 완두콩, 조, 수수	콩, 팥, 찰옥수수, 단옥수수, 초당옥수수, 메밀 봄감자, 고구마, 山菜類, 藥用作物, 養蠶
• 호밀, 귀리, 油菜	보리, 봄·겨울감자, 養蠶, 育제用 飼料作物
• 메론	참외형메론, 딸기, 참외, 오이, 토마토(既存施設活用)
• 바나나	生食用 高級포도, 施設감귤, 切花用 花卉類(장미, 글 라디올러스 등), 버섯類
• 파인애플	切花用花卉類(카네이션, 안개꽃, 국화, 백합, 신나팔, 나리 등), 분화류(선인장, 蘭類), 洋菜類, 山菜類(겨 울 生菜用 고사리)
• 양앵두	施設유자, 梅實, 養蠶
• 호두	生食·곶감用 감, 대추

資料：農村振興廳

래 면밀히 分析檢討한 결과, 다음과 같이 대응작목을 선정하였다.

앞으로 對應作目の 개발방향은 지역특수성을 이용한 高所得作目 및 過剩生産 憂慮가 적은 國內需要増大 作目に 두어, 감자·화훼류·과채류·고급포도·감귤 등의 生産時期 및 作型調節을 위한 연구와 山菜類, 固有自生植物, 藥用作物 등 特殊作目の 集約栽培 및 飼育技術을 확립하고 시범사업을 통한 새 所得作目 技術指導를 적극 추진해 나갈 계획이다.

4. 安全性 높은 農畜產物 開發 및 農村環境 淨化

안전한 농축산물 생산으로 國民保健에 이바지하고자 '89년도에 抗生劑, 生長호르몬등의 畜産食品 殘留量 경감을 위하여 돼지고기, 닭고기 및 飼料中の 重金屬등 殘留有害物質의 定量과 原乳 및 市販 牛乳중의 細菌汚染度 조사를 실시하였고, 7個 作物 6個 藥種에 대한 安全使用基準을 설정하는 한편 사과 腐爛病藥등 무공해 저독성 생물농약 5개종을 개발하여 특허출원중에 있다.

금년에도 계속 주요 농축산물에 대한 危害性 物質의 殘留實態調査와 微生物農藥 및 植物性農藥等 無公害 低毒性農藥의 연구개발을 확대 추진할 것이며 環境處와 협조하여 농업용수와 농경지의 汚染度를 조사하고 有害 重金屬의 농작물 피해 예방대책 기술개발 보급, 家畜糞尿의 嫌氣醱酵등에 의한 축산폐수의 정화와 폐기물의 재활용 기술개발보급 및 有用 微生物 자원 이용등에 의한 自然生態系의 維持保全 管理技術을 확립 보급하는데 노력할 것이다.

<表 2-3-23>

無公害農藥 開發 成果

	藥 種 數	備 考
사과 腐爛病 藥	1	베르베린 黃酸鹽
微生物 殺蟲劑	2	BT 劑
고추 疫病 藥	1	拮抗 微生物
담배 거세미 藥	1	바이러스 毒性

資料：農村振興廳

5. 잘사는 農村建設을 위한 農村指導 事業展開

가. 農村振興事業의 轉換

主穀을 지속적으로 자급하고 主要園藝作物의 週年生産供給體系를 성공시켜 국가경제발전에 크게 기여해 온 農村振興事業은 최근 농업과 농촌사회의 급격한 여건변화에 능동적으로 대처하고 농민의 福祉增進과 都·農間 均衡發展을 실현하기 위하여 종래 農業增産 위주의 사업에서 農業, 農民, 農村을 포함한 綜合的인 農村振興事業으로 새로운 位相을 정립한다는 목표아래 읍면지소를 郡農村指導所로 통합하고 郡農村指導所에 2-3個 課를 신설하였다.

아울러 指導士 專門特技 分野를 12개 分野 42개 專攻으로 細分化 함으로써 농축산물 수입개방에 적극적인 대응과 商業農時代 농민의 전문적 수요에 충분히 부응할 수 있도록 하여 일선 농촌지도기구를 전문지도체제로 대폭 개선하였다.

'90년에는 농업과 농촌의 문제를 해결하는 頭腦集團으로서의 역할을 다하기 위해 農村振興事業의 전환과 中央 및 試驗研究體制의 전환을 계속적으로 추진하는 한편 一線 農村指導所의 農民相談機能을 대폭 강화하여 農事技術情報는 물론 結婚, 兵事, 醫療, 法律, 農外就業 斡旋등 농민생활 전반에 대한 어려움을 덜어주는 상담을 하도록 할 것이며 產學研 協同으로 농촌의 懸案問題를 공동해결하기 위하여 關聯產業界, 學界와의 협력체제도 더욱 강화해 나갈 계획이다.

또한 각종 교육홍보를 통하여 농촌 내외 여건의 급격한 변화에 능동적으로 대처하여 농민이 필요로 하는 새로운 農村情報를 신속히 전파하고 農政施策弘報를 보다 강화함으로써 농민들의 이해를 촉진하고 능동적 협조를 이끌어 내도록 TV, 신문등 大衆弘報媒體를 立體的으로 활용하며, 비디오, 슬라이드 등 실증적인 視聽覺 教材의 제작 활용을 강화해 나갈 계획이다.

나. 農家經營構造 改善指導

수입개방에 대응하여 국제경쟁력 제고를 위한 營農規模擴大와 專業農 育成施策 추진의 일환으로 '89년까지 農機械 共同利用에 의한 경영의 협업화 지도를 수행 하였다. '90년에는 현재 農家經營構造改善 示範地域 137개소를 선정하여 協業經營을 유도하고 部落單位 營農計劃 수립을 위한 電算模型을 개발하는 등 專業農 育성과 農家經營構造改善 研究를 수행하는 동시에 示範地域 育成指導에 주력할 계획이다.

한편 농산물 제값받기 실현과 농업소득의 안정적 증대를 도모하기 위하여 '89년에는 全國 農畜產物 流通情報를 5일간격으로 182개시군에 분산시켰으며 農產物 農家販賣活動 優秀事例 5,000부를 발간하여 農產物 選別, 等級化, 包裝改善 指導를 강화하는 한편 農產物 販賣活動 示範地域 281개소를 육성하였다.

'90년에는 農畜產物 流通情報를 신속하게 수집하여 농가에 분산할 수 있도록 전국 182개 市郡 農村指導所에 流通情報 電算網을 구축하고 自動 應答電話機 설치를 추진할 계획이다.

또한 農產物產地流通支援을 위해 전국 주요 채소류의 作型別 生産實態와 고추의 產地處理 現況 및 經濟的 效果, 마늘 生産調節을 위한 生産豫測 모델實用化 등의 연구를 수행하고, 農產物 出荷調節示範團地 317개소, 農產物 產地處理示範團地 192개소를 육성하여 농업여건 변화에 따른 농민의 시장대응능력 향상지도에 주력할 계획이다.

한편 농가소득 倍加를 선도하기 위하여 개발여건이 좋은 전국 231개 마을에 優秀指導士를 3년간 주재시켜 農業經營構造改善, 生活環境改善, 農業專門經營人 養成 등 종합적인 農村指導 事業을 전개하고 있다.

다. 農家生活 環境 改善 및 農村女性 能力培養

최근 급속한 산업화 과정에서 농촌은 농업의 터전으로서만이 아니라

누구나 살고 싶어하는 풍요로운 삶의 공간으로 조성해야 하는 과제에 직면하게 되었다.

따라서 農家生活의 質을 향상시키고 農村女性의 役割增大에 부응할 수 있도록 立式부엌을 '89년에는 3,971농가에 설치 지원하였고 금년에는 부엌과 沐浴室을 1만 농가에 시범 개량토록 하고, 특히 故郷住居環境改善 돕기 운동을 범국민적으로 전개하여 都・農間の 和合 雰圍氣 조성에 노력할 것이다.

또한 生活改善 綜合示範 마을은 작년도에 이어 금년에도 1,080개 마을 16,200농가를 중점육성하며, 이 농가들을 중심으로 均衡食 攝取와 韓國型 食生活의 定着, 勞動衛生과 農作業管理, 마을 環境의 美化와 自然資源의 維持保全活動을 전개해 나갈 계획이다.

아울러 농가생활을 주도해 나갈 젊은 農家主婦를 대상으로 실시하는 農村女性 特別教育을 '89년에는 105천명을 대상으로 실시하였고, 금년에도 102천명을 대상으로 추진하고 있으며 農村青年 成婚돕기 運動을 전개, 작년까지 6,864쌍을 成婚 시켰으며, 금년부터는 이를 汎社會的인 運動으로 추진하여 살기좋은 농촌을 이룩하는데 노력할 계획이다.

第4章 主要農産物の適正生産과 需給安定

第1節 主要園藝作物 및 果實類등 需給安定과 流通改善

1. 需給 및 價格安定

가. 菜蔬類

菜蔬類는 전년도의 가격동향 및 기상여건에 따라 재배면적 및 생산량의 증감폭이 크고 需要가 非彈力的인 동시에 長期貯藏이 어려워 수급불균형이 되풀이되고 있는 품목으로서 適正面積栽培를 통한 적정생산으로 수급안정을 도모하는 것이 최대과제이다.

이를 위하여 무, 배추, 고추, 마늘, 양파, 파에 대하여는 播種期 이전에 2~3회 植付意向을 조사하고 전국 1,300여 채소품목별 主産團地를 중심으로 種子販賣動向을 조사하여 이를 종합분석한후 그 결과를 流通豫告 하므로써 재배농가에게 適正面積을 栽培토록 지속적으로 指導할 計劃이며, 무, 배추에 대하여는 시기별, 지대별로 분산과종을 통하여 洪水出荷를 防止함으로써 價格安定을 도모할 계획이다.

또한 價格振幅이 큰 마늘, 양파등 양념류의 수급 및 가격안정을 기하기 위하여 主産團地 栽培農家와 生産者團體間에 約定을 체결하여 적정생산 및 출하조정을 유도하는 生産出荷調整約定制度를 農漁村發展特別措置法에 입법 조치함으로써 90. 9월 이후에 과종되는 마늘, 양파부터 시범적으로 실시하여 수급안정시책을 보다 적극적으로 추진할 것이다.

<表 2-4-1>

主要菜蔬類 價格安定事業計劃

(單位：千噸, 百萬圓)

	'88		'89		'90(計劃)	
	物 量	支援額	物 量	支援額	物 量	支援額
총 계	550.1	164,146	442.9	36,339	451.1	84,050
政府收買備蓄	40.8	122,174	4.5	3,338	35.7	49,843
고추	32.7	113,653	—	—	11.7	36,750
마늘	5.2	8,103	1.7	2,905	10.0	11,020
양파	2.9	418	2.8	433	14.0	2,093
民間收買	76.4	17,049	68.4	8,734	41.3	8,852
고추	9.2	8,441	—	—	—	—
마늘	13.2	5,219	13.3	5,362	6.8	5,400
양파	54.0	3,389	55.1	3,372	34.5	3,452
出荷調節	432.9	24,923	370.0	24,267	374.1	25,355
봄 채소	35.8	2,088	—	—	—	—
고냉지 채소	72.6	3,338	58.5	3,198	62.0	3,430
가을 채소	252.4	6,004	233.4	5,804	240.0	6,430
마늘	14.0	8,388	16.4	9,823	14.2	9,970
양파	23.6	1,654	24.3	1,702	22.3	1,785
과	34.5	3,451	37.4	3,740	35.6	3,740

資料：農林水産部 農產物流通局

나. 果實類

'89년산 果實類는 氣象與件의 好調로 전체 생산량이 2,108천톤으로 '88년대비 23% 증수되어 과일가격이 예년보다 하락하였던바, '90년도는 1,925천톤을 생산하여 수요에 안정적으로 대처해 나갈 계획이다.

<表 2-4-2>

'90果實類 生産計劃

(單位：千ha, 千噸)

	'88		'89		'90(計劃)	
	面 積	生産量	面 積	生産量	面 積	生産量
計	119.5	1,713.7	126.8	2,108.3	127.5	1,925.0
사과	43.2	640.3	46.9	676.0	47.0	710.0
배	8.4	191.7	8.8	198.9	9.0	210.0
복숭아	13.3	134.6	12.9	133.0	12.5	131.0
포도	16.1	156.1	15.8	156.9	15.0	150.0
단감	10.0	88.0	9.0	84.0	9.5	89.0
감귤	18.2	414.8	18.8	746.5	19.5	510.0
기타	10.3	88.2	14.6	113.0	15.0	125.0

資料：農林水産部 農產物流通局

또한, 생산된 과실류의 收穫期 洪水出荷로 인한 가격하락을 방지하기 위하여 사과, 배, 감귤 등에 대한 收買 및 出荷調節事業을 擴大해 나가며 이를 위하여 農水産物價格安定基金에서 282억원을 支援할 계획이다.

<表 2-4-3>

果實類 價格安定事業 計劃

(單位：千톤, 백만원)

	'85		'88		'89		'90(計劃)	
	物 量	支援額	物 量	支援額	物 量	支援額	物 量	支援額
合 計	120.4	12,231	140.7	22,915	259.4	28,739	227.4	28,227
收買備蓄	95.4	7,086	111.8	12,074	220.4	17,287	189.0	16,849
사과, 배	17.9	2,721	25.4	6,385	23.5	6,337	29.5	9,246
복숭아	3.8	256	10.7	1,177	10.4	1,499	8.0	2,071
포도	8.1	933	11.3	1,744	13.8	2,451	21.0	2,532
감귤	65.6	3,176	64.4	2,768	172.7	7,000	130.5	3,000
出荷調節	25.0	5,145	28.9	10,841	39.0	11,452	38.4	11,378
사과	15.0	3,255	24.3	9,477	34.0	9,588	34.0	9,588
감귤	10.0	1,890	3.5	1,025	3.0	1,150	3.0	1,150
배	-	-	1.1	339	2.0	714	1.4	640

資料：農林水産部 農産物流通局

그리고 果實生産基盤 擴充을 위하여 山地開發 및 低位生産農地를 활용한 新規果園造成을 단계적으로 확대해 나가고, 기존 在來品種에 대한 品種更新事業도 지속적으로 추진해 나갈 것이며, 또한 과실류의 안정생산을 위하여 熟期別로 우량품종을 按配하여 植栽토록 유도하고 과종별로 安全栽培圈域을 설정하는 한편 凍害, 旱害等 氣象災害防止에 힘쓸 계획이다.

특히 國家間의 거래규모에 있어 10대 交易國으로 부상함에 따라 熱帶果實類를 포함한 과실류 加工製品에 대하여 輸入開放壓力이 가중되어 '90년에 키위, 일시저장버찌 등 생과실과 파인애플 조제품 그리고 파인애플 주스등 9개 품목을 수입개방하였으며, 수입개방에 따른 보완대책으로 代替作目入殖費를 융자지원하여 栽培農家 保護에 적극 노력할 것이다.

또한, 포도주 수입개방에 따른 보완대책의 일환으로 農漁村發展基金을

재원으로 하여 差額補償 7억원과 廢園費補償 89억원을 지원하여 釀造用 포도 栽培農家를 지원할 방침이다.

한편, 과실소비의 고급화에 부응한 品種更新과 商品性提高를 위한 封紙 栽培 및 選果機 普及을 적극 추진해 나가고 新規輸出市場의 적극적인 개척으로 수출을 확대해 나갈 계획이다.

다. 花 卉

國民所得水準 향상에 따라 증가하고 있는 꽃 수요에 대처하고, 화훼를 새로운 농가소득 작목으로 정착시키기 위하여 '90년중 총 6,058백만원을 지원하여 安定生産基盤의 造成, 流通構造의 改善 및 流通施設의 現代化, 輸出과 消費底邊擴大를 위한 시책을 지속적으로 추진하되 과잉생산이 되지 않도록 신중히 대처해 나갈 것이다.

이를 위하여 安定生産基盤造成을 위한 꽃 示範圃地造成, 施設現代化 및 優良種苗生産施設 設置를 지원하는 한편, 화훼유통구조 개선을 위해 서울 市 瑞草區 良才洞에 大規模 花卉流通센터를 금년 10월중 開場 목표로 건설함과 동시에 競賣制 導入, 꽃 標準規格의 制定普及 등을 추진하고, 꽃 展示會를 개최하여 꽃의 건전한 消費風潮를 조성해 나가며, 輸出促進資金도 확대 지원할 계획이다.

<表 2-4-4>

花卉 示範圃地 擴大造成計劃

(單位: 個所, ha)

	'85~'89	'90	'91	'92~2000	計
圃 地 數	24	12	20	244	300
造 成 面 積	96	46	80	978	1,200

資料: 農林水産部 農產物流通局

그리고 “EXPO'90 國際 꽃과 綠陰博覽會”가 재일동포가 많이 거주하는 일본 오오사카에서 '90. 4. 1~9. 30일까지 개최되었는바, 우리나라에서는 庭園 및 室內花卉展示場을 설치 운영하여 재일동포들의 士氣를 振作시킴

과 아울러 韓國花卉의 발전된 모습을 전시하여 이를 통한 花卉類의 수출을 촉진하고, 국내 화훼재배농가의 博覽會 研修를 추진하여 일본의 우수한 花卉農家, 流通施設 등을 돌아보고 화훼분야에서의 국제적인 眼目を 넓히도록 하였다.

2. 農水產物 流通改善

가. 產地流通機能 強化

농산물의 산지유통은 생산자 단체중심으로 市場交渉力을 향상시키는데 역점을 두고 品目別 協同出荷組織을 내실있게 육성해 나갈 것이다.

協同出荷班은 89년까지 11,000개를 조직하였으며, 금년에는 기구성된 협동출하반의 운영 및 기능을 활성화하기 위하여 350억원의 육성자금을 지원할 계획이다. 또한 農產物產地出荷에 필요한 集荷場, 輸送車輛, 鐵浮船, 改良貯藏庫, 選果場 등의 산지유통시설을 계속 확충해 나갈 계획이다.

나. 流通情報 強化 및 流通教育 擴大

농어민이 신속하고 정확한 市場情報를 접함으로써 생산한 농수산물의 제값을 받을 수 있게 하기 위하여 주요 농수산물 94개품목에 대하여 산지 및 소비지의 都·小賣 價格등을 조사하여 이를 농림수산부 산하 통계출장소, 농·수·축협 등 유관기관 그리고 메스컴 및 自動應答裝置를 통해 전국의 單位組合, 農漁民 및 消費者에게 제공하고 있다.

특히 신속한 情報提供을 위해 1,500여개 單位農協 電算網 온라인화를 86년부터 연차적으로 추진하여 왔으며, '90년말까지는 전국 모든 단협에 대해 완료할 계획이다. 또, 韓國電氣通信公社와 農水產物流通公社가 협조하여 음성정보시스템전화를 설치하여 운영하고 있다.

한편, 流通專門 人力의 업무능력 향상을 도모하고 유통인으로서의 사명감을 고취하기 위하여 '85년 8월 농수산물유통공사에 農水產物流通教育

院을 개설하여 유통종사자에 대하여 조직적이고 체계적인 유통전문 교육을 실시하고 있다.

금년에도 관련 공무원, 도매시장 종사자, 저장가공업자 및 자영농과생 등 2,040명을 대상으로 流通教育을 실시할 계획이다.

다. 標準去來單位 規格化 事業

농수산물 유통능률을 향상시키고 상품성을 높여 農家受取價格을 제고시키고 去來秩序를 확립하기 위해 종래의 지역별, 품목별로 관습적인 거래방식에 따라 다양하게 사용되어오던 농산물 거래단위를 '83년부터 척관법에서 미터법 위주의 重量單位(5, 10, 15kg 등)로 통일시키고 주요 농수산물 58개 품목에 대해 去來單位(상자, 포대 등)와 包裝材(골판지, 상자, 목상자 등)를 규정한 標準去來單位를 설정 운영하고 있다.

특히 주요 靑果類 23개 품목에 대해서는 '89년 한국디자인포장센타와 용역체결로 單量別 包裝規格과 등급규격을 제정 완료했으며, 무우, 배추 등 12개 품목은 '90년말까지 제정토록 되어있어 표준거래단위 35개 품목 전체에 대한 標準規格集을 발간하여 全國 單位組合과 協同出荷班 關係農民들에게 분산배부하여 홍보할 예정이다.

<表 2-4-5> 標準去來單位 規格化事業에 대한 資金支援計劃

區 分	'89까지 實績		'90計劃		備 考
	事業量	支援額	事業量	支援額	
包裝資材費 補助	千箱子 51,077	億원 42	12,802	11	• 補助率: '88까지는 國庫30% → '89: 國庫20%, 地方費20% • 融資率: 出荷約定額의 60%以內
先渡金 融資支援	千톤 69	159	10	40	

資料: 農林水産部 農產物流通局

한편 制定品目中 규격출하가 어렵고 포장자재비가 高價인 복숭아, 딸기 등 8개 품목에 대해서는 포장자재비의 40%(국비20, 지방비20)이내를 보조지원하고 있으며, 규격출하가 어렵더라도 포장자재비가 低價인 양배추, 양파등 6개 품목은 해당품목 出荷約定額의 60%이내를 農水產物價格安定 基金에서 융자지원해 주고 있다.

라. 公營都賣市場의 持續的 建設推進

유통여건의 변화에 따라 농수산물유통에 있어서 대량의 신속한 유통 실현을 위한 地域流通의 거점으로서 도매시장의 중요성은 크게 증대되었으나, 기존의 도매시장은 규모가 영세하고 도심지에 위치하여 교통문제를 유발하고 대부분 민간소유의 私設市場으로 운영의 공공성에 제약이 있었다.

이에 따라 정부에서는 首都, 中部, 湖南, 嶺南의 4代圈域別로 전액 공공 투자로 공영도매시장을 건설한다는 기본계획을 마련하여 추진중에 있으며, 이 계획에 의거 '85년에는 서울 가락동도매시장, '87년에는 대전도매시장을 그리고 '88년에는 대구와 청주도매시장을 개장하였다.

금년에도 울산과 광주도매시장을 각각 상반기와 하반기에 개장할 계획이며, 이미 敷地買入을 완료한 釜山, 仁川, 水原, 全州地區에 대해서는 건축공사를 추진하며 인천과 수원도매시장은 '91년말까지 완공하고, 부산과 전주도매시장은 '92년말까지 완공시킬 계획이다.

<表 2-4-6> 農水產物 公營都賣市場 建設계획

	'89년까지	'90	'91	'92	'93以後
地 域	서울('85) 大田('87) 大邱('88) 清州('88)	光州 蔚山	仁川 水原	釜山 全州	春川 昌原

註: 1. 完了時點 基準임.

2. 단, 豫算範圍內에서 서울2個所, 釜山1個所 追加 並行推進

資料: 農林水產部 農產物流通局

이와 아울러 '92년까지 전국 도청소재지에 1개소씩 도매시장을 건설한다는 목표아래 미착수지역인 창원과 춘천에 대해서도 지역실정에 맞는 적정규모의 도매시장을 계속 건설해 나갈 계획이다.

또한 公營都賣市場 건설의 1차목표인 도청소재지마다 1個所 건설이 완료된 이후의 장기도매시장 건설방향에 대해서도 지속적으로 연구검토해 나갈 계획이다.

마. 農水產物價格安定基金의 役割 強化

農水產物價格安定基金은 1968년에 설치되어 지금까지 他基金이 담당하는 쌀, 보리, 축산물을 제외한 모든 農水產物의 需給 및 價格安定과 流通構造改善事業을 실질적으로 뒷받침하여 왔다.

'89년말까지 조성된 基金規模는 5,060억원이고 造成財源은 재정지원 1,825억원, 운용수익 3,235억원이다.

'90년에는 '89년말까지 조성된 기금을 운용하여 고추, 마늘, 양파 등 농산물과 김, 오징어 등 수산물의 備蓄事業에 2,618억원, 生産者出荷調節, 民間收買支援 등 價格安定을 위한 融資支援事業에 2,278억원, 流通施策擴充, 產地流通改善 등 流通構造改善 事業에 571억원, 備蓄事業管理 및 設備 등 事業助成에 185억원 등 총 5,650억원을 지원할 계획이다.

그러나 '91년 이후에는 商業農의 진전에 따른 생산과잉과 수입개방의 확대에 따라 農水產物價格不安이 더욱 심화될 것이므로 재정이 허락하는 대로 기금을 대폭 확대조성하여 기금의 역할을 더욱 강화해 나갈 계획이다.

<表 2-4-7> '90年度 農水產物價格安定基金 運用計劃

(單位：億圓)

	'89 實 績 (A)	'90 計 劃 (B)	增(△)減 (B-A)
1. 價格安定事業	4,739	4,896	157
○ 政府價格安定	2,596	2,752	156
- 政府備蓄事業	2,390	2,618	228
- 生產獎勵	206	134	△72
○ 民間價格安定	2,143	2,144	1
- 民間收買支援	1,040	968	△72
- 輸出促進支援	249	256	7
- 生產者(團體)出荷調節	514	517	3
- 都賣市場出荷促進	340	403	63
2. 流通構造改善事業	559	571	12
○ 流通施設 확충	84	92	8
○ 產地流通改善	460	460	-
○ 流通助成	15	19	4
3. 事業助成 (備蓄事業管理 및 設備, 財特 借入金 利子)	163	183	20
合 計	5,461	5,650	189

3. 農水產物 食品加工產業 育成

가. 傳統食品開發事業 支援

收益性과 開發展望이 양호하고 농민 및 생산자단체가 손쉽게 참여할 수 있는 傳統食品을 개발, 육성해 나가기 위해 '89년도부터 국고보조 및 장기저리 용자를 지원하고 있으며 앞으로도 더욱 확대해 나갈 계획이다.

이에 따라 현재 50개소에 국고지원 1,473백만원, 용자지원 990백만원을 지원하고 있으며 傳統食品加工產業의 원활한 추진을 위하여 종래의 營業許可 및 品目製造許可制를 申告制로 전환하여 시·군에 위임토록 한바 있으며 가공공장 설치에 따른 土地利用 規制를 배제토록 할 계획으로서 적극적인 홍보를 통하여 농민 및 생산자단체가 적극참여할 수 있도록 유

도할 것이다.

또한 施設運轉資金의 지원 및 稅制支援도 병행해나가 농수산물 생산자인 농민 및 생산자단체의 소득을 높일 수 있도록 지원해 나갈 나갈이다.

<表 2-4-8>

傳統食品開發事業 支援計劃

(單位：個所, 百萬圓)

	計	實 績 '89	計 劃	
			'90	'91~94
支援業體數	137	28	22	87
支援金額	8,887	1,290	1,173	6,424
- 國庫補助	5,488	740	733	4,015
- 融 資	3,399	550	440	2,409

資料：農林水産部 農産物流通局

나. 加工食品 標準化 推進

加工食品의 品質改善을 유도하고 品質保證을 통한 식품가공업의 건전한 육성을 위한 加工食品標準化(KS)사업을 지속적으로 확대 추진해 나갈 것이다.

현재 KS표시를 할 수 있도록 지정된 품목은 소시지, 굴과실음료, 양조간장, 마요네즈, 고추장, 발효유, 조미김, 된장 등 33개로, 이중 업체로부터 KS표시 허가신청이 있어 이들 업체에 대한 工場審査 및 製品試驗을 거쳐 '90. 4월말 현재 21개 품목, 41개 공장에 대해 KS表示許可를 하였다.

'90년도에는 유통량이 많으면서 소비자 신뢰도가 낮고 품질 식별이 어려운 팜유, 액젓, 가공치즈, 냉동만두등 4개 품목에 대해 규격을 새로 제정하고, 既存規格의 改正 또는 確認 후 5년이 경과되었거나 여건변경등으로 재검토가 필요한 어육소시지, 고춧가루, 프레스햄, 마가린 등 5개 규격에 대해서는 개정 및 확인할 계획이다.

아울러 유통량이 많고 소비자의 관심이 높으며 가공원료의 國內依存度가 높고 品質管理가 容易한 액젓, 냉동만두, 가공치즈, 어육소시지, 옥수

수기름등 9개품목을 KS표시허가 대상 품목으로 추가 지정하고 이에 대한 구체적인 심사사항을 규정한 심사기준을 제정 공고함으로써 加工食品 標準化(KS)事業을 정착시켜나갈 계획이다.

또한 KS表示許可製品 및 許可工場에 대한 사후관리를 위하여 매분기 1회 시판품을 수거 분석함과 아울러 필요시 공장심사를 실시하여 KS表示許可製品の 品質維持 및 不良品 流通防止에 철저를 기해 나갈 것이다.

이와함께 식품 KS제도에 대한 업계 및 소비자 이해증진을 위하여 홍보를 강화하고 식품제조업체를 대상으로 標準化 및 品質管理에 관한 교육도 실시할 계획이다.

<表 2-4-9>

加工食品 標準化事業 內容

(單位：個)

	工振廳 移 管	'86~87	'88	'89	累 計	'90計劃		'91計劃
						4月末現在		
規格制定	63	9	13	14	99	—	4	3
規格改正·確認	—	56	15	13	84	—	5	35
表示指定 및 審査基準制定	1	16	5	11	33	—	9	4
表示許可(工場)	4	15	5	9	33	8(41)	10	10
(品目)	1	7	4	4	16	5(21)	5	6

資料：農林水産部 農産物流通局

第2節 쌀 및 밭작물의 安定的 生産

1. 쌀 需給動向과 政府糧穀管理施策 改善

가. '90년 쌀需給動向

90년도 쌀 需給計劃을 보면 供給量은 전년이월 1,572천톤과 生産量 5,898천톤을 합하여, 7,470천톤으로 추정되며 需要量은 用途別로 基本食糧 5,144천톤, 加工用 224천톤, 種子 45천톤, 減耗.其他 328천톤을 합한

5,711천톤이 소비될 것으로 추정 된다.

따라서 90년말 在庫量은 1,759천톤으로서 전년보다 187천톤이 늘어나게 될 것으로 보여진다.

<表2-4-10>

'90 쌀 需給計劃

(單位:千噸)

糧穀年度	90 (A)	89 (B)	增減 (A-B)
(供給)			
前年移越	1,572	1,121	451
生産	5,898	6,053	△155
(栽培面積:千Ha)	(1,257)	(1,260)	
計	7,470	7,174	296
(需要)			
基本食糧	5,144	5,145	△ 1
加工	224	72	152
種子	45	45	—
減耗・其他	328	340	△ 12
計	5,711	5,602	109
年末在庫量	1,759	1,572	187

資料:農林水産部 糧政局

이를 구체적 내용별로 분석해 보면 供給側面에서는 생산량이 다소 줄었음에도 전년에서 移越된 量이 많아 전체공급량은 전년보다 296천톤이 늘어날 것으로 예상된다. 한편 需要側面에서는 1인당 연간 쌀소비량이 89년에 121.4kg에서 90년에는 119.5kg으로 줄어들 것으로 추정됨에 따라 인구증가에도 불구하고, 年間 基本食糧 消費는 약간 감소할 것으로 예상된다. 加工用需要는 학교급식 확대, 쌀라면 등 다양한 쌀 가공식품의 개발과 90년 1월부터 쌀을 100% 원료로한 濁・藥酒 生産市販 허용등 정부의 쌀 수요개발 및 소비확대 시책의 추진으로 전년보다 152천톤의 소비가 늘어날 것으로 예상되며, 種子, 減耗, 其他등은 대체로 전년과 비슷할 것으로 전망된다.

이에 따라 전체적인 쌀소비량은 가공식품용 수요증가로 89년보다 90년에는 109톤이 증가할 것으로 예상된다.

나. 自給時代의 政府糧穀管理施策

인구의 점진적 증가에도 불구하고, 1인당 쌀소비량의 감소추세와 더불어 그동안 추진해온 品種改良, 耕地整理, 農業用水開發 및 營農技術向上과 農機械 普及擴大에 힘입어 쌀은 자급단계에 접어들었다. 이러한 추세는 장기적으로 볼 때도 지속될 것으로 전망되어 自給時代의 政府糧穀管理施策이 중요한 과제로 제기되고 있다.

따라서, 앞으로 쌀수급의 안정을 위해서는 國民嗜好에 맞는 良質米 위주 생산이 불가피 함으로 '89년산 統一系 生産 감소추세를 감안하여 통일계의 재배면적을 점진적으로 축소 유도하기 위해 90년산 통일계 政府收買量을 450만석으로 예시 하였으며, 一般系와 統一系の 수매가격에 대하여는 89년산에 처음으로 통일계와 일반계벼의 收買價格 隔差를 2% 두었으나, 장기적으로 소비자의 기호에 부응하여 미질에 상응한 가격을 받도록 해 나가야 한다고 보고, 이를 위해 무리가 없는 범위내에서 점진적으로 가격격차를 확대해 나갈 예정이다.

한편, 쌀값안정을 위해서는 政府保有 統一系쌀은 穀價調節用 등으로 방출하되, 현행 판매방법대로 2重穀價制를 지속 실시 하여 庶民家計 안정에 기여 토록하고, 소비자의 良質米 選好傾向에 부응하고 米價安定을 위하여 정부에서 수매하여 보유중인 89년산 일반계쌀의 판매는 市價를 기준으로 하여 산지쌀값의 適正價格維持는 물론 소비자의 米價安定을 동시에 도모할 계획이다.

또한, 민간의 糧穀流通機能의 생활화를 위해서 일반계쌀에 대하여는 政府直接 精穀 販賣와 병행하여 農協 및 政府糧穀 加工工場 등을 대상으로 粗穀賣出制와 糧穀都賣市場 上場販賣도 신중히 검토하여 쌀값안정을 위하여 필요시 시행토록할 예정이다.

다. 糧穀管理基金의 運用

양곡의 원활한 수급과 관리의 적정을 위해 糧穀管理基金法에 의해 설치, 운용되고 있는 糧穀管理基金은 '89년도에 그 운용규모가 3조 7,549억 원에 달하였는데 이는 '88년도에 비해 39% 늘어난 규모이다. 그 운용내역을 보면 하·추곡 수매등 糧穀買入費로 1조 5,588억 원, 韓銀借入金과 糧穀證券元利金 상환에 각각 6,439억 원과 12,821억 원, 操作費 및 糧穀轉出金등에 2,701억 원이 사용되었다. 또 기금조달액중 양곡판매등에 의한 自體 調達額은 전체의 16%인 6,037억 원에 불과하고 나머지 84%에 해당하는 3조 1,512억 원은 糧穀證券發行으로 2조 2,000억 원, 財政投融資特別會計에서 9,512억 원을 보전받아 충당하였다.

한편, '90년 운용계획은 90년산 추곡수매량과 수매가격의 국회동의후 그 내용을 알 수 있으나 그 전망치는 다음表에서 보는 바와 같다.

한편, '89년도 糧穀管理基金의 缺損額은 4,356억 원(財政補填金 제외)이었다. 이를 발생요인별로 보면, 양곡판매에 따른 순 양곡관리 결손액이 2,605억 원, 외부자금차입에 따른 금융비용이 2,073억 원, 그리고 기타부문에서 193억 원의 결손이 발생한 반면, 이외에도 借款糧穀償還에 따른 換差益 479억 원등으로 판매사업 이외부문에서 515억 원의 수익이 발생하였다. 89년말의 累積缺損額은 총 3조 7,293억 원인 바, 84~89년도까지 재정보전액 2조 8,950억 원을 차감한 累積缺損額은 8,343억 원이다.

이처럼 큰 폭의 적자가 발생하게 된 것은 생산자인 농민과 소비자보호를 위한 二重穀價制實施에 따른 構造的缺損을 외부자금을 차입하여 충당하고 있기 때문이다. 외부자금은 高利의 糧穀證券 및 農協相互金融資金등에 의존함으로써 금융비용이 해마다 가중[外部資金依存率: ('87)57.2 → ('88)73.8 → ('89)83.9%]되어 빚을 내어 빚을 갚는 악순환이 반복되고 있으며, 최근에는 계속된 풍작과 쌀소비량의 감소로 政府糧穀販賣量이 감소됨에 따라 夏·秋穀收買資金 마련에도 어려움을 겪고 있는 실정이다.

<表2-4-11>

'90年度 糧穀管理基金 運用計劃

(單位：億圓)

		'89 實 績	'90 計 劃
調 達	○ 糧穀販賣收入	6,037	12,902
	○ 財政補填	9,512	4,300
	○ 糧穀證券	22,000	26,420
計		37,549	43,622
運 用	○ 糧穀買入費	15,588	17,027
	○ 糧穀證券元利金償還	12,821	16,000
	○ 借入金 元利金償還	6,439	5,420
	○ 操作費 其他	2,701	5,175

資料：農林水產部 糧政局

따라서, 이러한 근본적 문제들을 해결하기 위해서는 우선 二重穀價制 實施에 따른 構造的 결손액은 매년 그해 발생하는 缺損額 이상의 재정보 전이 제도화 되어야 할 것이며, 장기적으로는 정부가 방출가격을 현실화 하며 일반미수매를 확대 함으로써 二重穀價制의 폭을 축소해 나가는 것 이 필요하다.

<表2-4-12>

糧穀管理基金 要因別 缺損內譯

(單位：億圓)

	'88까지	'89	計	比率(%)
○ 純糧穀管理缺損	△13,625	△2,605	△16,230	43.5
糧穀賣出損益	△ 9,332	△2,293	△11,625	
操 作 費	△ 2,660	△ 134	△ 2,794	
管 理 費	△ 1,633	△ 178	△ 1,811	
○ 販賣事業外費用	△21,620	△2,266	△23,886	64.1
支 給 利 子	△13,835	△2,073	△15,908	
其 他	△ 7,785	△ 193	△ 7,978	
○ 販賣事業外受益	2,308	515	2,823	△ 7.6
計 (缺損)	△32,937	△4,356	△37,293	100.0
財 政 補 填	19,438	9,512	28,950	
財 政 補 填 後 缺 損	△13,499	5,156	△ 8,343	

資料：農林水產部 糧政局

2. 쌀의 安定的 生産

가. 쌀 生産計劃

금년에도 국내 쌀자급에 필요한 5,472천톤(3,800萬石)이상을 차질없이 생산하기 위하여 범씨는 순도높은 政府普及種을 확대 공급하고, 지속적인 綜合農土培養事業을 통해 토지생산성을 제고하여 營農機械化擴大의 일환으로 어린모기계 모내기의 개발보급등으로 勞動力不足解消와 生産費節減에 주력할 것이다.

또한, 가뭄, 풍수해등 氣象災害극복과 病蟲害 綜合防除體制의 확립으로 被害를 최소화할 수 있도록 營農段階別 技術指導를 강화해 나가고 특히, 올해는 11년 주기로 오는 태양흑점활동과 엘니뇨현상등 氣象異變이 우려되고 있으므로 기상재해에 대비하여 대책을 강구해 나갈 것이다.

한편, 최근 국민소득 증가로 인한 생활수준 향상으로 소비자의 양질미 選好傾向이 뚜렷해지고 있음을 감안하여 미질이 우수한 一般系中心의 生産體系를 강화하여 消費者嗜好에 부합함으로써 쌀 소비기반을 확충하고 농가소득을 확대해 나갈 것이다.

<表2-4-13>

쌀 生産計劃

(單位:千톤, 千ha)

	'85年産	'87	'88	'89	'90計劃
生産量	5,626	5,493	6,053	5,898	5,472
植付面積	1,237	1,262	1,260	1,257	1,200

資料: 農林水産部 農産局

나. 農土培養

우리나라 농경기는 土壤生成 母岩이 酸性이며, 有機物 含量이 낮고 低位生産地가 많으므로, 단위당 수량성을 제고하고 品質向上 및 耐災害性を 強化해 나가기 위해서는 地力增進을 위한 綜合農土 培養事業이 절실히 요청되고 있다.

따라서 筆地別 精密土壤檢定을 실시하여 그 결과에 따른 종합적인 處方書를 발급하고 토성에 알맞는 개량사업을 적극 추진하고 있으며, 객토 49천ha, 벧짚갈기 799천ha, 깊이갈이 771천ha를 영농기전까지 完了하였고, 석회 336천톤, 규산질 306천톤등 土壤改良劑를 공급하여 저위생산지 土性改良 및 地力增進을 지속적으로 추진하여 갈 것이다.

또한 최근 농약을 사용하지 않은 無公害食品에 대한 소비자의 관심이 크게 높아지고 있음을 감안, 연중 유기물 생산체제를 확립키 위해 綠肥作物이나 堆肥등 유기물 생산 중점기간을 정하여 농가별 실정에 맞는 생산 목표를 자체추진토록 함으로써, 저위생산지 중심으로 종합개량을 하도록 적극적인 技術指導와 行政的 支援을 확대해 나갈 것이다.

다. 病害蟲 防除

病害蟲 發生은 氣象, 栽培樣式, 防除技術에 따라 그 양상이 달라질 수 있으나, 금년에도 一般系 品種栽培 擴大, 早植 密植栽培, 機械移秧 增加등으로 병해충 발생이 용이한 실정이다.

지금까지는 국민 食糧生産 安定化라는 목표달성을 위하여 機動力 爲主의 共同防除 노력을 경주하여 왔으나, 營農自律化 분위기와 地方自治制 실시 기대감이 겹쳐 앞으로는 病虫害防除가 다소 어려울 것으로 예상된다. 따라서 정확한 豫察과 철저한 전파를 통하여 농민이 자율적으로 共同防除를 실시해 나가도록 유도하기 위하여 전국에 152개 豫察所와 957개 觀察圃을 개설하여 이로부터 얻어진 地帶別, 品種別, 毛作別 病害蟲 豫察情報를 구체적으로 각종 매스컴을 통하여 신속히 전파하여 나갈 계획이며, 아울러 농민의 부담을 경감시키기 위하여 국비 1,393백만원을 共同防除에 지원할 계획이다.

또한 '88.7월 慶南 河東에서 국내 최초로 발견된 벼 물바구미가 船舶出入이 빈번한 港口中心 隣接地域과 山間溪谷畓에서 주로 發生됨에 따라 발생 根源地에서 초기에 박멸하고 확산방지를 위해 越冬處를 追跡調査하

여 '91년 發生憂慮地域을 사전에 예측하여 방제활동에 참여토록 하고 국비 1,086백만원을 農藥代로 지원하여 못자리에 날아오는 越冬成蟲과 本畝初期 물속에서 벼뿌리를 갹아먹는 애벌레를 집중적으로 驅除함으로써 피해를 最小化해 나갈 계획이다.

3. 밭作物의 適正生産誘導

가. 보리

農村人口의 지속적인 감소와 農村 勞動力의 老齡化, 婦女化로 농촌의 일손이 부족할 뿐만아니라 벼 栽培와의 勞動力 競合등으로 보리재배 여건은 점점 어려워져 가고 있는 점을 감안하여, '90년산 보리생산 시책방향을 농촌 노동력의 부족해소와 생산비 절감을 위한 省力機械化 促進에 두었다.

이를 효과적으로 추진하기 위하여, 영농비절감을 위해 겨울 영농자금을 보리 계약재배농가에 대하여 10ha당 평균 14만원씩 융자지원하여 금년에는 작년보다 55억이 증가한 300억을 지원하고 종자, 비료, 제초제등 430억원 상당의 播種資材를 외상으로 공급하였다.

또한 작업의 省力機械化를 적극적으로 추진하기 위하여 個所當 10ha규모의 대단위 機械化 栽培團地를 남부 4개도에 조성하여 파종에서 수확에 이르기까지 省力機械化 栽培로 연결하여 경영구조를 개선하고 노력비와 생산비를 절감함으로써 보리를 겨울철 소득작목으로 육성할 수 있도록 추진할 계획이다.

한편 '90년산 大·稈麥 보리는 수요에 맞는 적정생산을 위하여 지난해 파종기에 이미 수매가격을 '89年產 對比 10% 인상키로 결정하였고, 농협을 통해 303.6천톤(糧穀基準)을 희망농가와 계약재배토록하여 農閑期 遊休 勞動力의 활용은 물론 농가 소득증대에 기여토록 하였으며, 契約栽培量에 대하여는 農家出荷希望 全量을 수매한 후 食用으로 필요한 양은 정부에서 우선 인수토록 하여 보리쌀의 수급안정을 도모하고, 食用으로 인수하고 남

은 잔량은 酒精用으로 농협이 직접 酒精業體에 공급토록 할 계획이다.

<表2-4-14>

보리 生産計劃

(單位: 精穀 千톤)

	'85	'86	'87	'88	'89	'90計劃
計	570,738	452,552	516,340	561,494	515,830	601,000
大 稈 麥	386,788	315,548	387,602	417,874	374,194	401,000
麥 酒 麥	183,950	137,004	128,738	143,620	141,636	200,000

資料: 農林水産部 農産局

또한 맥주보리의 생산은 國民所得 向上과 低알콜 酒類의 選好傾向에 따라 최근 맥주소비가 크게 伸張됨으로써, '90년도 수급에 필요한 소요량을 최대한 확보하기 위해 수매가격도 一般 大麥보다 5,340원(2등基準 40kg가마당) 비싼 가격으로 수매함으로써 一定水準의 自給基盤을 지속적으로 확대해 나갈 계획이다.

나. 豆類 및 雜穀類

두류의 주종을 이루는 콩의 수요는 飼料用 및 加工用으로의 용도가 늘어남에 따라 매년 증가하고 있으나, '70년대 중반이후 국내생산은 줄어들어 상당한 양을 수입에 의존하고 있어 國內自給度 제고를 위해 일정면적을 재배하도록 추진해 나갈 계획이다.

'90년 콩생산 생산량은 전년보다 20.4천톤이 늘어난 272천톤이며, 이를 위해 50천ha의 主産團地를 조성하였고, 이들 생산농가에 대해 종자를 지원하는 한편, 우량 多收性 新品種 개발을 위한 연구시설을 강화하고 종자공급 기반을 확충해 나갈 것이다.

옥수수 段收増大를 위해 1代雜種 種子使用을 적극 권장하여 생산성을 높여 나가는 한편, 적정가격으로 農家出荷約定量을 수매하여 販路保障을 통한 농가소득 확대를 도모해 나갈 것이며, 수수, 조, 메밀등 기타 잡곡에 대해서는 수요에 부응한 적정생산을 유도할 계획이다.

한편, '90년산 콩과 옥수수수는 수매량을 각 90천톤으로 播種期인 4월에 이미 예시하였고, 收買價格은 市場價格과의 격차를 줄이기 위해 '89年產과 같은 수준으로 거치하였으며, 농가의 계획영농 유도를 위해 生産農家와 農協單位組合間에 出荷約定을 체결토록 하였다.

<表2-4-15> 豆類 및 雜穀 生産計劃 (單位: 千噸)

	'85	'87	'88	'89	'90計劃
計	421.4	414.9	421.8	435.3	470.3
콩	233.9	203.5	239.4	251.6	272.0
옥수수	131.8	127.4	105.9	120.6	122.5
조	4.6	2.6	2.4	3.2	2.8
팥	24.2	35.1	38.3	31.3	38.9
녹두	5.6	7.1	9.0	7.8	8.6
기타	21.3	39.2	26.8	20.8	25.5

資料: 農林水産部 農産局

또한, 콩과 옥수수수는 江原, 忠北, 慶北의 山間地등 一部地域農家の 重要所得作物이기 때문에 현재 수준의 생산을 유지할 수 있도록 계속 지원해 나갈 계획이다.

팥, 녹두등 기타 두류는 국내수요가 한정된 점을 감안, 적정생산을 유도해 나가기 위하여 前年 收買價格 수준으로 팥 8천톤, 녹두 2천톤을 농협을 통해 수매기로 하였다.

다. 薯類

감자는 加工消費促進을 통한 農家所得의 安定的增大 및 適正價格 支持를 위해 작년보다 94천톤이 줄어든 536천톤(糧穀 107천톤)을 생산할 계획이다.

현재 국내 감자 加工消費率은 7% 수준으로 外國(日本 59%, 美國 50%)에 비해 극히 낮은 실정이나 국민소득 수준향상 및 식생활 개선에 따

라 가공수요가 점차 증가하고 있어 가공소비 촉진을 위한 加工工場施設 및 原料收買資金에 28억원을 용자 지원할 것이며, 養鰻飼料 및 라면용 감자 變性澱粉에 대한 國產 使用義務化도 계속하여 추진해 나갈 것이다.

한편, 南部 島嶼海岸 地方의 소득작물인 고구마는 동 지역의 特化作目으로 육성하여 작년보다 8천톤이 늘어난 600천톤(精穀 186천톤)을 생산할 계획이며, 농가가 출하하는 전량을 수매하여 酒精用으로 공급할 계획이다.

<表2-4-16>

薯類 生産計劃

(單位：生薯 千噸)

	'85	'87	'88	'89	'90計劃
計	1,362	993	985	1,222	1,136
감 자	575	450	424	630	536
고 구 마	787	543	561	592	600

資料：農林水産部 農産局

라. 油脂作物

참깨, 땅콩은 자급이 가능하여 참깨는 55천톤, 땅콩은 25천톤을 생산목표로 하여 過剩生産에 의한 가격하락을 방지하고 적정생산에 의한 수급안정 및 농가소득증대를 추진할 계획이다.

이를 위해 참깨는 '89년 수매가격보다 5%인상하고 땅콩은 '89년 수매가격으로 거치하여 참깨는 205천원(1등급, 40kg), 땅콩은 42,100원(1등급 피콩, 30kg)으로 예시하였으며, 수확기에 참깨는 2천톤, 땅콩은 9천톤(피콩 15천톤)을 수매할 계획이다.

또한 '87, '88년 過剩生産된 바 있는 땅콩은 生産獎勵金 지원을 중단할 계획이나, 참깨는 생산장려를 위하여 120억원을 지원하여 재배농가의 영농비 부담을 줄일 것이다.

한편, 유채는 한라유채등 良質多收性 新品種의 보급으로 6.7千톤을 생산할 계획이며, 이를위해 계약재배를 실시하고, 수매가격은 작년의 663원(1등급, 1kg)에서 788원으로 19%인상할 계획이다.

<表2-4-17>

油脂作物 生産計劃

(單位： 千噸)

	'87	'88	'89	'90計劃
참 개	43.3	52.4	39.7	55.0
땅 콩	32.2	28.6	28.7	25.0
유 채	7.8	7.5	6.6	6.7

資料：農林水産部 農産局

마. 버섯, 호프

버섯은 66.5천톤을 생산할 계획이며, 이를 위해 生産獎勵金 및 栽培舍 改補修資金등으로 69억원을 지원할 계획이다. 또한 양송이통조림 335천C/T(標準箱子)을 가공하여 전량 수출하는등 농가의 소득작목으로 개발해 나갈 계획이다.

호프는 맥주의 消費者嗜好에 알맞는 양질을 생산하기 위하여 良質新品種 開發事業을 적극 추진함과 동시에 自給度 제고를 위해 노력할 것이다.

바. 蠶 業

국내 누에고치 생산량은 매년 감소추세에 있고 '89년에는 자급도가 20% 수준에 불과하여 총 생사수요의 약 80%를 수입에 의존하고 있는 실정이다.

최근들어 세계 生絲輸出市場의 90% 이상을 점유하고있는 中國의 生絲 直輸出量이 점차 줄어들고 국제 생사가격이 대폭 상승함에 따라 상대적으로 국내잠업의 경쟁력이 높아지고 있으며, 잠업은 農産物輸入開放 對應 作目으로서 對內外的인 振興與件이 개선됨에 따라, 생산기반 확충과 경영 개선을 통한 생산성향상과 생사수급안정에 중점을 둔 진흥시책을 적극 추진해 나갈 것이다.

이를 위해 '90년에는 養蠶適地에 34백만주의 뽕나무를 심어 2,000ha의 密植뽕밭을 조성하고, 호당 뽕밭면적을 '89년말 34ha에서 50ha이상으로 확대하여 양잠경영의 안정적 생산기반을 구축하는 한편, 뽕밭규모가 3ha

이상되는 마을단위로 養蠶主產地 2,000개소를 선정하여 집중지원해 나갈 것이다.

앞으로 양잠농가에 일손이 덜어가면서 생산성을 높일 수 있는 애누에 인공사료공동사육, 큰누에가지뽕치기(뽕나무 動力刈取機 활용) 자동수건기등을 점진적으로 확대보급하여, 노력이 절감되도록 하고 이에 소요되는 지정을 적극 지원해 나갈 것이다.

<表2-4-18>

蠶業振興 事業計劃

(單位：百萬圓)

	뽕밭造成	蠶室建築	노후뽕나무代替	其他	計
'88	6.072	2,110	1,070	2,025	11,277
'89	7.344	2,207	1,260	2,043	12,854
'90	8.330	2,256	826	5,330	16,472

註：其他는 養蠶機械普及, 桑苗, 蠶種生産農家支援등임.

資料：農林水産部 農産局

아울러, 이러한 증산시책을 효과적으로 뒷받침하고 양잠농가 소득증대를 위하여 봄누에고치 가격을 지난해에 비해 5% 인상하고 生絲類 輸出 增大를 위한 경영합리화와 생사의 생산원가 절감을 통해 국제경쟁력을 높이는 한편, 수출시장의 多邊化를 적극 추진해 나갈 것이다.

4. 農業資材의 圓滑한 需給

가. 種子供給

종자공급의 기본방향은 벼의 경우, 새로운 育種技術의 발달로 일반계품종의 수량이 기존 統一系品種수준으로 향상되고 있고, 국민의 쌀 소비수요도 양질이 위주로 변화함에 따라 政府普及種의 一般系品種 供給比率은 '89년 88%에서 '90년에는 94%수준으로 늘어나가는 반면 統一系品種의 공급량은 品質維持 및 適地適品種栽培 차원에서 장기적으로 4~5%수준으로 해나갈 계획이다.

벼 이외에 보리, 콩, 옥수수, 감자종자도 국민의 식량소비 수요추세에 맞추어 가공적성 및 용도에 알맞는 품종을 개발 보급시키는 한편 優良種자의 공급량 확대를 종자 更新率提高와 農業生産性 向上에 주력해 나갈 계획이다.

<表2-4-19>

普及種供給量 및 更新率

(單位: 톤, %)

	벼		보리		콩		옥수수		감자	
	供給量	更新率	供給量	更新率	供給量	更新率	供給量	更新率	供給量	更新率
'90(P)	8,265	14	2,230	13	2,966 (308)	37	441	52	4,700	10
'89	7,508	12	2,045	12	2,730 (61)	35	493	58	6,982	17

註: 콩의 경우 () 내는 政府普及種 供給量임.

資料: 農林水産部 農産局

구체적으로 種子供給량과 普及方法을 보면 '89년중 벼, 보리, 콩 옥수수, 감자등 주요농작물의 보급중 공급량은 벼 7,508톤, 보리 2,045톤, 콩 2,730톤, 옥수수 493톤, 감자 6,982톤으로 更新率이 벼, 보리는 12%, 콩 35%, 옥수수 58%, 감자 17%이었는데, '90년에는 벼, 보리, 콩의 공급량을 늘려 경신율이 각각 14%, 13%, 37%로 향상시키되 옥수수는 靑刈飼料用 옥수수 재배농가의 신청량 감소로 공급계획량을 다소 줄였으며 감자도 '88년산 原種生産量 감소로 보급중 공급량이 감소하게 되었다.

콩종자의 경우 豆類増産施策의 일환으로 '80년부터 農協이 普及種生産 및 供給을 선담하여 왔으나, 순도높은 優良種子 供給을 위해 '88년부터 種子供給所가 보급중 생산에 착수하여 농협 採種圃産과 병행공급을 추진하고 있으며 '89년 61톤, '90년에는 308톤으로 정부보급중 공급량을 늘리는 한편, 普及種 生産地域도 종자공급소의 제천, 함평 2개지소에서 평택, 익산지소를 추가하여 4개지역으로 확대하고 있다.

한편 백주보리 종자는 농협이 농가와 계약하여 보급종을 생산공급하고 있는데 '89년에는 735톤을 공급하였고, '90년도에는 공급량을 835톤으로

늘림으로써 更新率을 전년 12%에서 13%수준으로 향상시킬 계획이다.

그리고 고구마, 참깨, 땅콩등 기타 작물 종자는 市道知事가 自道에서 생산된 原種을 활용하여 농가에 自律採種圃를 설치 생산하여 이웃농가끼리 自律交換토록 하고 있다.

<表2-4-20>

年度別 벼 種子 散物收買實績

(單位: 톤, %)

	'85	'86	'87	'88	'89
合 計	6,386	8,424	8,406	6,668	9,046
散 物 收 買	1,981	3,105	3,927	4,818	5,241
包 裝 物 收 買	4,405	5,319	4,479	3,850	3,805
散物收買比率	31	37	47	56	56

資料: 農林水産部 農産局

그외에도 增殖圃, 示範圃등에서 생산된 벼, 보리 종자를 시도지사가 收買時 品種表示등 꼬리표를 부착하여 別積保管하였다가 희망농가에 종자용으로 매출 공급함으로써 부족종자를 충당하고 있는데 '89년에는 벼 487톤, 보리 1,556톤이 공급되었다.

또한 벼 종자의 純度 및 活力提高와 재종농가의 노동력 부족 해소등을 위하여 연차적으로 벼 種子の 散物收買量을 늘려 '89년에는 전체 수매량의 65%에 해당하는 5,241톤을 散物收買하였고, 앞으로도 종자기금 사정이 허락하는 범위내에서 최대한 확대해 나갈 예정이다.

이같이 優良種子の 원활한 수급 및 관리를 위하여 主要農作物種子法에 의해 종자기금이 설치 운영되고 있는데, 基金의 造成財源은 政府出捐金, 一般會計轉入金, 基金運用 受益金등으로서, '89년까지 造成額은 10,047백만원이며 '89년의 基金運用內容은 벼, 보리, 옥수수, 감자등의 매입비 8,422백만원을 비롯하여 生産補償金, 輸送操作諸費등으로 사용함으로써 총 운용규모는 21,922백만원이었다. '90년에는 '89년보다 13% 증가한 24,972백만원을 운용하여 나갈 계획이다.

<表2-4-21>

種子基金 運用実績 및 計劃

(單位：百萬圓)

		'85	'88	'89	'90(P)
收入 (調達)	種子販賣收入	8,282	11,238	12,379	15,419
	雜受益等	308	486	431	533
	他會計轉入金	1,376	379	1,000	—
	前年度移越金	376	230	152	—
	基金預託	5,636	8,280	7,960	9,000
計		15,978	20,613	21,922	24,972
支出 (運用)	種子買入金	5,890	8,198	8,422	10,087
	生産補償金	473	1,061	1,362	1,398
	操作費等	956	1,392	1,323	1,705
	償還金	1,058	2,199	2,360	2,782
	預託金回收	7,040	7,620	8,250	9,000
	次年移越	561	152	205	—

資料：農林水産部 農産局

나. 農藥의 需給管理 및 安全使用

(1) 農藥의 需給管理

農藥 供給을 원활히 하기 위하여 '89년의 水稻用 農藥出荷量 15.0천톤 (成分量 7.4천톤)중 45%에 해당하는 6.8천톤(成分量 3.4천톤)을 農協에서 確保, 供給토록 계획하였던 바 실제 總確保量은 10.4천톤(成分量 5.2

<表 2-4-22>

農藥需給実績 및 計劃

(單位：基準藥劑 噸)

	計		農 協		市 販	
	'89	'90	'89	'90	'89	'90
計	71,802	54,900	14,787	13,818	57,015	41,082
○ 水稻用	20,972	15,750	10,422	9,780	10,550	5,970
- 殺菌劑	10,083	7,630	4,799	4,475	5,284	3,155
- 殺蟲劑	10,889	8,120	5,623	5,305	5,266	2,815
○ 園藝用	30,227	24,050	858	934	29,369	23,116
○ 除草劑	16,376	12,050	2,856	2,892	13,520	9,158
○ 其他	4,227	3,050	651	212	3,576	2,838

資料：農林水産部 農産局

천톤)이었으며, 이중 65%에 해당하는 6.8천톤(成分量 3.0천톤)을 공급하여 농약수급에 차질이 없도록 하였고, 突發 病害蟲 발생에 대비하여 農藥 原劑 2.5천톤(成分量 1.1천톤)을 별도로 비축하였다.

'90년에는 농협이 水稻用으로 9.8천톤, 除草劑, 園藝用 등으로 4.0천톤 등 총 13.8천톤을 확보토록 하였다.

또한, 농민들의 편의를 도모하고 適期防除를 위하여 里洞에 있는 農藥 分散販賣所와 마을單位 營農會를 통해서도 농약을 공급하였고, 농민의 부담을 줄이기 위하여 共同防除用 農藥은 12월 15일까지 無利子 外上供給 제한에 따라 모두 1,243백만원의 利子負擔이 줄어든 결과를 가져왔다.

(2) 農藥管理 및 安全使用指導

'89년말 현재 告示된 농약의 品目數는 448개로서 이 중 水稻用은 殺菌劑 47個, 殺蟲劑 59個等 모두 106개이며, 園藝用이 239個, 除草劑가 83個, 其他 20個이다.

'89년에 새로 개발된 농약은 殺菌劑 13個, 殺蟲劑 4個, 除草劑 14個, 其他 1個 品目으로서 모두 32개 품목을 추가로 告示하였으며 農藥名 變更, 藥效保證期間 變更等의 필요한 조치를 취하였다.

또한 농약의 품질관리를 위해 시중에 유통되는 농약중 1,425점을 발취하여 理化學的 檢査를 실시한 결과 成分未達等으로 불합격한 10개 품목에 대해 警告等의 조치를 하였고, 市·道別 不良農藥 團東도 년중 실시하였으며 농약의 안전사용을 위하여 安全使用基準品目을 추가로 설정함으로써 '89년까지 農藥安全使用 基準設定 對象 全品目인 303個品目에 대해 이 기준이 설정되었다.

農藥使用에 따른 사용자와 소비자의 피해를 방지하기 위하여 保健社會部가 설정 고시한 28개 농산물에 대한 17個 農藥 殘留許容 基準이 '90. 9월부터 본격 시행되어 基準超過로 부적합한 농산물에 대하여는 他用途轉換 또는 廢棄處分等의 조치를 취하게 되었다.

이에 따라 농민들의 農藥殘留許容量 초과 농산물 생산에 대한 우려를

해소함은 물론 농민의 農藥中毒을 사전에 방지하기 위하여 '89. 4월 설정 고시한 303개 품목의 農藥安全使用基準에 관한 教育과 弘報를 '89년에 農民 172만명, 農藥擔當公務員 및 農協職員 880명, 農藥販賣商管理人 3,300명에 대해 실시하였고, 금년에는 이를 더욱 강화해 나갈 것이다.

특히 農藥使用 盛需期인 7~8월 農藥安全使用 重點指導 期間으로 農藥中毒 防止와 不良農藥의 流通을 근절토록 할 것이며, 國內外的으로 有害判定된 有害農藥의 國內 試驗 및 使用禁止를 계속해 나갈 것이다.

또한 농약으로 인한 불의의 中毒事故 방지를 위하여 農藥安全 使用 裝備를 확대 공급하고 있는바, 防除服을 '89년 93.2千着에서 '90년에는 111.5千着으로 확대 공급하고, 解毒劑는 지난해와 같은 수준인 131萬錠을 공급할 계획이다.

아울러 農藥安全使用 홍보를 위하여 비디오테이프 2종 445물, 슬라이드 1,050조, 農藥安全使用 教材 및 홍보 책자 9종등 1,505천부를 제작 배부하는 한편, 농약이 생태계에 미치는 영향에 대한 과학적인 조사를 위하여 關係部處와 협의하고 추진계획을 수립하여 연차적으로 추진할 것이다.

장기적으로는 農藥安全使用訓練센터 설립 및 遺傳工學 技法을 이용한 無公害 低毒性 生物農藥 開發과 農藥殘留 輕減洗劑 開發等 農藥 安全使用에 만전을 기하여 나갈 계획이다.

農藥管理基金은 農藥의 品目告示를 위한 農藥의 藥効, 藥害, 毒性 및 殘留性에 관한 試驗을 실시하는데 소요되는 비용과 고시된 품목의 안전 사용을 홍보하기 위한 비용 및 基金管理費用에 충당하기 위하여 農藥管理法에 의해 설치 운용되고 있다.

이 기금은 農藥製造業者 및 輸入業者의 農藥品目別 販賣額의 일부를 적립하여 조성되고 있는데 '89년까지 조성액은 1,950백만원이다.

'89년 기금의 운용은 주로 농약의 품목고시를 위한 試驗費用, 農藥의 安全使用 取扱 및 管理에 관한 試驗과 教育 및 弘報費用, 基金의 管理費用 등으로 사용되었다.

이중 試驗事業에 있어서는 品目告示를 爲한 藥効 및 藥害試驗 207個項目을 비롯하여 安全使用 設定試驗 2個項目 및 經口, 經皮 188個藥種, 魚毒 29個藥種의 毒性試驗과 5개 항목을 대상으로 殘留性 試驗도 실시하였다.

다. 肥料需給 및 均衡施肥

'89년의 肥料消費量은 成分量 基準으로 954천톤이며, ha당 소비량은 384kg으로 나타났다. 이를 肥質別로 보면, 질소질이 483천톤, 인산질이 221천톤, 가리질이 250천톤으로 아직 질소질선호경향이 계속되고 있다.

單複肥 消費趨勢를 보면, 單肥는 '75년에 비해 크게 감소한 반면, 複肥는 '70년대 후반부터 작물별로 적합한 복합비료의 개발보급에 힘입어 이의 소비가 현저히 늘어나고 있는 실정이다.

한편 肥料取扱形態는 '88년 1월부터 肥料販賣自律화와 함께 從前의 政

<表 2-4-23>

肥料消費量 趨勢

(單位:成分, 千噸)

		'70	'80	'85	'87	'88	'89
3 要 所 別	窒 素 質	356	448	414	451	469	483
	磷 酸 質	124	196	186	212	219	221
	加 里 質	88	183	207	243	255	250
	計	568	827	807	906	943	954
單複 肥別	單 肥	347	308	260	278	298	297
	複 肥	221	519	547	628	645	657
ha當 消費量(kg)		161	285	311	349	373	384

資料: 農林水産部 農産局

府取扱肥料가 農協의 自體事業으로 이관됨에 따라 農協取扱肥料와 市販肥料로 구분된다.

즉, 農協에서는 요소를 비롯한 단비와 식량작물 위주의 專用複合肥料를 공급하고, 市販肥料를 취급하는 民間측에서는 과수, 원예등 경제작물 위주의 複合肥料를 공급하고 있다. '89年 農協取扱肥料의 供給量은 865천톤으로서 전체 비료공급량 954천톤의 91%를 차지했으며 나머지 9%(89천

톤)는 市販量이었다.

<表 2-4-24> '89년 肥料取扱形態別 供給実績
(單位：成分, 千톤)

	計	農協取扱	市販
計	954(100%)	865(91%)	89(9%)
窒素質	483	451	32
磷酸質	221	194	27
加里質	250	220	30

資料：農林水産部 農産局

금년도 농협을 통한 肥料確保計劃은 1,239천톤으로서 이중 881천톤은
년내 농민에게 판매하고 358천톤은 '91년도 肥料需給安定을 위하여 이월
할 계획이다.

肥料費는 農家全體經營費의 9.7% 수준을 차지하고 있는 실정으로 농민
들의 비료비 부담을 덜어주기 위하여 그간 정부에서는 판매가격인상을

<表 2-4-25> '90農協取扱肥料 需給計劃
(單位：成分 千톤)

	確 保			販 賣	在 庫
	前年二月	購 買	計		
計	364	875	1,239	881	358
窒素質	183	453	636	454	182
磷酸質	92	195	287	198	89
加里質	89	227	316	229	87

資料：農林水産部 農産局

억제하여 농가에 공급해 왔다.

'88년부터는 販賣自律化로 비료의 생산 및 판매에도 경쟁체제를 도입하
여 價格引下와 品質改善을 유도함과 아울러 '89년 1월부터 尿素 및 水稻
用 複合肥料에 대해 附加價値稅 零稅率을 적용하여 대농민판매가격을 평
균 7.2% 인하함으로써 농민부담이 경감되도록 하였으며 '90년에는 가격
인상요인이 있었음에도 농민부담을 최대한 경감시키기 위해 평균 2.7%
인상한 가격으로 공급하고 있다.

그러나 인산질 및 가리질 단비와 기타 複肥價格이 현실화될 경우에는 최고 77%까지 가격을 인상해야 하므로 농민 부담경감과 질소, 인산, 가리 3요소의 均衡施肥 유도를 위해 이들 비료값을 올리지 않고, 이에 대한 가격차손 132억원을 89년 예산에서 보전토록 함으로써 비료비의 부담을 경감토록 하였으며 '90년에도 발생이 예상되는 결손액 약95억원은 정부가 부담할 계획이다.

이러한 부담완화와 함께 농민의 肥料購入便宜를 위하여 농협창고별 分散販賣, 公休日 無休販賣를 실시하고 또한 영농자금 400억원을 영세농의

<表 2-4-26>

肥料計定 赤字現況

(單位：億圓)

	'75	'80	'84	'85	'86	'87	'88	'89
當 年	△700	△1,257	△975	△1,063	△1,203	△1,328	△788	△958
補 填	-	-	600	462	-	-	-	-
累 計	△1,000	△2,972	△7,117	△7,718	△8,921	△10,249	△11,037	△11,995

資料：農林水産部 農産局

비료외상구입자금으로 확보하여 외상비료공급에도 차질이 없도록 할 계획이다.

'88年 肥料 販賣自律化 이후 비료계정은 부족자금 차입에 따른 이자부담이외는 적자를 내지 않고 있음에도 불구하고, '84년과 '85년을 제외하면 적자보전이 이루어지지 못함에 따라 '89년말 현재 적자 누적액은 1조 1,995억원으로 '88年보다 958억원이 늘어났다.

<表 2-4-27>

肥料3要素 均衡施肥 現況

(單位：%)

	標準施肥	'70	'75	'80	'85	'86	'87	'88	'89
窒 素 質	40	63	54	54	54	50	50	50	51
磷 酸 質	29	22	27	24	23	24	23	23	23
加 里 質	31	15	19	22	26	26	27	27	26
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

資料：農林水産部 農産局

한편 '89년의 肥料3要素 施肥比率를 보면, 질소질 51%, 인산질 23%, 가리질 26%로서 施肥技術指導 및 作物別 專用複肥 開發施用에 힘입어 標準施肥 基準(40:29:31)에 상당히 접근하고 있으나 아직도 질소질을 편중사용하고 있는 실정이다.

이러한 窒素質 過多施用으로 인한 病蟲害, 倒伏 등 각종 災害被害가 빈발하고 있는 점을 감안하여 금년도에는 肥料 3要素의 均衡施肥를 유도하기 위해 作物栽培地帶에 알맞는 複合肥料를 사용토록 大농민 지도를 적극 전개하여 나갈 것이다.

<表 2-4-28> 作物別 專用複合肥料 現況

肥 種	벼					보 리	콩
	못자리用	1毛作用	2毛作用	冷害用	이삭거름		
肥 種	18-18-18	17-21-17	21-17-17	15-20-15	18-0-18	10-22-14	8-14-12

資料：農林水産部 農産局

第3節 畜産長期發展對策과 畜産物 價格安定

1. 畜産長期發展對策 推進

가. 對策樹立의 背景

우리나라 畜産業은 국민소득의 향상으로 축산물 수요가 증가함에 따라 농가의 주소득원으로 성장할 수 있는 잠재력이 크나 飼育基盤이 매우 취약하고 규모가 영세하여 國際競爭力이 크게 뒤지고 있다.

따라서 축산업을 수입개방 이후에도 농가 주소득원으로 정착시키기 위하여 '89. 4. 28일에 발표한 農漁村開發綜合對策의 축산부분을 구체화하는 실천계획의 일환으로 畜産長期發展對策을 마련하고 이를 1段階 構造 調整期인 2001년까지 추진해 나갈 계획이다.

		'88	'89	'90	'91	'96	2001	年平均增加率		
								'80~ '88	'89~ 2001	2001 /'89
1 人 當 需 要 (kg)	肉 類	17.0	18.2	18.5	20.1	24.7	31.9	4.5%	4.8	1.8倍
	쇠 고 기	3.4	3.4	3.5	3.6	4.5	5.7	1.4	4.4	1.7
	돼지고기	10.1	11.1	11.2	12.3	15.0	19.6	6.0	5.0	1.8
	닭 고 기	3.5	3.7	3.8	4.2	5.2	6.6	4.3	4.9	1.8
	鷄 卵	9.5	9.0	9.6	10.1	11.5	13.2	4.9	3.2	1.5
	牛 乳	39.4	38.7	41.7	43.6	53.2	63.1	16.5	4.2	1.6
總 需 要 (千 톤)	肉 類	716	770	790	868	1,117	1,504	5.9	5.7	2.0
	쇠 고 기	142	143	148	156	202	267	2.5	5.3	1.9
	돼지고기	425	472	480	531	679	925	7.3	5.8	2.0
	닭 고 기	149	155	162	181	236	312	5.8	6.0	2.0
	鷄 卵	397	381	412	436	521	623	6.0	4.2	1.6
	牛 乳	1,652	1,642	1,784	1,884	2,411	2,975	17.9	5.1	1.8

자료 : 農林水産部 畜産局

나. 畜産物 需給 및 價格安定事業의 定着

養畜農家の 소득을 안정적으로 보장할 수 있도록 畜産物 需給 및 價格 安定事業을 정착시키기 위해 '90년중에 畜産法을 개정하여 安定基準 價格 制度를 설치할 계획이다.

이를 통해 매년 上·下限價格을 설정하여 畜協 또는 畜産物 流通事業 團을 통한 買入, 備蓄, 放出을 제도화하되 우선 쇠고기, 송아지등 생산 및 수급구조가 취약한 품목부터 단계적으로 적용하여 장기적으로는 畜産物 價格安定이 정착되도록 할 것이다.

한편, 生産者團體등 有關기관을 위원으로 하는 “畜産物 需給豫測評價委 員會”를 구성하여 3~5년 단위의 중장기 수급전망과 축산업 등록 및 허가제를 강화하여 필요시 超過飼育賦課金 賦課, 減縮命令 實施등으로 수급 안정을 기하도록 할 계획이다.

아울러 酪農振興法을 개정하여 '85년이래 계속되고 있는 우유공급 과잉과 앞으로 乳製品의 수입개방에 대비하여 乳業體, 畜協등으로 분산된 集乳體制를 축협으로 一元化하고 原乳檢査의 공영제 실시와 酪農振興事業會 설치를 통하여 자율적인 原乳價格 결정과 牛乳 수급기능을 수행하도록 할 계획이다.

다. 畜産業의 構造改善과 競爭力 向上

축산업의 구조개선을 촉진하여 축산업의 경쟁력과 생산성을 향상시키기 위해 韓牛의 경우 飼育規模를 5~10두 정도로 점차 확대하여 副業養畜農家の 소득증대 방향으로 구조를 전환해 나가고, 젓소는 20~30두, 돼지는 100두내외의 家族單位 專業規模로, 그리고 닭은 專企業規模로 육성해 나갈 것이다.

아울러 돼지와 닭은 畜協과 農家間에 생산에서부터 판매까지 一貫體系가 되도록 系列化事業을 지원하되, 특히 돼지는 飼育規模間 役割分擔을 유도하여, 大規模 養豚事業에 대하여는 수출에 주력토록 함으로써 需給調節 및 價格安定을 도모하고, 副·專業規模는 국내공급을 위주로 하여 규모간 균형발전을 도모할 것이다.

또한 大企業資本의 축산분야 참여를 규제하여 中小養畜農家の 소득원이 보호되도록 추진해 나가며 多元化되어 있는 家畜改良體系를 國立種畜院으로 일원화하여 한우고기의 肉質 高級化를 추진함으로써 수입쇠고기와 價格差別化를 誘導하는 등 본격적인 개량사업을 추진할 것이다.

한편, 飼育施設自動化등 시설개선자금으로 '90년에는 83억원을 지원하여 생산성을 높이고 경영비 부담의 경감을 위한 養畜資金 支援規模도 축산경영비의 50%수준까지 확대하는 것을 목표로 '90년에는 1,700억을 지원하는 한편 配合飼料의 附加價値稅 零稅率 적용등 畜産關聯 稅制를 개선해 나갈 계획이다.

라. 飼料資源의 積極開發과 飼料需給 安定

畜產物生産의 基本資材가 되는 飼料의 需給安定과 粗飼料 原料의 적극 개발을 위한 시책을 더욱 강화해 나갈 계획이다.

이를 위해 '90년중에 飼料管理法을 개정하여 '91년부터 配合飼料工場 許可制의 전면 해제와 옥수수, 콩, 보리등을 제외한 飼料原料의 輸入自由化를 확대함으로써 장기적으로는 自家配合飼料 利用體制로 전환해 나가며, 畜協 飼料工場 施設擴大로 生産者團體의 市場占有率을 30%이상으로 높일 계획이다.

또한 '90년중 草地法을 개정하여 초지의 조성과 사후관리를 대폭 개선하여 기조성된 초지중 방치되고 있는 초지는 과감히 정리하여 현실성 있는 용도로 활용하고 앞으로의 草地造成事業은 실수요자 중심의 民間草地 위주로 개발하기 위하여 造成費 이외 基盤施設費, 附帶施設費, 機械購入資金 등을 지원할 것이다.

한편, 초지의 公營開發을 통하여 도시근교등 不適地의 酪農家와 酪農業 後繼者중 이주희망자를 모집하여 장기임대 또는 분양 이용토록 추진하되, 우선 시범사업을 실시하여 그 결과를 보아 점진적으로 확대해 나가며, 畚作地帶 農家와 飼料作物 契約栽培 및 賦存飼料資源의 개발 이용을 확대할 계획이다.

마. 輸出有望品目の 開發 및 畜產公害防止 積極 推進

돼지고기, 닭고기, 한우 고급고기등 輸出有望品目을 개발하고 수출지원을 강화하기 위해서 우선 돼지고기의 경우 '89년 12천톤인 수출량을 2001년에는 70천톤까지 올린다는 목표아래 현행 90kg인 輸出規格豚 生産指導를 110kg으로 상향 지도하고, 돼지수출 專用屠畜場 設置許容으로 衛生豚肉을 생산토록 하며, 冷凍肉 輸出을 冷蔵肉 輸出로 전환하기 위해 '90년부터 2001년까지 매년 10억원을 들여 33개소의 關係施設 改善을 추

진할 계획이다.

닭고기는 雞肉加工産業 육성으로 닭고기 수출촉진을 도모하며 한우는 適正價格 및 適正飼育頭數 확보를 위해 生牛輸出基盤을 지속 유지하는 한편 생우수출을 쇠고기형태로 전환을 유도할 것이다.

한편, 꿀벌, 사슴, 토끼등 特殊家畜을 畜種別, 地域別 特性에 따라 소득원 품목으로 육성하여 輸入代替産業으로 육성할 계획이다.

아울러 畜産物 檢疫制度 및 檢疫機能을 강화하여 惡性 傳染病의 國內 流入을 방지하고 國內 畜産농가를 보호하며 위생상 건전한 식품을 공급함으로써 國民保健向上에도 이바지 하기 위해 動物檢疫所 機能을 크게 강화하고 輸入相對國의 衛生狀況 및 國內與件에 따라 수입 축산물에 대해 精密檢査를 실시해 나갈 것이다.

畜産食品 有害 殘留物質 檢査를 강화하기 위해 動物藥品 誤・濫用 防止를 위한 使用安全基準을 제정하고 현재 27種인 檢査對象 物質을 64種까지 확대해 나갈 계획으로서 이를 위해 檢査裝備 現代化도 적극 추진해 나갈 예정이다.

한편, 최근 문제가 되고 있는 畜産廢水로 인한 養畜農家の 經濟的 負擔을 덜어주고 축산의욕을 고취시키기 위해서 영세양축농가에 대한 糞尿貯藏탱크 및 簡易淨化槽 施設費를 지원하고, 家畜糞尿를 비료, 사료등으로 개발하여 재활용토록 하는등 畜産公害防止施策을 추진할 예정이다.

2. 畜産物需給 및 價格安定

가. 소

소飼育頭數가 '86. 6월의 3,862천두에서 '89. 12월 2,851천두로 급격한 감소 추세를 보이고 있는데다 '88. 7월 쇠고기 수입재개에 따라 국내 수급안정 기반이 약화되고 있다.

따라서 '90년에는 소飼育頭數의 감소를 방지하기 위하여 適正飼育頭數

를 유지하고 품질의 고급화로 국제경쟁력을 높이기 위해 韓牛改良 團地 事業을 '89년 64개소에서 100개소로 확대함과 아울러 쇠고기의 수급 및 가격을 안정시키는데 역점을 둠으로써 소를 농가의 주요 소득원으로 정착시켜 나갈 계획이다.

한편 쇠고기의 수입은 對外的 通商摩擦을 고려하여 국내 수급상 부족분 68천톤을 수입하고, 이를 국내 소값동향에 따라 탄력적으로 방출해 나갈 것이다. 특히 소값 안정을 위해 쇠고기 가격안정대를 畜產法에 규정하여 매년 생산비를 감안한 쇠고기 價格安定 基準價格을 설정 운용함으로써 국내 소 飼育基盤 安定과 農家の 所得保障을 위해 최선을 다해 나갈 것이다.

<表2-4-30>

'90쇠고기 需給展望

(單位：천톤)

	供 給				需 要			次 年 移 越	1人當 消費量
	前年移越	國內產	輸 入	計	國內產	輸 入	計		
'89(實績)	4.9	90.0	49.6	144.5	90.0	53.3	143.3	1.2	3.4kg
'90(展望)	1.2	96.8	68.0	166.0	96.8	66.2	163.0	3.0	3.8

資料：農林水產部 畜產局

나. 돼지와 닭

돼지는 생산 및 가격등락의 주기가 비교적 짧기 때문에 畜產觀測을 강화하여 養畜農家가 사전에 자율적으로 생산을 조절토록 하고, 축협과 민간업체로 하여금 系列化 生産體制를 추진함으로써 농가가 안심하고 양돈 경영을 하도록 하는 한편 生産者團體와 輸出業體 등에 需給調節資金을 지원하여 價格 下落時에는 原料肉을 備蓄하고 上昇時에는 이를 放出토록 하여 안정화를 기하도록 할 것이다.

닭도 수요에 알맞는 適正飼育이 유지되도록 畜產觀測을 강화하고 孵化場의 入卵 및 병아리 生産販賣量을 전파함으로써 생산자 단체를 통한 자율적인 생산조절을 꾀해 나가고 생산자 및 소비자단체로 하여금 養鷄產物에 대한 소비 홍보를 강화하여 소비확대를 유도해 나갈 것이다.

또한 닭고기의 계획 생산체계를 확립하기 위해 '85년부터 추진하고 있는 계열화 생산업체에 대하여 수급조절 자금을 지원하고 계란 집산지에 鷄卵集荷場을 설치하여 유통구조를 개선하는 한편 장기적인 개량목표의 설정으로 양계업의 안정적인 성장과 國際競爭力을 제고시켜 나갈 방침이다.

<表2-4-31> '90돼지고기 需給展望

	生 産	需 要			過 不 足	1 人 當 消 費
		國 內	輸 出	計		
'89 (實 績)	485千톤	473	12	485	-	11.1kg
'90 (展 望)	479	480	15	495	△16	11.2

註 : 過不足 16千톤은 돼지고기 出荷體重 上向調節로 充當.

資料 : 農林水産部 畜産局

다. 畜産振興基金 運用

畜産振興基金은 畜産振興과 畜産物 需給 및 價格安定에 필요한 財源 확보를 목적으로 畜産法 제42조에 의거 74년 설치된 이래 '89년말까지 정부출연 및 수입쇠고기 판매 수익금등으로 총 8,273억원을 조성하였다. 본기금은 그동안 보조금 및 기금 사업비로 4,767억원을 사용하고, '89년 말까지의 殘額은 借入金을 포함하여 3,720억원으로서 融資金支援 2,263억원, 需給調節資金 事業支援 469억원, 쇠고기 價格安定帶資金 446억원, 기타 542억원으로 운용하고 있다.

한편, '90년에는 畜産振興基金 收入金 865억원의 新規調達과 回收資金 658억원, 充當金 278억원등 총 1,801억원을 조달하여 需給調節 및 流通分野에 842억원, 家畜改良 및 増殖에 98억원, 쇠고기 價格安定帶制 運營에 124억원, 借入金償還 및 기타 分野에 737억원을 지원 운용할 계획이다.

<表2-4-32>

畜產振興基金 運用計劃

(單位：百萬圓)

調		達		運		用	
項 目	'89	'90	項 目	'89	'90	項 目	'89
	實 績	計 劃		實 績	計 劃		
1. 畜產振興基金收入	88,127	86,518	1. 需給調節 및 畜	75,916	84,177		
2. 回收資金	41,965	65,778	產物流通				
3. 쇠고기 價格安定 帶制 運營資金	40,000	—	2. 草地造成 및 飼	1,844	3,517		
4. 充當金等	41,108	27,761	料對策				
			3. 家畜改良 및 増殖	8,993	9,767		
			4. 酪農振興 및 家	2,676	5,822		
			畜防疫				
			5. 쇠고기 價格安定	44,624	12,445		
			帶制 運營資金				
			6. 借入金 償還 및	77,147	64,329		
			利子等				
計	211,200	180,057	計	211,200	180,057		

資料：農林水產部 畜產局

第5章 農外所得源 開發

第1節 農工團地의 擴大造成 및 農漁民 職業訓練實施

1. 農工團地의 擴大造成

84년부터 착수된 農工團地 造成事業은 '89년까지 170개소를 지정하여 그 중 103개소는 敷地造成을 완료하였으며, 여기에 입주자 확정된 2,051개 공장중 552개 工場이稼動中이고, 399개 공장은 建築中에 있다.

금년에도 45개 農工團地를 신규로 조성할 계획이며, '93년까지 총 350개 농공단지를 조성하여 4,500개 공장을 입주시킴으로써 농외소득을 증대하여 都·農間의 均衡發展을 도모할 계획이다.

<表 2-5-1>

農工團地 造成計劃

	'89	'90	'91	'92	'93
團地數(個所)	170	215	260	305	350
延面積(千坪)	7,439	10,500	12,500	15,000	17,500
入住工場(個)	2,051	2,700	3,300	4,000	4,500

註：累計 概念임

資料：農林水産部 農業構造政策局

특히 금년부터는 農工團地 造成事業을 보다 효율적으로 추진하기 위하여 농공단지 지정과 개발에 따른 土地利用 및 調整權, 團地指定審議權을 道知事에게 위임하였으며 종전의 一般指定과 特別指定 방식을 團地當 3만평 내지 75천평 범위내에서 環境 및 事業性을 검토하여 적합한 3개이상 企業(敷地所要 15千坪이상)의 入住需要를 確保後 指定開發하는 방식으로 一元化하여 무리한 工場誘致 및 團地別 規模의 非效率化等を 방지하였다.

또한 農工團地 指定對象地域을 全部과 人口 20萬이하의 市에서 全郡과

人口 10萬이하의 시로 조정하였고, 工業立地與件 및 環境이 크게 불리한 落後農漁村地域을 “優先支援農漁村”으로 선정하여 敷地造成 事業費 및 入住業體에 對한 稅制支援을 강화하였다.

아울러 地方自治團體의 업무추진을 용이하게 하고 落後農漁村에 상대적으로 많은 지원이 될 수 있도록 지원방식을 定率支援에서 定額支援으로 변경하였으며, 入住企業에 대한 環境性檢討 權限(環境保全法上 1, 2, 3種)을 道知事에게 위임하고 事業性 檢討節次를 크게 간소화 하였다.

落後農漁村地域에 농공단지 개발을 확산하고 農外就業機會의 안정적 확보를 위하여 入住 中小企業에 대한 施設 및 運轉資金과 共同汚染廢水 處理場 施設에 대한 지원을 확대하였으며 대기업을 입주 가능하도록 優先支援農漁村의 市·郡當 開發制限 延面積을 30만평까지 확대 허용하였다.

또한 입주기업에 지원한 시설자금의 상환기간을 연장하였으며 현지 농어민을 많이 고용하여 농외소득증대에 크게 기여하고 있는 기업에 대하여는 運轉資金을 1회전 추가로 지원하기로 하였다.

2. 農漁民 職業訓練 實施

農漁家の 획기적인 所得增大를 위해서는 대부분의 농어가가 農外所得에 의존하지 않고는 어려운 실정이므로, 정부는 농어업에 전념하고자 하는 농어가에게는 營農漁規模擴大로 농어업 생산성 향상에 주력케 하고, 轉業할 의사는 있으나 자력으로는 불가능한 兼業 및 轉業 希望 農漁家에 대해서는 정부가 직접 지원하는 직업훈련으로 轉業을 촉진하여 농외소득 증대와 함께 농어업의 구조개선에 기여토록 추진하고 있다.

農漁民 職業訓練 實施에 있어 零細農漁家와 轉業希望 農漁家是 취업 및 자영이 용이한 成長有望 職種을 선정하여, 우선적으로 職業訓練을 실시하되 經濟的·心理的으로 안심하고 직업훈련을 받을 수 있도록 최대한

지원할 예정이며, 訓練前後에도 持續的인 就業 情報提供等으로 就業促進을 유도해 나갈것이다.

지원내용을 類型別로보면 첫째, 0.5ha미만 零細農家와 이에 준하는 漁家, 그리고 經營資金 移轉 農漁家 및 5년이상 農漁村振興公社에 농지를 장기 賃貸하는 농어가는 사전에 관련 산업체와 협의하여 先就業保障後 就業希望 職種을 훈련받도록 하여 轉業에 대한 자신감을 갖도록 하여 先就業 보장이 어려울 시는 訓練實施後 最優先하여 취업을 알선하고,

둘째, 1.0ha未滿 兼業農漁家와 이에 準하는 漁家は 訓練後 就業을 알선할 계획이다.

그리고 訓練期間中 零細農漁家, 經營資産移轉 農漁家, 農地長期賃貸 農漁家, 兼業農漁家에는 訓練費 全額과 家族生計費의 일부가 지원된다.

훈련대상은 職業訓練希望日 현재 농어업에 종사하고 있는 만 14세이상 50세까지의 農漁家 家口員으로서, 0.5ha未滿 農漁家와 經營移轉 및 5年以上 農地 長期賃貸 農漁家は 希望家口員 全員, 0.5ha~1.0ha 농어가는 2인

<表 2-5-2>

'90農漁民職業訓練 細部支援計劃

(金額單位: 원)

	支 援 內 容	支 援 金 額	備 考
○ 訓練準備金	○ 訓練入所後	20,000/1人	1回
○ 訓練受講料	○ 職種別 受講料 全額	45,000~110,000/ 1人	6~12月
○ 社內訓練支援	○ 就業農漁民에 對해 社內 職業訓練을 實施하는 農工地 區 入住業體에 補助	40,000/1人	1~ 6月
○ 家族生計費	○ 1.0ha 未滿	30,000 × 家族數	3人以內
○ 就業準備金	○ 職業訓練 履修者의 就業 確定時	50,000/1人	1回
○ 就業支援金	○ 職業訓練履修者中 農地, 漁 船을 賣渡 또는 農地를 長期賃貸한者(5年以上)	50,000/1人	1回

資料: 農林水産部 農業構造政策局

까지 해당되며, 訓練生 選拔은 邑・面・洞長(農地管理委員會)이 희망가구 원으로부터 신청을 받아 農漁村振興公社에서 선발하고, 훈련기관에 훈련생을 위탁하여 訓練職種別 訓練을 실시하게 된다.

올해는 총예산 115억원으로 農漁村發展特別措置法 시행령이 마련되는 하반기부터 사업에 착수하여 1만 7천명에 대해 훈련을 실시하고 5천명에 대해 就業支援金을 지원할 계획이다.

第2節 農漁村特産團地 造成擴大

農漁村 遊休勞動力과 賦存資源을 활용하여 농외소득 증대를 목적으로 추진되어온 農漁村 特産團地(종래의 副業團地)는 家內手工業型에서 小規模企業型으로 발전됨으로써 농어가의 소득증대에 크게 기여하고 있다.

금년에도 105개 특산단지를 신규로 지정육성하고 特産製品的 販賣網을 農協連鎖店, 슈퍼마켓 및 大都市 百貨店까지로 확대하는 한편 農家工產品 판매센터를 통한 特産製品的 競進大會 및 道別特産製品的 展示會를 개최하고 輸出市場 開拓에도 주력해 나갈 계획이다.

이와 아울러 '88년부터 농협이 示範事業으로 추진하고 있는 農家工產品 賃加工事業에 참여하는 농어촌지역을 農漁村發展特別措置法에 의한 특산단지로 지정하여 적극 육성해 나갈 계획이다.

<表 2-5-3>

農漁村特産團地 現況

(單位：個所)

計	民俗 工藝品	食料品	一般 工產品	農水產 資材	纖維織物	石 材
989	338	396	98	92	53	12

註：'90. 6月 現在임.

資料：農林水產部 農業構造政策局

第3節 農漁村觀光所得源 開發

自然觀光, 歷史的 遺跡地, 文化財 및 農漁村地域에 산재되어 있는 여러 가지 觀光資源을 농어가의 소득원으로 개발하기 위한 觀光農業開發 事業을 지난 '84년부터 추진해오고 있으며, '89년까지 총 81억원의 자금을 지원하여 97개 지구를 조성하였다.

금년도에도 92억원의 자금을 지원하여 43개 지구를 새로이 조성중에 있으며, '92년까지는 년차적으로 200개 지구로 확대 개발해 나갈 계획이다.

<表2-5-4>

農漁村觀光所得源 開發計劃

(單位: 個所, 億圓)

	'88년까지	'89	'90	'91	'92	計
地區造成	69	28	43	25	35	200
資金支援	30	51	92	135	244	534

註: 既造成地區中 '90. 5現在 12個 地區 指定取消

農園開發類型도 종전의 直賣農園, 貸貸農園, 綜合觀光園 형태와 달리 그 지역의 특성에 맞도록 兒童自然學習農園, 靑少年心身修鍊農園, 山間地域 休養農園 등으로 개발을 유도해 나갈 계획이다.

또한 農漁村發展特別措置法에 의기 既推進하고 있는 觀光農業開發事業은 점진적으로 축소하고 市長·郡守, 農漁村振興公社等이 개발하여 실수요자에게 분양토록하는 農漁村 休養地開發事業을 확대해 나갈 계획이다.

第6章 農水產物輸入自由化와 GATT 우루과이라운드 農產物協商對策方向

第1節 GATT 우루과이라운드(GATT/UR) 農產物協商對策

1. 推 進 經 緯

'80년대에 들어 세계 貿易不均衡의 확대로 保護主義 傾向이 심화됨에 따라 미국, EC, 일본등 先進國을 중심으로 새로운 多者間 貿易協商 추진의 필요성이 제기되었다.

이에따라 世界交易秩序를 再定立하고, 交易擴大方案을 협의하기 위하여 '86. 9월 우루과이의 Punta del Este에서 GATT 각료선언으로 우루과이라운드를 공식 出帆시켰으며, 農產物分野도 14個 商品交易議題중 主要議題의 하나로 채택되게 되었다.

특히, 농수산물의 경우 農產物輸入國의 國內食糧 自給率 向上, 輸出國의 過剩在庫 累增으로 農產物交易이 침체되었고, 이로 인하여 農產物 輸入規制에 대한 GATT 분쟁이 빈발해지고 過剩在庫 處理를 위한 선진국들의 補助金 支給을 통한 수출경쟁이 격화된 한편, 미국, EC, 일본등은 계속된 농업보호 시책의 추진으로 農業支援과 輸出補助金 支給에 따른 財政負擔 增加로 農業政策修行에 한계를 드러내게 되어 그 필요성은 더욱 절실하였던 것이다.

2. 主要協商 課題

公正하고 市場指向的인 農業貿易 체계를 확립하기 위하여 自由貿易 原則에 입각한 새로운 GATT 규범의 제정과 農業保護 및 支持水準의 상당한 감축방안을 강구키로 한다는데 협상의 목적을 두고 진행되고 있는

GATT 우루과이라운드 農產物協商의 주요과제는 다음과 같다.

먼저 현행 農產物關稅를 인하하고 동시에 非關稅 障壁을 점진적으로 완화하며 食品衛生 및 動·植物檢疫制度를 關聯 國際基準에 합치토록 운영함으로써 무역 규제효과를 최소화하여 농산물의 交易自由化를 확대하고, 農業補助金에 대한 GATT 규율을 강화하여 補助金은 점진적으로 감축하고 특히 輸出補助金은 감축내지 철폐한다는 것이며,

이와 아울러 農產物 輸入國에 대해서는 食糧安保, 雇傭安定, 環境保全, 地域開發등 농업의 非交易的 機能(NTC : Non-Trade Concerns) 유지의 필요성을 인정하고 農業構造가 취약한 개도국에 대하여는 特別優待를 한다는 것들이다.

3. 論 議 現 況

農產物 協商은 선진국과 개도국을 포함한 農產物 輸出國, EC, 先進輸入國, 輸入開途國등 4대 그룹으로 나뉘어 진행되고 있다.

그룹별 입장을 보면 미국이 주도적인 역할을 하고 있는 農產物 輸出國과 케언즈그룹들은 농산물 무역도 공산품과 같이 自由貿易體制로 전환하자는 것이며, EC는 農產物 生産 및 輸出에 대한 政府의 支援을 다소 감축시키는데 동의하면서도 이를 撤廢한다거나 대폭 減縮하는것은 적극 반대하고 있다.

한편, 일본, 스위스, 북구, 오스트리아등 先進輸入國 立場은 이들국가 대부분이 농업구조가 취약하여 상당량의 농산물을 수입으로 충당하고는 있으나 食糧安保와 雇傭維持, 環境保全등 이른바 농업의 非交易的 機能(Non-Trade Concerns)의 유지를 위해서는 농업을 對外 開放으로 부터 보호하지 않을수 없고 政府支援도 불가피하다는 입장이다.

우리나라도 農產物 輸入國 立場을 동시에 취하면서 實利 확보에 주력해 왔는데 즉 농업의 특수성에서 비롯될 農業의 非交易的 機能 維持를 위해서는 주요 농산물에 대한 정부의 직접적인 輸入制限과 價格 및 所得

補助등 정부지원이 계속 허용되어야 한다는 점을 주장하고 있다.

또한 農業開途國에게는 構造調整을 하는데 필요한 猶豫期間을 인정할 뿐만 아니라 관세와 보조금 감축에도 충분한 履行期間을 허용하여야 하고 그 폭도 소폭이어야 한다는 점을 중점 강조해오고 있다.

이와같이 농산물은 各國의 利害가 서로 相反되어 뚜렷한 合意點을 찾지 못한 채 각 나라의 주장만 반복하는 상황이 지난 3년간 계속되어 왔다.

그러나 協商時限('90. 12월)이 臨迫해옴에 따라 農產物 協商그룹 드주(De Zeeuw) 議長은 그동안 협상에서 논의되었던 사항을 토대로 자기 책임하에 合意草案을 작성하여 '90. 7월 농산물 그룹회의에 제시함으로써 협상의 윤곽이 可視化되기 시작한 것이다.

농산물 그룹의장 초안의 주요내용을 보면, 輸入制限 品目은 자유화한 후 관세로 전환하고, 이미 자유화된 농산물의 關稅는 GATT 讓許로 현 수준에서 凍結함으로써 農產物 交易自由化를 확대하고, 농산물 생산 및 무역에 영향을 주는 國內農業 補助政策은 점진적으로 감축하되 農產物 輸出補助金은 급속히 감축하며 開發途上國은 협상결과 이행에 있어서 다소의 신축성을 부여함으로써 特別待遇를 고려하고, 농업의 非交易的 機能(NTC)은 關稅化 過程에서 극히 제한적으로 인정한다는 것이다.

4. 우리 農業에 미치는 影響과 對策方向

'90. 8월 이후 協商展望은 10월로 예정되어 있는 關稅化를 위한 國別 協商基礎資料(Country List) 제출로 협상이 본격화될 전망이며 向後 履行計劃(Offer List)에 대해서는 利害 當事國의 요구로 兩者 協議가 예상되나 全體적으로 합의된 규칙이 없어 원만한 협의는 곤란할 것으로 추측된다.

따라서 각국이 자기의 입장만 주장하게 되어 最終段階까지 원만한 협상이 어려울 경우 政治的 妥結도 예상된다.

그러나 우루과이라운드 농산물협상이 어떤 형식으로 타결되더라도 우

리나라의 경우 점진적인 輸入開放이 불가피하여 기존 輸入制限品目的의 수입자유화와 관세화로 국내 농업생산기반에 타격이 우려되며 수입자유화 품목의 관세도 현행수준에서의 동결의 가능성이 높다.

이와 아울러 國內生産과 價格支持를 위한 보조금 지급도 감축될 전망이어서 이증가격제 및 과실류등 수매자금지원의 점진적인 감축이 불가피한 실정이다.

따라서 이에 대비한 면밀한 대책수립이 필요한 바, 우선 협상대책으로서는 향후 우루과이라운드 농산물 협상에서 우리나라는 食糧安保등 農業의 非交易的 機能(NTC) 유지에 필요한 주요 농산물은 自由化 對象에서 제외되도록 일본, 스위스등과 공동대처해 나가고 농업의 비교역적 기능 관련 주요 농산물에 대한 支援政策은 계속 허용될수 있도록 근거를 확보하고 현재 10년 정도로 논의되고 있는 合意期間을 농업개도국에게는 장기간 허용되도록 추진해 나갈 계획이다.

이를 위하여 研究機關, 學界등을 망라한 協商推進體制를 補強하고 通商分野 專門辯護士 採用, 總力外交活動 展開로 支持基盤을 확보하도록 하는 동시에 우루과이라운드 협상이후 兩者協商에 대비 對應論理도 개발해 나갈 것이다.

한편 우루과이라운드 農產物協商의 윤곽이 제대로 들어나 있지 않은 상황이지만 여러가지 상황의 변화를 고려하여 開放化에 대응한 국내 農政施策을 적극 전개해 나갈 것이다.

따라서, 앞으로 農水産業의 國際化・開放化에 대비하여 國內 農水産業의 構造改善과 生産性向上, 그리고 競爭力強化를 이룩해 나감으로써 自生力을 가진 농수산업의 기반을 다져나가는것이 중요한 課題가 될 것이며, 이를 위해서 첫째, 農業構造改善을 促進하고 農業生産基盤을 정비해 나가야 할 것이다. 營農규모의 擴大, 人力 및 技術開發을 통해서 農業의 生産性向上을 이룩해 나가야 하며, 이를 위해서 農地購入資金의 支援, 長期農地貸貸借制, 專業農育成등의 시책을 내실있게 추진해 나가는 한편, 農業

機械化도 꾸준히 추진해 나가야 할 것이다.

또한 農業生産基盤의 擴充이 무엇보다도 중요한바, 생산성이 낮은 限界畝은 他用途로의 전환, 이용을 확대하고 中長期 食糧需給에 필요한 適定規模의 優良農地에 대해서는 耕地整理, 農業用水開發등 생산기반을 완비해 나갈 것이다. 특히, 현재의 絶對農地와 相對農地의 구분을 폐지하고 '92년까지 農業振興地域을 지정해서 農業振興地域內的 농지는 優先的으로 기반을 완비해 나갈 것이다.

둘째, 作目別 競爭力強化 施策의 적극적 추진이다. 쌀, 보리, 소등 생산기반이나, 農漁家所得에 영향이 큰 품목에 대해서는 收買등을 통한 안정적인 價格支持政策을 추진함과 병행해서 品質向上을 적극 추진해 나가도록 하고, 競爭力이 있거나 有望한 품목에 대해서는 집중적인 技術支援과 投資를 통해서 輸入開放對應作目으로 육성해 나갈 것이다.

셋째, 農家所得의 안정적인 증대를 위해서 農業所得이외에 農外所得 增大施策도 적극적으로 추진해서 農工地區를 확대 조성하고 農漁村休養地, 農漁村特産團地도 내실있게 추진해 나가는 한편 農漁民就業擴大를 위해서 職業訓練도 강화해서 農漁村의 工業化가 農漁民의 所得增大와 連繫될 수 있도록 적극 추진해 나갈 것이다.

넷째, 현재 農漁村은 生活環境이 落後되어 있다는것이 또한 큰 문제이므로 生活環境與件도 획기적으로 개선해 나가야 할 것이다. 面所在地를 중심으로 上·下水道, 所得源道路등 生活基礎施設을 확충해 나가기 위해 面單位 農漁村定住生活圈開發事業을 본격적으로 추진해 나갈 것이다.

다섯째, 農漁民福祉施策의 강화이다. 教育·醫療등에 대한 시책을 강화하고 農漁民年金制와 農漁業災害에 대한 지원시책도 강화해 나가야 할 것이다. 특히, 福祉施策의 강화는 우루과이라운드 農產物協商에서 논의되고 있는 減縮對象施策과는 中立的인 施策이라는 면에서 계속 연구 발전시켜나가야 할 분야이다.

끝으로, 輸入開放 擴大에 대응한 輸出入關聯制度의 再整備이다. 開放化

와 함께 農產物輸入이 급격히 증가하여 國內農業에 심각한 피해를 줄 우려가 있으므로 이에 대비하여 産業被害救濟制度를 최대한 활용할 수 있도록 關聯制度를 개선 보완해 나가는 한편 有害農產物의 수입으로 國民保健에 위험을 방지 않도록 動·植物 檢疫機能도 國際水準으로 확충해 나가고 消費者保護를 위한 各種 制度的 裝置도 발전시켜 나갈 것이다.

第2節 輸入自由化 豫示計劃 및 補完對策

1. 農林水產物 輸入自由化 豫示計劃의 基本方向

國際收支의 黑字轉換에 따른 GATT/BOP 제18조 B항 졸업에 따라 우리나라는 '89. 4월의 自由化 豫示計劃에서 제외된 殘餘 406個 品目에 대한 자유화 계획을 '91. 3월('92-'94)과 '94. 3월('95-'97) 두차례에 걸쳐 제시하도록 국제적 의무를 지니게 되었다.

이와 관련하여 정부는 지킬 것은 지키고, 開放할 것은 開放한다는 확고한 방침아래 個別品目別 保護與否 및 保護範圍를 UR協商, 농업의 長期發展計劃 등과 연계시켜 신중히 검토하여 결정하되, 개방이 불가피한 품목에 대하여는 철저한 補完對策을 수립하여 농어민의 피해가 最小化되도록 할 방침이다.

특히 현재 진행중인 우루과이 라운드(UR)협상에서 우리나라는 開途國을 포함하여 농수산물 수입국들의 최대 관심사항인 食糧安保등 농업의 非交易的 機能(Non-Trade Concerns)을 협상의 주요 토의의제로 제기하여 수출국들의 강경한 주장에 맞서 반영폭을 넓힘으로써 輸入自由化 計劃에 적극 대처해 나가고 있다.

이렇게 함으로써 쌀, 보리, 쇠고기등 농업생산과 농가소득에 큰 비중을 차지하는 품목에 대해서는 계속 수입제한을 유지해 나갈 것이다.

한편 부득이 輸入自由化가 되더라도 옥수수, 대두등은 국내산에 대해

收買政策을 계속 견지해나가되, 收買豫示價格下에서 수익성을 맞추지 못하는 농가는 脫農을 유도하고 참여 농가는 經營規模 擴大를 통해 생산성 향상 및 생산기반을 보존해나가며, 國內外 需要擴大와 品質向上이 가능한 사과, 배등 과실류는 産業被害救濟制度, 檢疫機能 強化등으로 大量輸入으로 인한 국내피해를 최소화할 계획이다.

2. 開放化時代에 맞는 關稅制度 確立

交易의 自由化 擴大 추세속에서 농업을 보호할 수 있는 유일한 보호조치가 관세인점을 고려하여 現行 彈力關稅 制度를 품목별로 유형화하여 국제경쟁력이 없으면서 농가 소득비중이 큰 품목은 割當關稅 및 差額關稅를, 수입이 비탄력적이며 계절성등이 심한 품목은 季節關稅를, 그리고 수입자유화후 추가 수입량에 대하여는 差等關稅등의 적용을 검토할 계획이다.

또한, 고구마와 전분, 국내과일과 과일原液, 돼지고기와 그 육가공품과 같이 代替關係에 있는 것은 이를 서로 연계하여 관세정책을 운용하고 食糧安保上 重要하거나 농가소득에 차지하는 비중이 큰 품목은 讓許排除 및 讓許撤回등 讓許再協商을 병행하는 방안을 검토하여 국내농업 보호를 최대화하는 방향에서 關稅讓許 計劃을 추진할 예정이며, 여타 품목은 협상여건에 따라 탄력적으로 활용하되 적정 수준의 引上限界稅率(Ceiling Binding)을 설정하는 방안을 검토할 계획이다.

<表 2-6-1>

平均關稅率 變動推移

(單位：%)

	'83	'85	'88	引 下 豫 示				
				'89	'90	'91	'92	'93
全 體	23.7	21.3	18.1	12.7	11.4	10.1	8.9	7.9
工 產 品	22.6	20.3	16.9	11.2	9.7	8.4	7.1	6.2
農 畜 水 產 品	31.4	28.8	25.2	20.6	19.9	18.5	17.8	16.8
中 心 關 稅 率	—	—	20	15	13	11	9	8

資料：農林水産部 農業協力通商官室

3. 補完對策의 着實한 推進

農水產物 輸入開放에 따른 보완대책은 피해발생 유형에 따라 差額補償, 生産調整補償, 作目轉換支援, 輸入關聯 構造調整支援등 4개부문으로 구분 지원하고 있다.

'90년에는 差額補償으로 옥수수·포도(양조용)에 222억원, 生産調整補償(포도원폐원비)에 20억원, 作目轉換支援(과인애플, 바나나, 호도, 키위)에 35억원, 輸入關聯 構造調整에 731억원등 총 1,008억원을 지원할 계획이나 자체보상물량의 증가등 여건변화로 추가자금이 필요할 때에는 예산에서 우선 확보하여 지원하므로써 농어민의 피해를 최소화 할 방침이다.

한편, 국내 農業生産基盤 維持, 農漁家所得增大 및 食糧安保上 수입제한이 불가피한 중요품목에 대하여는 계속 보호해 나가고, 對應作目開發은 물론 기존 基幹作目에 대해서는 생산성 향상을 통한 국제경쟁력을 제고 하며, 輸出有望品目에 대해서는 海外輸出市場 開拓등을 통해 對應輸出도 확대해 나가도록 노력할 것이다.

그리고 '90. 5월 “當面農漁村問題에 대한 對策”에서 발표한 바와 같이 農水產物 輸入自由化 추세와 관련하여 추가적으로 몇가지 보완대책을 강화하고자 한다.

첫째, 농수산물의 수입에서 발생하는 利益金은 농어민과 농어촌에 환원 사용한다는 방침아래 農·水·畜協도 農水產物 輸出入業에 적극 참여할 수 있도록 제도화할 뿐만 아니라 농수산물 수입시 부과되는 關稅額('89년 기준시 약 2,600억원)의 상당부분을 農漁村定住生活圈 開發事業은 물론 수입자유화에 따른 피해보상에도 직접 쓸 수 있도록 하겠으며,

둘째, 農水產物 輸入自由化에 따른 補完對策費가 부족할 때는 예산에서 最優先하여 추가지원하다는 방침에 따라 差額補償 對象品目인 콩, 옥수수의 경우 정부수매 물량이 당초 계획량보다 늘어날 경우에는 내년 예산에서 지원토록 하고,

셋째, 農水産物の 輸入開放에 대응하여 사과, 배, 잠업, 화훼, 매실, 유자, 키위, 목단, 채소종자, 오미자, 버섯, 사료작물, 한약재등을 對應作目으로 선정하여 기술 및 자금지원에 의한 품질향상과 생산성제고는 물론 수출확대를 기하고, 地域特化作目的 경우 재배계약등 다양한 형태의 지원을 통해 농어가의 안정적인 소득원으로 확보해 나감과 아울러 농수산물의 무절제한 수입이 이루어지지 않도록 각종제도의 활용과 사회적 분위기 조성에도 역점을 두고자 한다.

한편 농산물 수입개방에 따른 直・間接被害調査, '91년 이후 豫示品目設定, 對應作目開發, 關稅・非關稅障壁의 再定立, 國內農業의 生産性 向上과 國際競爭力 提高등 농수산물 수입개방에 따른 綜合的인 對應方案을 강구하기 위하여 '90. 2. 21일 輸入開放補完對策特別委員會(委員長: 長官)을 설치하고 그 산하에 7個作業班과 地方委員會로 구성된 實務委員會를 두고 있다.

이와 아울러 農漁村發展特別措置法에 규정된 輸入自由化補完對策審議會를 설치하여 보완대책추진에 따른 예산확보등 제반문제를 심의토록 할 방침이다.

이와같은 보완대책외에도 開放化 時代에 우리 농업의 體質을 강화하고 競爭力 있는 산업으로 육성, 발전시키기 위하여 농어촌발전 종합대책등 中・長期計劃을 착실히 추진하는 한편, 農漁家 負債輕減, 農漁村子女 學資金 免除등 당면 대책을 포함하는 단기 계획도 착실히 추진하여 나갈 것이다.

第3節 農水産物 輸出増大

원화절상, 原資材價格上昇, 勞賃上昇등으로 어려움을 겪고있는 수출업체의 부담을 덜어주기 위하여 輸出節次의 簡素化, 生産施設 現代化, 品質高級化등으로 수출경쟁력을 제고시키고, 農水産物 價格安定基金을 재원으로

로 수출용 농산물수매 자금을 융자지원하고 그절차를 간소화하므로써 수출경쟁력을 제고해 나갈것이다.

한편, 농수산물 수출실적이 우수한 업체로 하여금 각종 農產物 國際展示에 적극 참여토록하고, 輸出有望品目的 新市場 開拓에 주력할 것이며, 특히 최근에 늘어나고 있는 돼지고기, 김치등의 대일 수출을 더욱 늘리기 위하여 돼지수출규격돈 생산농가를 지정 운영하고 김치의 加工 및 貯藏技術의 開發과 衛生處理, 品質管理를 철저히 지도하며, 과실류의 상품성 제고를 위한 특수봉지 공급도 확대해 나갈것이다.

輸出基盤을 확충하기 위하여 花卉類의 경우 꽃 안정생산 기반조성과 화훼류 유통센터를 금년내에 건설 완공하고, 버섯류의 신속한 수송지원으로 신선도를 유지하여 수출품의 附加價値를 높이며, 수산물의 경우 活鮮魚 冷凍品의 품질향상과 통조림, 연제품등의 2次 加工品을 개발해 나갈것이다.

<表 2-6-2>

農林水產物 輸出入實績

(單位：百萬\$)

	'75	'80	'85	'88	'89	前年對比 增加率(%)
總輸出	5,081	17,505	30,283	60,696	62,377	2.8
○農林水產物(A)	948	1,930	1,543	3,157	3,115	-1.4
-農畜產物	255	541	388	705	781	10.8
-林產物	294	629	264	541	644	18.8
-水產物	399	760	891	1,911	1,690	-11.5
總輸入	7,274	22,292	31,136	51,811	61,465	18.6
○農林水產物(B)	1,304	3,164	2,511	4,328	5,485	26.7
-農畜產物	1,020	2,215	1,791	2,716	3,652	34.5
-林產物	274	912	629	1,294	1,511	16.8
-水產物	10	37	91	318	322	1.3
A-B	△356	△1,234	△968	△1,171	△2,370	

資料：關稅廳

第4節 技術 및 通商協力 強化

1. 技術協力 増大

금년에는 농업부문의 對外開放與件에 부응하여 국내농업의 生産性 및 附加價値 증대가 가능토록 기존자원의 效率的 保存管理, 生命工學 技術등 尖端科學技術의 농업분야 活用増大, 農産物 尖端加工 技術開發등에 필요한 선진기술 습득을 위해 UNDP사업 및 FAO/TCP사업등 海外協力事業에 적극 참여해 나갈 것이다.

아울러 開發途上國들과의 농림수산분야 협력을 적극추진하여 중동, 중남미, 아시아, 아프리카등 70여개 개발도상국에서 10개 분야에 132명을 초청하여 米穀生産, 農村指導등 5개분야에 대한 훈련을 실시하는등 對外技術供與事業을 확대하고 우리나라의 농업전문가 13명을 7개분야에 대해 네팔, 부탄, 미얀마, 인도네시아등 11개국에 파견할 계획이다.

또한 FAO, IFAD등 國際機構에서 총회등 각종 회의 및 세미나, 집행기구등에서의 활력을 더욱 강화해 나가는 한편 이들 국제기구에의 아국 직원 파견확대를 적극 추진함으로써 국제문제 전문가의 양성에도 주력할 것이며 東歐圈의 개방화에 따라 소련, 중국, 헝가리, 체코등 北方農業國과의 교류도 점차 확대함으로써 이들 국가로부터 農業情報募集을 강화해 나갈 계획이다.

2. 通商協力 強化

개방물결의 파고속에서 진행되는 GATT 우루과이라운드협상등의 多者間 協商과 韓·美등의 兩者間 協商에 적극적으로 대응하여 개방압력을 슬기롭게 극복하기 위하여는 通商協力の 강화가 절실히 요구되고 있다.

시장개방 압력이 지속적으로 전개되고 있는점을 감안하여 政府에서는 금년 3월 農林水産部 職制를 개정하여 國際協力課를 局단위인 農業協力

通商官室로 확대하여 협상력을 강화토록 하였고, EC대표부에도 農務官을 신설하였다.

특히 금년 12월을 종결 목표로 진행되는 GATT/UR 협상에 우리나라 대표단을 적극적으로 참여시켜 교역 자유화의 추세속에서 우리나라 농업을 보호할 수 있는 근거를 最大한 확보할 계획이다.

第7章 農漁民 支援施策 強化

1. 營農資金 擴大 및 農業金融支援 改善

농가의 영농비지원을 위해 매년 지원되고 있는 營農資金은 연리 5%의 단기성자금으로 영농기 농가의 자금사정을 완화하는데 크게 기여해왔다.

80년초에는 영농자금의 지원규모가 연간 4,000억원의 수준에 지나지 않았으나 89년에는 1조 7천억원을 넘어섰으며, '90년에는 전년보다 6천 500억원이 늘어난 2조 4천억원을 현금으로 지원할 계획이다.

이에 따라 총 農業經營費 對比 營農資金支援額은 '89년의 38.5%에서 '90년에는 49.2%로 높아졌고, 戶當平均支援額도 '89년보다 71.6% 증가한 1,362천원을 支援하게 되었으며, 특히 氣象災害등으로 농가가 어려움을 겪을 경우에는 증액배정할 계획이다.

한편 영농자금의 확대공급을 위한 財源調達을 보면 '90년에는 政府財政資金에서 '89년보다 1,100억원이 많은 5,300억원을 지원하였고, 韓國銀行借入金도 2,450억원이 많은 7,550억원을 지원함으로써 財源의 調達金利가 높은 農協資金과 相互金融資金의 비중을 상대적으로 낮추게 되었다.

<表2-7-1>

營農資金 支援實績

(單位：億圓, %)

	'75	'80	'85	'87	'88	'89	'90
營農資金	186	3,348	6,891	9,508	11,724	17,112	24,000
支援額/農業經營費	4.4	26.5	20.1	25.8	27.8	38.5	49.2

資料：農林水產部 農業構造政策局

한편 90.4.7일자로 農漁村發展綜合對策과 관련하여 農漁村發展特別措置法이 제정됨에 따라 기존의 農水產關聯類似基金(農漁村地域開發基金, 農漁民後繼者基金, 農業機械化促進基金 및 水產振興基金)이 農漁村發展基金에 흡수통합되므로서 농림수산업에 대한 정책자금의 지원이 相互連繫性

을 갖고 지원 될 수 있게 되었으며, 특히 과거 유사한 기금의 分散設置 및 運用에 따른 중복지원이나 농어민의 소득증대와 직접관련이 없는 부문에의 투자등을 지양토록 하여서 정책자금의 투자효율도 높이고 농어가의 소득증대에도 기여할 수 있도록 자원체계를 대폭 개선하였다.

따라서 農漁村發展基金은 農漁村發展 綜合對策과 관련하여 정부가 적극

<表2-7-2>

農漁村發展基金 運用計劃

(單位:百萬元)

		'89實績	'90計劃	增△感
調 達	前 年 度 移 越	14,446	—	△14,446
	財 特 出 損 金	125,000	85,228	△39,772
	財 特 融 資 金	5,000	90,000	85,000
	債 券 發 行	150,000	253,900	103,900
	貸 與 金 回 收	27,523	52,100	24,577
	運 用 受 益	36,936	41,400	4,465
計		358,904	522,628	163,724
運 用	○ 輸 入 豫 示 補 完 對 策	14,937	100,836	85,899
	— 差 額 補 償	—	22,160	22,160
	— 生 產 調 整 補 償	—	2,000	2,000
	— 作 日 轉 換 支 援	—	3,499	3,499
	— 輸 入 關 聯 構 造 調 整 支 援	13,426	52,666	39,240
	— 其 他 構 造 調 整 支 援	1,511	20,511	19,000
	○ 農 業 構 造 調 整	137,092	182,827	45,735
	— 農 業 機 械 化 促 進	31,077	107,400	76,323
	— 農 產 物 流 通 · 加 工 支 援	7,207	7,334	127
	— 其 他 事 業 支 援	98,808	68,093	△30,715
	○ 水 產 業 構 造 調 整	14,492	18,065	3,573
	○ 生 活 環 境 改 善	26,497	31,300	4,803
	○ 債 券 償 還 等	5,886	189,600	183,714
	— 債 券 元 利 金 償 還	—	175,847	175,847
	— 借 入 元 利 金 償 還 等	5,886	13,753	7,867
○ 農 地 購 入 資 金	160,000	—	△160,000	

資料: 農林水產部 農業構造政策局

추진키로 한 農水産物 輸入自由化에 따른 농어민의 피해를 최소화하기 위한 각종 對策費의 支援, 離農하고자 하는 농어가에 대한 職業訓練 및 就業斡旋, 農漁民後繼者 및 專業農漁家の 育成, 노동력부족해소를 위한 농업기계화사업등 農業構造의 調整에 집중 지원하고자 한다.

아울러 농림수산물의 품질향상 및 수요확대를 위한 加工産業의 育成 및 農工團地造成, 特産團地, 農漁村休養團地등을 개발하여 농외소득원을 확충하도록 하고 복지농어촌 건설을 위한 生活環境改善事業 및 定住生活圈開發등에 중점지원하는등 농림수산업의 構造調整 促進과 農漁村福祉向上에 주력할 계획이다.

이러한 사업의 목적을 달성하기 위한 '90년기금의 운용규모는 전년보다 1,637억원이 늘어난 5,226억원이다.

2. 農漁業災害 支援強化

농어업의 특성상 不可抗力의인 自然災害가 발생하여 손실을 입으면 농어가가 이를 회복하기에는 상당한 시일이 소요되며 다음 營農期까지는 1년까지 걸리는 경우가 많아 농어가의 피해는 실로 막대하여, 이에대한 근본적인 대책으로서 자연재해시 농가경제안정과 지속적인 농업생산여건유지를 위해 일정수준을 손실보전하는 農業災害保險制度를 도입코자 보험사업기본설계안의 개발, 보험사업의 통계기반 조성등을 착실히 준비해 오고 있으나, 이를 실시하기에는 많은 재원이 소요되므로 '90년대 중반이후에나 실시가 가능한 실정이다.

따라서 현재의 農漁業災害對策을 개선하여 災害被害를 입은 농어민에 대한 지원강화방안을 모색하여야 할 것이다.

현재 농어업재해는 風水害對策法과 農業災害對策法에 의해 복구 및 지원되고 있으나, 風水害對策法에서는 洪水, 暴雨, 暴雪, 暴風, 海溢 등 풍수해에 대한 시설물의 복구를 중심으로 지원되고 있고, 현행 農業災害對策法은 무害對策支援에만 국한되어 있기 때문에 농작물만의 피해와 매년.

증가되고 있는 서리, 우박, 냉해 및 異常潮流, 赤潮現象에 의한 水産物의 災害가 발생되었을 경우에는 복구 및 지원제도가 없다.

따라서 農業災害對策法을 '90.7월 개정하여 風水害對策法에서 제외되는 서리, 우박, 냉해 및 異常潮流, 赤潮現象으로 인한 농수산물 피해가 발생될 時, 피해농어가에 대한 복구 및 지원근거를 마련하는 동시에 시설물 이외의 農作物과 家畜 및 水産養殖物 被害도 지원해 줌으로써 농어민이 안심하고 농어업을 영위할 수 있는 기틀을 마련하였다.

3. 零細農漁家 支援強化

都農間の 불균형 문제의 심각성과 아울러 農漁家 階層 相互間 즉, 大·中農과 零細農間の 불균형 문제도 심각한 실정이다. 특히 零細農漁家は 소유농지 뿐만아니라 임차농지 규모도 적고 노약과 저학력등으로 農外 就業機會가 제한되고 있어 일반적이고 획일적인 정책추진으로는 수혜의 정도가 낮아 大·中農에 비해 상대적으로 불리하다.

따라서 영세농어가에 대한 특별지원대책을 마련하여 추진할 필요가 있어 '90.5.18일 당면 농어촌문제에 대한 대책수립시 이를 반영하였다.

그 주요내용으로서는, 먼저 영농지원강화를 위하여 0.5ha미만 규모 농가의 경우 현행 35세이하 농민에게 지원되는 농지구입자금 지원대상을 40세이하로 확대하고 1ha미만 농가가 營農組合法人을 설립할 경우 稅制 減免과 農地購入資金, 營農資金등을 우선 지원할 계획이다.

또한 유통 및 가공산업에 대한 농·수·축협외의 참여를 적극 유도하고 추곡수매시 0.5ha미만 영세농가에 대하여는 自家食糧을 제외한 出荷分을 우선 수매하며, 農漁家負債輕減對策 추진에 따라 立保가 어려운 영세농어가 지원을 위해 신용보증기금을 확대함으로써 신용대출의 保證制度를 개선할 계획이다.

또한 零細農漁民의 농외취업 지원을 강화하기 위하여 현행 就業獎勵金과 扶養家族 生計費를 현실화하고 훈련인원을 '90년 17천명에서 '91년에

는 20천명으로 확대할 계획이며, 零細農家が 農漁村振興公社에 농지를 5~10년 장기임대시에는 貸借料의 先支給支援을 '90년 200억원에서 '91년에는 500억원까지 확대할 계획이며 委託營農會社 설립을 촉진시키기 위해 법인세, 소득세 등 세제감면과 영농자금 등 금융지원을 확대할 계획이다.

한편, 영세농어민의 社會保障的 支援을 확대하여 현재 面지역에 거주하는 1ha미만 농어가의 자녀로서 중학생과 실업계고교 1,2학년생에게 入學金과 授業料를 지원하고 있으나, '91년부터는 실업계고교 3학년과 零細農漁民의 자녀가 많이 다니는 學歷認定學校 학생에까지 지원을 확대되고, 단계적으로 畝지역에 거주하는 1ha미만 농어가 자녀에까지 확대할 계획이다. 또한 醫療保險料는 영세농어민의 경우 소득에 비해 그 부담이 과중하므로 0.5ha미만 영세농어민에 대한 의료비를 경감시키는 방안을 강구할 계획이다.

4. 農漁民 福祉基盤 擴充을 위한 施策研究

오늘날 농어민이 상대적 疎外感과 不安感을 느끼는 것은 소득수준이 낮은점에서도 기인하지만, 한편으로는 농어업의 장래가 불안한데서 비롯되는 점도 크다.

특히 농어민은 다른 직종에 종사하는 경우와 달리 老後生活을 자녀에 의존하거나 계속 영농에 종사할 수 밖에 없으며, 농어민은 직접 자연속에서 작업을 수행하므로써 질병이나 부상에 시달릴 가능성이 높다.

따라서, 농어민의 장래에 대한 불안을 해소할 수 있게 하기 위해서는 農漁民年金制度 및 醫療保險制度 등의 혜택을 확실히 받을 수 있도록 하여야 할 것이다.

그러나, 현재의 國民年金制度下에서는 농어민의 경우 도시근로자에 비해 가입조건이 크게 불리하여 실질적 혜택을 거의 받지 못하고 있을뿐만 아니라 노년층의 早期 營農隱退 유도를 통한 농업구조 개선을 위해서도 國民年金制와는 다른 별도의 제도가 절실한 실정이어서 關係부처와 협의

하여 '90년대 중반부터 農漁民年金制를 실시한다는 목표아래 외국제도의 연구와 사업실시를 위한 基本調査事業을 추진할 계획이다.

한편, 農漁村人口의 노령화현상이 심화되고 農作業에 위험부담이 많이 따르기 때문에 의료서비스에 대한 수요는 크게 늘고 있으나, 농어민은 소득이 낮은 데다가 보험료부담이 都市勤勞者보다 불리하게 되어있어 의료서비스를 원활히 제공받지 못하고 있는 실정이다.

따라서, 관계부처와의 꾸준한 협의아래 短期的으로는 현행 醫療保險制度下에 農漁民의 保險料負擔을 완화하고, 중장기적으로는 醫療保險制度를 개선하는 방안을 강구하며, 이러한 保險料負擔緩和와 병행하여 늘어나는 농어민의 의료서비스 수요를 充足시켜줄 수 있는 醫療傳達 體系를 확립할 수 있도록 지속적인 관심과 연구를 추진해 나갈 것이다.

5. 農漁村 環境保全을 위한 努力展開

급격한 産業化와 都市化에 따라 環境汚染問題는 이제 심각한 사회문제로 대두되었다.

工場廢水, 가정의 生活下水등은 水質汚染源이 되고, 鑛山과 製鍊所 인근의 토양에서 有害 重金屬의 함량이 許容値 이상으로 나타나 문제가 되고 있으며, 최근에는 「草綠의 黑死病」 또는 「죽음의 빗물」로 불리는 酸性비가 地球村 곳곳에 내리면서 생존을 위협하고 있다.

특히, 農林水産부문에서도 畜産廢水, 殘留農藥, 農漁村에서 발생하는 쓰레기등으로 인하여 토양과 환경의 오염뿐만 아니라 농작물이나 인체에까지 영향을 미치고 있다. 따라서 農漁村 環境保全에 대한 적극적인 대책수립과 汎國民的인 노력이 시급한 실정이다.

가. 畜産廢水

축산업의 발달과 규모의 확대에 따라 畜産廢水로 인한 공해발생이 날로 증가되고 있어 '88년부터 법적 규제대상인 축산농가에 대하여 環境處

의 국고보조와 環境關聯基金의 용자지원으로 淨化施設費負擔을 줄이고 있다.

법 규제이하 규모의 농가에 대하여는 農林水産部에서 '90년부터 시설비를 農漁村發展基金과 畜産振興基金에서 지원하되 上水保護區域에 위치하여 수질오염에 영향을 미치는 농가를 우선으로 27억원을 투자하여 지원할 예정이다.

또한 '91~'94년까지 簡易淨化槽와 분뇨탱크 총 8,000개소를 설치하기 위해 農漁村發展基金에서 210억원을 지원하고, 가축분뇨를 液肥로 활용하기 위하여 畜産振興基金에서 5,240백만원을 투자할 계획이며, 장기적으로는 畜産廢水代行業體를 설립할 예정이다.

나. 殘留農藥 및 빈병 收去

농약은 作物保護라는 본래의 목적이 있지만 사용한 농약의 극히 일부는 水質汚染이 되기도 하며, 收穫物에 잔류하여 食品汚染을 초래하기도 하고, 토양에 축적되어 토양환경에 惡影響을 초래할 가능성도 있다.

따라서 농약으로 인한 環境汚染을 미연에 방지하기 위해 無公害低毒性農藥인 微生物農藥, 植物性農藥의 開發擴大와 天敵의 연구나 바이러스를 이용한 살충제등의 개발, 보급이 절실하며, 무엇보다 사용자의 올바른 인식이 필요하다. 아울러 깨어지기 쉬운 유리병으로 되어 있는 농약병을 소각이 가능한 재질로 대체하는 방안을 강구하고 빈병 안버리기 생활화로 安全事故豫防에 주력하여야 할 것이다.

다. 農用 廢비닐

농가에서 쓰고 남은 폐비닐이 완전 수거되지 못하고 토양속에 방치되었을 경우, 토양내 酸素不足 현상을 비롯하여 肥沃度低下 및 微生物과 土壤動物의 死滅을 초래하고, 土壤流失등 토양 生態系에 대한 危害性이 致命的이다. 따라서 폐비닐에 대한 철저한 收去作業이 뒤따라야 할 것이며,

수집한 폐비닐을 再生資財로 환원할 수 있는 대책으로 韓國資源再生公社에서 보상금지급을 통해 수집하고 있다.

라. 酸性비

산성비는 석탄이나 석유(벙커C油, 燈油, 輕油)등 化石燃料가 燃燒할 때 많이 배출되는 硫黃酸化物(SO₂등)과 디젤자동차, 공장등에서 많이 나오는 窒素酸化物(NO₂등)등이 대기 속에서 酸化된 유산염 또는 硝酸鹽으로 변화해 빗물속에 섞여 내리며 산성안개, 산성눈으로 변회되어 生態系를 파괴시키고 있다.

산성비에 의한 피해는 인체, 산림, 호수, 토양오염, 건축물피해로 나타나는데 특히 우리나라 工團地域 주변에서는 針葉樹의 枯死現象이 나타나고 있으며, 토양산성 가속화등 廣範圍한 영향을 미치고 있다.

따라서 철저한 公害排出業所에 대한 단속과 代替燃料開發이 시급한 실정이다. 이에따라 農林水産部에서는 산성비가 農作物에 미치는 영향및 그 農作物을 섭취하는 사람에 미치는 영향들을 集中的으로 분석하는등 지속적인 관심을 가져 연구해 나갈 것이다.

마. 農村 쓰레기

農村地域에도 플라스틱제품이나 化學製品, 毒性物質등 惡性廢棄物이 급증하여 農村環境 파괴와 農業生産에 막대한 지장을 초래하고 있다.

이에따라 농촌쓰레기 관리방안으로 商品製造業者의 노력에 의한 상품의 耐久化, 一回用商品 生産抑制, 商品의 小型化, 過大包裝抑制등 쓰레기 減量化方案과 쓰레기 收去方法이 시급한 실정이다.

아울러 농어촌 주민의 자발적인 노력으로 재생가능한 쓰레기의 蒐集과 交換運動을 통하여 쓰레기량을 줄이고 政府次元의 收去支援이 절실히 요청된다.

6. 농업총조사 실시

農業總調查(센서스)는 10년 週期로 실시하는 農業統計調查로 農家, 農家人口, 農耕地, 作物生産, 農業資材, 家畜, 家禽, 文化施設등 농업 전반에 대한 基本構造 및 變動趨勢를 파악하여 2천년대의 복지농촌건설을 위한 좌표를 설정하고 또한 제반 農業政策樹立 및 國家經濟 綜合計劃에 필요한 기초자료와 각종 농업통계 개선을 위한 母集團 資料의 제공 및 國際間 相互比較 가능한 統計資料를 생산하는 데 목적이 있다.

우리나라에서는 1960년도에 國際聯合食糧農業機構의 권장에 의하여 처음 실시한 후 1970년, 1980년에 이어 이번이(1990년) 네번째로서 調查時點은 '90.12.1일 0시를 기준으로 하고 期間調查 項目은 '89.12.1일부터 '90.11.30일 사이의 기간을 조사하기로 하였던 바, 조사방법은 農村調查區 내의 農家와 準農家를 직접 방문하여 所定調查票의 내용에 대하여 家口員을 面接하여 聽取·調查할 예정이다.

여백

第2部 林業部門

第1編 1989年度 林業動向

여배우

第 1 章 國內外 林業動向과 우리林業

第 1 節 國內 林業動向

1. 山林現況

우리나라 山林面積은 '89年말 6,485千ha로 전국토의 65%를 차지하고 있으며 이중 國有林이 1,333千ha(20%), 公有林510千ha(8%)이며 私有林은 4,642千ha로 전체산림의 72%를 차지하고 있다.

山林面積은 그동안 도시화, 산업화의 과정에서 草地, 住宅 및 産業施設用地등 타목적전용으로 '81年이래 매년 7~8千ha가 줄어들었다.

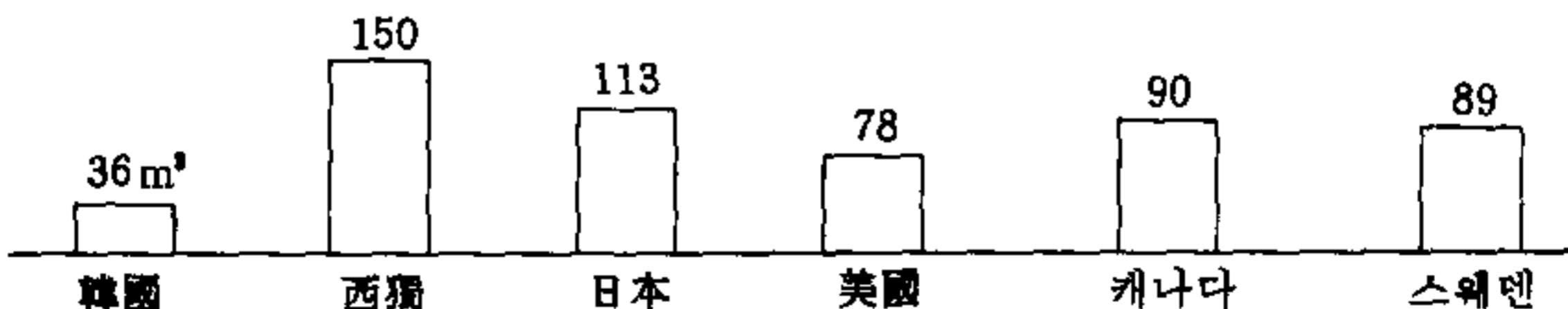
'89年末 현재 總林木蓄積은 233,970千m³이며 이중 國·公有林이 98,393千m³(42%), 私有林이 135,577千m³(58%)이다. ha당 평균 林木蓄積은 36m³으로 선진입업국인 西獨 150m³, 日本113m³, 美國78m³ 및 세계평균

<表 1-1-1> 所有別 山林面積 및 蓄積

	面 積	%	蓄 積	%	ha當 蓄積
計	6,485千ha	100	233,970千m ³	100	36m ³
國 有 林	1,333	20	81,319	35	61
公 有 林	510	8	17,074	7	34
私 有 林	4,642	72	135,577	58	29

資料：山林廳 林政局

<그림 1-1-1> 先進林業國의 ha當 林木蓄積



資料：FAO, 日本 林野廳

81 m³에 비해 낮은 수준에 있으나 지난 '73년부터 추진된 1,2次 治山綠化 事業의 결과로 '72년 대비 3배가 증가되었다.

한편 林相別 山林面積은 針葉樹林이 3,191千ha로 전체의 49%를 차지하고 있으며 闊葉樹林20%(1,292千ha), 混淆林이 28%(1,790千ha)를 차지하고 있다. 齡級別 산림면적은 10년생 이하인 I齡級이 2,136千ha(32%), 20年生以下인 II齡級이 2,543千ha(40%)로 幼齡林이 전체임지의 72%를 점유하고 있어 아직까지 우리나라의 산림은 幼齡林이 대부분이기 때문에 매년 木材需給量의 84%이상을 외재에 의존하고 있는 실정이다.

전체임지의 72%가 어린나무이기 때문에 당장 育林作業이 실행되지 않으면 密林地化(雜木)로 변하여 임업생산성이 低下되고 山地資源化가 어려워 木材需要의 84%를 외재에 의존하고 있는 우리임업의 현실을 개선 향상시킨다는 정책 실현은 불가능하게 될 것이다.

<表 1-1-2>

林相別 齡級別 山林面積

(單位：千ha)

	計		針葉樹		闊葉樹		混淆林	
	計	%	計	%	計	%	計	%
計	6,485	100	3,191	100	1,292	100	1,790	100
I齡級	2,136	33	1,463	46	274	21	399	22
II "	2,543	39	1,236	39	382	30	925	52
III "	1,021	16	336	10	359	28	326	18
IV "	424	6	128	4	189	15	107	6
V "	110	2	19	1	68	5	23	1
VI "	39	1	9	-	20	1	10	1
其他	212	3	-	-	-	-	-	-

註：其他는 竹林, 無立木地, 未調査地임.
資料：山林廳 林政局

2. 山林의 所有構造

우리나라의 山林面積率은 국토의 65%에 이르고 있으나, 국민 1인당 山林面積이 0.15ha로 세계평균 0.8ha의 19%에 지나지않는 실정이며, 전체 山主數는 1,948천명으로서 산주 1인당 평균 私有林野 所有面積도 2.4ha

에 불과하다.

所有規模의 내역은 10ha미만의 山林所有主가 1,865천명으로서 全體山主의 96%에 이르고 있는 반면, 이들이 차지하고 있는 山林面積은 2,430천ha로 全體 私有林의 52%에 불과하다.

이와같은 소유규모의 영세성으로 산주들이 산림에 투자하려는 의욕이 저조하고 山林의 소유목적에 있어서도 경영보다는 대부분 墓地用 또는 재산증식수단이기 때문에 산림경영의 활성화에 커다란 저해요인이 되고 있다.

그러나 임업을 하나의 산업으로 육성시키기 위해서는 임업경영 최소단위는 50ha이상으로 소유규모의 구조개선이 절실히 필요하며 임업을 이끌어 나갈 專業林家를 육성 임업경영주체로 성장시키는 것이 당면한 주요 과제라 하겠다.

3. 經濟成長과 林業의 成長

'89년 林業附加價値는 4,903억원으로 國民 總生産의 0.4%를 차지하고 있으며, 國民 總生産에 대한 임업의 구성비율은 '80년 1.1%, '85년 0.7%에 이어 계속 감소되고 있는 추세에 있다.

이와같이 國民 總生産에 대한 임업부문의 비중이 점차 낮아지고 있는 것은 상대적으로 2,3차산업이 높은 성장을 가져온데 기인되지만 林業生産의 주종을 이루고있는 農用資材, 燃料材등의 생산이 점차감소되고 있을뿐만 아니라 대부분의 산림이 幼齡林으로서 국내재 節伐政策을 堅持함에 따라 목재생산이 크게 늘어나지 못하고 있는 때문이다.

그러나 산림이 지니고 있는 國土保全, 水源涵養, 空氣淨化등 공익적 가치가 '87년말 현재 17조6천500억원으로서 임목생산등 經濟的價値의 26배로 평가되고 있어 국민생활에 미치는 영향은 지대하고 산의 가치는 무한하다고 할 수 있다.

<表 1-1-3>

國民生產과 林業生產

(單位：10億원)

	總 生 產			構 成 比 (%)		成 長 率 (%)		
	國 民 總 生 產	農 林 漁 業	林 業	農 林 漁 業	林 業	國 民 總 生 產	農 林 漁 業	林 業
1980	52,260.8	7,656.8	600.7	14.7	1.1	-	-	-
1985	78,088.4	10,351.8	579.3	13.3	0.7	7.0	3.8	△ 8.5
1986	88,173.9	10,829.6	490.2	12.3	0.6	12.9	4.6	△15.4
1987	99,611.4	10,097.5	513.7	10.2	0.5	12.8	△6.8	4.8
1988	111,979.9	10,897.6	475.2	9.7	0.4	12.4	8.0	△ 7.7
1989	119,534.8	10,825.3	490.3	9.1	0.4	6.7	△0.7	3.2

註：1) '80年 不變市場 價格基準임.
 2) '83年 以後 林業生產에는 土石生產이 除外됨
 3) '89年은 暫定值

資料：韓國銀行

4. 林業이 他產業에의 寄與度

산림에서 생산되는 木材는 산업 및 생활용 자재로 사용되고 山林副產物과 食品 및 藥劑등으로 이용되어 국가경제발전과 생활 향상에 기여하고 있으며 그간 산림의 綠化로 풍수해를 예방하여 귀중한 인명과 재산을 보호하고 맑은 공기와 물을 대가없이 무한한 식수 및 공업용수로 공급함은 물론 국민의 休息空間으로 心身鍛鍊의 터전으로 활용하여 산업 및 경제발전의 잠재력과 활력소를 불어 넣어주고 있다.

또한 산업화, 공업화로 급격히 증가한 토지수요의 대부분을 山林地로

<表 1-1-4>

山林地의 他用途 轉用 現況

(單位：ha)

	'85	'86	'87	'88	'89
計	10,452	11,941	8,679	6,293	8,369
工業用地	264	171	408	691	865
草 地	4,652	4,801	3,088	1,132	997
農 地	1,809	2,052	2,639	1,244	884
住宅地 등	3,727	4,917	2,544	3,226	5,623

資料：山林廳 營林局

공급하므로써 값싼 공산품을 생산 수출하여 국민소득향상과 국제경쟁력을 제고시키는데 지대한 공헌을 하고 있다.

또한 농산촌의 所得增大를 위한 農地開發과 草地造成 그리고 농가 주택개량등의 용지로 山林地가 전용되어 농산촌 발전에도 기여하고 있다.

第 2 節 海外林業動向

1. 世界의 山林分布

'81年 國際食糧農業機構(FAO)가 발표한 바에 의하면 세계전체의 山林面積이 약49억ha로 경지면적의 약3배에 해당하며 그중 24%가 疎林, 21%가 산림휴한지와 灌木林등이며 우리가 산림이라고 말하는 喬林은 전체의 55%인 25억ha정도이다.

세계산림분포를 보면 북반구는 針葉樹가 많아 스칸디나비아반도로부터 소련과 캐나다西部까지 針葉樹林帶를 이루고 있는데 아프리카대륙은 疎林이 지배적이며 중위도지역에는 溫帶性 針葉樹林이 주로 분포되어있다.

세계평균 1인당 산림면적과 축적은 각각 0.8ha, 85m³에 달하나 아프리카는 0.5ha, 70m³이며 아시아는 0.2ha, 20m³에 불과하고 인구증가율이 높은 개발도상국은 산림이 매우 부족하며 또한 산림이 급속히 감소하고 있는 지역이기도 하다. 山林經營이 가능한 喬林地 25억ha는 소련 7.9억 ha, 중남미대륙 6.8억ha, 북미대륙 4.7억ha등에 집중되어 지역적으로 偏在되어 있는 상황이며, 世界山林 總蓄積은 약 3,270억m³로 추정된다.

木材需要는 '78년에 30억m³이고 2000년에는 46億m³으로 53%가 증가하는데 반해 산림면적은 25억ha에서 21억ha로(17%감), 林木축적은 3,270억m³에서 2,530억m³으로(22%감) 감소될 전망으로 일본 및 EC등 -목재 수입국에서는 해외산림자원확보에 온갖 힘을 기울일 것이다.

또한 자원 보유국에서는 환경보존과 資源保護 측면에서 산림개발과 원

목수출을 제한하고 있어 熱帶林 국가를 비롯한 모든 국가에서는 保續 伐採 수준을 상회하는 조림에 집중투자 않는한 木材 需給에 차질을 초래할 것으로 예상된다.

2. 世界 山林資源의 展望

세계의 산림면적은 '56년 육지면적의 25%를 점유하다가 '78년에는 20%로 감소되었으며 2000년에는 17%, 2020년에는 14%까지 감소될 것으로 전망하고 있다.

이와같은 산림면적 감소는 인구증가에 따른 食糧供給을 위해 농지로의 전용증가와 소득향상에 따른 목재와 종이수요의 증대에 기인한다고 할 수 있다. 산림은 木材生産, 水源涵養 및 環境의 保存 등 다양한 기능을 발휘하고 있는데 산림면적의 감소현상은 이와같은 公益的機能의 저하와 함께 기후변화, 사막화 등의 심각한 문제를 발생시키는 한편 선진국의 산업화 과정에서 발생된 大氣汚染과 酸性雨에 의한 산림의 피해는 심각해지고 있어 산림자원에 대한 세계적 또는 국가적 차원의 보호육성이 시급한 문제로 대두되고 있다.

<表 1-1-5>

世界 山林資源 現況

單位 [面積：百萬ha
蓄積：億m³

	面 積		蓄 積	
	'78	2000	'78	2000
計	2,563	2,117	3,270	2,530
亞·太開途國	361	181	380	190
南 美	550	329	940	540
阿 洲	188	150	390	190
歐 洲	140	150	150	130
北 美	470	464	580	550
日本, 大洋洲	69	68	40	40
蘇 聯	785	775	790	770

資料：FAO

第3節 林業投資

1. 林業豫算

'89년 임업부문 예산규모는 一般會計, 國有林野管理特別會計, 財政投融資 特別會計를 합하여 모두 993억원으로서 국가전체 예산규모의 0.34%에 불과하며 전년대비 예산 증가율은 17%로서 정부의 산림투자 예산은 최소한 1%이상의 지원이 절실히 요망되고 있는 실정이다.

<表 1-1-6> 山林部門豫算比率 (單位：億원)

	'88	%	'89	%	增 減	%
政府全體豫算	240,837	100	288,732	100	47,895	20
山林部門豫算	845	0.35	993	0.34	148	17

資料：山林廳 企劃管理官室

<表 1-1-7> 事業別投資豫算 (單位：百萬원)

	'88	'89	增	△ 減
計	84,530	99,318	14,788	17%
I. 事業費	66,507	77,529	11,022	71
1. 機關運營管理	450	837	387	86
2. 林政管理	2,228	2,988	760	34
3. 營林計劃	753	807	54	7
4. 山林保護	8,098	9,744	1,646	20
5. 造林 및 育林	19,854	20,196	342	2
6. 砂防	11,778	11,980	202	2
7. 技術指導	3,507	3,793	286	8
8. 林道施設	4,552	7,108	2,556	56
9. 林業研修	1,163	2,396	1,233	106
10. 林業試驗	1,735	1,982	247	14
11. 山林調查	213	224	11	5
12. 育種研究	1,661	1,804	143	9
13. 試驗林管理	1,328	1,235	△93	△7
14. 國有林經營	4,332	4,332	759	21
15. 國有財產管理	5,550	8,045	2,489	45
16. 豫備費	58	58	-	-
II. 基本的經費	15,203	17,289	2,226	15
III. 融資(財特)	3,000	4,500	1,500	50

資料：山林廳 企劃管理官室

2. 林業資金 支援

산림경영은 造林에서 育林, 伐採에 이르기까지 장기간에 걸쳐 지속적으로 자본투자가 이루어져야하므로 장기저리의 융자금 지원을 통하여 산림 개발을 유도하는 것이 당면한 주요과제이다.

山林事業에 대한 융자에 있어 造林, 育林, 林道등 장기적인 사업에는 山林開發基金과 財特資金에 의해 지원되고 있으며 이외에 林產物出荷 調節 및 수출지원은 農水產物價格安定基金과 農漁村地域開發基金등에서 융자해 주고 있다.

'89년 임업융자금 지원실적은 전년보다 40억원이 많은 269억원으로 이 중 山林開發基金이 22억원, 財特資金 45억원과 農漁村地域開發基金, 農安基金등 202억원으로 造林, 育林과 林道, 林產物利用加工, 養苗, 山林副產物收集등에 중점 지원되었다.

<表 1-1-8>

林業資金 融資現況

(單位：百萬圓)

	'88						'89					
	計	山林開發基金	財特資金	農漁村基金	農安基金	農協資金	計	山林開發基金	財特資金	農漁村基金	農安基金	農協資金
計	22,947	2,100	2,694	4,651	10,374	3,128	26,895	2,250	4,500	4,899	12,804	2,442
• 造林・育林	1,189	-	439	750	-	-	1,738	560	670	508	-	-
• 養 苗	4,828	350	350	1,000	-	3,128	5,387	88	830	2,027	-	2,442
• 林道施設	361	116	245	-	-	-	945	945	-	-	-	-
• 林業後繼者育成	-	-	-	-	-	-	222	222	-	-	-	-
• 林產物利用加工	3,942	1,316	1,075	1,551	-	-	2,472	100	1,100	1,272	-	-
• 林產物貯藏施設	-	-	-	-	-	-	983	-	900	83	-	-
• 豆 科 生 產	1,985	300	335	1,350	-	-	2,109	100	1,000	1,009	-	-
• 林產物出荷調節	6,000	-	-	-	6,000	-	6,050	50	-	-	6,000	-
• 林產物輸出獎勵	4,374	-	-	-	4,374	-	6,804	-	-	-	6,804	-
• 間 伐 等	268	18	250	-	-	-	185	185	-	-	-	-

資料：山林廳 林政局

第4節 山林의 效用

1. 山林의 經濟的 機能

산림은 建築用, 家具用, 펄프, 칩등 용재뿐만 아니라 버섯류, 種實類, 山菜, 藥草, 등 유용한 부산물과 野生鳥獸에 이르기까지 그 종류가 매우 다양하다.

이와같은 林産物의 '89년 생산액은 총 1조1,714억원이며 그중 土石類가 4,277억원으로 전체생산액의 37%를 차지하고 있으며, 農用資材 3,404원(29%), 燃料 806억원(7%), 種實類 1,345억원(11%), 버섯류 599억원(5%), 기타 609억원(5%)이며 산림의 주산물인 목재 및 竹材生産額은 674억원으로 전체 임산물 생산액의 6%에 불과한 실정이다.

<表 1-1-9>

林産物生産推移

(單位: 億圓)

	單位 (物量)	'80		'85		'88		'89	
		物量	金額	物量	金額	物量	金額	物量	金額
計		-	4,290	-	18,441	-	12,856	-	11,714
用材	千 m ³	933	350	781	460	893	567	997	673
竹材	千束	76	8	139	13	25	3	16	1
燃料	千 M/T	4,700	484	3,181	974	2,607	926	2,090	806
農用資材	"	25,495	2,587	26,345	4,028	19,064	3,691	15,790	3,404
種實類	千 kg	45,455	459	80,393	645	88,197	1,162	89,957	1,345
버섯	千 m ³	1,528	164	3,067	383	2,056	507	2,903	599
土石類	"	3,910	191	23,956	11,378	39,367	5,453	46,060	4,277
其他		-	47	-	560	-	547	-	609

資料: 山林廳 林政局

2. 山林의 公益的 機能

산림의 기능에는 經濟的인 機能以外에 國土保全, 水資源涵養, 山林休養, 野生鳥獸保護, 大氣淨化, 生活環境保全등의 公益的機能이 있다. 이와같이

公益的 機能을 많이 가지고 있는 산림은 공공재로서 그 사회적 필요성에
도 불구하고 시장을 통하여 교환되지 않기 때문에 그 중요성을 인정받지
못하고 있는게 사실이다.

그러나 이러한 산림의 公益機能을 생산형태별로 대별하면 '87년 한 해
동안 산림의 貯水능력에 의한 水資源涵養 3조400억원(21.4%), 大氣汚染
의 淨化, 酸素供給 4조5,790억원(25.9%), 國民保健休養 5조9,970억원(34%) 등
모두 17조6,560억원에 달하는 공익적 가치를 전체국민에게 제공하고 있
으며 이를 임업 총생산액과 비교하면 25.5배에 해당하는 혜택을 산림으
로부터 받고 있는 셈이다.

따라서 금후 경제성장과 함께 산림휴양인구는 급증할 것이고 도시화,
공업화 현상으로 大氣汚染은 날로 증가될 것이므로 산림이 公共材로서의
公益的 機能의 평가액 증가속도는 국민총생산액 증가보다 훨씬 가속화될
것으로 보인다.

<表 1-1-10>

山林의 公益的機能 評價額

(單位: 10億圓)

機 能 別	評 價 額	機 能 別	評 價 額
計	17,656	國 土 保 全	3,781
保 健 休 養	5,997	水 源 涵 養	3,040
酸 素 供 給	4,579	其 他	259

資料: 林業研究院

第2章 林産物 需給

第1節 木材需給動向

1. 世界の 木材需給 動向

세계의 목재수급량은 제1차 석유파동후의 경기회복기에 일시적으로 감소세를 보이다가 다시 증가하는 추세에 있다.

'89년 세계목재생산량은 32억6천만 m^3 이며 이중 用材로 15억 8천만 m^3 , 나머지 16억8천만 m^3 가 燃料材로 소비되었다.

목재수요에 있어서는 파티클보드, 합판, 펄프, 제지등의 수요가 크게 신장되었는데 선진국에서는 용재수요비율이 높고 제재품, 합판, 펄프등의 다양한 목재이용을 나타내고 있는 반면 개발도상국에서는 燃料材의 이용비율이 높게 나타나고 있다.

한편 지역별 목재생산현황을 보면 美國, 蘇聯, 印度, 캐나다, 브라질, 인도네시아 7개국이 세계목재 생산량의 58%를 생산하였다.

FAO에서 발간된 「2000년 세계농업」에 의하면 2000년의 用材消費量은 '85년에 비해 33%증가 될 것으로 예측하고 있으며 목재공급은 선진지역이 현존하고 있는 풍부한 山林資源을 잘 보존, 관리하고 있어 축적이 계속증가 될 것이나 현재 木材供給을 담당하고 있는 熱帶地域의 開發途上國에 있어서는 산림의 감소와 함께 自國의 이익증대를 위해 원목수출을 규제하고 가공수출을 장려하고 있어 금후 원목의 확보는 더욱 어려워질 전망이다.

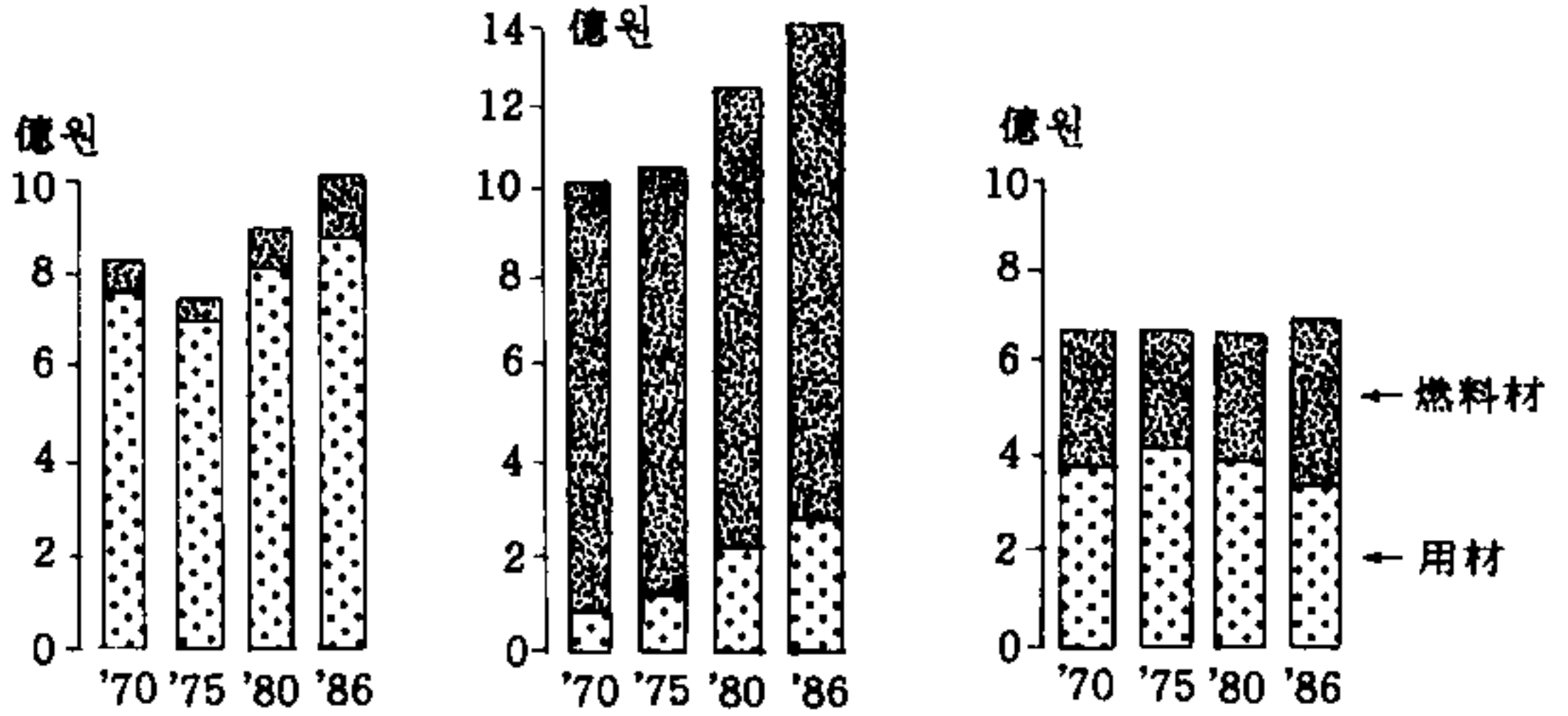
2. 우리나라의 木材需給推移

우리나라는 그동안 급속한 인구증가와 경제발전, 생활향상으로 목재수

<그림 1-2-1>

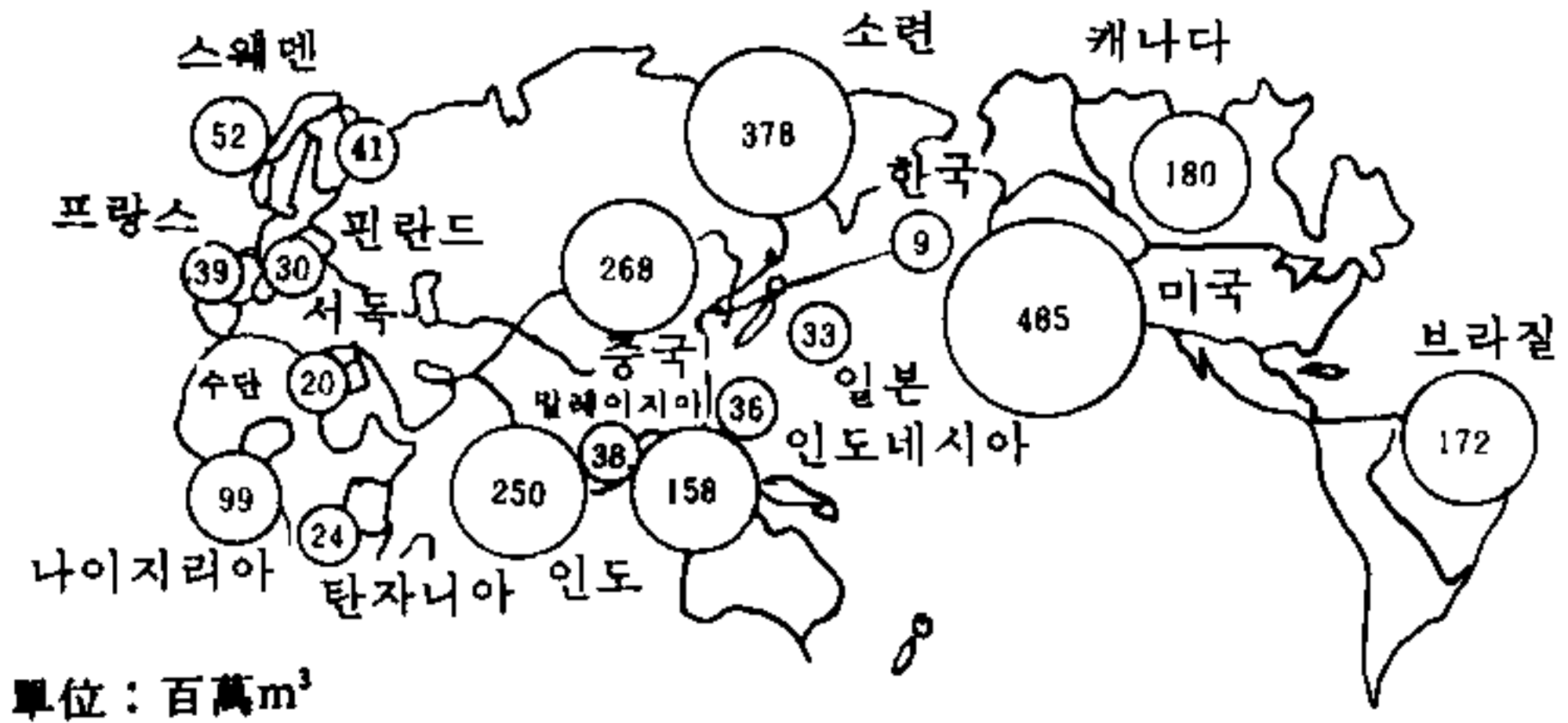
世界の地域別木材需要量推移

·先進市場經濟地域 ·開發途上地域 ·計劃經濟地域



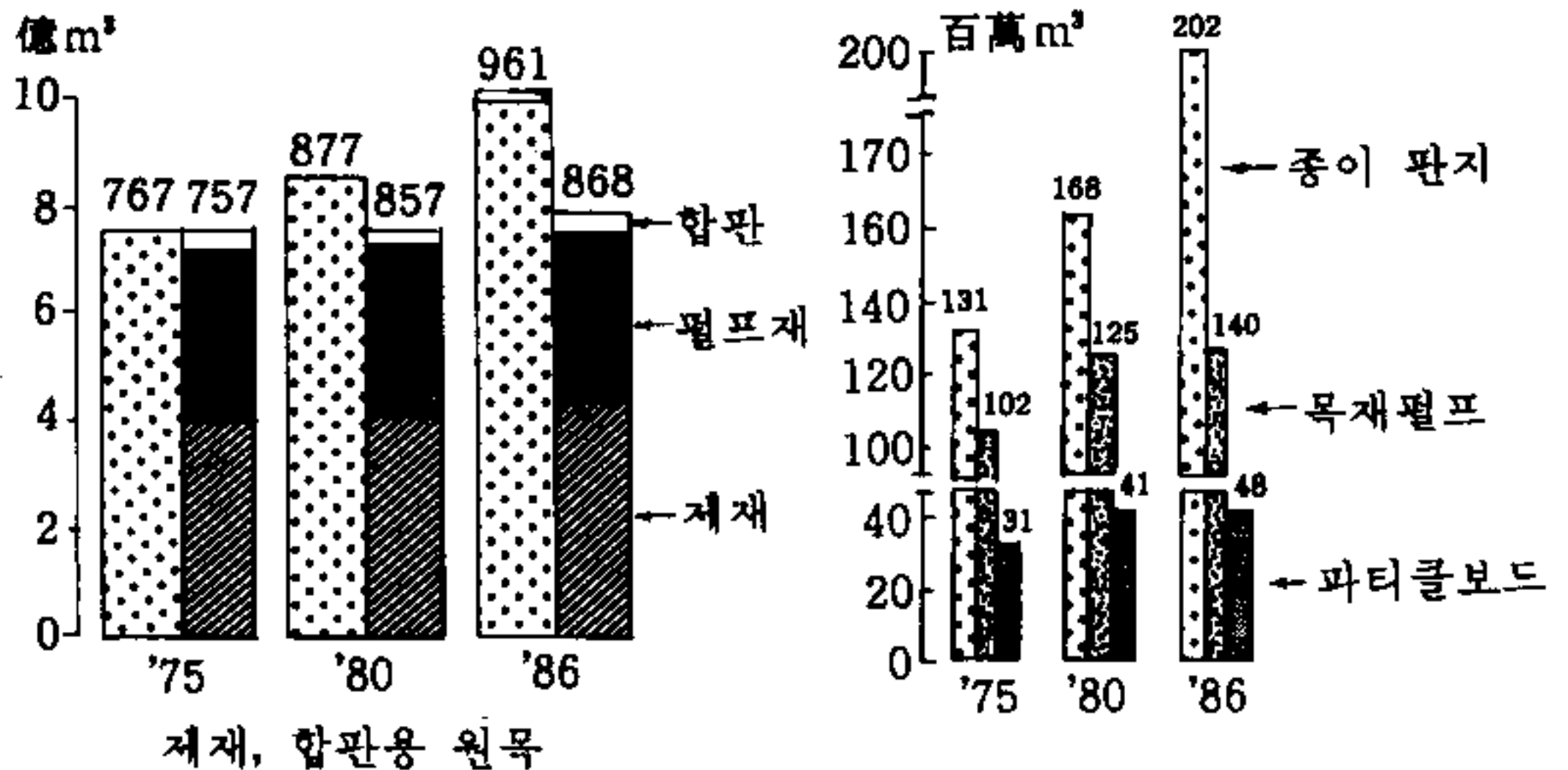
<그림 1-2-2>

各國의木材生産量(1986)



<그림 1-2-3>

木材林産物消費量推移



資料 : FAO, 1986. Yearbook of Forest Products

급량은 현저히 증가하였는바 목재수요량은 '66년의 1,877천m³ 수준에서 '89년에는 9,014천m³로 5배나 증가되었으며, 공급면에 있어서는 국내재로는 아직까지 목재산업에서 요구하는 양질의 大徑材를 공급하지 못하고 있으며 현재는 坑木, 펄프용재등 산업용재만 생산 공급하고 있는 실정이다.

또한 총목재 消費量에서 국내재가 차지하는 비율은 '70년의 21%에서 '89년에는 14%로 낮아졌는데 당분간 이러한 상태는 지속될 것으로 보인다.

<表1-2-1>

木材需給量推移

	'70	'75	'80	'85	'89
需給量 (千m ³)	4,000	6,465	7,750	7,321	9,014
自給率 (%)	21	14	13	16	14

資料：山林廳 營林局

3. 木材需給의 展望

우리나라 목재수요는 꾸준한 경제성장과 함께 건축경기가 활성화됨에 따라 일반용재와 合板用材의 수요가 지속적으로 증가되고 국민경제수준의 향상으로 종이, 펄프 수요량이 크게 늘어나고 있다. 따라서 전체 목재수요량은 '89년에 9,014천m³에서 2000년에는 15,100천m³로 증가되고 2030년에는 23,500천m³로 증가될 것으로 전망하고 있다.

목재 공급에 있어서는 여전히 외재수입에 대한 의존도가 높아 국내재 자급율은 '89년에 14%, 2000년에 19%, 2030년에 51%수준으로 전망되고 있기 때문에 목재의 장기안정적인 공급을 위해서는 국내 산림자원 증식과 더불어 해외산림자원 확보에도 최선을 다해야 할 것이다.

아울러 국내생산 間伐小徑材에 대한 이용확대방안과 가격보장으로 산주의 생산의욕을 제고시키고 외재의 절감효과도 동시에 기할 수 있는 방안이 강구되어야 할 것이다.

<表 1-2-2>

長期木材需給展望

(單位:千m³)

	'89	2000	2030	2080
計	9,014	15,100	23,500	24,000
內 材	1,227	2,800	12,000	14,500
外 材	7,787	12,300	11,500	9,500
自給率 (%)	14	19	51	60

資料:山林廳 營林局

第2節 木材生產

1. 製材工業

우리나라의 製材工業은 解放後 混亂期에는 국내생산목재를 산지에서 가공하는 製材所가 소규모적으로 분포되었으나 6.25동란 이후 '50년대의 再建期에는 무질서한 製材所의 난립과 新興製材技術者의 규격에 대한 인식부족, 산주들의 폭리등으로 통일된 규격도 없이 생산 거래되었으나, '60년대에는 극도로 荒廢된 국토녹화의 필요성이 대두되면서 산림행정기관에 의한 製材所 허가제도와 우리실정에 맞는 목재규격을 작성 '66년12월 31일 原木製材規格이 농림부고시(제1595호)로 제정되어 행정지도를 받게 되었으며, 이 시기에 급증하는 국내목재 수요를 충족하기 위해 외재도입이 불가피하자 도입과 운반이 용이한 항구와 대도시 중심으로 製材業이 육성 발전되었다.

제1차 치산녹화 10년계획의 초년도인 '72년에 공장수 1,892개, 마력 57,238HP, 생산능력 4,536천m³였으나 '89년에는 96개소가 감소된 1,796개로 줄었지만 製材施設面에서 마력은 160%, 생산능력은 297%가 신장된 91,510HP과 13,476천m³로 확대되었다. 이는 타산업규모의 성장에 비하면 지극히 낮은 수준의 증가이지만 最新製材機를 선진국으로부터 도입하여 근대화 장비로 확장이 이루어졌으며 가동율 또한 '72년 39%에서 '

89년 58%까지 증가하였지만 외재의존도가 86%나 되는 우리나라로서는 資源保有國의 自國資源保護政策으로 원목수출규제가 강화되고 있는 점을 감안한다면 內需산업 위주의 우리제조공업은 더 이상 가동율 제고가 어려운 실정에 있어 앞으로 계속 현재의 시설규모가 유지될 전망이다.

2. 合板工業

우리나라의 合板工業은 '36년 大成木材工業株式會社를 효시로 하여 소 규모로 운영되어 오다가 경제회복과정에서 합판의 수요가 급증해짐에 따라 본격적으로 생산이 시작되어 선진국 제조기술도입, 생산능력 확대로 주한 UN군에 군납을 실시하고, '59년 成昌企業(株)에서 대미합판 수출을 개시하여 동년에 33천\$를 수출하였으며, 경제발전 제1차계획기간 이후 수출주종산업으로서 '70년대초 세계 제1위의 合板輸出國으로까지 부상하면서 발전을 계속하였다.

'66년에는 445천 m^2 , '76년 2,015천 m^2 , 合板生産의 최고절정기인 '78년에는 2,557천 m^2 생산하여 이중 37%에 해당하는 947천 m^2 를 수출하는등 경기好況에 힘입어 合板産業은 전망이 밝았다.

그러나 '80년에는 급격한 合板景氣의 침체로 인해 호황기인 '78년에 비하여 38%감소된 1,574 m^2 를 생산하였고 이후 合板産業의 불황은 계속되었으며, 이에 대해 정부에서는 '82년 산업합리화 조치에 의거 부실기업을 정리하는 한편, '86년에는 産業政策審議會의 결과에 따라 有元建設이 大成木材工業(株)를 인수하고, 成昌企業은 半島木材와 합병하였다. '89년에는 총 1,179천 m^2 생산하여 89%에 해당하는 1,050천 m^2 를 내수공급하는등 시설규모도 축소 정리되었다.

정부는 合板産業의 지속적인 보호육성을 위하여 원목 비축자금(110억원)에 의거 원목 100천 m^3 을 비축계획중에 있고, 20억원의 수출입 자금을 융자지원하여 원목을 비축 공급토록 하므로써 합판원자재 공급원활과 합판가격의 안정을 도모하고 있다.

<表 1-2-3>

年度別製材施設現況

	工場數	馬力數	生産能力	製材生産量	原木使用量
	個	HP	千m ³	千m ³	千m ³
1972	1,892	57,238	4,536	1,311	1,784
1975	1,977	70,838	6,392	2,241	3,189
1980	2,025	110,004	7,936	2,977	4,211
1985	1,956	98,540	7,704	2,952	4,152
1986	1,907	97,488	8,921	3,497	4,984
1987	1,884	93,955	9,874	4,079	5,551
1988	1,856	93,106	13,643	5,949	8,842
1989	1,796	91,510	13,476	7,791	10,372

資料：山林廳 林政局

<表 1-2-4>

年度別合板産業變動狀況

(單位：千m²)

	生産能力	生産量	供給	
			內需	輸出
1966	557	445	97	百萬S/F 931
1976	2,538	2,015	522	4,556
1980	2,517	1,574	667	2,564
1985	2,408	1,227	1,024	343
1986	1,603	1,109	989	459
1987	1,515	1,177	1,022	473
1988	1,503	1,267	1,076	千m ² 9,688
1989	1,437	1,179	1,050	7,069

資料：山林廳 林政局

3. 木材 보드類

목재이용량의 증가와 목재가공업의 발달로 하이바보드와 파티클보드를 다량 생산하브로서 그동안 이용가치가 적었던 間伐小徑材, 製材副産物 廢材등을 加工原料로 이용할 수 있게 되었다.

하이바보드의 생산은 '80년내 67천m³에서 '89년에는 109천m³로 증가되었으며, 파티클보드의 생산량도 '80년에 14천m³에서 '89년 164천m³로 늘

었다.

파티클보드는 4개업체에서, 하이바보드는 5개업체에서 생산하고 있으며 합판 대체산업으로 가공기술이 발전됨에 따라 생산에 참여할 업체는 앞으로 증가될 것이며, 家具材의 이용을 넘어서 건축자재로도 공급될 전망이다. 이러한 재생목제품의 建築資材로의 본격적인 진출은 원목수입의 의존도가 높은 우리나라로서는 원료절감면에서 큰 효과를 거둘 수 있을 것이다.

<表 1-2-5>

木材보드類 生産實績

(單位: m³)

	'85	'86	'87	'88	'89
하이바보드	13,766	25,616	63,802	81,633	109,732
파티클보드	55,050	105,134	114,634	170,857	164,318

資料: 山林廳 林政局

第3節 短期所得林產物 需給

우리는 제1, 2차 治山綠化10年計劃期間中 국토녹화와 산림보호라는 국가적 과제의 달성에 치중한 나머지 산림을 소득원으로 개발이용하기 위한 시책이 미흡하였던 것이 사실이나, 이용개발 위주의 산림정책을 기조로 하는 제3차 산지자원화 10년계획의 추진을 계기로

- 목재생산의 장기성에서 오는 경제적 취약성을 극복하고
- 장기 안정적인 산림소득의 증대를 기함은 물론
- 국민소득 증대에 따른 자연산 무공해식품 선호경향으로 樹實, 山菜, 버섯류등에 대한 수요가 꾸준히 증가하고 있는 실정을 감안하여 短期所得林產物의 생산성 향상에 주력하고 있다.

1. 短期所得林産物の生産動向

국민의 생활수준 향상등으로 인하여 밤, 잣등을 이용한 식품이 일반화 되어 감에 따라 '89년 생산량은 총 95천^M/t에 달하여 '86년 이후 연평균 11.2%의 증가를 보이고 있고 생산액은 1,988억원으로서 임업 총 생산액의 27%를 점하는등 지속적인 증가추세에 있다. 가격은 樹實類, 버섯류는 생산증가에 따라 약보합세를 유지하였으나 山菜類와 藥草類는 소비증가에 힘입어 지속적인 상승세를 보이고 있다.

<表 1-2-6> 主要 短期所得林産物 生産現況

	單位	'86	'87	'88	'89	年平均 增加率
生産量	千 ^M /t	71	73	93	95	11.2%
生産額	億 원	1,124	1,590	1,705	1,988	25.6%

註品目 { 樹實類 : 밤, 호도, 잣, 대추
 버섯類 : 송이, 표고
 山菜, 藥草類 : 고사리, 삼주등
 其 他 : 떡갈잎, 멧개잎, 굴피

資料 : 山林廳 林政局

2. 主産團地 指定 및 流通構造 改善

短期所得林産物の 적정생산 및 관리를 위하여 주요생산지중 10개소를 주산단지로서 신규로 지정하여 '88년에 지정한 18개단지를 포함, 총 28개단지에 대하여 자금 및 기술지원을 우선하는등 산림부산물의 생산공급기저로서 중점 관리하고 있다. 이와 병행하여 短期所得 林産物の 유통구조개선을 위하여 '89년에 林産物直賣場 1개소를 시설, 총 4개소를 운영하고 있다.

3. 短期所得林産物の 所得向上을 爲한 支援

短期所得林産物の 가격안정을 통한 생산자의 소득증대와 소비자 보호를

위하여 出荷調節과 加工工場設置는 물론 생산에 필요한 임업자금 11,660백 만원을 용자 지원하였다.

<表 1-2-7>

林業資金融資現況

(單位：百萬圓)

	計	山林開發 基金	財特資金	農漁村 地域開發	農安基金
計	11,660	458	3,000	2,202	6,000
出荷調節	6,000	—	—	—	6,000
生産資金	2,238	230	1,000	1,008	—
加工施設	2,439	228	1,100	1,111	—
貯藏施設	983	—	900	83	—

資料：山林廳 林政局

第3章 1989년에推進한 主要林政

第1節 林業의 現實與件

1. 林業의 現況

임업경영을 둘러싼 여건변화를 보면 '70년 기준하여 최근 10년간 일반 도매물가와 石油化學 및 石炭 製品價格이 3배, 농업노동임금이 7배까지 상승되었지만 국내재가격은 80% 이상을 수입하고 있는 값싼 外材가 國內 木材 가격결정을 주도하고 있기 때문에 1.5배(소나무기준) 증가에 불과, 실질적인 가격하락으로 타산업에 비해 소득이 떨어지고 있는 실정이다.

이와같은 경영여건의 변화는 임업투자수익성을 저하시키고 임업경영자의 의욕을 떨어뜨려 임업생산 활동이 정체되고 있다.

또한 우리나라의 人工造林 면적은 全體山林의 30%에 불과하고 20년생 이하 어린나무는 72%나 되며 ha당 林木축적이 36m³으로 빈약하여 적극적인 山林開發을 위한 경영기반 확충과 투자확대가 시급한 실정이다.

따라서 정부에서는 이러한 어려움을 개선하려는 노력의 일환으로 산림사업보조지원의 확대와 山林開發基金등 林業資金에 의한 융자를 하고 있지만 임업경영환경을 실질적으로 개선하기 위해서는 보다 적극적인 투자가 이루어져야만 할 것이다.

2. 山主의 生産活動과 經營意慾

지난 1, 2차 치산녹화 10개년계획 기간에는 정부 주도하에 綠化事業을 추진하여 왔으며 이를 바탕으로 지난 '88년부터는 第3次 山地資源化計劃을 수립 산림을 경제림으로 육성하는 사업을 본격 추진하고 있다.

그러나 산주들의 대부분이 造林投資를 기피하고 있어 전체 조림물량은 현저히 줄어들고 있는 추세이다. 이와같은 조림기피 현상은 임업의 수익성이 낮고 資本懷妊 기간이 긴 데다가 산림을 소유하고 있는 산주의 대부분이 영세하여 경영의 적정을 기하기 힘든 규모이며 정부의 재정지원이 뒤따르지 못한다기 때문이다.

따라서 산주의 경영의욕을 높이기 위하여 정부지원의 확대에 의한 임도등 임업기반시설의 확충은 물론 조림, 育林에 대한 지원강화, 경영규모 확대를 위한 協業體 육성책등이 강구되어야 할 것이다.

第2節 林業發展을 爲한 施策의 轉換

1. 林道施設 擴充

임도는 산림경영의 기계화를 촉진시켜주고 조림 및 육림, 伐採作業을 원활하게 하여 생산비를 절감하고 산불 및 산림병해충방제등 산림피해에 신속히 대처할 수 있게 해주는 산림의 기반시설이며, 지역사회개발의 균형발전에도 크게 기여하는등 다목적효용을 지닌 산림의 動脈이다.

'89년말 현재 林道施設 현황은 1,931km로서 ha당 密度는 0.3m에 불과하여 獨逸 40m, 美國 10m, 日本 4m에 비해 매우 빈약한 실정으로 우리 임업 생산비가 諸外國에 비해 높은 원인이 되고 있을 뿐만 아니라 산림개발을 저해하는 근본적 장애가 되고있다.

國有林道는 624km로서 전액 國費로 개설되며 民有林道는 1,307km로서 산주의 부담을 덜어주기 위해 시설비의 80%를 補助(국고 40%, 지방비 40%)하고 나머지 20%는 山主가 負擔하고 있다.

山地資源化 10年計劃期間中 林道를 매년 1천km씩 개설하여 2000년까지는 11천km, 2030년까지는 25千km를 시설하여 임업선진국 수준인 10m/ha까지 끌어올릴 계획이다.

임도의 활용도를 높이기 위해 林業振興促進地域, 協業經營團地, 間伐促進地域등에 집중시설하는 한편 경제적 시공과 기술향상에 노력하고 있다.

<表 1-3-1>

林 道 施 設 現 況

(單位：km)

	計	'85까지	'86	'87	'88	'89
計	1,931	471	231	305	377	547
國有林道	624	267	41	47	100	169
私有林道	1,307	204	190	258	277	378
(林道密度)	(0.3m)					

資料：山林廳 營林局

2. 零細私有林 協業經營擴大

산림경영은 조림에서 育林, 伐採에 이르기까지 수십년이 걸리는 장기성 사업이고 자금이 많이 투입되어야 하므로 생산비 절감과 집약적인 산림 경영을 위해서는 적정 규모의 집단화가 이루어져야 한다. 따라서 경영규모가 영세한 산주와 혼자힘으로 산림을 가꾸기 어려운 산주를 대상으로 협업경영체를 구성하여 산림경영의 활성화를 통한 산주이익을 보호해 나가고 있다.

私有林協業經營事業은 韓·獨 技術協力示範事業('74~'83)으로 추진하였던 바 그 성과가 좋아 '84년부터 전국적으로 확산하여 '89년 현재 57個 協業體를 운영중에 있으며, 이러한 協業經營區域內的 山林은 協業營林計劃을 작성하여 자율적으로 산림을 경영토록하고 協業體에서 생산되는 임산물은 공동생산, 공동판매로 소득을 배가시켜 나가고 있다.

강원도 평창군 봉평 協業體의 경우 '84년 協業體 설립 당시 전체산주의 29%인 156명이었으나 '89년에는 산주의 61%인 429명이 協業體에 가입하였으며 이들의 소득에 있어서도 가입당시 호당 199천원이던 것이 '89년에는 371천원으로 2배가 향상되었다.

<表 1-3-2>

私有林協業體現況

協業體數	私有林面積	山主數	協業體加入現況		
			面積	山主數	加入率
57個	80,190ha	17,379名	40,745ha	5,420名	30%

資料：山林廳 造林局

3. 山林開發事業團의 組職運營과 專門林業人 養成

농산촌 노동력부족에 효율적으로 대처하고 산림작업의 능률화를 도모하기 위해 산조중앙회에 9개의 山林開發事業團을, 산림조합에 333개의 民有林作業團을 '92년까지 조직하여 운영할 수 있도록 農漁村發展綜合對策에 반영 '90년부터 적극추진해 나가고자 한다. 山林開發事業團에서는 林道施設과 休養林造成등 대규모 산림사업을 담당하고, 民有林 作業團에서는 造林과 育林, 伐採등을 담당토록 할 계획이다.

또한 이들 事業團과 作業團의 원활한 사업추진을 위해 장비구입비를 보조지원하므로서 산림사업을 활성화시켜 나가는 동시에 산림조합의 자립기반을 확충하고 山地資源化의 효율적 추진을 뒷받침해 나갈 것이다.

아울러 임업은 타사업에 비해 전문경영인이 부족한 점을 감안하여 '89년에 처음으로 林業後繼者 89명을 선발 육성한 바 있고 篤林家(模範, 優

<表 1-3-3>

林業人養成現況

(單位：名)

	林業後繼者	篤 林 家				
		計	模 範	法 人	優 秀	自 營
'85	—	514	71	12	201	230
'86	—	484	71	12	192	209
'87	—	492	72	13	191	216
'88	—	477	70	12	183	212
'89	89	471	69	12	181	209

資料：山林廳 造林局

秀, 自營)를 '89년까지 471명을 선발 육성하고 있으며, 이들에게는 각종 산림사업의 보조 용자를 우선 지원해 주고 기술지도등을 통하여 임업소득을 높여나가고 있다.

4. 山林經營의 自律化

과거에는 녹화, 규제, 보전위주의 산림정책을 추진하여 국토녹화는 달성하였으나 경제사회의 발전과 국민소득 향상에 따라 산림은 이제 농산촌 소득원으로 國民保健休息空間으로 이용 개발하여야 한다는 욕구와 여망에 따라 山地資源化 計劃을 적극 추진하고 있으며 이를 뒷받침하기 위해 산림법을 개정 추진하는 한편 민주화 자율화의 시대적여건에 맞추어 경제자율화실천방안의 일환으로 농산촌 소득증대와 국민편익을 위한 山林毀損 제도등을 대폭 개선하였다.(산림법 시행규칙 개정 '89. 6. 19)

개정내용으로는 국도, 고속도로, 철도주변 가시지역 2km이내에는 산림훼손을 제한하여 왔으나 1km 이내로 축소하였으며, 철도, 도로, 하천, 호수, 가옥, 국가·공공기관 시설경계로부터 일정 거리제한을 폐지하였고 묘지로부터 50m이내를 20m이내로 완화하였으며, 保安林 지정종류를 축소하고 水源涵養 保安林 지정 거리도 저수지 만수위로부터 2km를 1km로 축소하였다.

아울러 1ha이내의 산림에서 山菜, 藥草, 觀賞樹 재배와 농작물 생육에 피해를 주는 임목의 벌채는 山林毀損 申告로 할 수 있도록 개선하였다.

또한 산주가 동의한 경우 칩뿌리의 掘取는 임의로 할 수 있도록 하였다.

第3節 林政의 民主化

1. 山林組合 民主化 推進

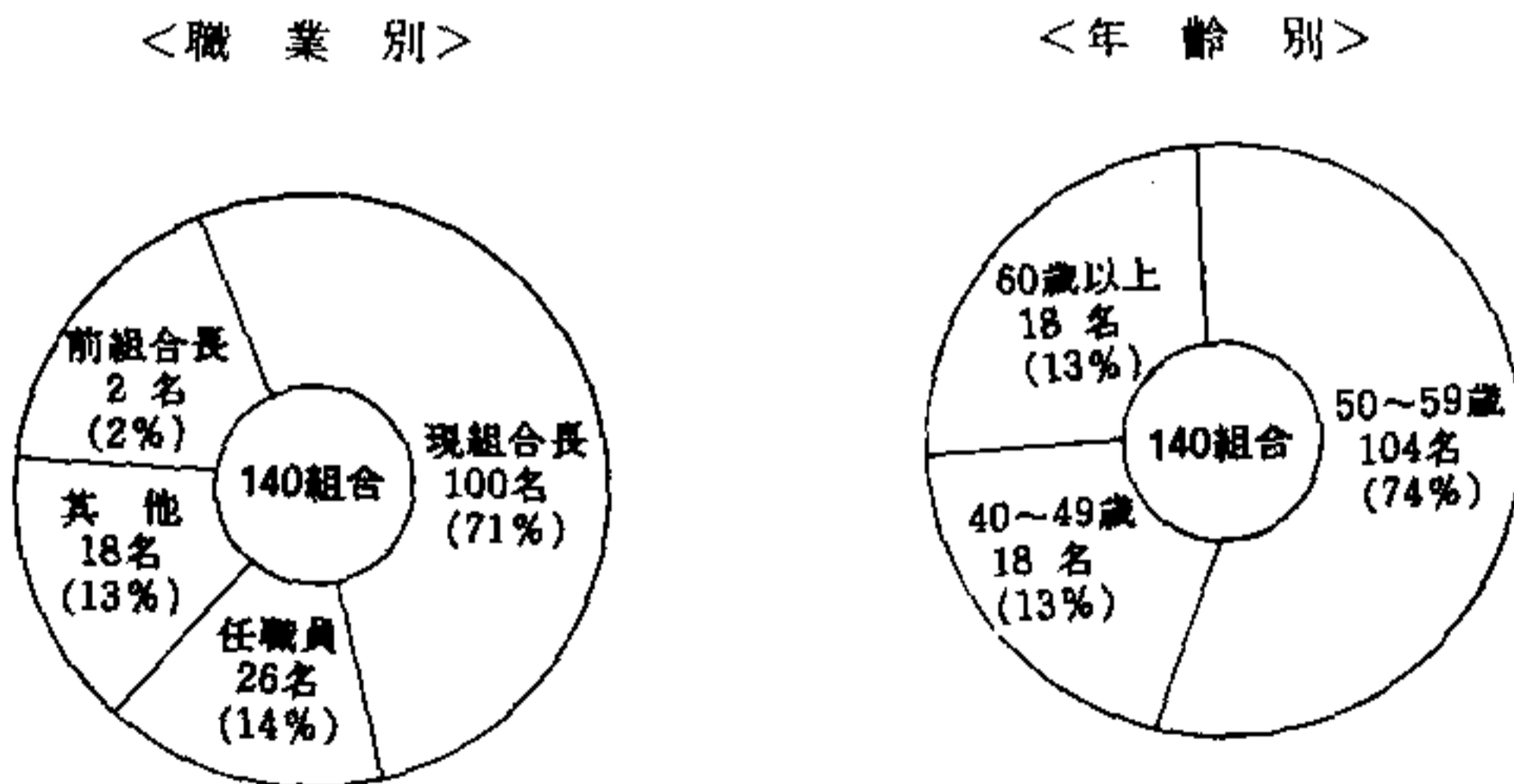
산림조합은 養苗, 造林, 育林, 林産등의 산림사업을 효율적으로 실행하기 위해 기술지도와 자금지원의 기능을 가지고 있다.

'89년 현재 구성된 산림조합수는 총 140개 조합이며, 리·동 山林契는 18,741계로서 대부분이 고정재산과 수익사업이 없어 영세하여 운영비 조달에 급급한 실정이다.

더구나 '80년이후에는 조합비 징수마저 폐지하여 운영의 어려움은 가중되고 있다. 이렇게 어려운 여건에도 불구하고 '80년대후반에 일기 시작한 조합의 민주화 추세에 따라 '89. 4. 1 山林組合法을 개정 산림조합중앙회장과 임원 그리고 시군 산림조합장을 조합원이 직접 선출토록하여 140개 시군 산림조합장을 '89. 12월까지 전원선출하였으며, 산림조합중앙회장과 常任監事는 새로 선출된 산림조합장이 '90. 1. 19. 직접 선출하였다.

<그림 1-3-1>

山林組合長 選出現況



資料：山林廳 林政局

2. 林政에 對한 團體參與 機會擴大

민주화의 시대적 요구에 부응하여 山主와 임업단체의 보다 폭넓은 의견을 수렴하고 이를 林業施策에 적극 반영하기 위해 각종 공청회, 간담회를 개최하여 다양한 의견을 수렴하고 건의사항에 대하여는 정책과 연계시켜 나가기 위해 최대한 노력을 경주해 나가고 있다.

앞으로도 林政을 수행함에 있어 산주 및 임업단체와의 긴밀한 협조체제를 유지 발전시키고 공감대를 형성해 나가므로서 신뢰받는 山林行政을 구현하는데 적극 노력해 나갈 계획이다.

<表 1-3-4>

林業團體懇談會開催實績

	開催日時	參與人員	主要議題
山林法改正 公聽會	'89. 1. 25	95名	○ 山林法改正(案)에 對한 公聽會
木材加工業體 合板業體 } 懇談會	'89. 2. 22 ~ 2. 24	43名	○ 木材 合板業體 育成을 爲한 懇談會
林業團體懇談會	'89. 12. 7 ~ 12. 14	56名	○ 林業의 育成發展懇談會
林業團體長 懇談會	'90. 4. 30	14名	○ '90施策 方向說明을 爲한 懇談會

資料：山林廳 企劃管理官室

第4節 '89年 林政推進成果

1. 山地資源化 推進

과거 우리는 1, 2次 治山綠化事業을 통하여 국토녹화를 이룩하였으며 녹화의 바탕위에서 산지의 효용을 극대화시킬 山地利用 開發基本計劃인 山地資源化10年計劃('88~'97)을 수립하여 경제림조성 확대와 농산촌의 새로운 소득원개발 그리고 國民保健 休養空間造成 사업을 본격적으로 추

진하고 있다. 이를 위해 전국 산림중 임상이 비교적 좋은 150만ha의 산림을 林業振興地域으로 지정하여 經濟林造成 36천ha와 間伐등 育林事業 398천ha를 실시하였고 동지역에 대하여는 모든 산림사업을 집중 실시하여 2000년대 木材資源波動에 적극 대처해 나가고 있다.

또한 산불을 방지하기 위해 산불진화장비 현대화 5개년계획('89~'93)을 세워 헬기등 신예장비를 구입 적극 대처해 나가고 있으며 솔잎혹파리, 솔껍질깍지벌레등 고질적인 病害蟲을 중점방제한 결과 '89년에는 '88년보다 42천ha가 적은 421천ha에 산림병해충이 발생하였고 정부의 적극적인 방제로 병해충 피해는 계속 감소될 것이다.

2. 山林經營의 活性化의 林外所得基盤 擴大

산림은 투자기간이 길고 수익이 비교적 낮은 산업으로서 산주의 투자 의욕 고취와 수익성보완을 위한 短期所得事業이 필요하다. 따라서 산림에서 생산되는 버섯, 밤, 대추등의 소득품목을 개발하여 수익증대를 도모할 수 있도록 '89년에 林產物 主產園地 28개소를 지정하여 육성하는 한편 林產物直賣場 4개소를 설치하여 생산자와 소비자를 동시에 보호하고 있다.

또한 도시화, 산업화에 따라 급증하는 휴양수요를 산림내에 수용토록 하기 위해 '88년부터 우선 國·公有林에 자연휴양림을 조성하여 '89년까지 총 8개소를 조성 운영하고 있으며 앞으로는 私有林에도 休養林을 조성하여 산주가 소득을 올릴 수 있도록 山林法을 '90. 1. 13 개정하였다.

이밖에 林間修鍊場, 樹木園, 山林浴場을 조성운영하여 모든 국민이 산과 더불어 휴식을 즐길수 있도록 산림에 휴양공간을 확대해 나가고 있다.

그리고 산주의 산림경영을 활성화하기 위해 임업세제의 개선, 山林開發 基金 利子率 引下(5.5% → 3%), 각종 산림규제를 대폭 완화하여 국민편익을 도모하였다.

여백

第2編 1990年度 林業施策

여백

第1章 山林에 對한 社會的與件과 '90林業政策

第1節 山地開發 與件的 變化

정부에서는 그동안 제6차에 걸친 經濟社會發展 5個年計劃의 성공적 추진으로 1인당 국민소득이 5,000 \$ 시대에 진입하게 되었다.

이와함께 국민생활의 질은 크게 향상되어 목재수요는 물론 맑은물, 깨끗한 공기 그리고 아름다운 자연경관등 산림레저 수요는 현저하게 증가되고 휴식, 문화공간으로서의 山林의 役割은 더욱 높아질 것으로 전망된다.

또한 도시화, 산업화에 따른 주택, 도로, 공장용지등과 초지, 과수원등 농업용지로의 수요가 계속 늘어날 것이다. 이와같이 산림은 목재등 임산물생산과 더불어 立地條件에 따라 산지를 보다 계획적으로 이용할 수 있는 山地利用體系의 확립이 필요한 실정이다. 그리하여 전국의 산림을 생산임지와 환경임지, 개발임지로 구분하여 보다 쓸모있게 개발해 나가도록 山林政策을 대폭 전환하여 '90년부터 중점 추진하고 있다.

<表2-1-1>

山地利用長期展望

(單位：千ha)

	'77	'89	2000	2030
總面積	6,593	6,491	6,383	6,130
保全林地	—	5,209	5,178	5,080
準保全林地	—	1,282	1,205	1,050
他用途轉用 (農地, 草地, 產業林地)	—	102	108	253

資料：山林廳 營林局

第2節 山村振興을 爲한 林業政策으로의 轉換

'90.1.13 山林法(法律 第42106號)을 전면 개정하여 과거의 綠化, 規制, 保全爲主의 산림정책에서 經營, 助長, 所得開發 政策으로 전환하였다.

개정내용으로

첫째, 산림경영의 規制緩和로 대국민 편익을 제공토록 하였다.

保全林地 轉用許可, 休養林造成計劃 承認을 받은 경우에는 立木의 伐採, 山林毀損, 林產物의 掘取, 採取등 별도의 허가를 생략토록 하였고, 營林計劃에 의한 가지치기등 경미한 시업은 신고없이 임의로 할 수 있도록 하였으며, 間伐, 皆伐, 擇伐은 사전 신고만으로 시업토록하여 산림소유자의 편익을 도모하였다.

또한 製材施設의 설치허가를 등록제로 전환하여 임산물 가공업자의 편익을 도모하였다. 아울러 경미한 山林法規 違反者에 대하여는 罰金에서 過怠料로 전환하였다.

둘째, 산지의 다목적이용 및 경영기반을 확충토록 하였다.

국민의 보건휴양, 정서함양, 그리고 산림소유자의 소득향상에 기여하기 위해 산림내에 自然休養林을 지정하고 조성할 수 있도록 하였으며 필요시 입장료를 징수할 수 있도록 하였다.

또한 산림에 대한 자연학습교육과 학술연구 및 山林史料의 보존전시를 위하여 國·公有林에 수목원을 조성하고 산림소득증대를 촉진시키기 위해 임산물 소득원의 개발과 樹實類, 버섯류, 山菜類, 藥草類등 主要團地를 지정 육성하며 양질의 석재가 매장된 지역은 採石團地로 지정 관리할 수 있도록 하였다.

임산물의 원활한 수급과 가격안정을 위해 임산물 유통시설의 시설운동 등 유통구조를 개선토록 하였고, 保全林地 他用途 轉用時 일정액의 代替造林費를 山林開發基金에 납입하여 산림에 재투자 하도록 하였다.

셋째, 사유림 경영의 활성화로 木材自給率을 향상하도록 하였다.

산지자원화 촉진을 위하여 산림의 집중개발이 필요한 지역을 林業振興促進地域으로 지정 개발하고 이지역에 대하여는 자금과 기술을 우선지원 하므로서 국내재 공급기지로 조성토록 하였다.

또한 사유림의 합리적 경영 유도를 위해 산림소유자 상호간에 자율협동경영을 권장하는등 협업경영 촉진시책을 수립 추진토록 하였다.

넷째, 林野投機를 억제토록하여 임지이용제도를 확립하였다.

임야는 산림경영을 목적으로 하는 자가 소유함을 원칙으로 하였고 임야를 매수하고자 할 때에는 市長・郡守・區廳長의 林野賣買證明을 발급 받도록하여 매수목적대로 임야를 경영하거나 이용하도록 하였다. 경영계획서대로 施業不履行時에는 市長・郡守・區廳長이 代執行 할 수 있도록 하였으며 매수한 임야를 5년내에 賣渡하고자 할 때에는 국가 또는 지방자치단체가 산림경영 및 公用, 公: 1地 확보를 위해 우선 매수할 수 있도록 하였다.

또한 保全林地는 일정면적 이하로 분할을 금지토록 하는등 임지에 대한 이용제도를 확립하였다.

이와같이 개정된 山林法을 '90.7.14부터 시행하고 있으며 동법에서 위임된 사항은 施行令과 規則을 개정하여 법시행에 차질이 없도록 조치하였고 아울러 기타 훈령이나 예규등도 법개정 취지와 현실에 맞도록 정비 제정하여 일선기관에서 업무수행에 불편이 없도록 시행하였다.

※ 山林法令 改正 主要內容

<山林法>

- 林野投機抑制를 위해 林野賣買證明制 실시
 - 대통령령이 정하는 임야의 매수자는 시장・군수・구청장의 林野賣買證明發給

- 保全林地를 타목적으로 전용하고자 하는 자는 산림청장이 고시하는 금액의 代替造林費를 납부(ha당 318만원)

※ 고시일자 : '90.7.18자

<施行令>

- 營林計劃작성기간을 5년에서 10년으로 연장
- 林野賣買證明발급대상은 保安林과 天然保護林을 제외한 2,000㎡(605평)이상의 임야

<施行規則>

- 영림계획허가받은 산림에서 山菜·藥草·덩굴류의 採取등 경미한 사업시는 신고없이 임의로 가능

<訓令·例規>

- 林野賣買證明 사무처리지침등 24개 訓令·例規정비

第3節 '90林業政策의 基本方向

지난 1, 2次治山綠化事業의 성공적인 추진으로 우리나라는 세계에서 보기도 못한 성공적 녹화를 이룩하였으며 ha당 林木蓄積은 지난 15년전에 비해 3배가 증가된 36m³이다.

그러나 아직도 산지의 대부분이 幼齡林과 不良林으로서 20년생이하의 어린나무가 전체산림의 72%나 차지하고 목재수요의 84%나 외재수입에 의존하고 있는 실정이다. 또한 단기소득을 선호하는 일반적인 투자성향과 함께 장기성인 임업에 투자하려는 경영의욕이 저하되면서 放置山林은 증가되고 있으며 경제, 사회적인 여건변화와 함께 산지를 타용도로 이용하려는 국민의 욕구는 증대되고 있는 한편 농산촌 노동력의 도시집중현상으로 작업이 어려운 산림에서의 노동기피현상은 산림경영에 어려움을 더

해주고 있어 이제우리 임업도 보다 합리적인 경영이 절실히 요구되고 있다.

따라서 '90년 산림정책 방향은 산지의 다목적이용개발로 임업의 경제성 제고에 중점을 두고 經濟林을 확대하여 울창한 산림자원을 조성하며 山林所得源을 개발하여 農山村所得增大에 이바지하고 산림내 休養空間을 조성하여 林外所得源을 확대해 나갈 계획이다.

중점 시책으로서는

첫째, 산지의 합리적인 이용개발을 촉진시켜나가기 위해 전국 650만ha의 산지를 보다 생산성있게 이용할 수 있도록 재편하여 계획적인 개발로 국가발전에 기여토록 하였다.

둘째, 목재의 안정적인 공급과 자원화촉진을 도모하기 위해 經濟林造成擴大와 育林作業을 내실있게 추진하는 한편 해외산림개발을 적극 추진해 나가고자 한다.

셋째, 사유림경영의 활성화를 위해 林業基盤施設의 확충, 流通構造의 개선 그리고 林業機械化의 촉진, 사유림경영등을 합리화하는데 중점을 두고 추진해 나갈 것이다.

끝으로 늘어나는 국민휴양수요를 산림에서 대폭수용할 수 있도록 休息空間施設을 많이 만들어 국민에게 널리 제공해 나갈 계획이다.

第4節 '89年 林政推進成果와 反省

과거 우리는 1,2차 治山綠化事業을 통하여 國土綠化를 이룩하였으며 녹화의 바탕위에서 산지의 효용을 극대화시킬 산지이용개발 기본계획인 山地資源化 10年計劃('88~'97)을 수립하여 경제림조성 확대와 농산촌의 새로운 소득원개발 그리고 국민보건 휴양공간조성 사업을 본격적으로 추진하고 있다.

이를 위해 전국 산림중 林相이 비교적 좋은 150만ha의 산림을 林業振

興地域으로 지정하여 경제림조성 36천ha와 間伐등 育林事業 398千ha를 실시하였고 동지역에 대하여는 모든 산림사업을 집중 실시하여 2000년대 木材資源波動에 적극 대처해 나가고 있다.

또한 산불을 예방하기 위해 산불진화장비 현대화 5개년계획('89~'93)을 세워 헬기등 신예장비를 구입 적극 대처해 나가고 있으며 솔잎혹파리, 솔껍질깍지 벌레등 고질적인 병해충을 중점방제한 결과 '89년에는 '88년보다 42천ha가 적은 421천ha에 산림병해충이 발생하였으며 정부의 적극적인 방제로 병해충 피해는 계속 감소될 것이다.

임업에 있어 필수경영기반시설인 林道를 계획적으로 시설하기 위해 林道施設擴大 基本計劃을 수립하여 매년 1,000km이상 시설할 계획으로 추진중에 있으며 '89년에는 '88년보다 170km가 많은 547km를 시설하였다.

이울러 임업후계자의 육성 및 사유림 협업경영의 확대와 각종 지원등을 통하여 산림경영을 더욱더 활성화 해 나가고 있으며 산림의 장기 저수익성 보완을 위해 임목생산 이외의 버섯, 밤, 대추등의 단기소득 품목을 육성 개발하여 산림소득을 증대할 수 있도록 '88년에 이어 '89년에도 短期所得 林產物主產團地를 28개소 지정 육성하는 한편 이곳에서 생산되는 임산물의 원활한 판매를 기하기 위해 직매장 4개를 운영하여 생산자와 소비자를 동시에 보호해 나가고 있으며 '89년에는 총 95천M/T를 생산(생산액 1,988억원)하여 1,476억원을 수출하는등 농가소득증대에 지대한 역할을 담당하고 있다.

최근 도시화, 산업화에 따라 급증하는 휴양수요를 산림내에 수용하기 위해 '88년부터 우선 국·공유림에 자연휴양림을 조성하여 '89년까지 총 8개소를 조성 운영하고 있으며 앞으로는 사유림에도 休養林을 조성하여 산주가 소득을 올릴 수 있도록 山林法을 '90.1.13개정 하였다.

이밖에 林間修鍊場, 樹木園, 山林浴場을 조성 이용토록 하여 모든국민이 산과 더불어 휴식을 즐길 수 있도록 산림에 휴양공간을 확충해 나가는 한편 산주가 산림을 보다쉽게 이용할 수 있도록 하기위해 산림법 시

행규칙을 개정하여 산림훼손등 규제를 대폭 완화하였다.

개선된 주요내용으로는 과거농민이 농가주택이나 보관창고 축사를 시설하기 위해 산림훼손을 할 경우 100㎡이내(농로 2천㎡이내)만 훼손할 수 있던 것을 면적제한을 폐지하였으며 국도, 고속도로, 철도연변 가시지역 2km이내에는 산림훼손을 금지하였으나 1km이내로 완화하고 1km이내라 할지라도 시장, 군수가 고시한 지역이외에는 훼손할 수 있도록 하였다.

그외에도 1ha이내의 山菜·藥草·觀賞樹栽培등을 위한 산림훼손도 가능토록 하는등 농어민 편익위주로 개선하였으며 산주의 산림경영을 활성화하기 위해 임업세계의 개선, 산림개발기금 이자율 인하(5.5%→3%) 각종 행정절차도 간소화하여 국민편익을 도모하였다.

산림이 점차 무성해지고 산을 찾는 레저휴양인구 급증과 더불어 일기의 건조로 예년보다 많은 산불이 발생하여 소중한 산림자원 손실을 초래하였고 또한 산을 찾는 국민들의 질서의식 부족으로 쓰레기를 마구버리므로써 山地汚染이 날로 심각한데 이러한 산지 環境汚染防止 및 제거대책이 시급한 실정이다.

과거 치산녹화 기간동안 조림한 임지가 대부분 間伐期에 달해 국내산 소경, 간벌재가 많이 생산되고 있으나 용도개발이 미흡하여 산주가 間伐을 기피하고 있어 보다 새로운 간벌소경재 신수요개발이 필요하며 산지를 보다 다목적으로 이용개발하여 임업생산성을 높이기 위해서는 정부의 적극적인 지원확대와 더불어 지속적인 범국민 홍보활동을 강화하여 산림이 公共材로서의 새로운 가치를 浮刻시킴으로서 많은 국민이 산림경영에 참여하는 분위기 조성이 절실히 필요한 실정이다.

第2章 山地의 計劃的 利用開發

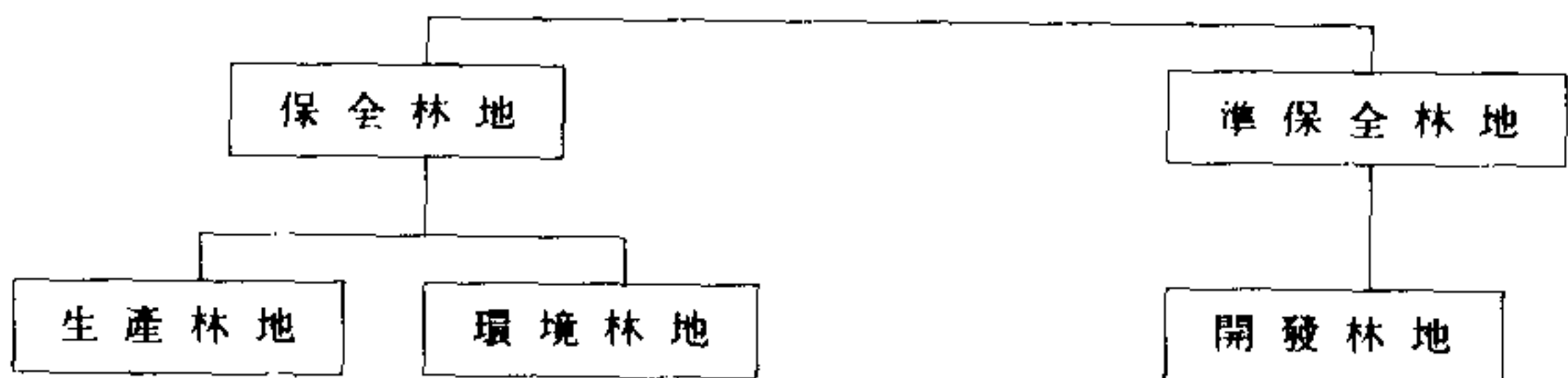
第1節 山地利用體系의 再編

지금까지의 山地利用은 規制爲主의 保全施策을 견지해왔으나 앞으로는 적극적 이용개발방향으로 施策을 전환하기 위하여 山地利用開發體系를 재편할 계획이다.

즉, 산지를 立地여건에 따라 保全林地는 生産林地와 環境林地로, 準保全林地는 開發林地로 세분하여 각각 구분목적에 맞도록 임지별 이용방향을 설정하였다. 앞으로 生産林地는 국내 목재공급 기지화를 위하여 경제림으로 중점 육성 관리하므로서 자원화를 촉진하고, 環境林地는 국민보건 휴식공간화를 위하여 기존임상을 최대한 보전하면서 편의시설을 설치하며, 産業林地는 農地, 工業用地, 宅地등 임업이상의 목적으로 사용토록 허용할 계획이다. 이와같은 山地利用開發體系 재편을 위하여 우선 '90년에는 전국 山地利用區分調査를 실시하고 있으며 동 조사결과를 기초로 '91년에는 지역별 山地利用長期計劃을 수립하여 계획적개발을 유도해 나갈 계획이다.

<그림 2-2-1>

山地利用體系圖



資料：山林廳 營林局

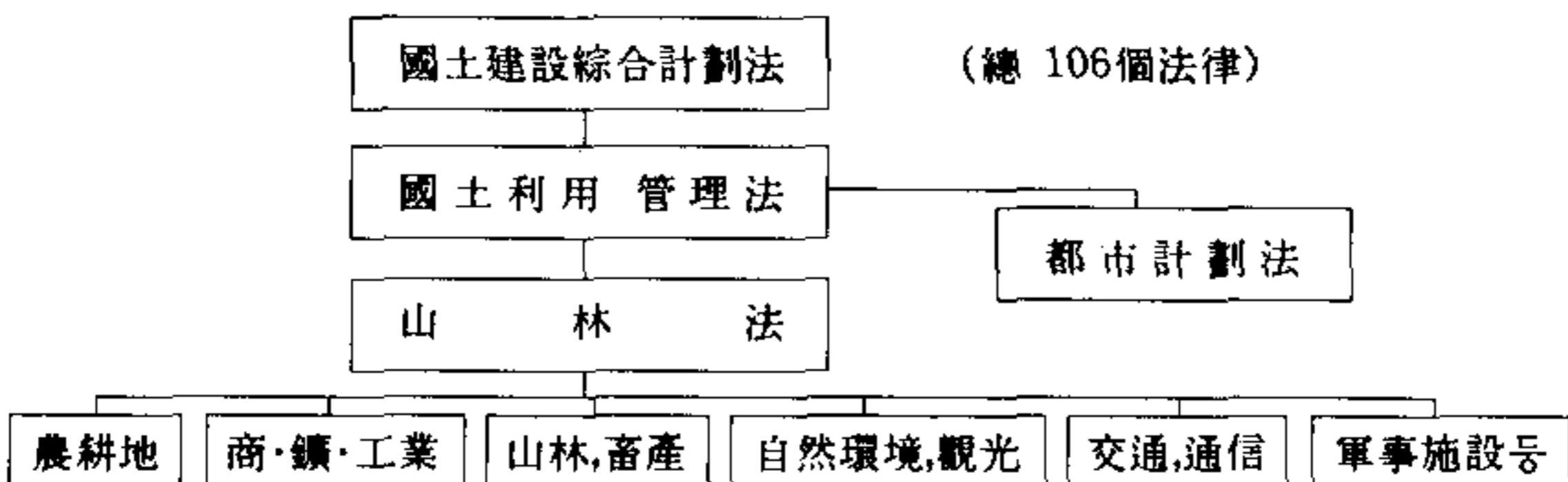
第2節 山地利用開發體系定立

산림에 대한 정의는 山林法 제2조에 규정하고 있으나 산지에 대한 개념은 뚜렷하게 확립된 바 없고 산지이용과 관련된 법률체계도 불합리하여 산지의 계획적 이용개발을 저해하고 있는 실정으로써 이후 계속 연구 발전시켜야 할 과제이다.

山地利用과 관련된 법률체계는 비도시지역 산지의 이용체계인 國土建設綜合計画法 → 國土利用管理法 → 山林法으로 이어진 체계와 도시지역 산림이용체계의 國土建設綜合計画法 → 都市計画法으로 구분되는 이원적 법률체계를 가지고 있다.

이러한 체계에 따라 산지자원에 대하여 특정개발행위의 조장 또는 규제를 하고 있는 법률과 산지자원의 이용절차등을 규정한 개별법률들이 복잡하게 엉켜있다. 개별법률등을 종합해보면 國土建設綜合計画法등 106개 법률에 이르며 20개 정부부처가 관련되어 있다. 즉, 20여개 부처나름대로 산지이용계획을 갖고 있으며, 106개 법률이 상호규제 및 상충되고 있어 이들 법률가운데 산지관련법률을 한데 모아 통폐합하지 않고는 계획적 산지이용이 불가능한 실정이다. 뿐만 아니라 국토의 효율적 이용관리를 위한 기본법성격의 國土利用管理法과 山林法間의 용도지역지정상의 불합리성도 시급히 개선되어야 한다.

<그림 2-2-2> 山地利用 關聯法律의 現況



資料：山林廳 營林局

第3章 山林資源의 經濟林化와 保護育成

第1節 造林 및 育成

1. 適地適樹의 經濟林 造成

우리나라는 전국토의 65%가 산림으로서 과거에는 울창한 산림을 보유하고 있었으나 근세에 들어오면서 混亂期를 틈탄 무분별한 伐採등으로 산림의 대부분이 파괴되어 제1,2차 治山綠化事業을 통하여 온 국민의 정성과 노력으로 다시 국토녹화를 성공적으로 이룩하였다. 그러나 速成樹 위주 녹화정책을 추진한 결과 산은 푸르러졌으나 자원면에서는 빈약하고 人工造林率도 30%에 불과하여 보다 생산성이 높은 산지이용을 위해서는 適地適樹의 經濟林 造成을 확대하여 최소한 일본수준인 45%까지 끌어올려야 하겠다.

따라서 우선 2000년까지 인공조림율을 40%까지 확대한다는 목표하에 經濟林을 조성하고 있으나 대상지선정과 예산확보 부진으로 금년에 37천 ha의 造林을 실행하였고 이러한 면적으로는 목표달성이 어려우므로 앞으로는 연간 50천ha 이상을 필수적으로 實行하여야 하겠다.

<表2—3—1>

造林實績 및 向後計劃

單位 [面積：千ha
本數：百萬本

	實 績		計 劃			
	'73~'89		'90		'91~2000	
	面 積	本 數	面 積	本 數	面 積	本數
計	2,128	5,103	34.1	83.5	486	1,250
長 期 樹	926	2,883	27.1	81.1	406	1,218
速 成 樹	1,016	2,145	4.7	1.8	60	24
有 實 樹	186	75	1.7	1.0	20	8

이와 관련하여 經濟林 造成을 보다 내실있게 추진하기 위해 새로운 경제수종의 확대보급과 適地適樹의 造林지도를 적극시행하고 장기 木材需

要를 감안한 상수리나무, 느티나무, 자작나무등 有用闊葉樹 조림도 점차 확대할 계획이다.

이에따라 '90년에는 전국민이 한그루 나무심기 운동 및 내산가꾸기 운동을 전개하여 조림 분위기를 고조시키면서 산림경영 참여와 투자여건 조성에 전력을 다하였다.

경제사회의 발전과 국민소득 향상에 따라 산지의 자원화, 소득원화로 또한 국민의 공동자산으로 이용개발하여야 할 전환기를 맞아 보다 알찬 經濟樹造林을 확대하면서 정부지원을 강화할 계획이다.

2. 體系的인 育林管理

育林작업은 임목생장을 촉진시키는 물론 양질의 大徑木材를 생산하는데 매우 중요한 과정이나 제1,2차 계획기간에는 황폐된 국토를 우선 綠化하는데 치중해온 나머지 조림지에 대한 사후관리에 일부 소홀함이 없지 않았던 바, 資源化 10년계획의 추진과 더불어 심어놓은 나무를 더욱 쓸모있게 가꾸기 위한 육림에 보다 중점을 두고 '90~2000년까지 어린나무가꾸기등 3,010천ha, 天然林保育 220천ha, 間伐 570천ha를 체계적으로 적기 育林작업을 추진하여 임목의 성장추진 및 形質향상을 도모할 계획이다.

<表2-3-2> 育林事業 實績 및 向後 推進計劃

	實 績		計 劃	
	'73~'88	'89	'90	'90~2000
計	12,436	394	373	3,427
追 肥	2,755	91	78	582
풀 베기	5,586	133	139	1,161
稚 樹 가 꾸 기	3,679	102	87	683
덩 굴 除 去	75	16	18	202
天 然 林 保 育	132	23	21	199
間 伐	209	29	30	540

資料：山林廳 造林局

현재 20년생이하 어린나무가 대부분을 차지하고 있는 조림지가 육림작업을 해주어야 할 절정기에 도달하고 있어 이 시기를 일실하지 않도록 育林사업에 행정력을 집중하고 있다.

그러나 농산촌의 인력부족과 노임상승, 예산확보등 어려운 문제점이 대두되고 있으나 山地資源化 촉진을 위해 2000년까지는 연간 400천ha 수준의 育林작업이 실행될 수 있도록 정부의 과감한 정책 및 예산지원의 뒷받침이 있어야 하겠다.

'90년에는 지역별 임지실태에 알맞는 育林작업을 계획, 造林地 肥料주기, 풀베기, 稚樹가꾸기, 덩굴제거작업등 322천ha와 優良闊葉樹 및 天然剛松林을 用材林으로 육성하기 위한 天然林保育 21천ha 그리고 적기 생육공간을 확보해 줌으로써 임목의 생장 및 형질향상을 위한 間伐작업 30천ha등 총 373천ha의 育林작업을 추진할 계획이다.

3. 優良種苗 安定供給

좋은 형질의 나무에서 우량종자를 채취하여 건전한 묘목으로 키우는 養苗사업은 經濟林造成의 기초가 된다.

'90년에는 '91년 조림용 苗木 87백만본을 원활하게 공급할 수 있도록 산림조합 및 국영묘圃와 국유養苗場에서 산주희망도와 適地適樹계획을

<表2-3-3>

養苗生産實績 및 計劃

(單位：百萬本)

區 分	實 績		計 劃		
	'73~'88	'89	'90	'91	'92~2000
計	4,668.3	86.3	86.7	119.2	1,072.8
長 期 樹	3,740.7	81.1	82.1	114.0	1,026.0
速 成 樹	387.5	1.8	1.8	2.4	21.6
有 實 樹	71.5	0.6	0.8	0.8	7.2
砂 防 樹	468.6	2.8	2.0	2.0	18.0

資料：山林廳 造林局

감안 새로운 경제수종과 有用闊葉樹의 양묘를 확대하는 등 수종을 다양화할 계획이다.

第2節 海外山林資源의 開發

우리 산림의 본격적인 생산시까지 앞으로 30~40년간은 부족한 목재의 해외수입은 불가피한 실정이다. 그러나 세계의 산림자원 보유국은 자국자원의 保續的利用은 물론 外貨稼得率을 높이고 고용기회 창출을 위하여 원목 수출의 금지내지 규제를 강화하고 있어 미규제 지역으로의 진출이 불가피하다.

특히 주로 합板用材로 쓰이는 南洋材의 확보가 문제시되고 또한 南洋材는 수급 불균형의 현상이 '90년대 중반 이후에 도래할 것으로 전망되어 南洋材 생산지역으로의 조기 진출이 절실하나 모든 국가가 수출을 금지하거나 규제할 계획이어서 가까운 東南亞와 大洋洲에는 진출의 여지가 없고 목재가공공장을 진출시켜 반제품이나 완제품을 생산하여 우리나라로 도입하거나 제3국으로 진출해야 할 형편이다.

<表2-3-4> 海外山林資源開發進出現況

業體數	進出國	投資規模	業種別規模				
			林地開發	林木伐採	合板製造	單板製造	칩生産
13業體	6個國	千\$ 88,948	千ha 1,726	千m ³ /年 120	DM/年 1,725	千m ³ /年 61	千M/T/年 210

資料：山林廳 林政局

'90년중에는 現代그룹이 소련 극동지역인 연해주에 진출하여 837천ha의 임지를 확보하고 앞으로 30년간 매년 1백만m³의 북양재를 생산하여 대부분 우리나라로 들여올 계획이며, 東海펄프(주)가 미국의 앨라배마주에 15천ha 임지를 확보 칩공장을 건설하여 연간 125천톤의 펄프재를 개

발 도입할 계획이며, (株)鮮京이 말레이시아의 사라와코 지역에 합板공장을 건설 연간 100 千m³의 합판을 생산하여 40% 정도를 우리나라에 들여오고 그 나머지는 주로 유럽 및 중국등지로 수출할 계획으로 있다.

그밖에 三煥企業(株)이 사할린에 北洋材 제재공장을 진출시킬 계획에 있고 코오롱商事(株)에서도 알래스카에 진출하여 원목개발을 착수할 계획이며 (株)大宇도 미얀마에 연간 21천m³ 규모의 합판공장을 진출시킬 계획이다.

국내자원이 상당히 조성되는 2030년대에 가서도 목재수요의 50% 정도를 계속외재에 의존하여야 하는 실정을 감안할 때 정부차원에서 산림개발업체의 지원과 애로사항을 타결할 수 있도록 자원보유국과의 외교협력이 강화되어야 하겠다.

이를 위해서는 신규 진출하고 있는 자원보유국인 캐나다, 蘇聯등에 林務官을 상주시켜 진출업체들의 안정적인 장기산림개발이 이루어지도록 지도와 지원이 절실히 필요하다 하겠다.

第3節 所重한 山林資源의 保護

1. 산불防止

최근 산림이 울창해지고 낙엽등 可燃物質이 많이 쌓여 한번 발생된 산불은 걷잡을 수 없이 번져 대형화되어가고 있는 추세에 있으며 국민생활수준의 향상으로 산을 찾아 즐기는 등산인구가 날로 증가되면서 산불의 위험요소는 점차 증가되어 가고 있다.

'90년에는 이러한 대형 산불을 예방하기 위해 보다 徹底한 예방대책과 조기 진화체제를 확립하여 산불피해를 최소화하는데 역점을 두고 춘기(3.1~5.31) 산불조심기간에는 근무태세를 더욱더 강화하고 예방활동을 적극 전개하였으며 감시원을 대폭증원(10,686명) 배치하는 한편 진화장비

의 현대화(Hel기 도입)와 함께 大衆媒體(TV, 라디오, 신문)을 통한 대국민 홍보활동을 적극전개 하므로써 근래에 가장적은 산불이 발생하여 재해로부터 산림피해를 최소화 시켰다.

특히 취약지와 등산인구가 많은 지역에는 감시원을 고정배치하고 입산시 火氣物携帶 禁止를 생활화하도록 범국민운동을 전개하고 기상변화에 따른 산불경보발령제를 실시함과 아울러 전문진화대를 조직 정예화하는 등 적극적인 산불예방대책을 추진하였으며 가을산불조심기간에도 더욱 예방대책을 강화하여 산불피해방지에 총력을 경주할 계획이다.

<表2-3-5> 산 불 발생 趨勢

	'85	'86	'87	'88	'89	'90.7月末
件 數 (件)	165	275	87	270	294	64
面 積 (ha)	363	3,147	191	878	1,652	137

註 發生原因別(最近 5年平均)

- 入山者 失火 58%
- 火氣物 携帶 20%
- 어린이불장난 8%
- 其他 14%

資料：山林廳 林政局

<表2-3-6> 氣象變化에 따른 산불危險 警報制

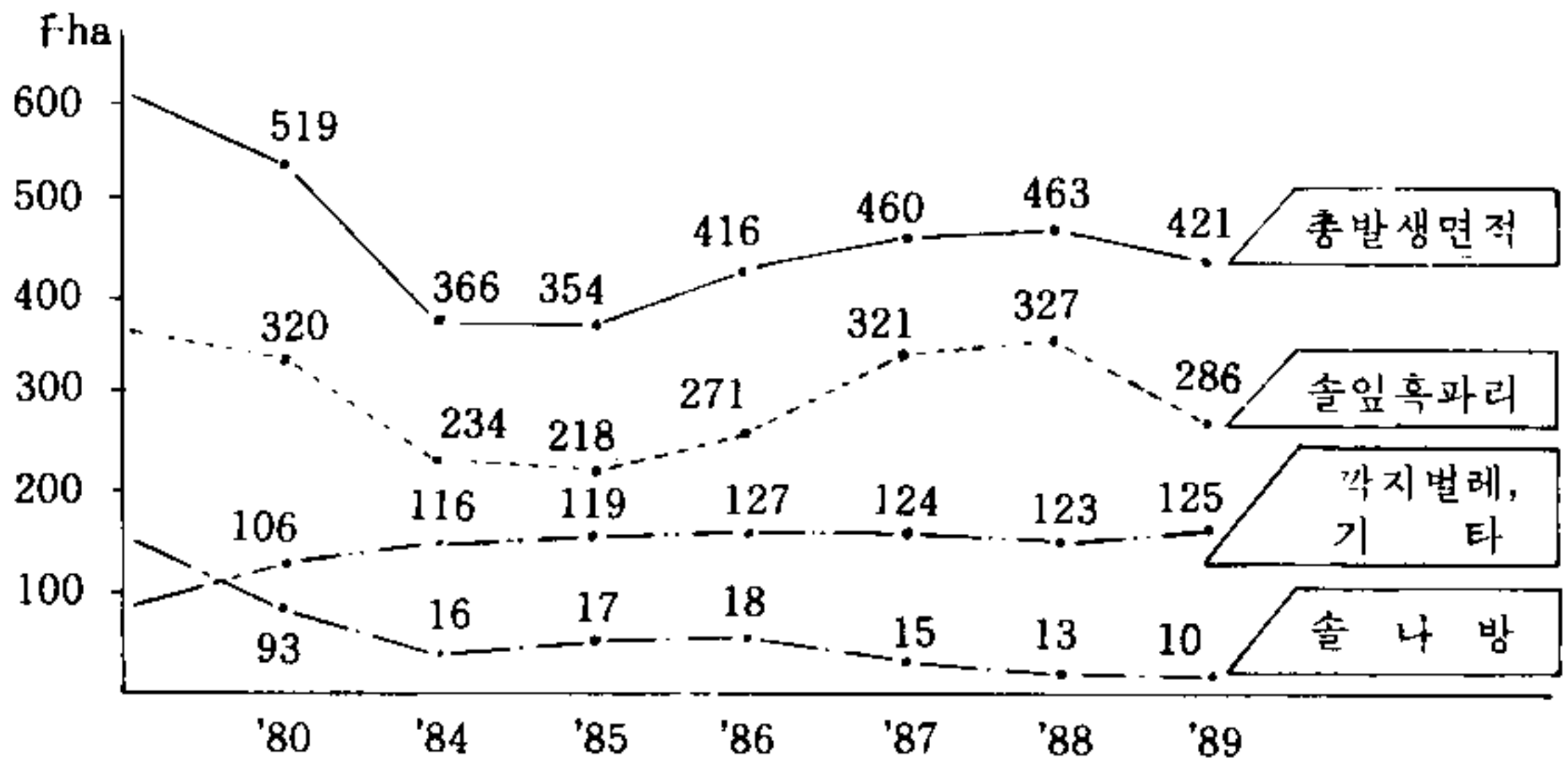
	警報發令要件	措置內容
산 불 危險 警報	○ 實効濕度：40%以下 ○ 風速：5m/秒以上	○ 職員1/2以上 24時間 非常勤務 ○ 入山禁止 및 全 登山路 閉鎖 ○ 火氣物 携帶搬入 禁止
산불危險主意報	○ 實効濕度：41~60%以下 ○ 風速：5m/秒未滿	○ 職員1/3以上 24時間非常勤務 ○ 部分的 入山統制 (主登山路만 活用) ○ 火氣物 携帶搬入 統制
산 불 主意 報	○ 實効濕度：61%以上 ○ 風速：3m/秒未滿	○ 正常勤務 ○ 登山路 開放 ○ 入山時 도시락 持參 勸獎

資料：山林廳 林政局

2. 山林病害蟲 防除

山林病害蟲은 정부의 적극적인 방제와 자연생태계의 균형회복으로 차차 감소되어 '89년에는 '88년보다 42천ha가 적은 421천ha가 발생되었다.

<그림 2-3-1> 山林病害蟲發生趨勢



資料：山林廳 林政局

'90년에는 산림자원과 자연환경의 보전을 목표로 病害蟲別 豫察調査를 강화하여 조기발견, 적기방제와 가장 피해가 심한 솔잎혹파리 방제사업을 확대하여 被害蔓延을 적극억제시키고 방제담당자에 대한 實演教育을 강화하여 방제성과를 제고시켜 나가고 있다. 금년에는 총 221천ha에 달하는 방제계획면적을 국고 65억원과 지방비 67억원, 총 132억원의 예산과 연 717천명에 달하는 인력 그리고 461대의 Hel기를 투입하여 총력방제로 추진해 나갈 계획하에 순조롭게 실행되고 있다.

특히 농산촌의 소득원을 보호해 나가기 위해 송이생산지내 소나무림의 솔잎혹파리방제와 밤나무단지의 害蟲防除를 확대실시해 나가고 환경오염 방지를 위해 化學藥劑의 사용을 줄이고 天敵飼育放飼, 夏期伐採등의 林業的 生態的防除와 주로 水和劑와 같은 低毒性 無公害 농약사용을 점차 확대하여 자연생태계의 보호를 겸한 病害蟲防除를 확대 실시하고 있다.

<表2-3-7>

山林病蟲害防除 實績 및 計劃

(單位：千ha)

	'85	'86	'87	'88	'89	'90計劃
計	160	166	175	205	218	221
솔 잎 흑 파 리	16	18	25	25	52	53
솔 나 방	19	22	21	19	14	12
흰 불 나 방	46	43	49	45	26	46
오리나무잎벌레	27	29	27	39	33	25
잣나무 털 녹 병	3	3	2	7	2	2
솔껍질 각지벌레	10	10	11	10	10	8
其 他	39	41	40	60	61	75

資料：山林廳 林政局

3. 山地汚染防止

등산인구등의 증가로 山林環境의 훼손 및 오염이 날로 심각해짐에 따라 山林環境保全 意識鼓吹運動을 汎國民的으로 전개할 필요성이 대두되어 “푸른숲 깨끗한산 가꾸기운동”을 지속적으로 추진하고 산림내 오물투기 예방 및 제도를 강화함으로써 깨끗한 산림환경을 조성하고 산림자원을 보호할 계획이다.

이를 위하여 등산객이 많은 전국의 주요명산 지역에서 행락철에 정기적인 캠페인을 실시하여 국민의식 제고에 주력하는 한편 유관기관과 합동계도 및 단속반을 편성 山林內 汚物 및 廢棄物質 投棄行爲에 대한 제도 단속을 펴나갈 계획이다.

특히 '90년에는 '89년에 이어 韓國放送公社와 공동으로 전국규모의 “푸른숲 깨끗한산 가꾸기 캠페인”을 6월에 실시하였으며 여기에는 전국 1,723기관, 86,920명이 참가하여 산림정화결의와 산림의 중요성에 대한 국민의식제고를 위한 산림부산물 전시, 육림작업등 21개 종목의 협찬실연행사를 통하여 홍보효과의 극대화를 기하고 국민공감대를 형성하도록 노력하였다.

4. 山林毀損 및 復舊

산업의 발달과 인구 증가로 工場敷地, 택지등 타용도 轉用추세에 대비하여 산지를 보다 종합적이고 효율적으로 보전하고 이용개발하기 위하여 전국의 산지를 保全林地와 準保全林地로 구분하고,

保全林地에 대하여는 산림경영 및 공익기능 증진을 위하여 산림으로 보전함을 원칙으로 하여 他用途 이용개발을 억제하고 있으며,

準保全林地에 대하여는 경관 보전 및 주요시설 보호상 불가피한 산림 외는 경제적인 이용개발을 허용하고 있다.

이에따라 山林毀損 용도가 다양화되고 毀損면적이 증가되고 있어 土砂流出로 인한 농경지 피해 및 경관 저해가 우려되고 있는 실정이다.

따라서 자연경관 보존상 필요한 지역과 保安林등 공익적 기능이 큰 산림은 물론 급경사지등 재해발생 우려 지역은 훼손을 제한하고 있고

앞으로 산림훼손으로 인한 토사유출등 피해예방을 위하여 훼손지의 조기 복구추진 및 적지적공에 의한 완벽한 복구가 되도록 할 계획이다.

5. 野溪 및 砂防댐의 擴大 實行

荒廢산지의 우선 복구 추진으로 상류 集團荒廢地는 복구되었으나 하류 황폐계천으로 인하여 농경지 및 각종 산업시설에 재해발생이 우려되는 지역은 유역완결 복구로 사방 효과를 제고하기 위하여 야계사방과 사방댐을 확대 실시하여 유역내 재해를 방지하고 있으며, '90년에는 山地砂防

<表2-3-8>

野溪砂防, 砂防댐 實績 및 計劃

	計	實 績		計 劃		
		'73~'88	'89	'90	'91	'92~'97
野溪砂防(km)	2,776	472	120	140	250	1,794
砂防댐(個所)	1,384	46	46	60	100	1,090

資料：山林廳 造林局

900ha와 산사태 예방사방 20ha를 실시하고 系統砂防에 의한 지역완결 복구원칙에 따라 山地砂防과 연계하여 野溪砂防 140km와 砂防댐 60개소를 시공할 계획이다.

第4章 林業經營基盤 擴充

第1節 集約的인 山林經營

1. 私有林 協業經營 擴大

우리나라의 산림소유구조를 보면 私有林이 4,642천ha로 전체 산림면적의 72%를 차지하고 있어 山地資源化를 촉진하는데 있어 사유림경영의 활성화는 매우 중요하다고 할 수 있다. 그러나 사유림경영 구조는 전체 산주의 96%가 10ha미만의 산림을 소유하고 있고 산주1인당 평균 산림소유면적도 2.4ha에 불과하여 장기적으로 보속적인 경영을 영위하기에는 경영규모가 매우 영세한 실정이다. 더구나 산주들의 산림소유의식도 대부분 墳墓선산 개념으로 보유하고 있고 자본 능력도 미약하여 사유림경영의 활성화에는 여러가지 장애를 안고 있는 실정이다.

따라서 이와 같은 문제를 해결하기 위해서 '74년부터 韓·獨 양국간의 山林技術協力事業의 일환으로 慶南 梁山에서 私有林協業經營 示範事業을 추진하였던바 동 모델사업의 성과가 성공적으로 입증되어 '84년부터 동 協業經營事業을 전국에 확대 보급하기 시작하였고 '89년말까지 전국 16개지역에 57개협업체를 조직하여 산주협동에 의한 자율적인 산림경영이 이루어지도록 육성 정착시켜 나가고 있다.

'90년부터는 林業振興促進地域의 振興團地別로 協業體를 설립해 나간다는 목표하에 새로이 20개 協業體를 조직, 협업경영지역을 확대해 나갈 계획이며, 이들 協業經營事業의 원활한 추진을 위해 協業專擔指導員을 배치, 協業區域內 산주들의 경영지도를 담당케 하고 協業經營計劃에 의한 자율적인 사업, 民有林作業團의 우선적 조직운영, 각종 수익사업의 실행을 위한 자금융자 등을 적극 지원해 나갈 계획이다.

2. 山林開發事業團 및 作業團 運營

우리나라의 산림은 산간 오지 및 원거리에 위치하고 작업이 까다로워 인력 확보에 어려움이 많으며 농산촌 인력부족 현상에 따라 더욱더 어려움이 가중되고 있는데 반해 山地資源化計劃의 추진으로 임도, 휴양림 조성 등 전문기술을 요하는 각종 산림사업이 급격히 늘어남에 따라 이의 효율적인 추진을 위해 專門事業團의 조직운영이 요구되고 있는 실정에 있다.

이러한 문제점을 해소하고 농산촌소득 향상을 기하기 위하여 農漁村發展綜合對策事業의 일환으로 '92까지 산림조합중앙회와 8개 도지부에 각 1개소씩 9개 山林開發事業團을, 전국 시·군 산림조합에 2~3개 작업단씩 333개 民有林作業團을 조직운영할 목표하에 우선 '90년에 3개 산림개발사업단을 설치, 전문임업기술을 요하는 林道設計 및 施工, 休養林造成, 特殊山地開發事業등을 전담토록 하였으며 20개 作業團을 林業振興地域관할 산림조합에 우선 조직하여 조림, 육림, 벌채, 병해충방제 등 각종 산림사업을 전담토록 하여 농산촌민 소득증대 및 산촌인력부족 현상에 적극 대처해 나갈 계획이다.

<表2-4-1> 山林開發事業團(作業團) 組織 運營計劃 (單位：百萬圓)

	計		'90		'91		'92	
	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費	事業量	事業費
事業團	9個團	15,800	3	1,515	3	5,018	3	9,267
作業團	333 名 (5,000名)	21,300	20 (300)	485	120 (1,800)	4,565	193 (2,900)	16,250

資料：山林廳 造林局

3. 專門林業人的 養成

가. 篤林家 및 林業後繼者

일정 규모이상의 산림소유자로서 造林, 育林 및 山林保護 管理를 자율

적, 모범적으로 경영하고 있는 산주를 私有林경영이 선도자로 육성하기 위하여 '71년부터 독립가로 인정, 육성하기 시작하였으며 이들에게는 기술교재등 각종 자료의 제공과 營林計劃에 의한 시업의 자율성을 인정하고 보조와 융자등을 우선적으로 지원함은 물론 각종 정부포상과 선진지연찬에 참여시키므로서 篤林家로서의 인정감과 사기진작, 경영의욕고취를 도모하여 왔다.

'89년말 현재 독립가에 대한 지원을 강화하기 위해 산림법에 독립가육성과 資格基準 조항을 신설하였으며 영림계획에 의한 산림시업의 자율성 확대와 시업신고필증교부를 생략하는 한편 각종 정부포상과 선진임업국에 대한 해외연수등의 기회를 마련해 주므로써 독립가들의 산림경영의욕을 더욱 고취시켜 나갈 계획이다.

또한 농산촌에 정착하여 임업에 종사할 의욕과 능력이 있는 청장년을 임업후계자로 선정 육성, 지원하여 지역적 산림경영의 선도적 역할을 수행토록 하기 위하여 '89년 처음으로 林業後繼者 89명을 선발하였고 '90년에는 100명의 林業後繼者를 발굴할 계획이며 이들에게 각종 국고보조, 또는 융자금의 우선지원 및 영림계획에 의한 시업의 자율성을 최대한 보장, 기술교재, 산림지등 각종 기술정보자료의 제공은 물론 林業後繼者로서의 자질함양과 산림경영능력 배양을 위해 기본교육을 연수원에서 정기적으로 실시하고 경영기반의 조기 정착을 위해 임업자금의 융자지원을 확대해 나갈 계획이다.

나. 專門技能人 養成

과거 임업노동은 농산촌의 풍부한 임업노동력에 의존하여 수작업에 의해 이루어져 왔으나 '70~'80년대의 급속한 산업발전과 경제성장으로 농산촌과소화 현상이 심화되어 산림작업인력의 안정적 확보가 어려워 졌고 더구나 농산촌민들이 산지노동을 기피함에 따라 임업노동력의 확보가 더욱 어려워져 專門山林作業人力의 양성과 함께 임업노동의 기계화가 절실

히 요구되고 있다.

이에 따라 '82년 韓·獨林業技術協力事業의 일환으로 江原道 江陵에 林業機械訓練院을 설치하고, 산림작업 專門技能人을 양성하기 시작하였으며, '89년 현재까지 25개 작업단에 300명을 양성 배출하여 國有林 및 私 有林內 각종 산림작업에 참여하고 있다.

'90년에는 營林署 소속의 4개 國有林作業團 48명과 산림조합 소속의 20개 民有林作業團 300명을 새로이 양성할 계획이며, 이들이 조기에 현지에 정착할 수 있도록 연중 작업물량의 안정적 배정과 작업장비의 지원 및 각종 후생복지대책을 펴 나갈 계획이다.

<表2-4-2> 林業技能人 養成實績 및 計劃

	實 績			'90計 劃	備 考
	計	'84~'88	'89		
計	300(25)	204(17)	96(8)	348(24)	
國 有 林	204(17)	156(13)	48(4)	48(4)	1個作業團當 12~15名 養成
民 有 林	96(8)	48(4)	48(4)	300(20)	

註：()內는 作業團數임
資料：山林廳 造林局

第2節 經營基盤施設의 擴充

1. 林道施設

林道는 造林, 育林, 林木生産등 산림작업을 기계화하고 원목등 각종 임산물의 수송을 원활히 하며 산불, 病害蟲의 방제등 山林災害에 신속히 대처할 수 있으며 오지산림의 개발과 미이용자원의 활용도 제고등 산지자원화 촉진을 위해 가장 중요한 기반시설이다.

또한 농산촌의 교통수단은 물론 교통도로등으로 활용되어 지역산업 발전에 기여하는등 다목적으로 이용되는 지방公道이기도 하다. 우리나라는

'69年 처음으로 국유림에 임도를 개설하기 시작하였고 민유림에서는 '84年부터 국고보조사업으로 착수하여 林道施設의 역사는 20여년에 이르고 있으나 그동안 황폐된 산림의 복구에 주력하여 林道施設실적은 매우 저조한 형편으로 '89년말 현재 林道施設거리는 1,931km로서 ha당 임도밀도가 0.3m에 불과하며 선진林業국인 日本 4m/ha, 美國 10m/ha, 西獨 40m/ha에 비교하면 매우 빈약한 실정이다.

따라서 임업경영의 합리화와 농산촌 균형발전을 위하여 林道基本計劃을 수립하여 단계적으로 추진하고 있으며 2000년까지는 총연장 11,000km, 2010년까지 25,000km, 2030년까지 56,000km를 시설하여 임도밀도를 선진임업국 수준인 ha당 10m로 끌어올릴 목표로 추진하고 있다.

林道施設은 林業振興促進地域을 중심으로 임업경영 및 지역개발촉진등 다목적 효과가 높은 지역에 우선적으로 실시하고 있으나 고도의 기술을 요하는 사업으로 이의 기술정착을 위해 임도기술자 자격에 관한 사항을 개정된 山林法에 반영하였다.

'90년은 622km(民有林道 430km, 國有林道 192km)의 시설을 계획하고 있으며 이의 효율적 추진을 위하여 民有林道에 대하여는 국비와 지방비에서 사업비의 80%를 보조하고 산주가 20%를 부담토록 하고 있으며 자력부담이 어려운 산주에 대하여는 용자도 적극 알선 지원하고 있다.

<表2-4-3>

林道施設長期計劃

(單位: km)

	實 績		計	'90 計劃	'91~'97	'98~ 2010	2011~ 2030
	'87까지	'88~'89					
計	1,007	924	1,931	622	8,454	13,993	31,000
民 有 林	652	655	1,307	430	7,155	11,108	22,800
國 有 林	355	269	624	192	1,299	2,885	8,200
總 延 長	1,007	-	1,931	2,553	11,007	25,000	56,000
(ha當密度)	(0.15m)	-	(0.3m)	(0.39m)	(1.7m)	(4m)	(10m)

資料: 山林廳 營林局

2. 林業機械化 促進

농산촌 노동력 부족에 효율적으로 대처하고 오지 산림사업을 적극적으로 개발하기 위하여 '90년에는 임업진흥지역의 協業體에 機械톱, 集材機, 刈拂機 등 기계장비를 보조지원하여 산림작업시 공동활용토록 하겠으며 앞으로 50ha 이상 산림소유자에 대하여는 기본장비 보유를 권장하되 필요시는 보조와 용자지원을 확대해 주고 영세산주에게는 산림조합에서 작업장비를 대여받아 적극 활용토록 지원해 나갈 계획이다.

3. 林業技術 普及 擴大

산주의 자율적인 산림경영 참여 유도를 위해서는 조림에서 벌채에 이르기까지 각종 시업요령과 소득증대 기술개발등의 보급이 필수적이다.

林業技術指導員은 '78년부터 양성하기 시작하여 '89년말 현재 787명을 산림조합에 배치하였고 '93년까지 1개면당 1명 수준인 1,277명을 확보하여 대산주 기술지도에 임해 나갈 계획이다. 또한 산림청 및 시·도 산하 기관에 임업상담실을 설치하여 산림경영에 대한 시책과 기술, 자금지원등 제반사항을 안내해 주고 있다.

4. 林業研究開發事業

가 尖端技術을 應用한 優良新品種 開發

종래의 임목육종방법은 選拔育種과 交雜育種이 대중을 이루어 왔으나 최근 급격히 발달한 尖端技術을 林木育種研究分野에도 도입, 육종기간을 단축하고 우량묘목을 대량 생산할 수 있는 기반을 조성하였으며 유전자 조작이나 세포융합에 의한 새로운 신품종 개발이 가능하게 하였다.

'80년대 尖端技術을 응용한 육종을 꾸준히 추진해온 결과 그동안 강송 대량증식법 및 교배 불친화성 수종간 細胞融合 가능성 究明으로 육종연

구에 신키원을 이룰 상당한 성과를 거두었다.

'90년에도 첨단기술을 응용한 連續・急速増殖法에 의한 경제수종의 대량 증식방법을 연구하고 국민의 무공해 자연식품 수요의 충족과 산촌 소득증대를 위하여 다래, 으름, 왕미루등 산과실을 미래 식품수종으로 발굴 개량할 계획이며 細胞融合과 꽃가루 培養등을 통하여 경제성 있는 우량 신품종 개발연구를 계속해 나갈 계획이다.

나 林産資源의 高度利用法 開發

차산녹화와 산지자원화를 위해 집중 造林한 임지가 間伐대상 적기에 도래되어 자원증식과 산주의 소득향상을 위해 間伐小徑材등 低利用材의 다양한 용도개발이 시급한 실정으로 '90년에는 小徑低質材의 附加價値 증대를 위해 間伐材의 集成材, 積層材의 省力工程 開發에 대한 연구를 집중 실시할 계획이다. 또한 본질의 飼料化 및 에너지화를 위한 본질의 미생물 화학적 이용과 산림이 주는 보건휴양기능을 분석하여 국민에게 널리 홍보할 계획이다.

다. 山林災害 豫防法 開發

산림이 녹화되어 임목축적이 증대되고 可燃物質이 많이 쌓여짐에 따라 각종 산림병해충 및 산화등의 산림피해가 증가되고 있어 이에 대한 예방책이 절실히 요구되고 있다. '90년부터 산림피해 면적이 감소되고 있으나 산림에 극심한 피해를 주고 있는 솔잎혹파리와 솔껍질깍지벌레의 항구적인 방제법을 개발하기 위한 연구에 총력을 다할 것이며 산화예방 및 진화기술과 大氣汚染에 의한 임목피해 예방법을 개발하여 실용화할 수 있도록 추진해 나갈 계획이다.

라. 林業生産性 提高를 위한 經營技術 開發

산림의 생산성 향상을 위해 苗圃作業의 기계화와 林地除草劑에 의한

조림 및 撫育作業省力化 연구를 실시할 계획이며 천연림보육 및 유용활엽수의 갱신기술을 구명하여 보육 및 갱신기술을 체계화하는 한편 복층림사업과 휴양림조성 및 산림의 水源涵養技術을 개발하고 산림경영의 능률화를 위한 임도 및 기계를 개발 보급하는등 산림의 생산성과 공익기능을 극대화 하는 연구개발에 주력할 계획이다.

第3節 國有林 擴大 集團化

우리나라 국유림은 대부분 오지인 上流水源地域에 분포되어 있으며 용재생산 뿐만아니라 水源涵養, 國土保全등 공익기능의 증대에 중요한 역할을 하고 있다.

'87년 현재 우리나라의 國有林은 전 산림면적의 20%(1,314천ha)에 불과하지만 국가에서 필수적으로 보존경영하여야 할 임지를 확보하여 집약적 산림경영으로 必須産業用材를 안정적으로 공급하고 산림의 공익기능 증대를 도모하기 위하여 국유림 확대계획에 의거 2037년까지는 임업선진국 수준인 40%선(2,240천ha)까지 끌어올릴 계획하에 총력을 경주하고 있다.

'90년에는 추경을 포함하여 15,000ha를 확대목표로 요존국유림에 연접·개재된 민유림 9,000ha를 매수하고, 보존부적합한 小規模 分散國有林과 私有林의 交換을 4,500ha, 無主不動產, 隱匿, 亡失財産還收, 地籍復舊등 1,500ha를 취득하기 위해 적극 추진중에 있다.

<表2-4-4>

年次別 國有林 擴大 計劃

(單位：千ha)

	計 (50年間)	3次期 ('89~'97)	4次期 ('98~2007)	5次期 (2008~2017)	6·7次期 (2018~2037)
事業量	926	91	190	200	445
投資額 (百萬 圓)	635,703	65,306	123,216	133,732	313,449

資料：山林廳 營林局

국유림의 매각은 보존가치가 없는 小規模 分散國有林과 特別法에 의한 공영개발목적으로 매각이 불가피한 재산에 한하고 있으며, 국·사유림교환에 있어서도 처분재산은 실수요자 원칙으로 기준을 대폭 강화하여 최대한 억제하는 방향으로 추진하고 있다.

국유림의 활용도 증진과 생산임지화를 위하여 전 임지를 장기수 위주의 經濟林團地로 조성하여 大徑, 優良材의 생산 기지화하고 국민휴식공간 제공을 위한 휴양림등 다양한 시설을 확대해 나가는 한편, 복합적 산림경영에 의한 부산물 생산을 증대시켜 休養觀光農業政策과 연계시켜 농산촌의 소득원사업으로 적극 개발해 나갈 계획이다.

또한 國特會計의 자체조달 재원을 확대해 나가기 위해 재산처분재원은 국유림 확대와 자원조성사업에 전액 투자하고 사용료와 다양한 부산물개발 및 판매수입을 증대시켜 一般管理費에 충당하는 원칙으로 국특회계의 세입세출을 건전한 방향으로 운영할 계획이다.

第5章 農山村所得源開發과 流通構造改善

第1節 山林의 短期所得 增大

1. 短期所得 林產物 生産

최근 국민소득향상으로 무공해 자연식품을 선호하게 됨에 따라 樹實, 山菜, 버섯, 藥草등 단기소득 임산물에 대한 수요가 크게 증가하고 있으며 '89년의 경우 주요단기소득 임산물의 생산액이 임산물 총 생산액의 27%에 달하고 있어 임업 소득사업으로 크게 각광을 받고 있는바 금후 임업의 장기투자에서 오는 경제적인 취약성을 극복하고 집약적인 산지활용으로 임업소득을 향상시키기 위해 다양한 임산물을 단기소득원으로 개발해 나갈 계획이다.

<表 2-5-1> '90年 短期所得林產物 生産計劃

	生産計劃	事業費		
		計	國庫	融資
計	82,940	8,009	9	8,000
밤	79,000	6,000	—	6,000
표고	1,400	2,000	—	2,000
송이	700	—	—	—
멍개	800	—	—	—
떡갈	300	—	—	—
송주	600	5	5	—
굴피	140	4	4	—

資料：山林廳 林政局

2. 主産團地 造成

단기소득임산물의 생산증대를 위해 지역별 전통임산물의 주산단지를 조성하여 地域特化事業으로 육성하므로써 생산성을 향상시키고 기술의 보급확대를 통하여 농산촌 소득사업으로 정착시키며 홍보를 통한 소비를 촉진시킴으로서 가격안정과 농산촌소득 증대에 기여토록 해나갈 계획이다.

'90년에는 5개소의 主産團地를 신규조성하여 33개소를 운영할 계획이며 2000년까지는 총 85개소의 主産團地를 조성해 나가고자 한다.

또한 연구기관과의 연계로 경제성 높은 신품종을 개발하여 보급하고 (樹實類, 버섯류), 채취생산에서 오는 저생산성을 탈피하기 위하여 인공재배(산채류, 약초류)를 병행토록 하는 한편 農林水産物輸入開放壓力에 따라 국내에서 생산되는 품목은 아직까지 개방된것은 없으나 앞으로 이들 품목중 輸入開放對象品目으로 확정되는 것은 신규 생산기반의 확대를 지양하고 기 조성된 생산범위내에서 수급조절되어 불이익이 발생되지 않도록 육성자금 지원과 차액보상을 해주는등 대책을 강구하되 단기소득 임산물인 밤, 잣, 대추등은 농가소득 보호를 위해 수입개방을 억제할 계획이다.

한편, 가격안정을 위한 지원 강화 시책의 하나로 임산물 저장, 시설자금 및 출하조절자금을 확대지원하여 홍수출하를 방지하는등 총 116억원의 생산, 저장, 출하조절, 이용가공자금을 융자할 계획이다.

<表 2-5-2>

短期所得林産物 主産團地 指定

(單位：個所)

	計	잣	대추	송이	山菜	표고	밤	호도	石材
計	33	2	4	6	5	7	7	1	2
'89까지	28	1	3	5	3	7	6	1	2
'90計劃	5	-	1	1	2	-	1	-	-

資料：山林廳 林政局

<表 2-5-3>

'90 資金支援計劃(融資)

(單位：百萬圓)

	資金規模	財源別
計	11,571	
방출荷調節	6,000	農安基金
林產物利用加工施設	1,471	農發基金
林產物利用加工	1,100	山林開發資金
林產物貯藏施設	800	農發基金
豆 高 生 產	2,000	山林開發資金
副 產 物 生 產	200	山林開發資金

資料：山林廳 林政局

第2節 林產物 流通構造 改善

1. 木材流通

국내목재는 산주의 산림소유 규모가 영세하여 벌채량이 소량으로 분산되어있고 산주는 시장정보가 어두어서 중간목상이 생산 판매를 하므로서 유통구조가 복잡하여 산주와 소비자는 불필요한 경비를 과다하게 지출하여 손해를 보고있는 실정이다. 앞으로 伐期에 도래하는 국내재가 증산될 전망이며 2000년 중반에는 목재 자급율이 51%에 달할 것인바 영세산주 保護를 위하여 생산기반확충과 더불어 유통구조 개선이 요청되고 있다.

따라서 시·군 및 영림서(관리소)에서는 伐採地에 대한 정보를 산림조합에 통보하고 산림조합에서는 영세산주의 伐採代行, 木材收集, 販賣 및 需給斡旋을 담당하여 유통단계를 축소해나갈 계획이다.

또한 목재의 保續生産이 가능하고 소비자와 교통이 편리한 지역에 목재집하장을 설치 운영하여 목재유통의 거점역할을 수행할 수 있도록 하여 영세산주의 이익을 보호해 나갈 계획이다.

2. 短期所得 林產物 流通

短期所得 林產物은 품목이 다양할뿐만 아니라 용도에 있어서도 식용, 약용 그리고 공업원료등 여러가지로 이용되고 있으며 경제가 유타해짐에 따라 자연식품의 선호도가 증대되고 목재의 장기성 수익을 감안할때 산주 및 농산촌 주민의 短期所得源으로 중요한 위치를 점하고 있으나 대부분이 자연산을 채취하거나 소규모로 栽培 生産되어 수집상 및 소·중·도매상을 거쳐 소비자에 공급되는 다단계유통으로 유통체계화림이 요구되고 있다.

따라서 '85년 산림조합중앙회에 서울 임산물직매장을 설치 운영한 것을 효시로 하여 산주조합계통조직에 임산물 유통기능 부여 및 유통시설을 년차적으로 확대 설치 운영함으로써 임산물 유통구조 개선을 추진하고 있으며 생산농가의 소득증대와 소비자를 보호하기 위하여 산림조합계통조직을 통한 출하가 되도록 지역별, 품목별로 출하반을 조직 운영함으로써 임산물 직매장과 백화점, 슈퍼, 가공업체, 수출업체와 직결토록하여 유통단계를 축소할 계획이다.

<表 2-5-4>

林產物 流通施設 實績 및 計劃

(單位：個所)

	計	'89까지	'90	'91	'92	'93~2000
計	110	8	4	9	9	80
林產物直賣場	17	4	1	1	1	10
木材集荷場	33	4	1	2	2	24
林產物流通센터	50	—	1	5	5	39
林產物加工工場	10	—	1	1	1	7

資料：山林廳 林政局

第3節 林產物 輸出增大

'80년대초 임산물 수출은 부진함을 면치 못하였으나 '86년이후부터 점차 회복되어 '89 임산물 수출이 644백만\$로서 '85년 대비 245%나 증가하였다. '90년에는 外貨稼得率이 높은 밤, 표고등 유망 수출품목의 수출을 촉진하고 수출 採算性 補填을 위한 여건조성, 수출질서확립을 통한 수출가격 제고, 수출시장의 지속적 확보 및 수출시장의 다변화, 해외통상협력 강화, 수출상품의 고급화 및 다양화등을 적극 추진하여 올해 수출목표 670백만\$을 기필코 달성할 계획이다.

<表 2-5-5>

'90 林產物輸出計劃

(單位：百萬\$)

	'85	'86	'87	'88	'89	'90計劃
計	263	33	461	542	644	670
合 板	40	51	56	33	31	30
木 材	21	27	47	58	70	65
木 製 品	18	20	26	26	21	25
壁 紙	16	13	15	20	15	16
石 材	84	22	166	253	320	337
밤	37	53	84	92	81	95
표 고 버섯	10	13	22	16	24	23
송 이 버섯	33	30	40	47	62	60
其 他	4	4	5	15	20	19

資料：山林廳 林政局

第6章 國民레저 休養空間擴大

第1節 自然休養林・林間修鍊場 造成 運營

1. 自然休養林 造成

고도산업화 및 인구도시밀집 현상에 따라 급증하고있는 산림내의 보건 휴양수요를 충족하고 산림의 다목적경영을 통한 농산촌주민의 소득증대를 도모하고자 自然休養林 造成事業을 추진하고 있다.

自然休養林은 國・公有林에 우선 시범사업으로 조성하고 점차 사유림에 확대할 예정이며, 경관이 수려하고 多數국민이 이용하기 편리한 장소에 自然生態系와 경관을 최대한 보존하면서 조성할 방침으로 '88년에 4개소(영림서 2, 시・도 3)를 조성하였고 '90년에도 6개소(영림서 2, 시・도 4)를 조성하고 있으며 2000년까지 총 100개소를 조성할 계획이다.

休養施設은 기본시설로서 進入路, 駐車場, 散策路, 잔디밭, 野營場, 廣場, 벤취, 山幕, 林內運動施設, 給水臺, 汚物處理場, 樹木園등이 있으며, 특수시설로서 林產物販賣場, 낚시터, 狩獵場, 산과수원, 鳥獸飼育場 등을 시설할 계획이다.

또한 기본시설은 정부에서 보조하고 특수시설은 필요시 민자를 유치하여 조성하므로써 국민보건증진과 情緒涵養을 겸한 농산촌의 새로운 소득원이 될 수 있도록 추진해 나갈 계획이다.

<表 2-6-1>

自然休養林造成計劃

(單位：個所)

	計	'88	'89	'90	'91	'92~2000
自然休養林 造成	100	4	4	6	11	75

資料：山林廳 營林局

<表 2-6-2>

自然休養林造成實績 및 計劃

	機關別	位 置	所有區分	面積(ha)
'88實績		4個所		4,386
	中部營林署	京畿・加平・雪岳・可逸	國 有 林	892
	東部營林署	江原・溟州・城山・於屹	”	1,633
	京 畿 慶 南	京畿・加平・加平・升安 慶南・蔚州・上北・梨川	道 有 林 國 有 林	1,100 761
'89實績		4個所		898
	中部營林署	京畿・楊平・玉泉・新福	國 有 林	403
	大田直轄市	大田市 東區 下所洞	”	186
	全 北 慶 南	全北・完州・東上・大雅 慶南・咸陽・安義・上源	道 有 林 道・郡有林	150 159
'90計劃		6個所		1,875
	中部營林署	江原・橫城・屯內・삼교	國 有 林	403
	南部營林署	慶北・奉化・石浦・大峴	”	921
	忠 北	忠北・堤原・白雲・平洞	郡 有 林	170
	忠 南	忠南・青陽・大峙・光大	國・郡有林	70
	全 南 慶 北	全南・和順・北面・蘆峙 慶北・青松・府南・大前	國 有 林 郡 有 林	100 211

資料：山林廳 營林局

2. 林間修鍊場 設置運營

도시인구집중 및 과밀화에 따라 부족한 청소년 野外餘暇善用 장소를 국유림에 설치하고 청소년을 대상으로 건전한 정서함양과 함께 心身修鍊

<表 2-6-3>

林間修鍊場 運營 및 '90 施設計劃

	造成年度	位 置	備 考
林間修鍊場	'78	江原 麟蹄郡 北面 寒溪里(장수대)	麟蹄管理所
	'88	江原 溟州郡 城山面 於屹里(대관령)	江陵管理所
	'88	慶北 奉化郡 石浦面 大峴里(청옥산)	榮州管理所
	'89	京畿 加平郡 雪岳面 可逸里(유명산)	春川管理所
	'89	全北 茂朱郡 茂豐面 三巨里(덕유산)	南原管理所
	'90	江原 橫城郡 屯內面 삼교里(청태산)	原州管理所

資料：山林廳 營林局

장소로 제공하여, 애림사상 고취와 산림의 중요성에 대한 인식을 제고하고자 '90년까지 6개소에 강의실, 숙소, 취사장등의 시설을하여 중·고, 대학생 및 청소년을 대상으로 운영하고 있으며 '91년에도 3개소를 개설하고 2000년까지는 모두 30개소 설치 목표로 추진해 나갈 계획이다.

第2節 樹木園造成과 博物館 施設

국가경제가 발전하고 국민의 생활수준이 향상됨에 따라 산림의 公益的機能에 대한 수요가 증대되고 특히 자연학습 및 休息空間으로서의 수목과 산림에 대한 관심이 급증하게 되었다.

이에따라 다양한 산지 식물유전자원의 보전과 산림사료의 영구적 보존 및 전시로 산림에 대한 自然學習教育場 및 대국민 계도의 장소로서의 기능은 물론 한국임업을 세계에 소개하고 觀光資源으로 활용하기 위해 '83년부터 경기도 포천에 있는 林業研究院 中部林業試驗場 試驗林內에 수목원과 山林博物館을 조성하기 시작하여 '87년 4월 준공 개장하였다.

이 수목원 규모는 500ha로서 세계최초의 盲人樹木園을 비롯한 15개원으로 구성되어 있고 植栽樹種은 약 2,800여종에 이르고 있으며, 산림박물관에는 각종 山林史料와 植物標本, 목제품 등 총 14천여점을 전시하고 있어 일반국민에게 자연학습교육장과 휴양공간으로서의 기능을 발휘하고 있는 상태이다.

또한 이와같은 樹木園을 각도 지역별로 확대 조성할 목표하에 우선 1단계로 '92년까지 南部地方(全北 完州, 全南 莞島, 慶南 晋陽, 濟州 連洞)에 4개의 樹木園을 지역특성에 맞게 조성중에 있으며, '90년에는 중부지방인 忠南 公州에도 山林博物館과 樹木園을 새로이 조성할 계획으로 기반조성사업을 추진해 나가고 있다.

第3節 狩獵場運營

최근 증대하고있는 휴양 및 수렵수요를 수용하고 수렵에 의한 산림소득의 증대와 수렵의 건전한 발전을 도모하고자 '82년부터 수렵장을 설정 운영하고 있는바 濟州道와 慶南 巨濟郡에는 외국 관광객의 유치목적으로 상설수렵장을 운영하고, 기타지방은 수렵수요의 충족 및 野生鳥獸의 棲息密度 維持를 위하여 매년 1개도씩 循環方法으로 운영하고있다.

'90년에는 순환수렵장을 전년도 狩獵場設定地域(江原)의 원격지인 慶尙南道에 설정할 계획이며,

江原 襄陽郡內 국유림에 시범수렵장시설을 보완하고 신규로 강원 춘성군내 도유림에 시범수렵장 조성을 승인한바 있다.

앞으로는 조수의 합리적 보전관리와 수렵장운영 기술을 개발해 나가는 한편 늘어나는 수렵수요 충족을 위해 사유림에도 수렵장 시설을 허용해 줄 수 있도록 방안을 강구중에 있다.

여백

附 録

여백

目 次

農業部門

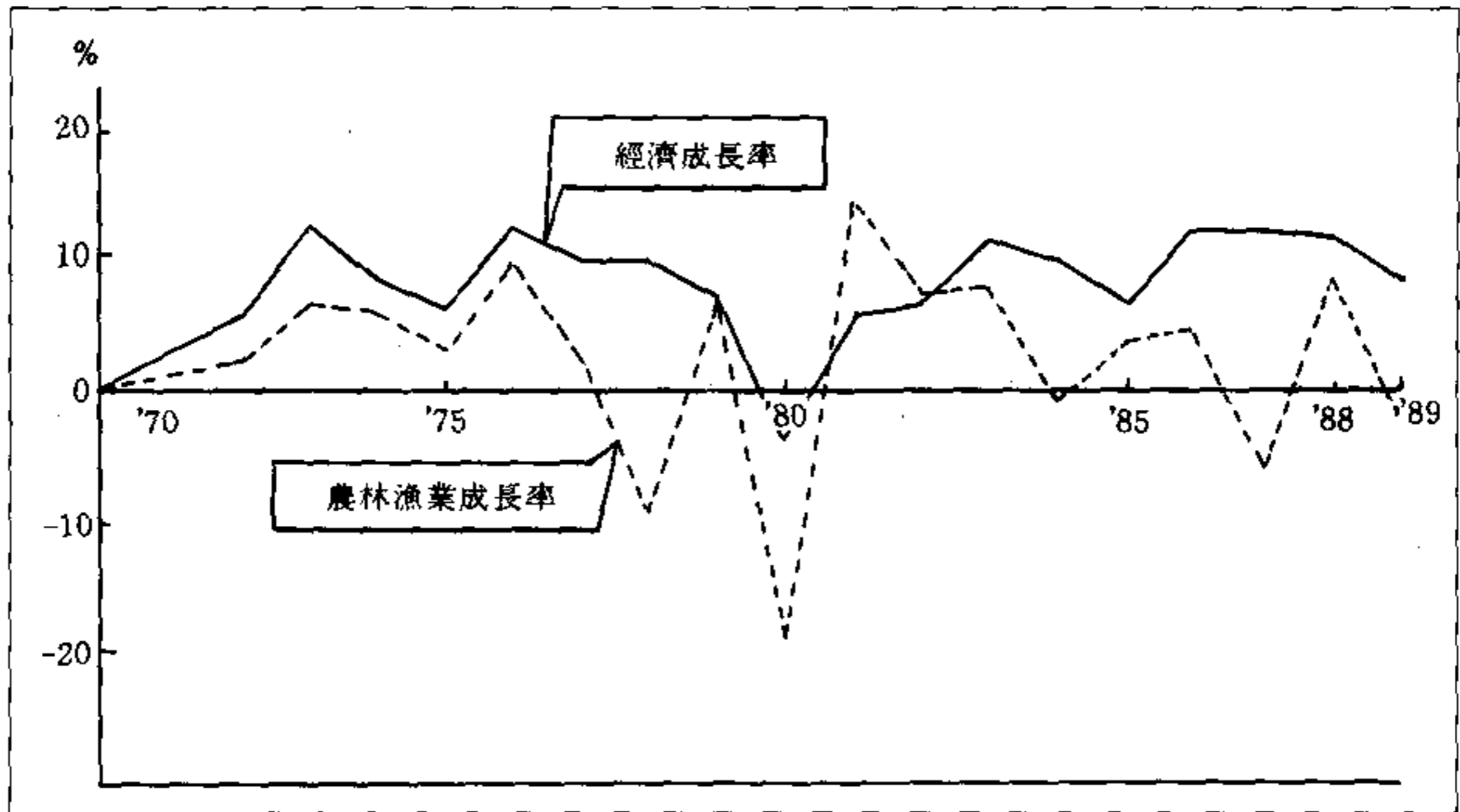
1. 産業別 經濟成長率	271
2. 産業別 構成	272
3. 總人口와 農家人口	273
4. 耕地利用	274
5. 農業生產基盤	275
6. 主要農機械 普及狀況	276
7. 肥料 및 農藥消費量	277
8. 食糧作物 生産量	278
9. 쌀 및 보리쌀 生産量	279
10. 家畜飼育動向	280
11. 양념류 生産 및 價格推移	281
12. 農業 生産性	282
13. 農業粗收入	283
14. 農家所得	284
15. 可處分所得 및 家計費	285
16. 農家負債	286
17. 食糧 自給度	287
18. 1人當 食品消費量	288
19. 農家交易條件	289
20. 農水產物 輸出入動向	290

林業部門

1. 林業成長	291
2. 林相別 林野面積	292
3. 林木蓄積	293
4. 山林所得 構造	294
5. 樹種別 造林實績	295
6. 林道	296
7. 木材需給	297
8. 用途別 內材供給	298
9. 主要 山林副產物 生産	299
10. 林產物 輸出入	300

農業部門

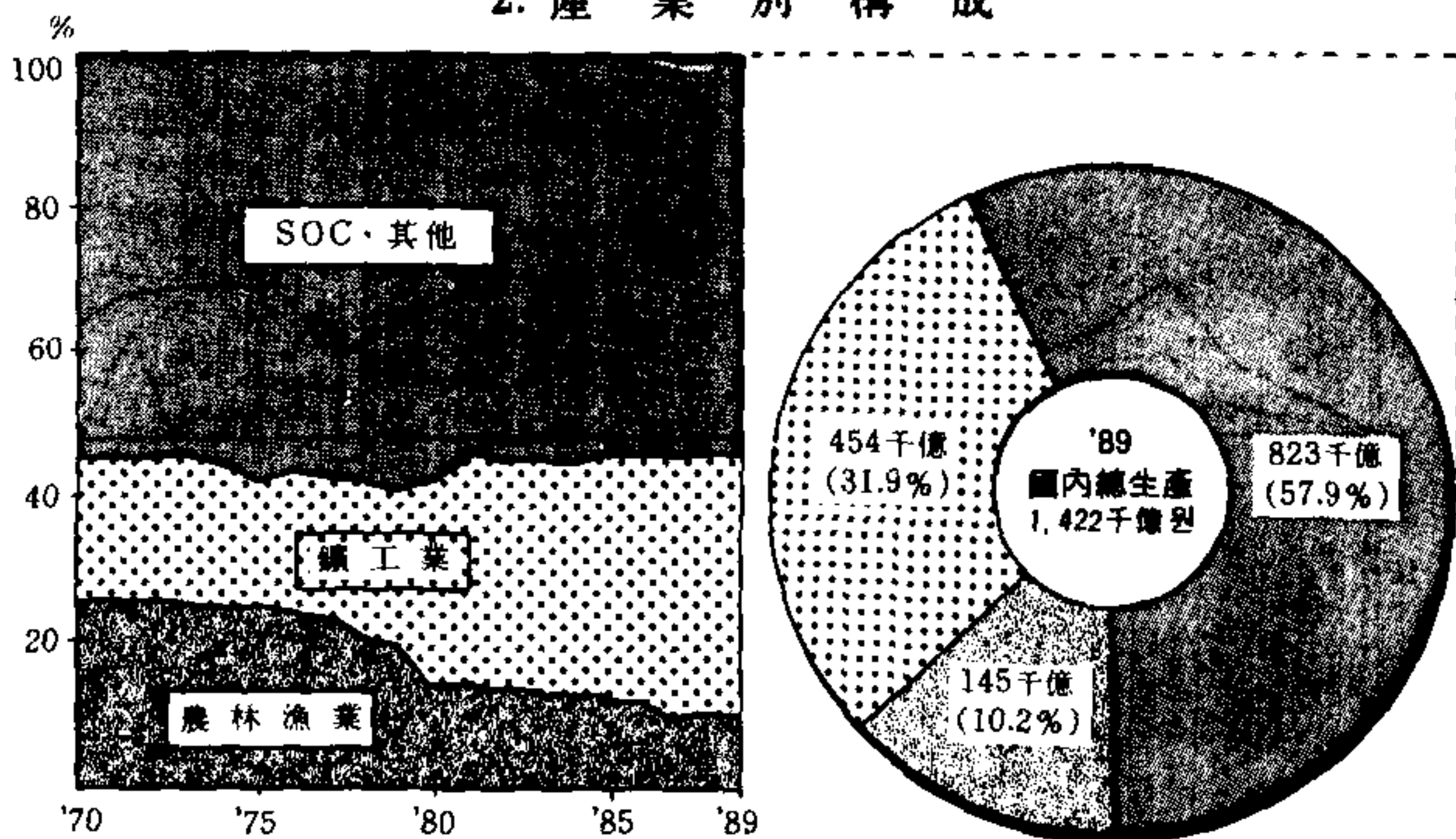
1. 產業別 經濟成長率



(單位：85不變，%)

	國民 總生產	農	林 漁 業			鑛工業	建設及電氣 가스·水道事業	서비스業
			農 業	林 業	漁 業			
70	-	-	-	-	-	-	-	-
72	5.1	2.4	1.2	3.7	17.6	11.6	2.0	7.2
73	13.2	7.3	5.7	12.6	19.9	27.7	24.0	14.5
74	8.1	6.5	7.0	△5.6	14.3	15.3	12.8	7.2
75	6.4	3.9	5.4	△5.9	2.6	12.2	9.7	7.3
76	13.1	9.8	11.2	2.6	1.2	21.6	14.0	13.4
77	9.8	2.8	3.1	0.8	0.6	14.9	25.1	10.8
78	9.8	△9.8	△11.1	0.9	△4.3	19.9	29.4	11.4
79	7.2	7.0	9.0	△19.4	8.2	9.5	6.7	7.7
80	△3.7	△19.1	△22.7	17.7	3.9	△1.0	1.4	2.2
81	5.9	14.3	15.6	1.2	13.8	9.4	△1.1	4.5
82	7.2	7.4	10.3	△16.9	1.0	5.9	15.6	7.2
83	12.6	7.7	7.9	23.0	△2.2	15.0	22.7	10.5
84	9.3	△1.5	△2.2	2.2	2.6	16.8	9.8	9.5
85	7.0	3.8	4.4	△8.7	6.2	7.0	6.7	8.9
86	12.9	4.6	5.0	△15.4	13.5	18.0	10.4	11.2
87	13.0	△6.8	△8.0	4.7	△1.3	18.2	12.6	12.4
88	12.4	8.0	10.0	△7.7	△0.4	13.1	9.6	11.4
89(P)	6.7	△0.7	△1.8	3.2	6.7	3.5	13.8	7.9

2. 產業別構成

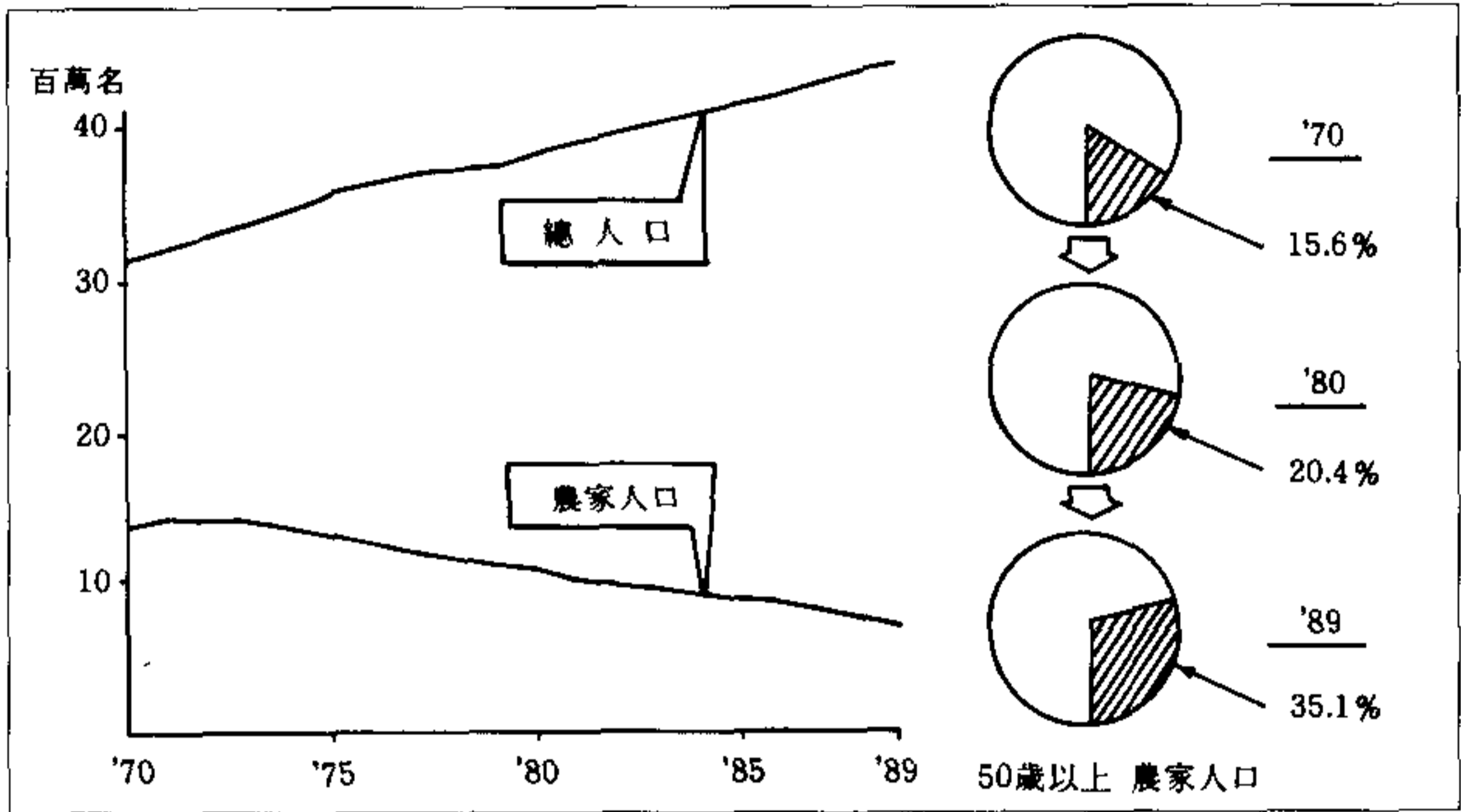


(單位：經常10億圓, %)

	國民 總生產	農	林 漁 業			礦工業	建設及電氣 가스·水道事業	서어비스業
			農 業	林 業	漁 業			
70	2,767.9	26.6	23.3	1.7	1.6	22.5	6.5	44.3
72	4,209.6	26.8	23.7	1.4	1.7	23.5	5.6	44.1
73	5,420.3	25.0	21.4	1.5	2.2	26.2	5.8	43.0
74	7,669.4	24.8	22.0	1.4	1.5	27.1	5.5	42.5
75	10,302.2	25.0	22.0	1.3	1.6	27.5	6.0	41.6
76	14,101.0	23.6	21.0	1.2	1.5	28.7	5.9	41.8
77	18,074.1	22.4	19.4	1.2	1.8	28.9	7.0	41.7
78	24,327.1	20.6	18.0	1.1	1.6	29.4	9.0	41.0
79	31,323.1	19.2	16.6	0.9	1.6	29.9	10.2	40.7
80	38,041.1	14.9	12.7	1.0	1.2	31.0	10.4	43.7
81	47,482.0	15.6	13.4	0.9	1.3	31.3	9.4	43.7
82	54,442.8	14.7	12.7	0.8	1.2	30.4	10.0	45.0
83	63,832.8	13.6	11.5	0.9	1.2	31.0	10.6	44.8
84	72,644.3	12.9	11.0	0.9	1.1	31.8	10.7	44.6
85	80,846.9	12.8	10.9	0.7	1.2	31.3	10.5	45.4
86	93,425.8	11.5	9.5	0.6	1.4	32.6	10.2	45.7
87	108,428.3	10.5	8.6	0.6	1.3	33.0	10.4	46.1
88	127,962.7	10.5	8.8	0.5	1.2	33.2	10.7	45.5
89(P)	142,266.8	10.2	8.4	0.5	1.3	31.9	12.1	45.8

註：本表의 產業構造率은 國內總生產(GDP)을 基準으로 算出한 것임.

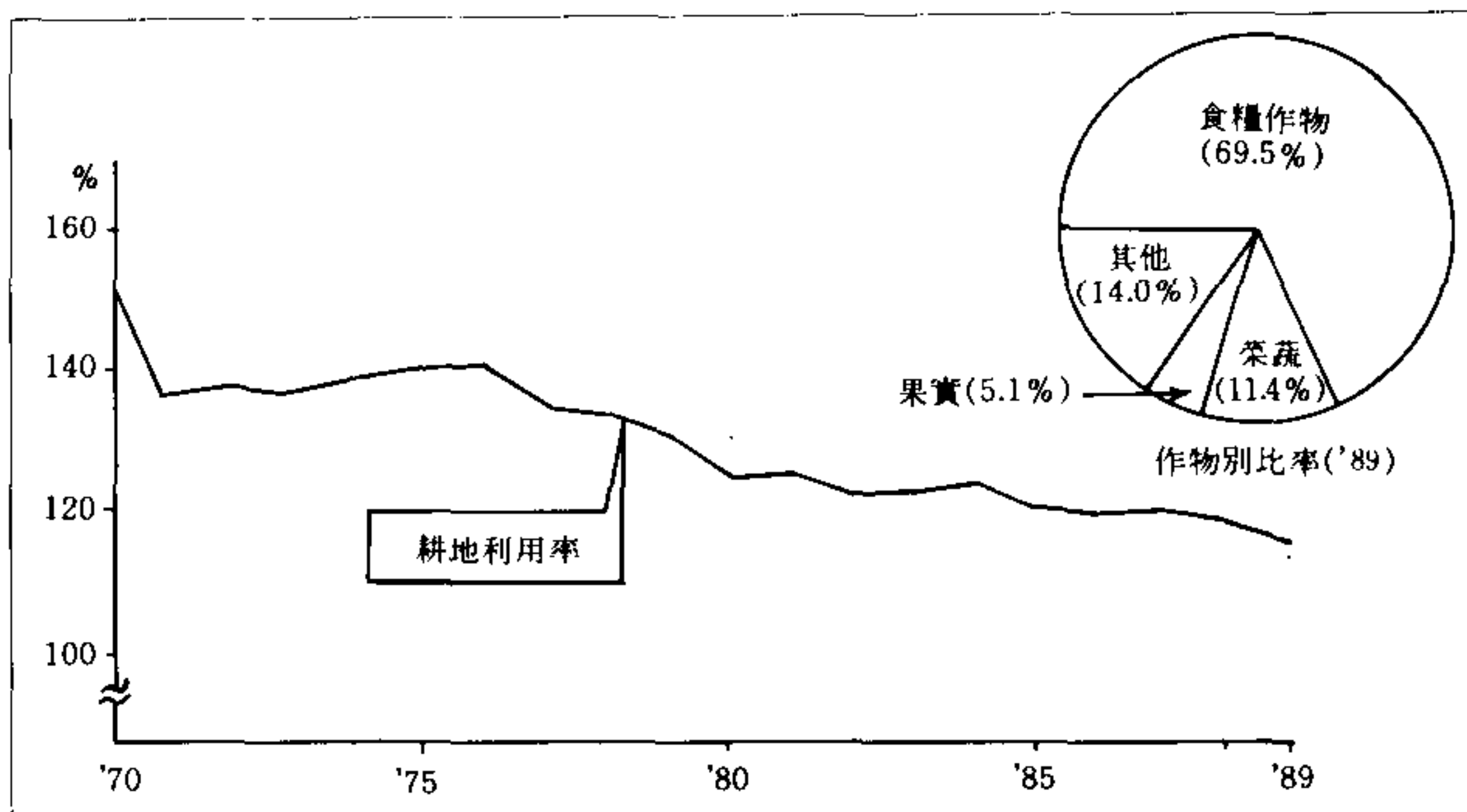
3. 總人口 与 農家人口



(單位：千名)

	總人口		農家人口			漁家人口		
		增加率		構成比	增減率		構成比	增減率
70	32,241	2.21 %	14,422	44.7	△7.5	1,165	3.6	△12.1
72	33,505	1.89	14,677	43.8	△0.2	1,062	3.2	△8.8
73	34,103	1.78	14,645	42.9	△0.2	979	2.9	△7.8
74	34,692	1.73	13,459	38.8	△8.1	914	2.6	△6.6
75	35,281	1.70	13,244	37.5	△1.6	894	2.6	△2.2
76	35,849	1.61	12,785	35.7	△3.5	880	2.5	△1.5
77	36,412	1.57	12,309	33.8	△3.7	871	2.4	△1.0
78	36,969	1.53	11,527	31.1	△6.3	827	2.2	△5.0
79	37,534	1.53	10,883	28.9	△5.6	791	2.1	△5.3
80	38,124	1.57	10,827	28.4	△0.5	843	2.2	6.6
81	38,723	1.57	9,999	25.8	△7.7	776	2.0	△7.9
82	39,326	1.56	9,688	24.6	△3.1	755	1.9	△2.7
83	39,910	1.49	9,475	23.7	△2.2	739	1.8	△2.1
84	40,406	1.24	9,015	22.3	△4.9	716	1.8	△3.2
85	40,806	0.99	8,521	20.9	△5.5	689	1.7	△3.8
86	41,184	0.93	8,180	19.9	△4.0	662	1.6	△3.9
87	41,575	0.95	7,771	18.7	△5.0	635	1.5	△4.1
88	41,975	0.96	7,272	17.3	△6.4	602	1.4	△5.2
89(P)	42,380	0.96	6,786	16.0	△6.4	561	1.3	△6.8

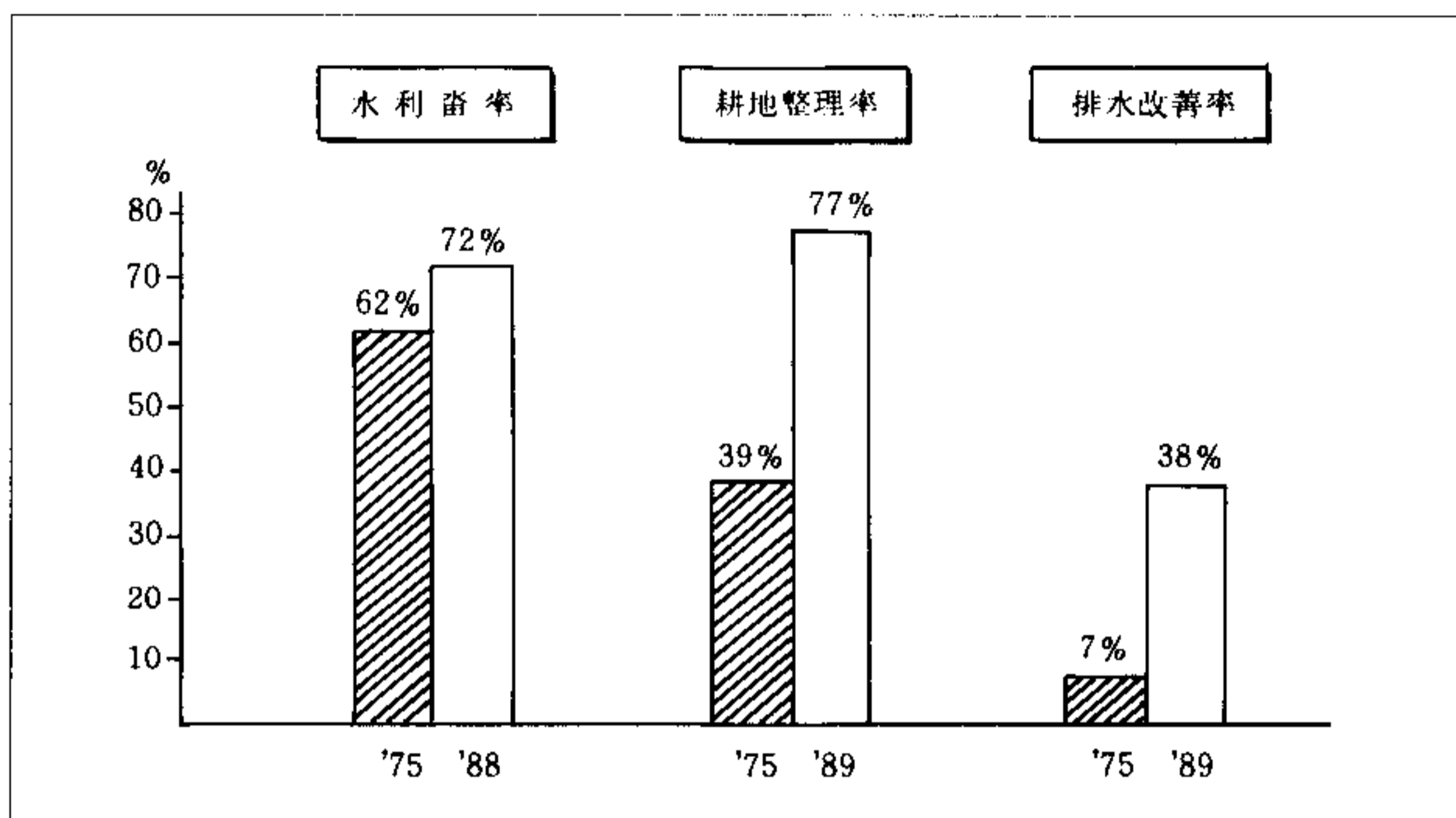
4. 耕 地 利 用



(單位：Fha)

	耕地 面積	耕 地 利 用 面 積											耕地 利用率
		食 糧 作 物					特作	菜蔬	果實	桑田	其他		
		米穀	麥類	豆類	薯類	雜穀							
70	2,298	2,947	1,203	1,075	365	181	123	89	254	60	85	43	151.3
71	2,271	2,553	1,190	768	332	163	100	97	257	55	82	56	136.5
72	2,242	2,535	1,191	777	334	147	86	88	248	59	79	67	137.2
73	2,241	2,489	1,182	713	365	138	91	88	254	66	80	72	136.0
74	2,238	2,472	1,204	745	328	122	73	113	274	75	88	75	138.2
75	2,240	2,522	1,218	761	324	146	73	118	244	74	43	143	140.4
76	2,238	2,474	1,215	752	304	136	67	132	282	87	45	154	141.7
77	2,231	2,284	1,230	546	316	127	65	132	294	94	41	188	135.5
78	2,222	2,272	1,230	575	299	113	55	136	276	94	35	188	134.5
79	2,207	2,129	1,233	489	263	95	49	133	339	96	32	180	130.9
80	2,196	1,982	1,233	360	244	92	53	118	359	99	27	180	125.3
81	2,188	2,002	1,224	374	262	91	51	100	365	100	22	185	126.3
82	2,180	1,907	1,188	339	242	81	57	124	343	101	16	187	122.4
83	2,167	1,926	1,229	351	232	72	42	138	322	105	14	193	123.8
84	2,152	1,917	1,231	346	233	62	45	132	318	107	14	219	124.9
85	2,144	1,780	1,237	242	196	65	40	133	337	109	12	221	120.4
86	2,141	1,707	1,236	193	182	56	41	153	368	112	11	219	119.9
87	2,143	1,775	1,262	208	212	47	46	176	308	114	9	216	120.0
88	2,138	1,736	1,260	197	198	46	35	153	314	120	8	198	118.0
89	2,127	1,726	1,257	179	202	53	35	145	283	127	8	196	116.2

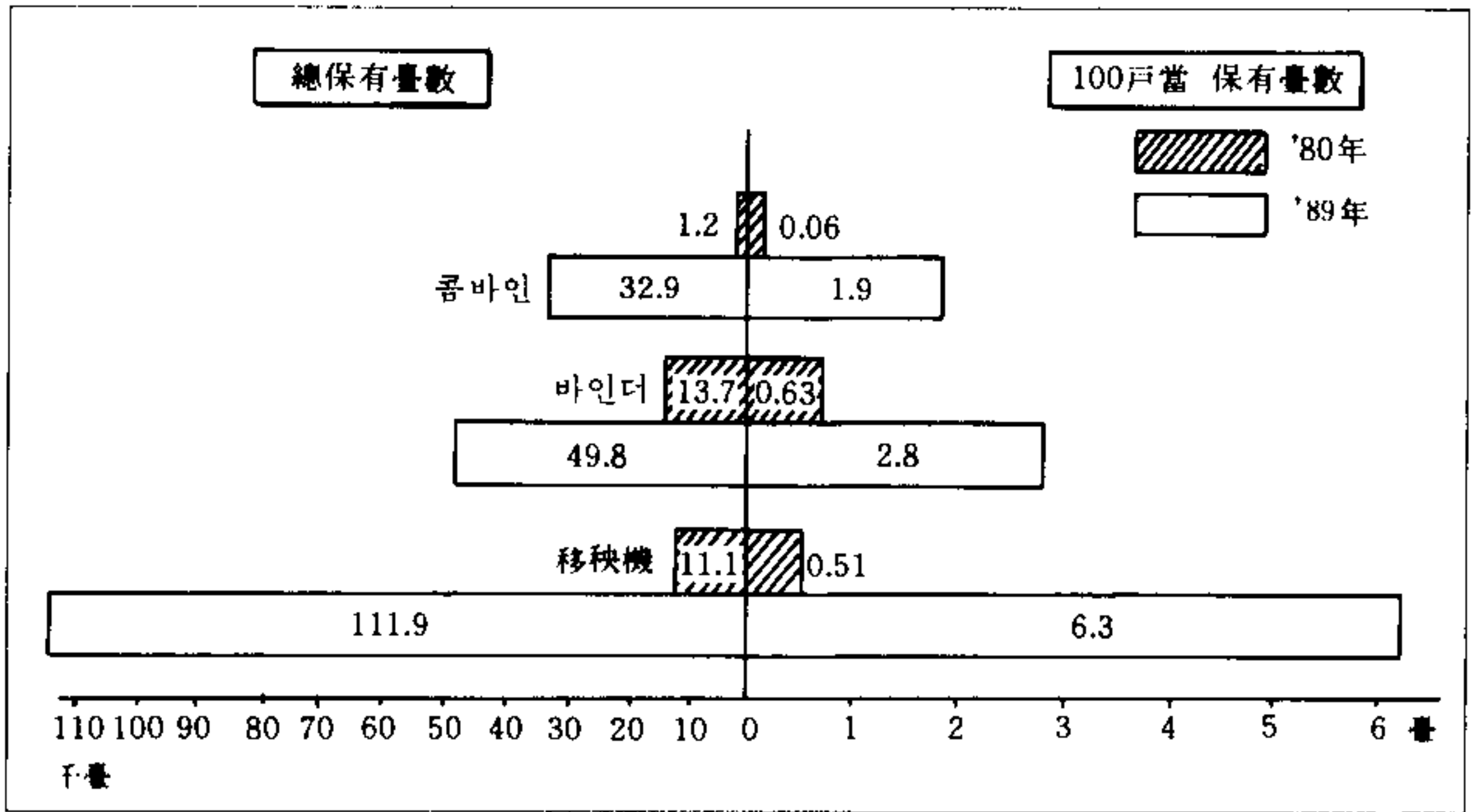
5. 農 業 生 產 基 盤



(單位：千ha)

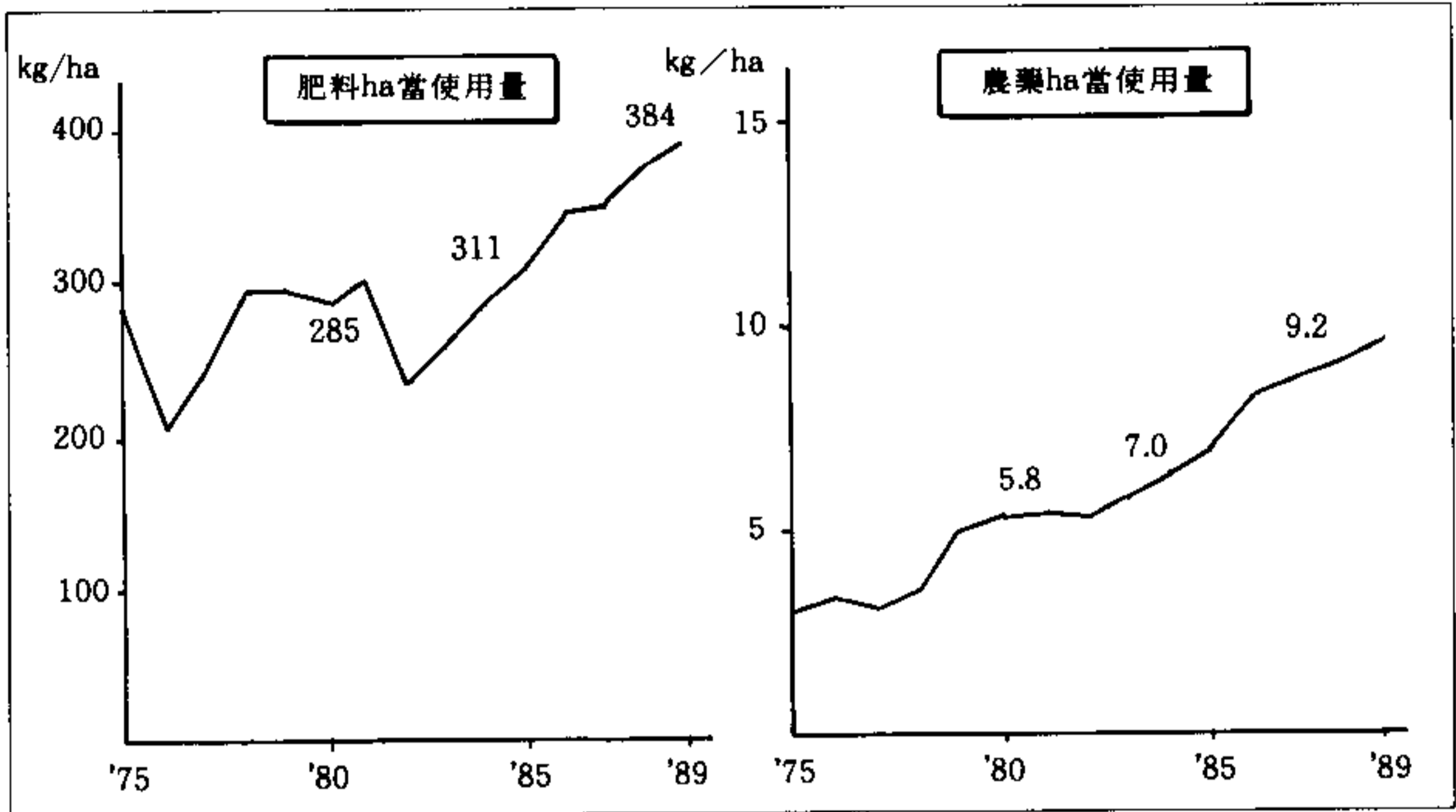
	畝面積	水 利 畝		耕 地 整 理		排 水 改 善	
		水利畝率	(706千ha)	整理率	(127千ha)	改善率	
70	1,284	745	58 %	144	20 %	—	— %
71	1,265	746	59	161	23	—	—
72	1,259	753	60	186	26	—	—
73	1,263	764	60	203	29	—	—
74	1,269	771	61	234	33	—	—
75	1,277	790	62	277	39	8	7
76	1,290	805	62	299	42	11	8
77	1,303	834	64	322	46	13	10
78	1,312	860	66	343	49	16	12
79	1,311	867	66	356	50	18	14
80	1,307	893	68	369	52	19	15
81	1,308	908	69	383	54	21	17
82	1,311	917	70	400	57	27	21
83	1,316	929	71	415	59	30	24
84	1,320	935	71	431	61	32	25
85	1,325	948	72	447	63	33	26
86	1,329	965	73	467	66	39	31
87	1,352	976	72	488	69	44	35
88	1,358	981	72	516	73	46	36
89	1,353	—	—	542	77	49	38

6. 主要農機械普及狀況



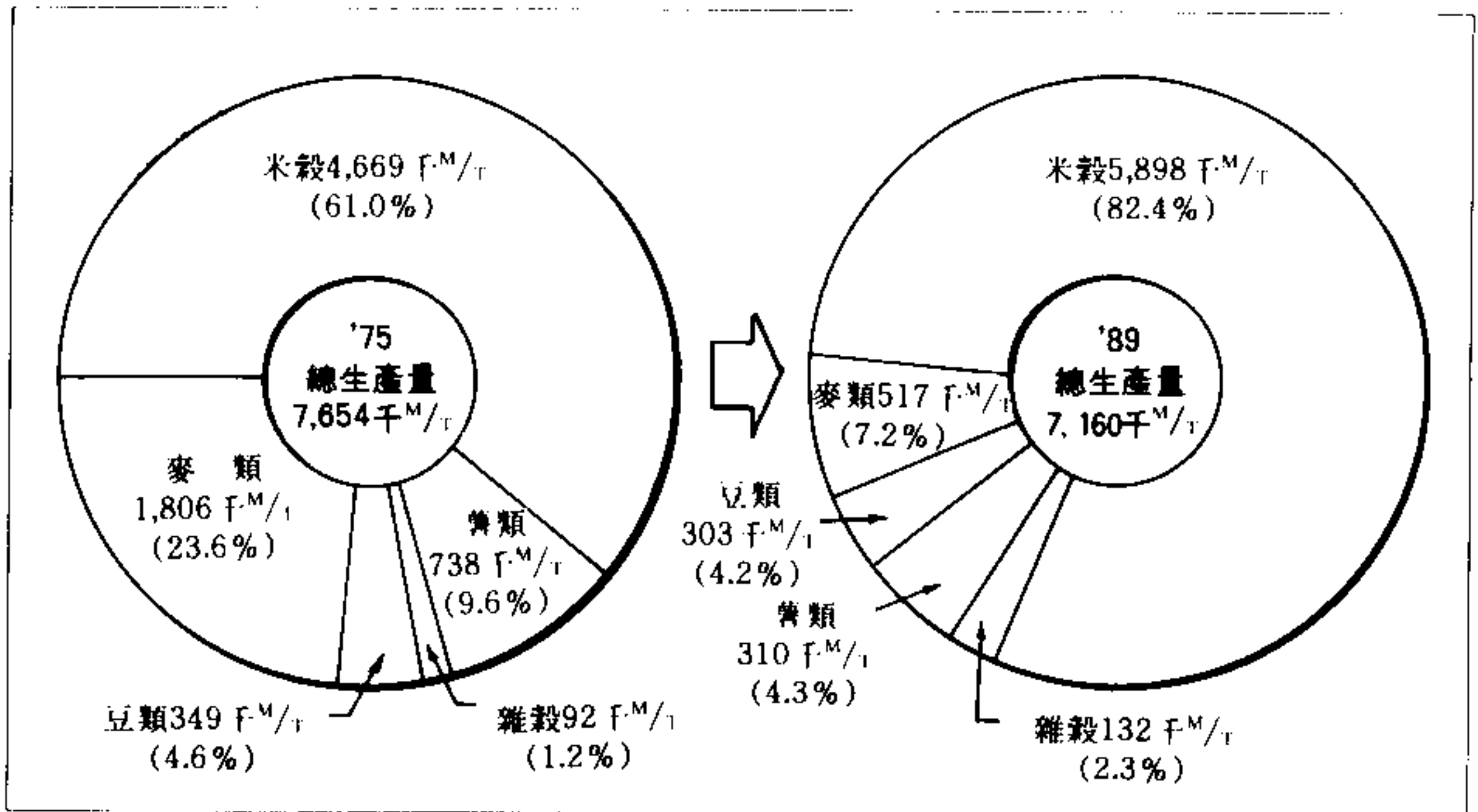
	耕耘機	트랙터	移秧機	바인더	콤바인	噴霧機	揚水機	脫穀機
	千臺	臺	臺	臺	臺	千臺	千臺	千臺
70	12	61	—	—	—	—	54	41
71	17	183	—	—	—	—	58	63
72	25	212	—	—	—	—	61	76
73	38	293	6	—	25	16	61	85
74	60	388	12	—	53	23	63	108
75	86	564	16	—	56	33	66	127
76	122	790	24	—	69	41	86	145
77	154	1,121	121	122	77	53	120	161
78	195	1,601	531	3,487	134	66	181	186
79	236	2,035	2,416	11,117	505	82	188	203
80	290	2,664	11,061	13,652	1,211	109	194	220
81	350	3,862	15,271	15,580	3,130	143	209	239
82	422	5,575	19,660	17,294	3,509	171	246	254
83	489	7,469	24,818	19,816	5,689	208	263	270
84	538	9,684	30,893	22,635	8,417	245	273	287
85	589	12,389	42,138	25,538	11,667	292	286	302
86	684	16,167	59,580	32,860	15,502	327	287	294
87	711	19,863	76,070	38,418	20,395	370	295	303
88	726	24,616	92,067	44,668	25,226	420	313	297
89	739	31,328	111,937	49,816	32,882	451	326	285

7. 肥料及農藥消費量



	肥 料				農 藥			
	生 產	消	費	自給率	生 產	消	費	自給率
	成分千 ^M /T		ha當 kg	%	成分千 ^M /T	千 ^M /T	ha當 kg	%
75	860	866	282	97	8.6	8.6	2.7	100
76	833	643	203	129	10.6	10.3	3.3	103
77	1,089	736	243	148	9.4	9.1	3.0	103
78	1,330	866	289	154	10.4	11.3	3.8	92
79	1,438	863	297	167	14.7	14.5	5.0	101
80	1,345	828	285	162	17.4	16.1	5.8	108
81	1,280	832	300	145	16.0	16.1	5.8	99
82	1,201	617	230	195	13.6	14.4	5.4	94
83	1,197	709	263	169	15.4	15.6	5.8	99
84	1,394	762	281	183	17.3	16.7	6.2	104
85	1,398	807	311	173	17.8	18.2	7.0	98
86	1,374	893	347	154	23.7	21.3	8.3	111
87	1,554	906	349	172	22.6	23.2	8.9	97
88	1,703	943	373	181	21.8	22.0	8.7	99
89	1,646	954	384	173	23.3	23.4	9.2	100.4

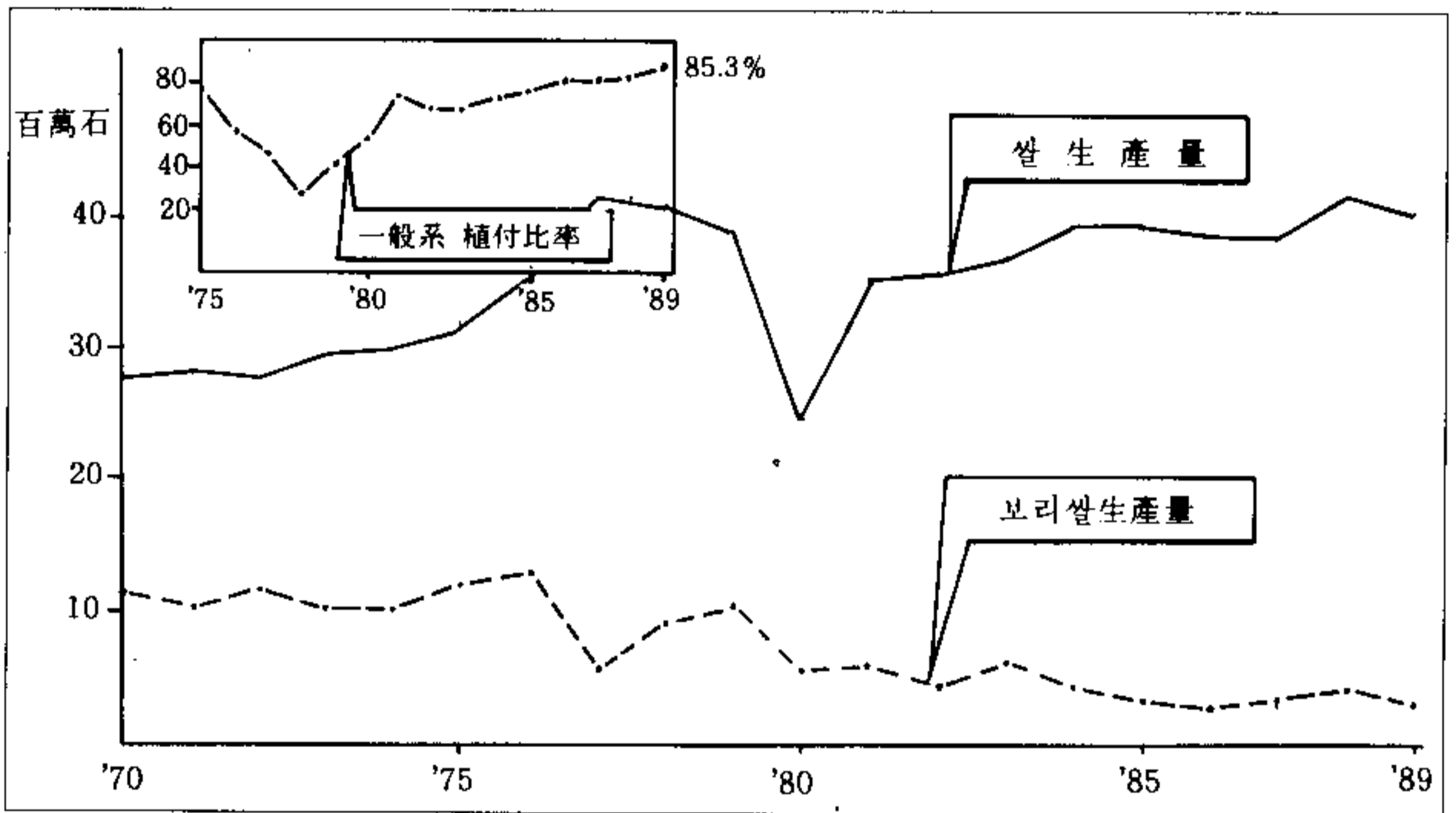
8. 食糧作物生產量



(單位：Fha, F^M/T)

	計		米 穀		麥 類		豆 類		薯 類		雜 穀	
	面積	生產量	面積	生產量	面積	生產量	面積	生產量	面積	生產量	面積	生產量
70	2,699	6,937	1,230	3,939	833	1,820	358	271	180	783	123	124
71	2,553	6,787	1,190	3,998	768	1,715	332	258	163	707	100	110
72	2,535	6,738	1,191	3,957	777	1,756	334	256	147	674	86	94
73	2,489	6,755	1,182	4,212	713	1,549	365	279	138	611	92	104
74	2,472	6,895	1,204	4,445	745	1,468	328	354	122	539	73	90
75	2,522	7,654	1,218	4,669	761	1,806	324	349	146	738	73	92
76	2,474	8,177	1,215	5,215	752	1,847	304	345	136	667	67	103
77	2,284	7,958	1,230	6,006	546	862	316	378	127	595	65	117
78	2,272	8,212	1,230	5,797	575	1,388	299	339	113	565	55	123
79	2,129	8,096	1,233	5,565	489	556	262	310	95	501	49	165
80	1,982	5,324	1,233	3,550	360	906	244	266	92	431	53	170
81	2,002	6,915	1,224	5,063	374	919	262	315	91	454	51	163
82	1,908	6,804	1,188	5,175	339	820	242	295	81	369	57	146
83	1,926	7,133	1,228	5,404	351	930	232	277	72	407	42	115
84	1,917	7,315	1,231	5,682	346	824	233	296	63	365	45	148
85	1,780	6,990	1,237	5,626	242	584	296	275	65	359	40	147
86	1,707	6,773	1,236	5,607	192	459	182	251	56	325	41	131
87	1,775	6,687	1,262	5,493	208	521	212	266	47	258	46	149
88	1,736	7,299	1,260	6,054	197	565	198	325	46	259	35	120
89	1,726	7,160	1,257	5,898	179	517	202	303	54	310	35	132

9. 쌀 및 보리쌀 生産量

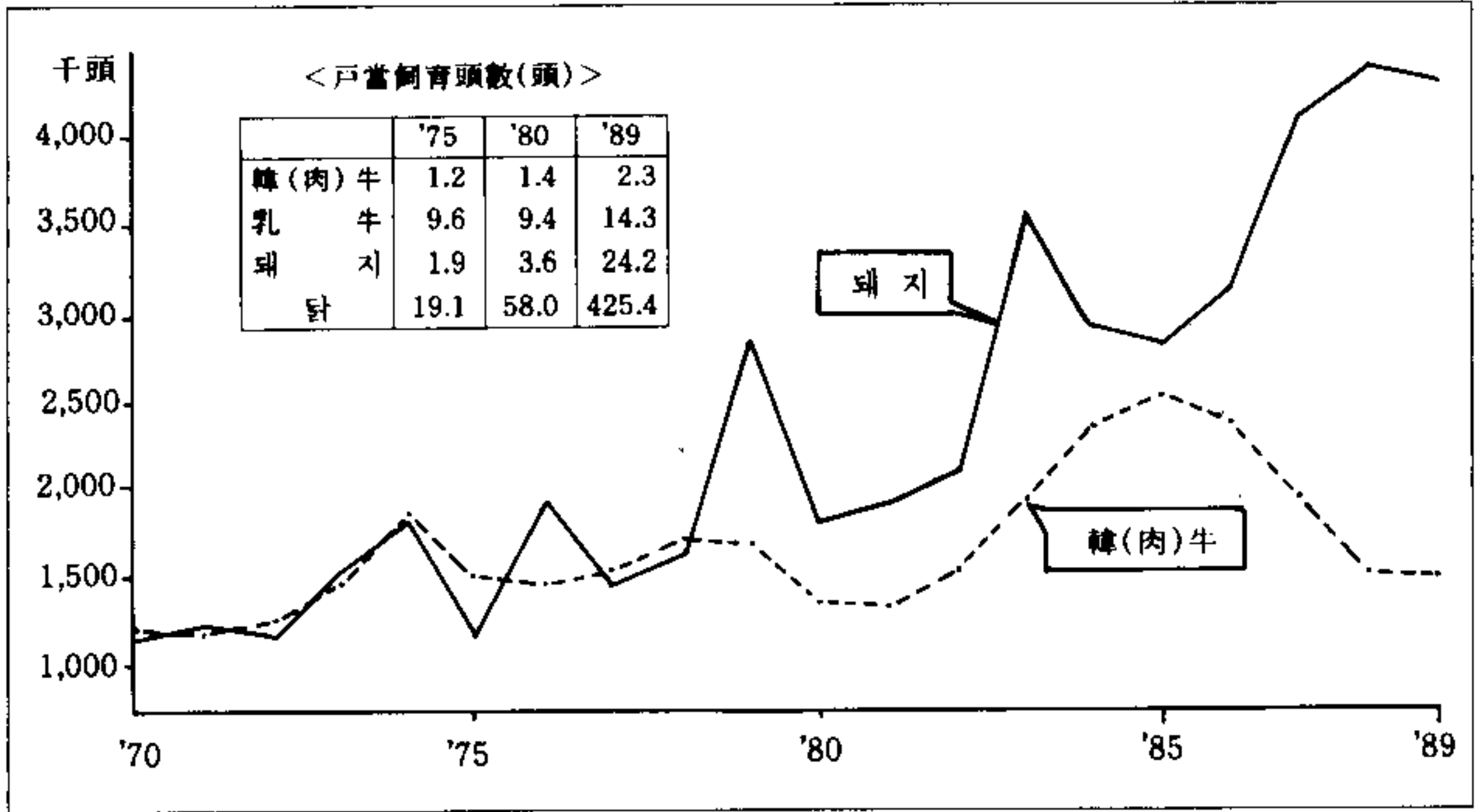


(單位：F·ha, 千石)

	쌀						보리쌀					
	計		一般計		多收系		計		大麥		裸麥	
	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量	面積	生産量
70	1,203	27,356	1,184	27,356	—	—	730	11,528	342	4,837	388	6,691
71	1,190	27,761	1,178	27,761	—	—	675	10,919	310	4,408	365	6,511
72	1,191	27,481	1,191	27,481	—	—	709	11,580	296	4,469	413	7,111
73	1,182	29,248	1,170	29,248	—	—	664	10,424	280	3,899	384	6,525
74	1,204	30,867	1,008	24,726	181	6,141	701	10,023	327	4,201	374	5,822
75	1,218	32,134	924	22,553	274	9,581	708	12,272	322	5,062	386	7,210
76	1,215	36,215	663	18,483	533	17,732	701	12,577	303	4,975	398	7,602
77	1,230	41,706	548	16,372	660	25,334	503	5,748	197	2,071	306	3,677
78	1,230	40,258	290	8,895	929	31,363	537	9,436	246	3,691	291	5,745
79	1,233	38,645	480	14,697	744	23,948	450	10,408	173	3,713	277	6,695
80	1,233	24,655	616	12,621	604	12,034	297	5,244	111	1,933	186	3,311
81	1,224	35,160	891	25,414	321	9,746	320	5,585	123	1,750	197	3,835
82	1,188	35,938	790	22,804	386	13,134	287	4,851	100	1,435	187	3,416
83	1,228	37,529	801	23,480	419	14,049	290	5,334	95	1,845	195	3,489
84	1,231	39,457	858	26,663	367	12,794	287	4,870	104	1,603	183	3,267
85	1,237	39,071	890	27,064	343	12,007	165	2,802	64	1,174	101	1,628
86	1,233	38,936	961	30,007	272	8,929	140	2,288	52	815	88	1,473
87	1,263	38,145	1,012	30,315	247	7,830	161	2,810	57	980	104	1,830
88	1,260	42,038	1,032	33,625	225	8,370	150	3,028	51	998	99	2,030
89	1,257	40,958	1,072	34,490	182	6,468	133	2,711	43	852	90	1,859

註：一般計 쌀의 面積 및 生産量은 水稻外 陸稻實績을 包含

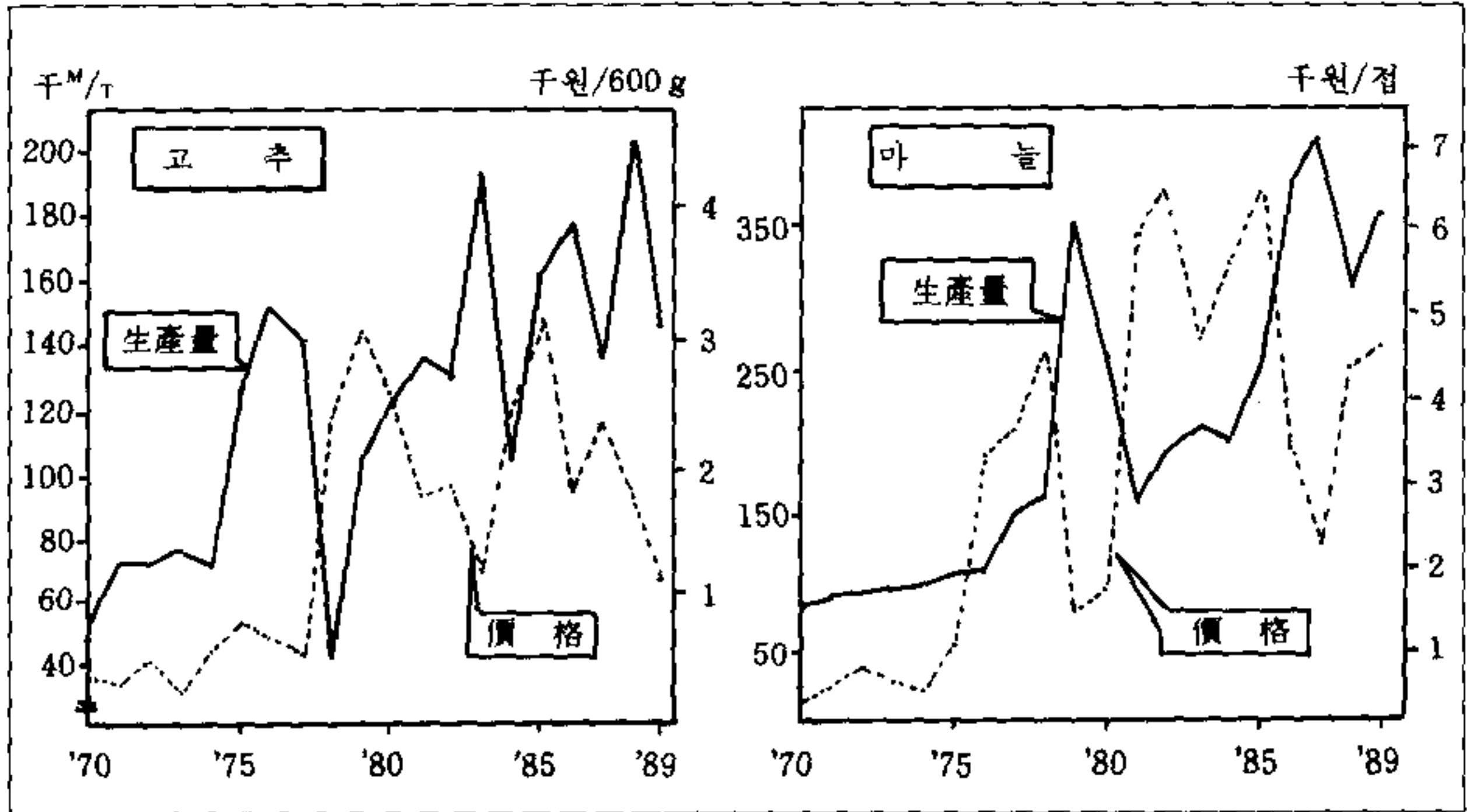
10. 家畜飼育動向



(單位：千頭, 千首, 千戶)

	韓 (肉) 牛		乳 牛		돼 지		닭	
	頭 數	戶 數	頭 數	戶 數	頭 數	戶 數	頭 數	戶 數
70	1,286	1,102	24	3	1,121	884	23,633	1,338
71	1,250	1,049	30	3	1,333	925	25,903	1,110
72	1,338	1,107	36	4	1,248	861	24,537	1,045
73	1,493	1,191	52	5	1,595	817	23,701	1,004
74	1,785	1,357	73	7	1,818	890	18,814	1,002
75	1,556	1,277	86	9	1,247	654	20,939	1,094
76	1,463	1,196	90	10	1,953	910	26,325	1,237
77	1,508	1,173	109	14	1,482	689	30,224	1,179
78	1,651	1,176	136	16	1,719	658	40,753	1,172
79	1,599	1,092	163	17	2,843	758	41,120	923
80	1,427	997	207	22	1,784	503	40,130	692
81	1,312	858	194	18	1,832	425	42,999	628
82	1,526	896	228	23	2,183	444	46,592	618
83	1,940	971	275	30	3,649	539	49,239	538
84	2,318	1,037	334	38	2,958	362	46,483	367
85	2,553	1,048	390	44	2,853	251	51,095	303
86	2,370	991	437	43	3,347	262	56,095	282
87	1,923	854	463	38	4,281	303	59,324	269
88	1,559	702	480	38	4,852	261	58,467	194
89	1,536	654	515	36	4,801	198	61,689	145

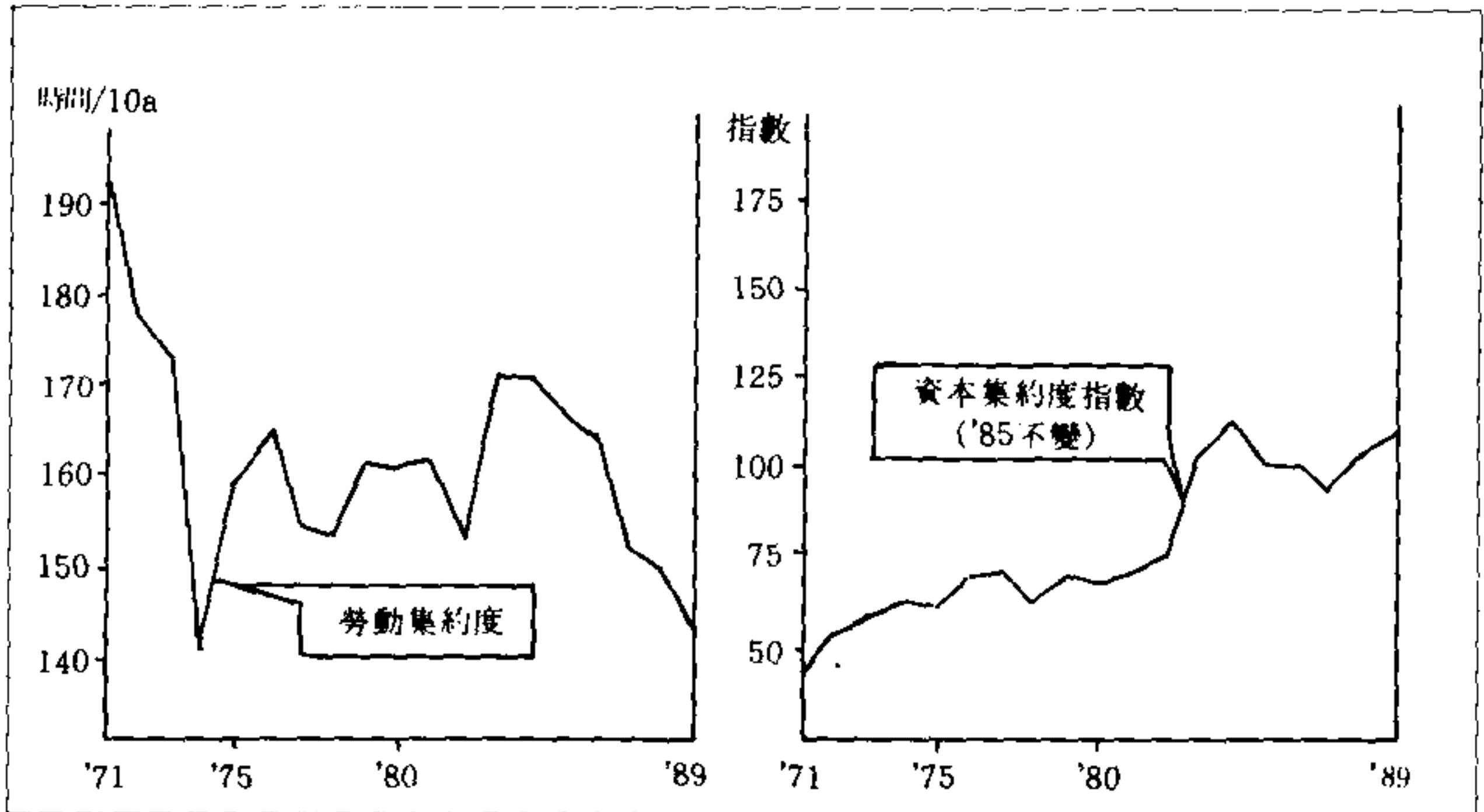
11. 양념類 生産 및 價格推移



	고 추			마 늘			양 파 ¹⁾		
	面 積	生産量	價 格	面 積	生産量	價 格	面 積	生産量	價 格
	千ha	千 ^M /T	원/600g	千ha	千 ^M /T	원/1점	千ha	千 ^M /T	원/20kg
70	37	53	472	15	78	364	4.0	83	134
71	41	74	388	15	82	545	3.6	90	126
72	44	73	401	16	88	748	5.1	120	77
73	45	77	355	17	91	608	4.3	91	131
74	48	71	563	18	97	504	5.8	128	163
75	99	128	732	14	103	1,027	4.2	95	246
76	108	157	670	14	106	3,350	5.1	124	372
77	99	141	589	20	156	3,700	12.1	258	277
78	69	42	2,439	25	166	4,882	7.1	165	994
79	109	112	3,108	41	350	1,569	9.9	393	352
80	133	125	2,662	37	253	1,720	7.7	275	590
81	151	138	1,764	26	154	5,994	9.8	281	959
82	113	130	1,888	28	186	6,556	14.3	439	530
83	122	194	1,166	33	220	4,617	14.5	542	277
84	100	117	2,665	40	200	5,611	5.3	171	6,574
85	118	165	3,100	39	256	6,353	10.7	440	2,604
86	129	198	1,958	48	370	3,231	9.7	379	4,135
87	89	138	2,359	49	401	2,124	11.8	525	2,390
88	89	209	1,979	37	303	4,464	11.1	527	2,713
89	72	149	1,003	39	357	4,708	10.3	558	3,454

註：1) '83년까지는 3.75kg當 (價格임).

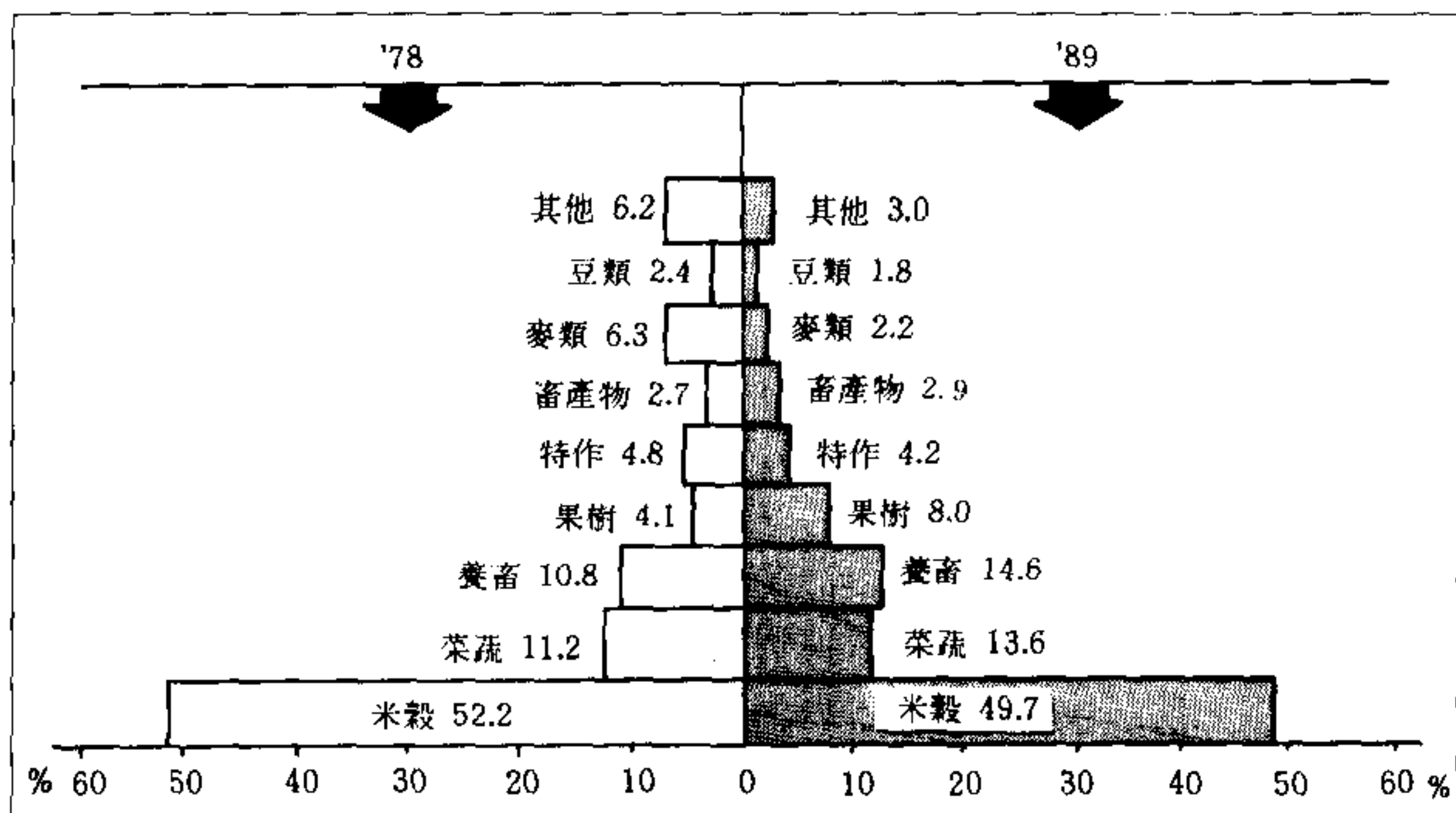
12. 農 業 生 產 性



	勞動生產性	勞動集約度	土地生產性	資本生產性	資本集約度	
					經 常	'85不變
	원/時間	時間/10a	원/10a		원/10a	원/10a
71	159	194.25	29,338	0.81	36,194	279,523
72	200	177.79	35,551	0.77	46,459	301,681
73	223	175.33	39,071	0.71	54,757	361,514
74	378	14.23	56,040	0.72	77,642	342,035
75	467	159.04	74,307	0.74	100,904	340,892
76	575	165.38	95,066	0.74	128,796	370,103
77	660	156.98	103,614	0.67	154,915	375,096
78	855	155.98	133,432	0.72	185,195	326,622
79	926	162.97	150,865	0.67	224,385	352,806
80	1,061	161.03	170,868	0.70	243,143	328,128
81	1,454	162.85	236,756	0.77	306,229	360,694
82	1,860	154.07	286,518	0.80	358,578	421,856
83	1,750	172.90	302,540	0.58	517,847	604,256
84	1,949	171.02	333,272	0.57	589,289	626,240
85	1,925	168.84	325,038	0.57	570,159	570,159
86	1,936	165.19	319,763	0.56	570,008	575,185
87	2,260	153.97	348,008	0.58	603,161	492,779
88	2,763	150.92	416,963	0.57	731,201	592,545
89	3,221	144.58	465,684	0.60	779,471	629,621

註：不變價格은 GNP deflator로 換算한 것임.

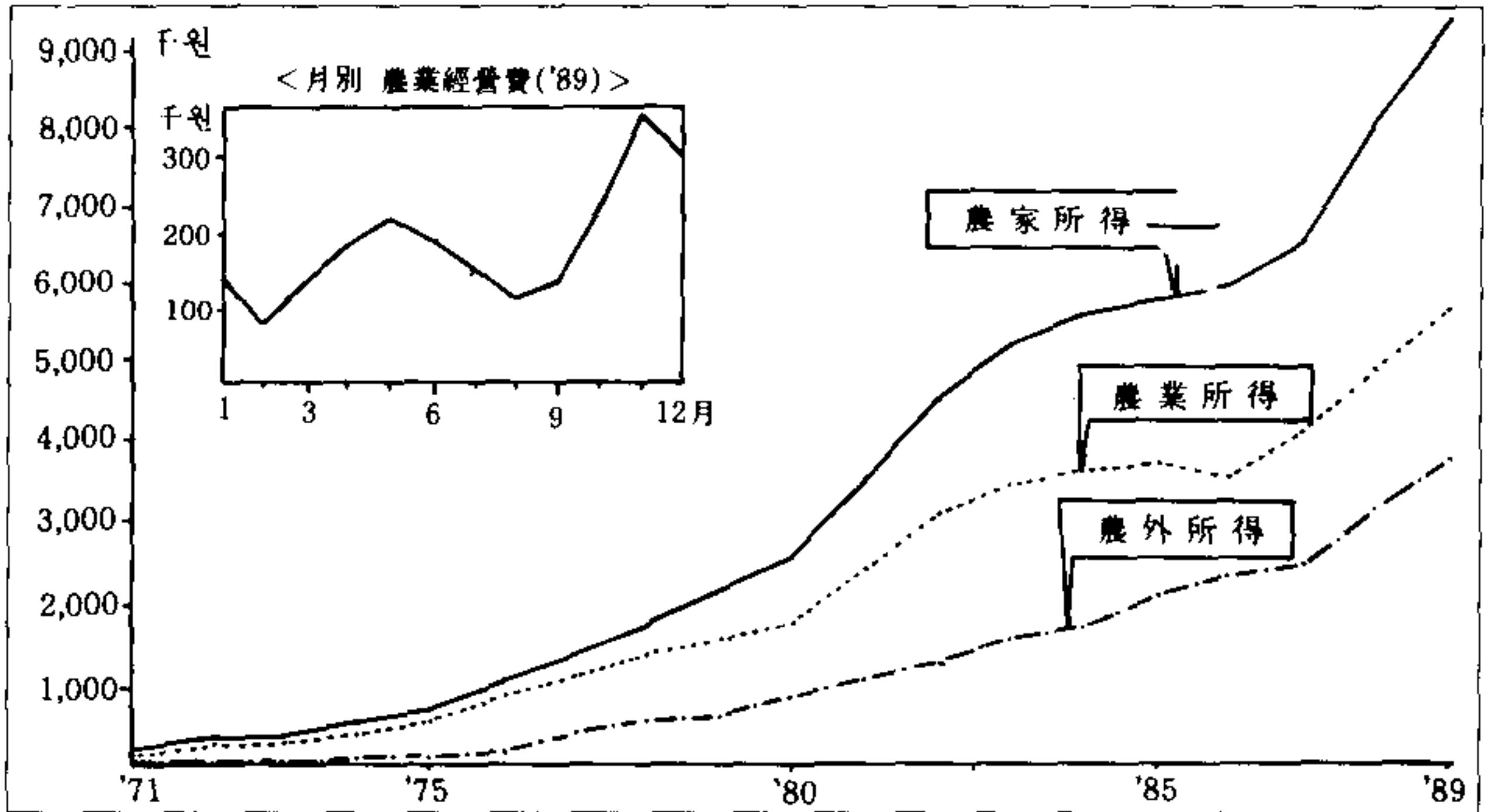
13. 產 業 粗 收 入



(單位：千圓)

	計	農 作 物 收 入					農 作 物 以 外 收 入				
		米 穀	麥 類	菜 蔬	特用作物	其 他	畜產物	養 畜	養蠶·其他		
71	357	318	210	35	22	15	36	39	5	13	21
72	428	378	248	42	24	18	46	50	8	19	23
73	480	421	271	42	18	23	57	60	10	21	29
74	664	585	395	51	43	26	70	80	11	28	41
75	891	784	488	89	66	35	106	107	10	54	43
76	1,166	1,012	655	99	99	40	119	153	15	96	42
77	1,334	1,126	775	38	124	61	128	207	29	141	37
78	1,769	1,484	911	111	198	85	179	285	48	191	46
79	2,027	1,838	1,155	145	239	91	208	180	43	91	55
80	2,342	2,019	1,140	120	379	102	278	323	41	226	56
81	3,269	2,708	1,697	137	418	132	324	526	97	421	44
82	3,998	3,103	1,960	160	476	163	344	895	162	686	47
83	4,702	3,485	2,080	169	552	194	490	1,217	79	1,087	51
84	5,277	4,233	2,477	156	775	241	584	1,044	95	989	51
85	5,477	4,524	2,628	125	950	225	596	953	130	751	72
86	5,619	4,608	2,827	108	781	290	602	1,011	160	762	89
87	5,984	5,024	2,922	130	894	349	729	960	183	711	66
88	7,226	6,195	3,790	165	1,095	286	859	1,031	235	756	40
89	8,212	6,726	4,078	180	1,118	346	1,004	1,486	238	1,199	49

14. 農 家 所 得

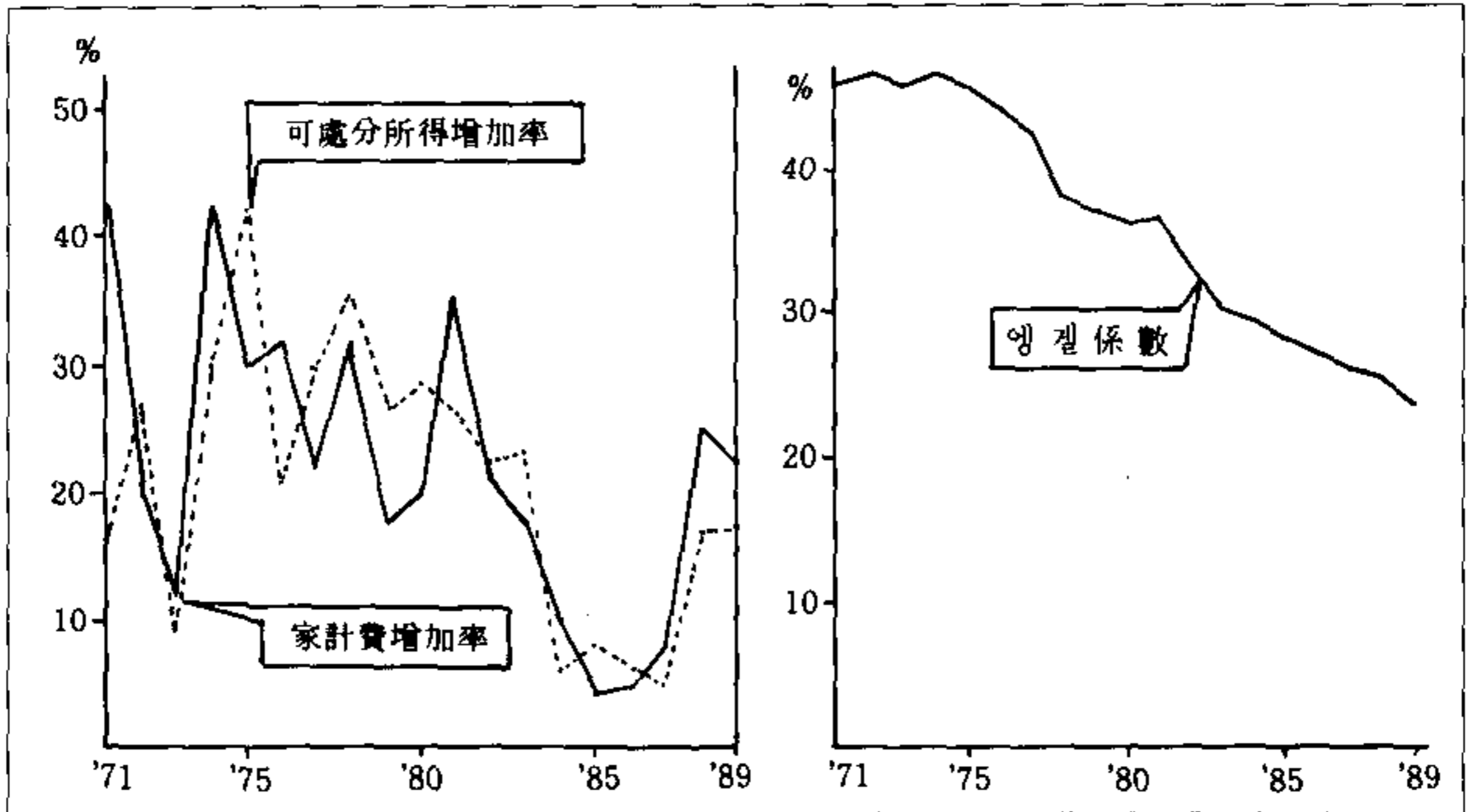


(單位：千圓)

	農家所得	農 業 所 得		農 外 所 得			農外所得 構 成 比		
		農業粗收入	農業經營費	兼業所得	事業外所得	移轉收入			
71	356	292	357	65	64	11	53	—	18.1 %
72	420	353	428	75	76	14	62	—	17.7
73	481	390	480	90	91	16	75	—	18.8
74	674	542	664	122	132	22	110	—	19.6
75	873	715	891	176	158	22	136	—	18.1
76	1,156	921	1,166	245	236	28	207	—	20.3
77	1,433	1,036	1,334	298	397	40	357	—	27.7
78	1,884	1,356	1,769	413	529	45	484	—	28.0
79	2,227	1,531	2,027	496	696	44	652	—	31.2
80	2,693	1,755	2,342	587	938	66	872	—	34.8
81	3,688	2,476	3,269	793	1,211	106	1,105	—	32.8
82	4,465	3,031	3,998	967	1,434	71	1,363	—	32.1
83	5,128	3,331	4,702	1,371	1,797	183	730	884	35.0
84	5,549	3,699	5,276	1,577	1,850	192	763	895	33.3
85	5,736	3,699	5,477	1,778	2,037	214	846	977	35.5
86	5,995	3,677	5,619	1,942	2,318	274	935	1,109	38.7
87	6,535	4,016	5,984	1,968	2,519	281	1,033	1,205	38.5
88	8,130	4,912	7,226	2,314	3,218	354	1,458	1,406	39.6
89	9,437	5,616	8,212	2,596	3,821	455	1,697	1,669	40.5

註：'83년부터 事業以外收入에서 移轉收入을 분리 調査.

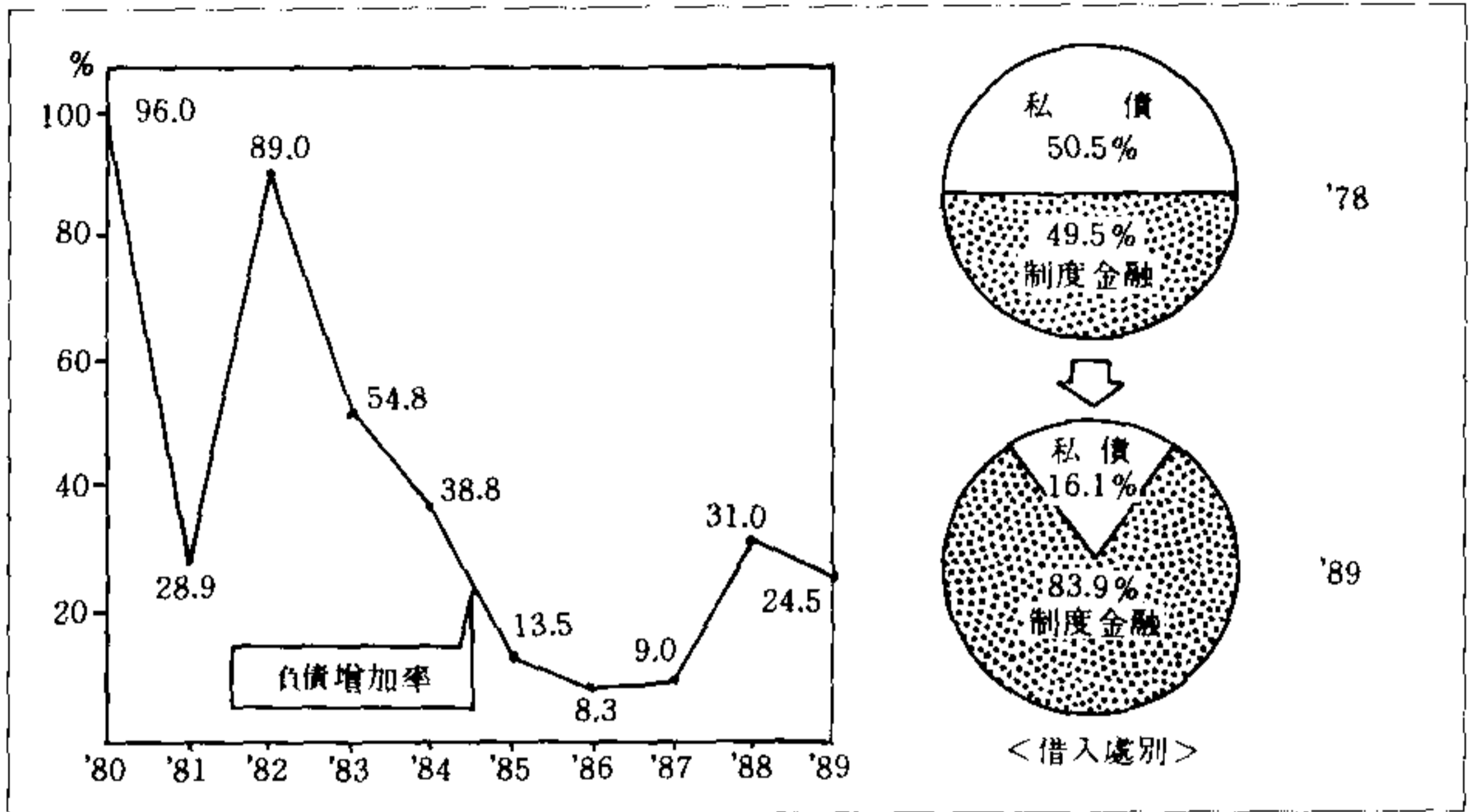
15. 可處分所得 및 家計費



(單位：千圓)

	農家所得	可處分所得	家計費								영겉係數
			飲食物費	住居費	光熱費	被服費	教育費	教養·娛樂費	家計雜費		
71	356	349	244	116	10	20	19	18	2	59	47.4
72	429	422	310	149	18	21	23	20	3	76	48.2
73	481	470	337	160	22	22	25	24	4	80	47.3
74	675	660	436	211	33	31	31	28	6	96	48.4
75	873	853	616	292	43	39	42	38	7	155	47.3
76	1,156	1,127	749	343	57	46	54	58	8	183	45.7
77	1,433	1,387	976	418	77	56	66	79	11	269	42.8
78	1,884	1,826	1,321	505	114	61	93	105	16	427	38.3
79	2,228	2,148	1,662	629	136	74	112	147	26	538	37.8
80	2,693	2,579	2,138	788	144	101	131	200	36	738	36.8
81	3,688	3,542	2,676	1,008	167	126	145	253	44	933	37.7
82	4,465	4,294	3,258	1,086	208	140	168	345	60	1,251	33.3
83	5,128	5,050	4,054	1,233	307	170	183	445	56	1,661	30.4
84	5,549	5,467	4,272	1,258	315	179	179	492	55	1,794	29.4
85	5,736	5,690	4,691	1,333	359	192	190	555	54	2,008	28.4
86	5,995	5,950	4,995	1,371	387	199	189	586	57	2,206	27.4
87	6,535	6,490	5,201	1,401	435	203	214	586	58	2,304	26.9
88	8,130	8,075	6,031	1,582	541	208	269	670	67	2,694	26.2
89	9,437	9,385	7,065	1,692	603	218	321	762	70	3,399	24.0

16. 農 家 負 債



○ 用途別

(單位：千圓)

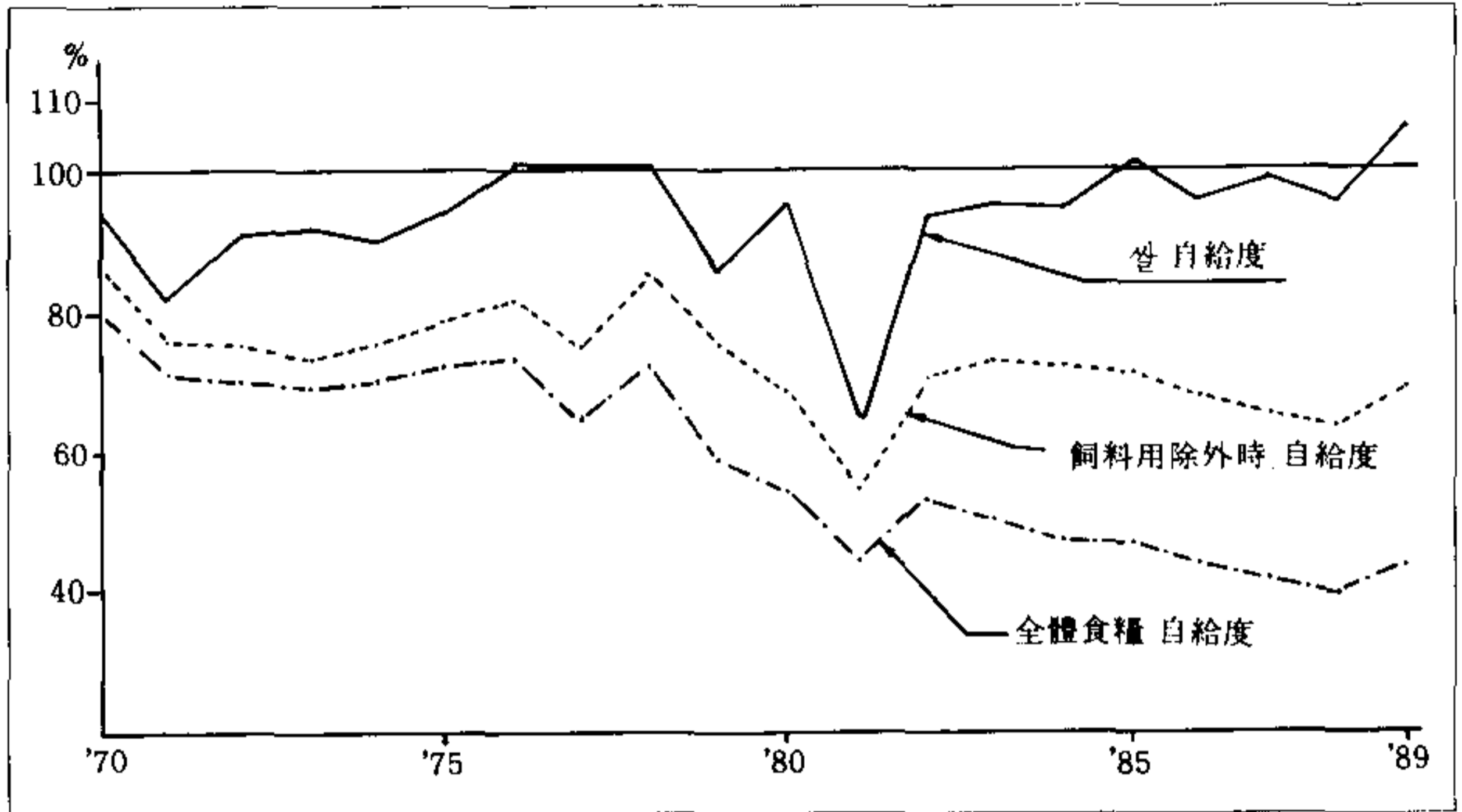
年次	計	生產性負債					消費性負債				負債償還用
		小計	營農設施	營農資材	動物飼料	兼業資金·其他	小計	生計費	教育費	冠婚喪祭·其他	
80	339	206	79	47	36	44	112	40	19	53	21
81	437	260	88	60	52	60	145	44	28	73	32
82	830	509	143	135	130	101	263	64	48	151	58
83	1,285	801	238	243	232	88	361	159	70	132	123
84	1,784	1,140	369	294	336	141	455	195	78	182	189
85	2,024	1,306	419	308	320	259	476	290	97	89	242
86	2,192	1,357	471	314	289	283	537	335	103	99	298
87	2,390	1,446	493	327	266	360	532	339	98	95	412
88	3,131	2,003	658	496	337	512	729	430	163	136	399
89	3,899	2,524	991	577	357	599	868	517	183	168	507

○ 借入處別

(單位：千圓)

年次	計	制度金融			個人
		小計	農協	市中銀行, 其他	
80	339	173	165	8	166
81	437	227	216	11	210
82	830	554	524	30	276
83	1,285	864	823	41	421
84	1,784	1,226	1,148	78	558
85	2,024	1,441	1,337	104	583
86	2,192	1,550	1,436	114	642
87	2,390	1,876	1,718	158	514
88	3,131	2,652	2,511	141	479
89	3,899	3,272	3,069	203	627

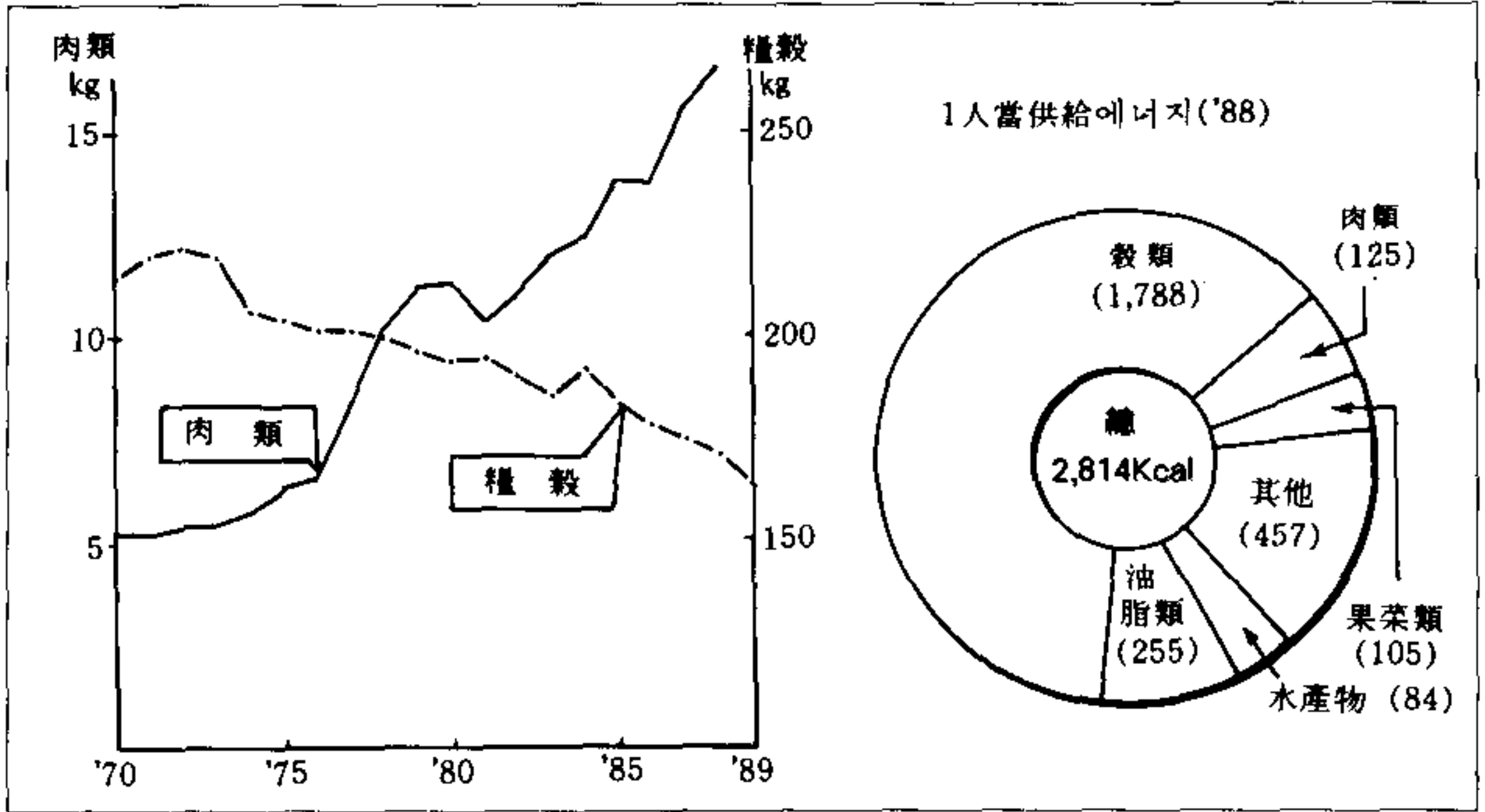
17. 食糧自給度



(單位：%)

	全體	飼料用除外時自給度	쌀	보리쌀	밀	옥수수	豆類	薯類
70	80.5	86.2	93.1	106.3	15.4	18.9	86.1	100.0
71	71.2	76.0	82.5	91.8	11.8	18.6	82.6	100.0
72	70.8	75.8	91.6	93.2	7.3	13.8	85.1	100.0
73	69.4	74.0	92.1	82.9	5.3	12.4	75.2	100.0
74	70.3	75.9	90.8	74.8	4.9	10.3	84.5	100.0
75	73.0	79.1	94.6	92.0	5.7	8.3	85.8	100.0
76	74.1	81.7	100.5	97.9	4.5	6.7	74.4	100.0
77	65.1	74.2	103.4	53.4	2.3	6.2	67.5	100.0
78	72.6	85.8	103.9	119.9	2.1	6.0	59.3	100.0
79	59.8	75.5	85.7	117.3	2.4	3.4	43.4	99.8
80	56.0	69.6	95.1	57.6	4.8	5.9	35.1	100.0
81	43.2	53.9	66.2	72.7	2.7	6.1	29.7	100.0
82	53.0	70.7	93.7	85.9	3.4	4.9	32.4	100.0
83	50.2	73.7	97.6	129.0	6.0	2.8	25.7	100.0
84	48.7	72.3	97.5	103.9	0.6	3.1	23.5	100.0
85	48.4	71.6	103.3	82.6	0.4	4.1	22.5	100.0
86	44.5	68.5	96.9	82.3	0.2	3.5	18.8	100.0
87	41.0	66.5	99.8	97.2	0.1	2.4	16.2	100.0
88	39.4	64.9	97.9	104.5	0.1	2.5	15.6	97.7
89	42.9	69.9	108.1	97.9	0.1	1.8	19.4	97.7
90(P)	40.9	66.7	103.3	91.0	0.1	1.8	20.1	97.5

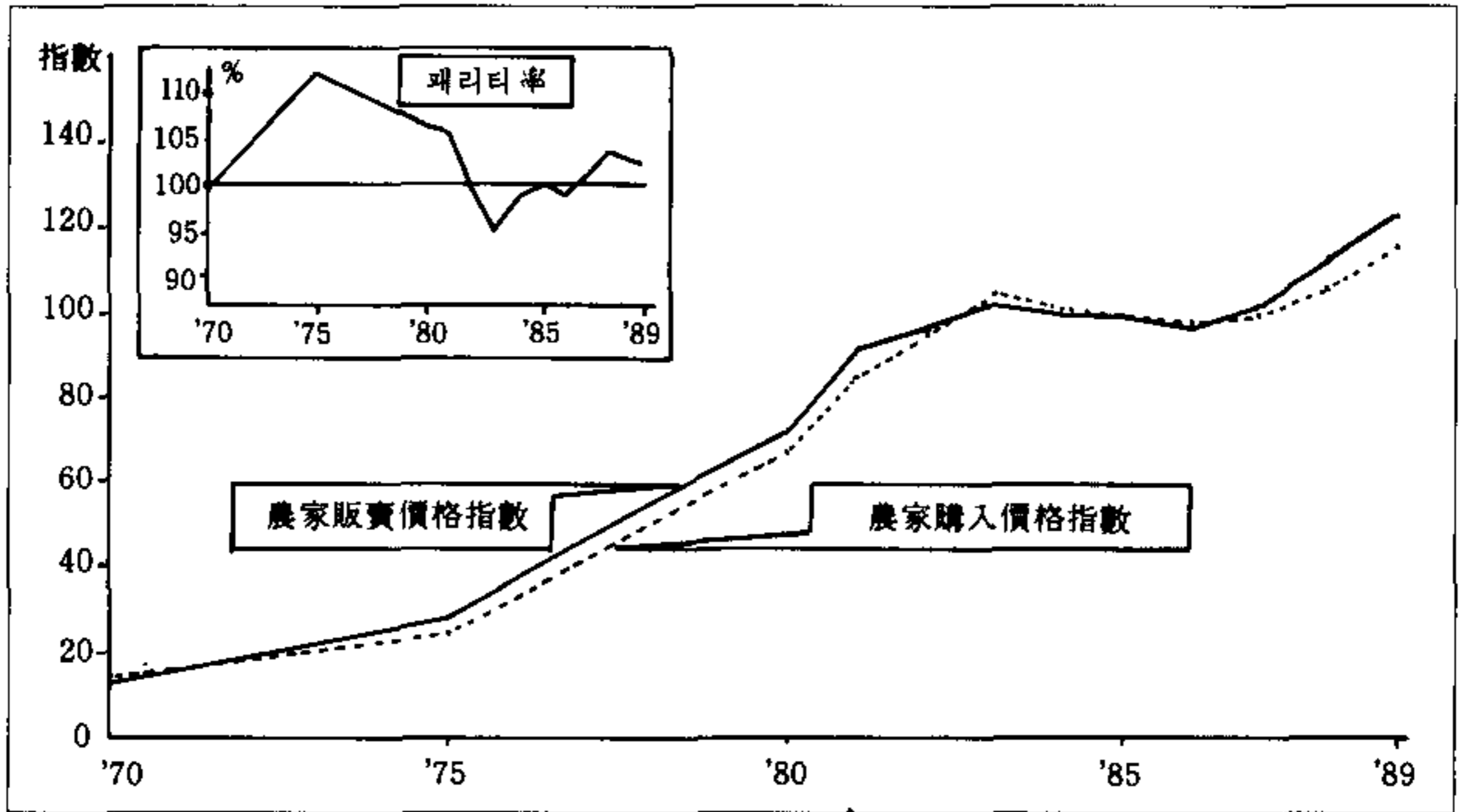
18. 1人當 食品消費量



(單位: kg)

	糧 穀		菜 蔬 類	果 實 類	肉 類	畜 肉 類	牛 乳
	總	쌀					
70	219.4	136.4	59.9	13.1	5.2	1.2	1.6
71	224.3	134.8	67.5	12.3	5.2	1.2	1.4
72	225.9	134.5	62.3	14.6	5.5	1.2	2.1
73	222.1	129.4	58.8	16.1	5.5	1.3	3.7
74	208.8	127.8	65.2	16.8	5.8	1.5	3.6
75	207.3	123.6	62.5	15.0	6.4	2.0	4.6
76	203.5	120.1	68.2	16.7	6.8	2.1	5.5
77	203.9	126.4	62.5	21.1	8.1	2.2	7.0
78	201.5	134.7	104.0	21.6	10.1	3.1	8.8
79	198.8	135.6	122.5	22.8	11.3	3.0	10.0
80	195.1	132.7	120.6	21.8	11.3	2.6	10.8
81	196.0	131.4	124.0	26.4	10.2	2.4	14.4
82	192.2	130.2	130.4	30.3	11.2	2.7	15.1
83	185.2	129.5	110.1	35.0	13.3	2.9	18.3
84	193.5	130.1	102.6	30.2	13.9	2.6	20.6
85	181.7	128.1	98.6	35.5	14.4	2.9	23.8
86	179.0	127.7	114.6	35.1	14.3	3.5	28.2
87	177.4	126.2	109.9	37.0	15.7	3.6	34.4
88	173.1	122.2	115.1	39.9	17.0	3.4	39.4
89	172.0	121.4	113.4	49.2	18.2	3.4	42.2
90(P)	170.6	119.5	118.3	-	18.4	3.4	43.8

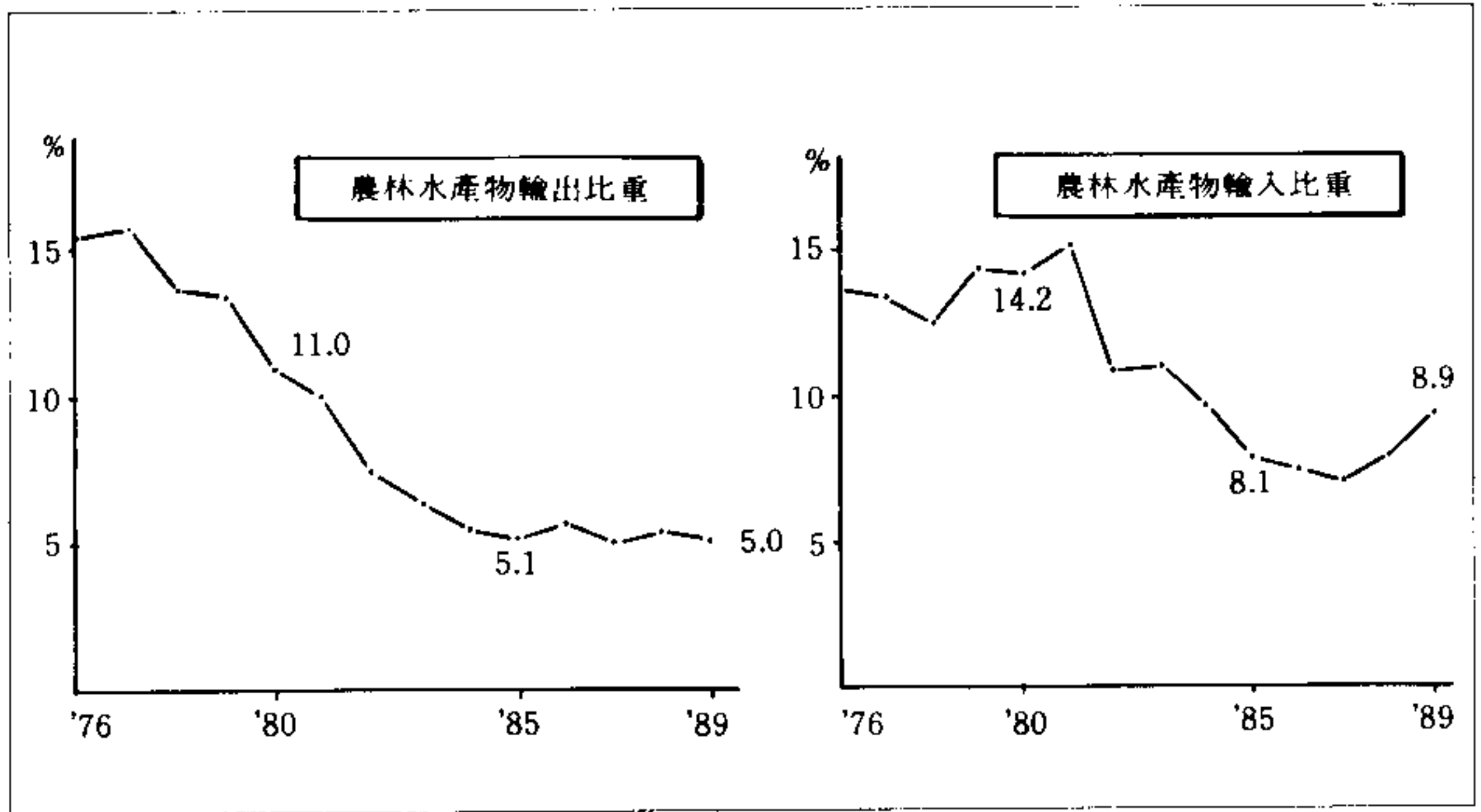
19. 農家交易條件



('85 : 100)

	農家販賣價格指數				農家購入價格指數				農家交易 條件 (패리티)
	總指數	穀物	青果物	畜產物	總指數	家計用品	農業用品	農村 賃料金	
70	10.6	9.2	15.1	10.8	10.7	11.2	12.3	5.8	99.1
75	28.4	27.8	31.5	24.8	25.3	26.7	27.1	15.6	112.3
80	72.4	72.6	74.3	68.6	68.3	68.4	68.7	66.8	106.0
81	92.8	85.7	93.1	105.0	87.8	84.5	96.0	77.5	105.7
82	99.2	88.9	85.6	127.7	98.8	91.7	113.3	86.1	100.4
83	101.5	89.9	72.9	142.1	107.0	95.6	128.9	91.2	94.9
84	100.7	92.4	95.5	120.0	102.5	97.3	112.7	94.9	98.2
85	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
86	97.8	108.2	85.9	91.4	99.4	102.4	94.5	103.5	98.4
87	102.6	113.2	97.1	88.4	101.1	104.8	94.6	108.1	101.5
88	115.5	122.6	109.1	108.2	109.1	110.2	105.1	119.6	105.9
89	122.0	124.8	99.3	134.1	118.6	115.4	118.1	138.7	102.9

20. 農林水產物 輸出入 動向

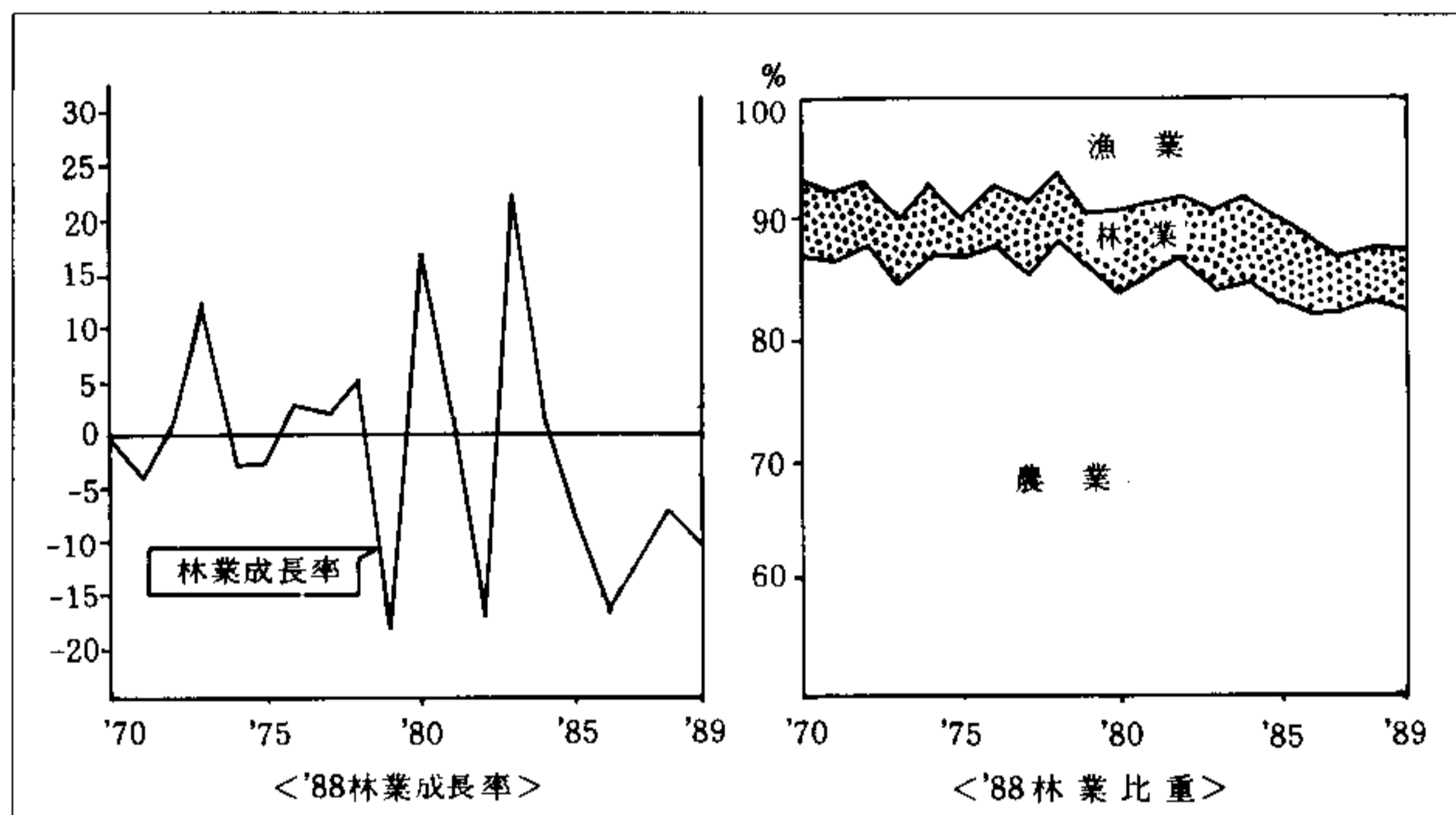


(單位：百萬\$)

區分 年度	輸 出					輸 入				
	總輸出	農 林 水產物	農 產 畜 物	林產物	水產物	總輸入	農 林 水產物	農 產 畜 物	林產物	水產物
76	7,715	1,196	202	460	534	8,774	1,209	765	427	17
77	10,046	1,578	374	549	655	10,811	1,458	903	540	15
78	12,711	1,764	417	657	690	14,972	1,884	1,717	671	42
79	15,055	1,993	400	738	855	20,399	2,917	1,812	1,047	58
80	17,505	1,930	541	629	760	22,292	3,164	2,215	912	37
81	21,254	2,134	571	631	932	26,131	3,939	3,150	729	60
82	21,853	1,671	409	401	861	24,251	2,658	1,900	699	59
83	24,445	1,584	404	353	827	26,192	2,869	2,115	697	57
84	29,245	1,620	442	300	878	30,631	2,852	2,081	703	68
85	30,283	1,543	388	264	891	31,136	2,511	1,791	629	91
86	34,714	2,044	429	333	1,282	31,584	2,537	1,795	624	118
87	47,281	2,610	529	461	1,620	41,020	3,012	1,953	844	215
88	60,696	3,157	705	541	1,911	51,811	4,328	2,716	1,294	318
89	62,377	3,115	781	644	1,690	61,465	5,485	3,652	1,511	322

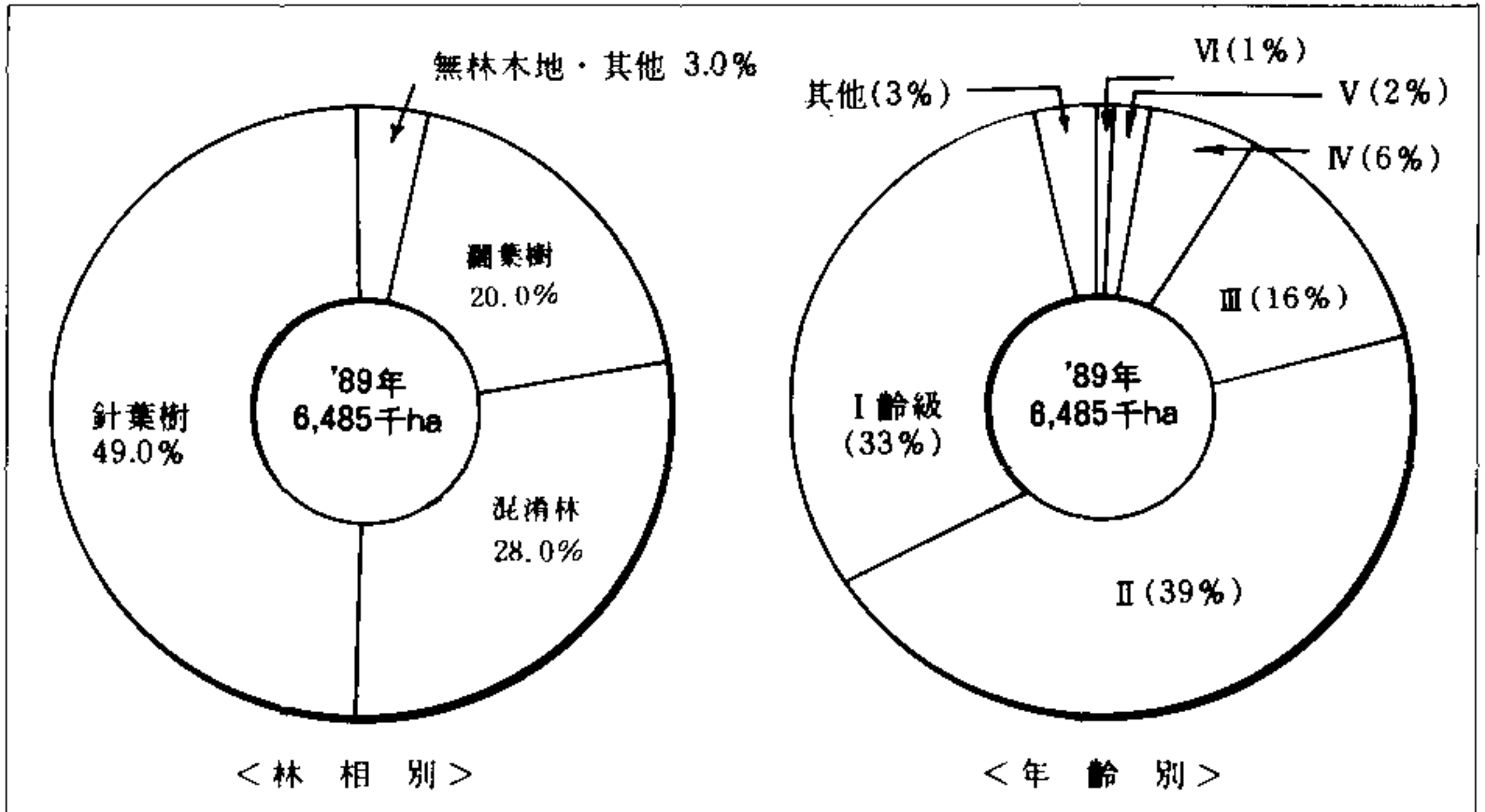
林業部門

1. 林業成長



	農業構造					成長率				
	國民 總生產	農林漁業				國民 總生產	農林漁業			
		農業	林業	漁業	農業		林業	漁業		
	經常10億円					80不變%				
70	2,777	25.8	22.5	1.6	1.7	7.6	△1.4	△2.2	△0.1	19.2
71	3,407	26.6	23.1	1.4	2.0	9.1	3.4	4.1	△4.4	1.3
72	4,178	26.2	23.1	1.3	1.8	5.3	2.0	1.2	1.9	15.6
73	5,356	24.7	20.9	1.4	2.4	14.0	7.1	5.7	12.8	20.8
74	7,565	24.6	21.5	1.4	1.7	8.5	7.1	7.2	△3.6	15.3
75	10,005	24.9	21.8	1.3	1.8	6.8	4.2	5.3	△3.4	2.2
76	13,818	23.5	20.7	1.1	1.7	13.4	10.2	11.2	3.2	1.9
77	17,729	22.3	19.1	1.2	2.1	10.7	3.0	3.1	2.4	2.0
78	23,937	20.4	18.1	1.0	1.8	11.0	△9.9	△11.0	5.0	△5.6
79	30,741	19.1	16.4	1.1	1.8	7.0	7.4	8.9	△18.2	8.9
80	36,750	15.4	13.0	0.9	1.4	△4.8	△19.9	△23.7	17.0	4.1
81	85不變55,354	15.8	13.1	1.1	1.6	85不變6.6	14.3	15.6	1.2	13.8
82	59,322	15.8	13.5	0.9	1.4	5.4	7.4	10.3	△17.2	1.0
83	66,803	15.1	12.9	0.9	1.3	11.9	7.7	7.9	23.2	△2.2
84	73,004	13.7	11.5	0.9	1.3	2.4	△1.5	△2.2	2.1	2.6
85	78,088	13.3	11.5	0.7	1.3	7.0	3.8	4.4	△8.5	6.2
86	88,173	12.3	10.5	0.6	1.2	12.9	4.6	5.0	△15.4	13.5
87	99,611	10.1	8.5	0.5	1.1	12.8	△6.8	△8.0	4.8	△1.3
88	111,980	9.7	8.3	0.4	1.0	12.4	9.0	10.6	△7.7	△0.4
89	119,535	9.1	7.7	0.4	1.0	6.7	△0.7	△1.8	3.2	6.7

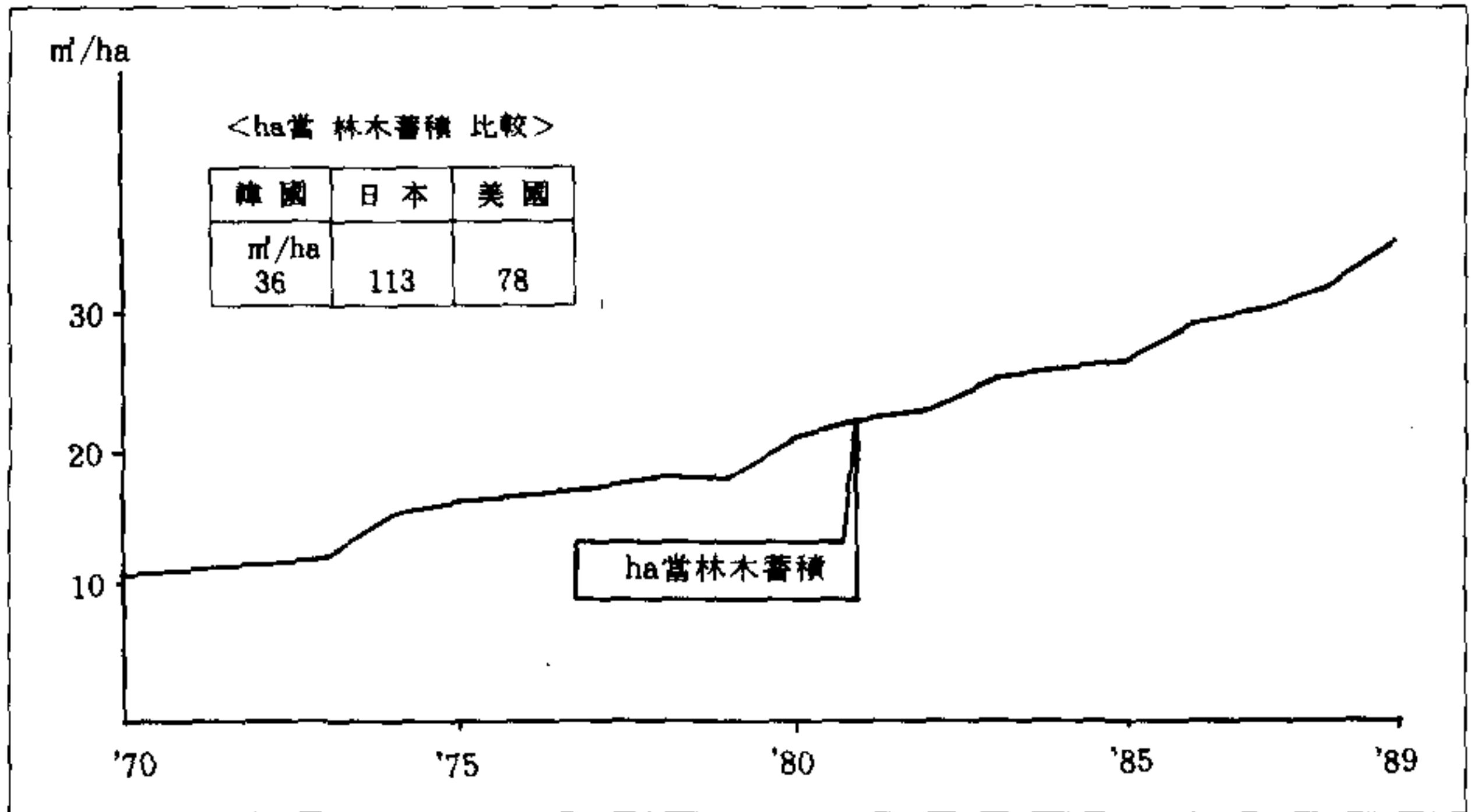
2. 林相別 林野面積



(單位：千ha)

	計	針葉樹	闊葉樹	混淆林	竹林	無立木地	未調査地
70	6,611	3,268	1,207	1,219	6	860	51
71	6,611	3,306	1,209	1,216	7	826	47
72	6,597	3,308	1,208	1,210	7	822	43
73	6,586	3,317	1,217	1,201	7	799	45
74	6,641	3,211	1,038	1,677	4	703	8
75	6,635	3,201	1,099	1,676	4	647	8
76	6,613	3,185	1,147	1,680	4	589	8
77	6,593	3,178	1,182	1,693	4	528	8
78	6,578	3,178	1,229	1,681	4	478	8
79	6,571	3,193	1,252	1,667	5	446	8
80	6,567	3,249	1,148	1,899	5	241	25
81	6,563	3,256	1,150	1,881	5	246	25
82	6,554	3,260	1,159	1,860	5	245	25
83	6,547	3,274	1,157	1,847	5	239	25
84	6,539	3,280	1,161	1,832	5	242	19
85	6,531	3,281	1,158	1,823	5	245	19
86	6,624	3,270	1,182	1,831	5	217	19
87	6,489	3,269	1,187	1,835	5	184	19
88	6,491	3,234	1,265	1,784	5	184	19
89	6,485	3,191	1,292	1,790	6	187	19

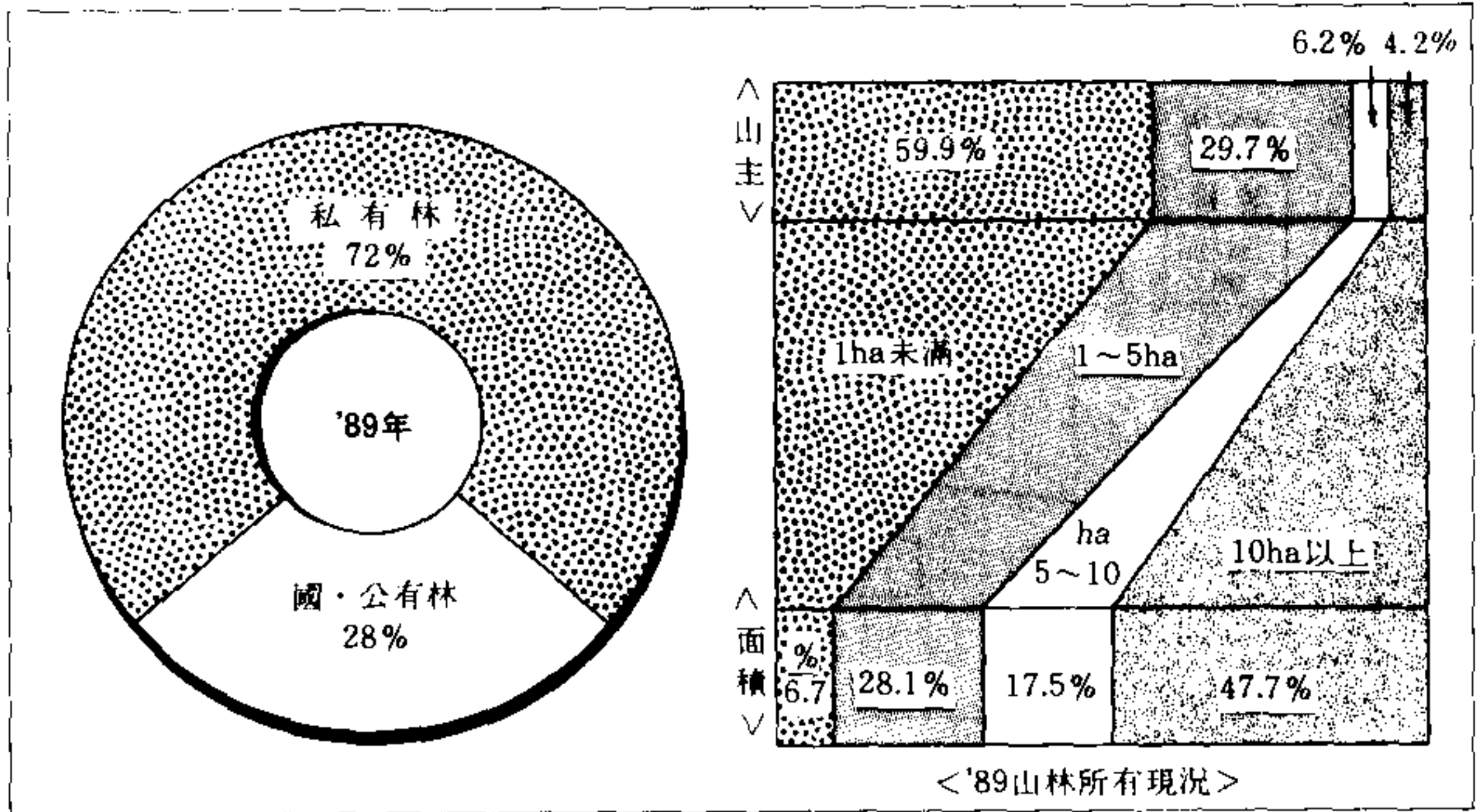
3. 林 木 蓄 積



(單位：千m³)

	計	國 有 林	公 有 林	私 有 林	ha當 林木蓄積
70	68,773	34,307	5,041	29,425	10.32
71	70,770	35,306	5,234	30,230	10.61
72	72,696	36,450	5,475	30,772	10.93
73	74,466	37,342	5,692	31,432	11.21
74	102,458	43,781	6,963	51,714	16.43
75	105,343	44,893	7,218	53,232	15.88
76	108,161	46,024	7,483	54,665	16.35
77	111,011	47,208	7,748	56,055	16.84
78	114,006	48,422	8,058	57,526	17.33
79	117,281	49,740	8,345	59,196	17.85
80	145,694	57,295	10,033	78,366	22.18
81	151,550	59,177	10,492	81,881	23.09
82	157,756	61,398	10,981	85,377	24.07
83	164,382	63,557	11,503	89,302	25.10
84	171,946	66,283	12,094	93,569	26.29
85	179,381	68,665	12,661	98,055	27.47
86	192,931	72,289	13,657	108,985	29.57
87	200,802	75,000	14,302	111,000	30.90
88	216,359	77,855	15,712	122,792	33.33
89	233,970	81,319	17,044	135,577	36.08

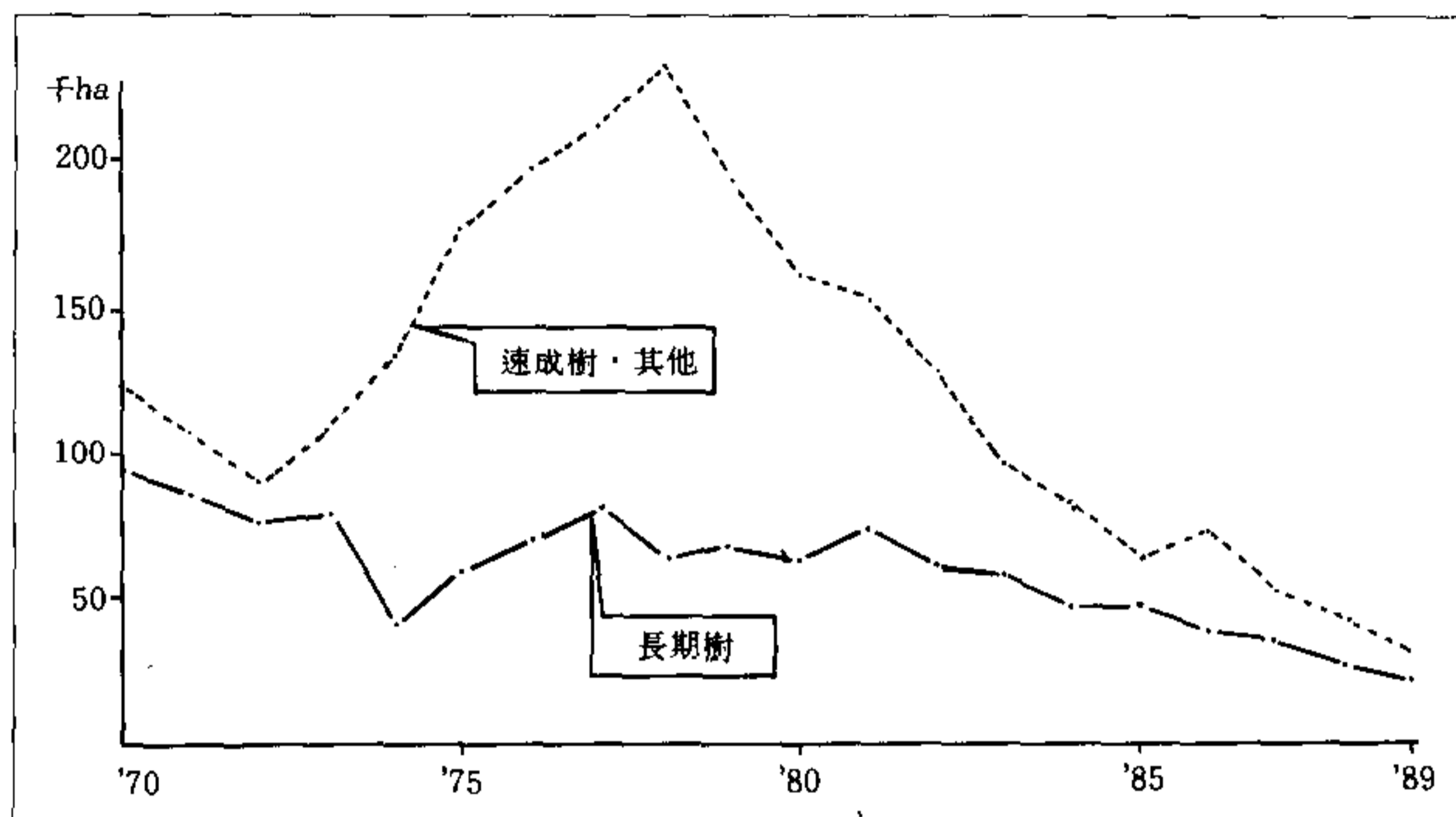
4. 山林所有構造



(單位：千ha)

	計	面積		
		國有林	公有林	私有林
70	6,611	1,276	489	4,846
71	6,611	1,285	490	4,836
72	6,597	1,287	497	4,813
73	6,586	1,292	496	4,798
74	6,641	1,304	510	4,827
75	6,635	1,310	506	4,819
76	6,613	1,309	503	4,801
77	6,593	1,308	502	4,783
78	6,578	1,308	501	4,769
79	6,571	1,307	501	4,763
80	6,567	1,314	520	4,733
81	6,563	1,310	520	4,733
82	6,554	1,314	518	4,722
83	6,547	1,315	518	4,714
84	6,539	1,318	513	4,708
85	6,531	1,314	512	4,705
86	6,524	1,318	508	4,698
87	6,499	1,320	486	4,693
88	6,491	1,319	488	4,684
89	6,485	1,333	491	4,642

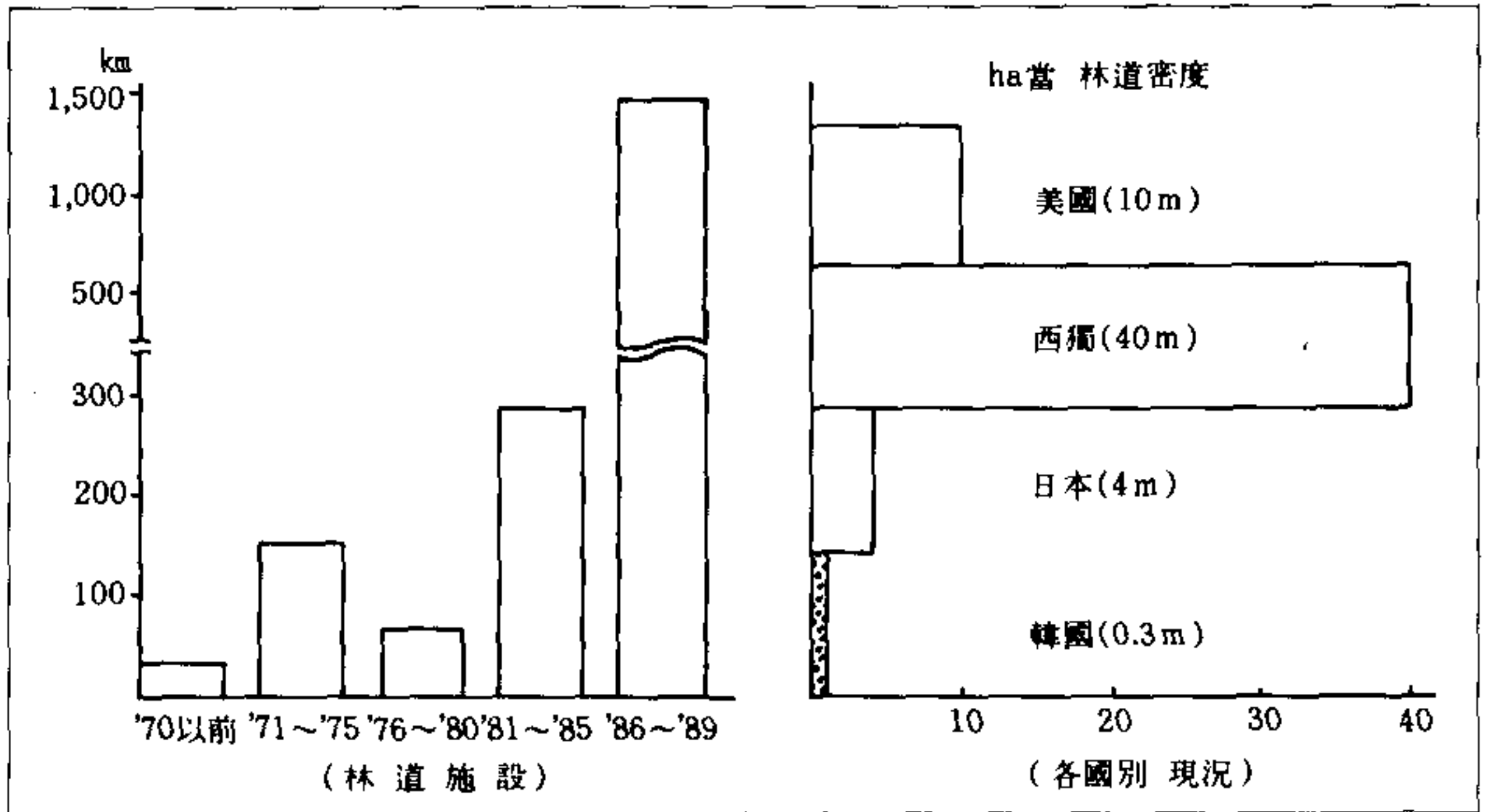
5. 樹種別 造林實績



(單位：千ha, 百萬本)

年度	計		長期樹		有實樹		速成樹		其他	
	面積	本數	面積	本數	面積	本數	面積	本數	面積	本數
70	125	318	95	292	12	5	15	7	3	14
71	109	272	83	255	20	8	5	3	1	6
72	89	229	73	218	12	7	3	1	1	5
73	112	311	79	259	19	11	4	3	10	42
74	135	352	48	184	25	10	32	16	30	141
75	174	562	52	166	24	15	57	200	41	186
76	204	600	60	183	39	12	55	158	50	244
77	226	711	70	217	31	8	48	80	77	402
78	229	423	64	194	20	3	145	180	—	41
79	189	308	67	202	8	1	114	55	—	48
80	166	281	65	196	3	1	98	51	—	33
81	153	273	71	214	2	1	80	38	—	20
82	136	257	63	189	3	1	61	30	9	37
83	94	210	61	180	3	1	28	16	2	13
84	72	175	48	144	2	1	21	13	—	17
85	52	137	49	117	1	1	11	5	—	14
86	53	139	41	124	3	1	9	4	—	10
87	51	135	40	121	3	1	8	4	—	9
88	46	126	38	115	2	1	6	3	—	7
89	36	102	30	92	2	1	4	2	—	7

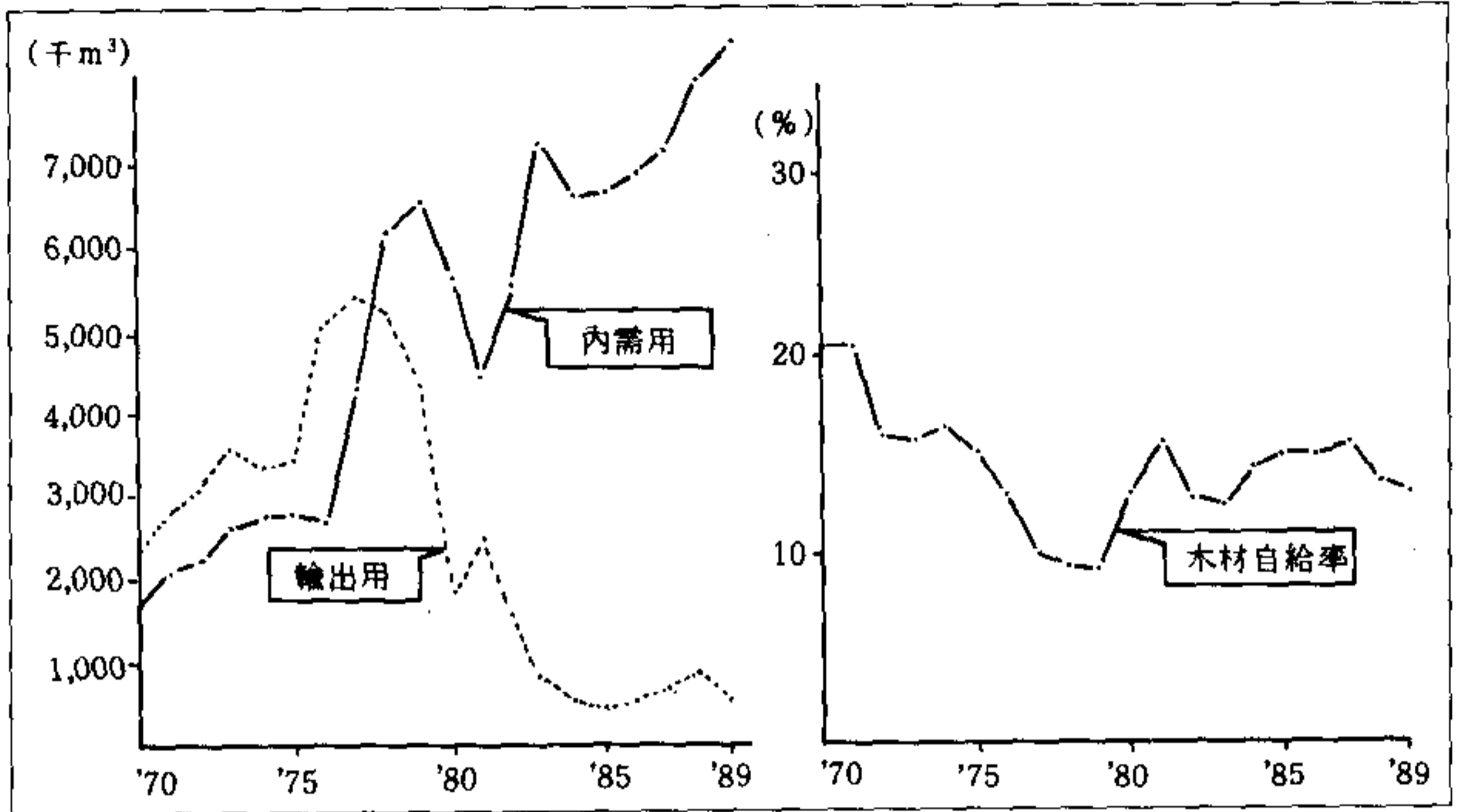
6. 林 道



(單位：千圓)

年 度	施 設 量			投 資 額			
	計	國有林	民有林	計	國 庫	地方費	自負擔
'70 以前	37 km	37	—	22,628	22,628	—	—
'71~'75	123	123	—	540,538	540,538	—	—
'76~'80	64	64	—	454,756	454,756	—	—
'81~'85	247	42	205	4,764,767	2,139,735	1,901,089	723,943
'86	231	41	190	4,188,969	2,061,525	1,348,409	709,037
'87	305	47	258	5,726,227	2,744,934	1,973,991	1,007,302
'88	377	100	277	7,389,59	4,034,250	2,279,996	1,075,313
'89	547	169	378	10,842,522	6,585,680	2,857,792	1,399,050

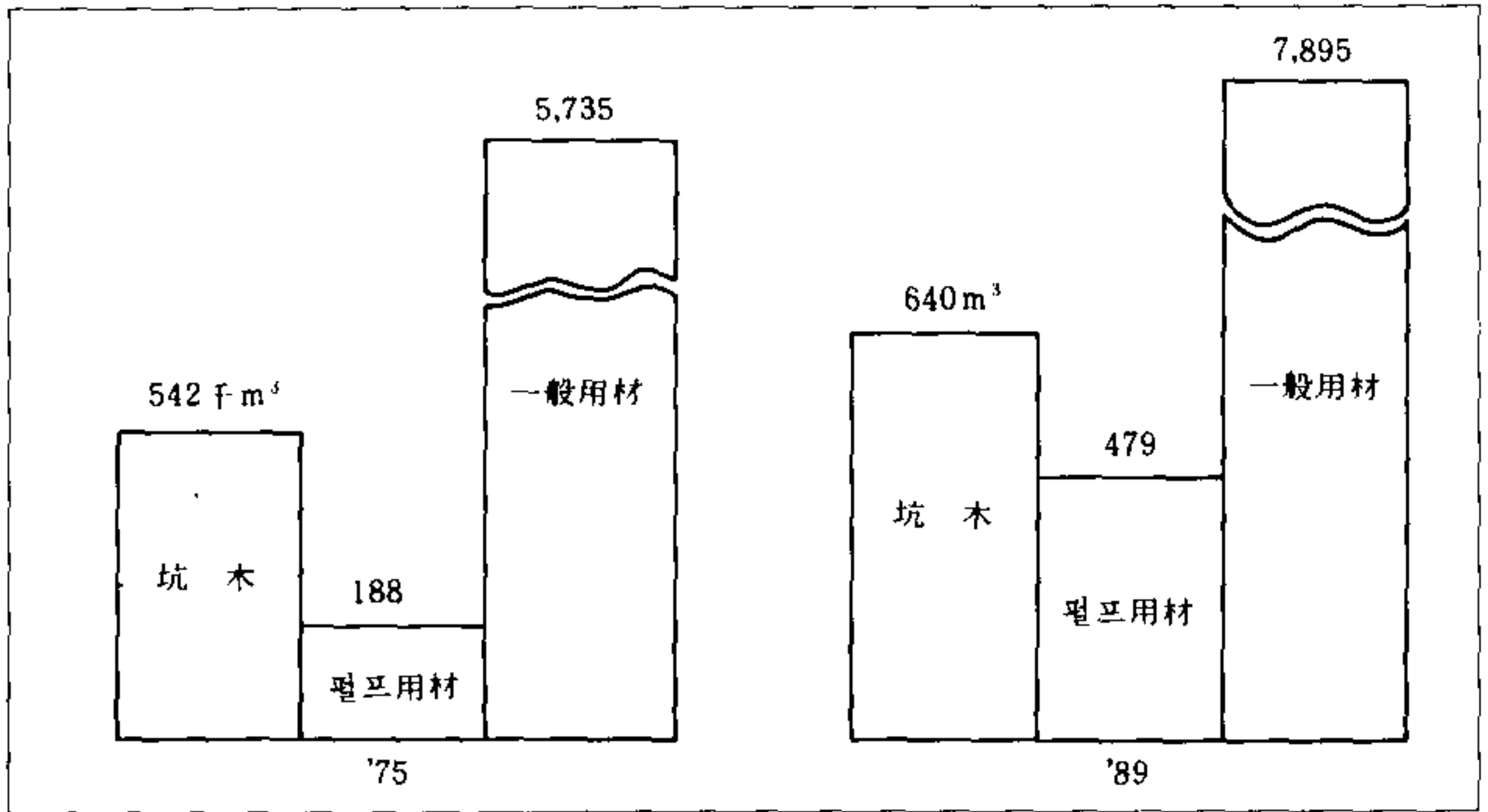
7. 木 材 需 給



(單位：千m³)

年度	需 要			供 給				自給率 (%)
	計	内需用	輸出用	原 木 供 給			廢 殘 材 利 用	
				計	内 材	外 材		
70	4,000	1,713	2,287	4,000	845	3,155	—	21
71	5,060	2,192	2,868	4,772	1,016	3,756	288	21
72	5,348	2,293	3,055	4,949	782	4,167	399	16
73	6,412	2,782	3,630	5,945	943	5,002	467	16
74	6,356	2,873	3,483	5,799	969	4,830	557	17
75	6,465	2,889	3,576	6,0126	896	5,119	450	15
76	7,825	2,700	5,125	7,266	943	6,323	559	12
77	9,817	4,406	5,411	8,834	1,047	7,807	983	10
78	11,611	6,346	5,265	10,423	996	9,427	1,188	9
79	10,940	6,616	4,324	10,038	952	9,086	902	9
80	7,750	5,785	1,965	7,149	1,008	6,141	601	13
81	7,265	4,585	2,680	6,688	1,130	5,558	577	16
82	7,417	5,661	1,756	6,772	1,157	5,615	645	13
83	8,302	7,340	962	7,625	1,101	6,524	677	13
84	7,472	6,727	745	6,891	1,118	5,773	581	15
85	7,321	6,792	529	6,766	1,188	5,578	555	16
86	7,582	6,996	586	7,014	1,242	5,772	568	16
87	8,532	7,186	716	7,850	1,388	6,462	686	17
88	8,565	8,153	412	8,565	1,246	7,319	(760)	15
89	9,014	8,448	566	9,014	1,227	7,787	(556)	14

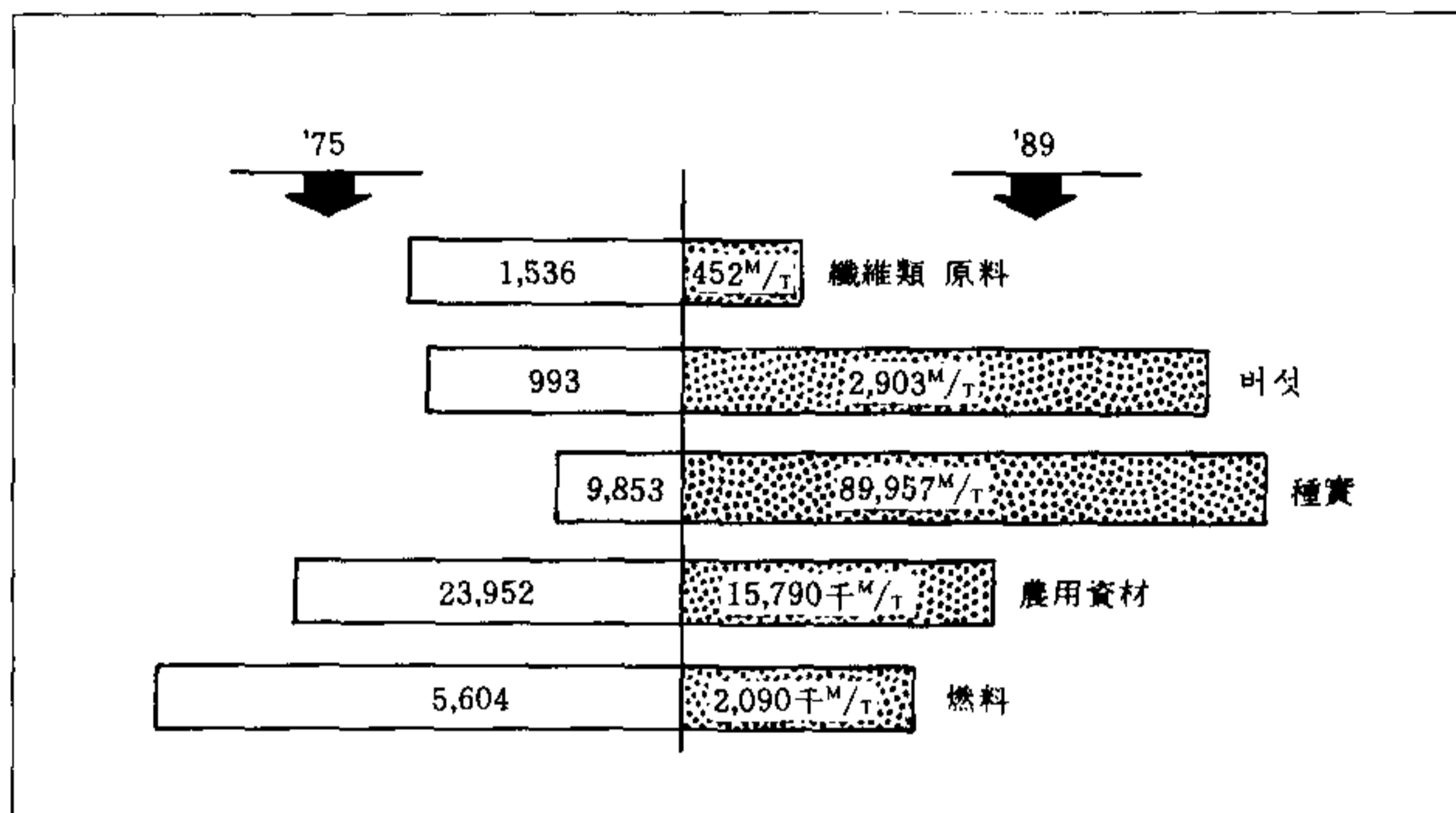
8. 用途別 木材供給実績



(單位：Fm³)

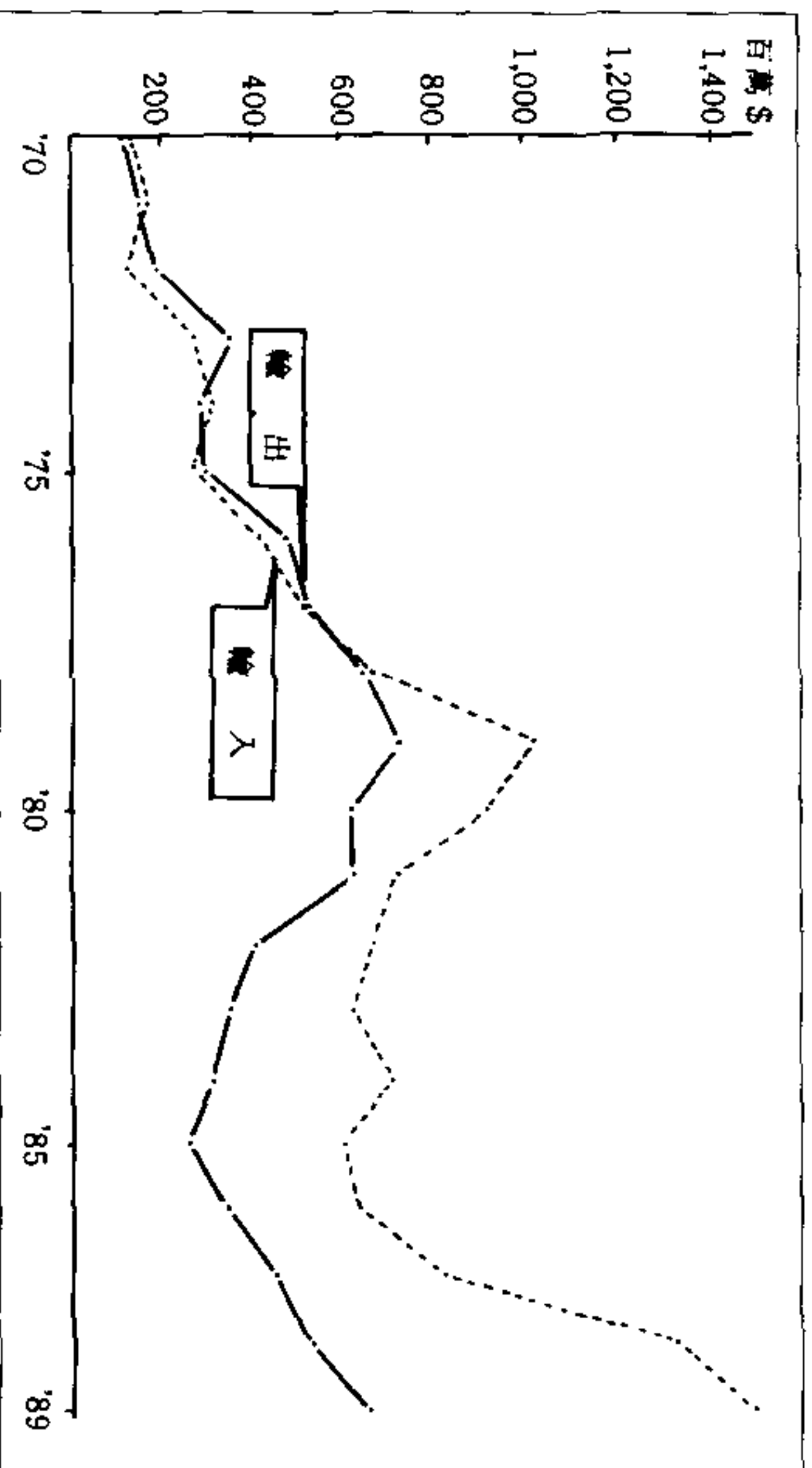
	合計			坑木			펄프材			一般用材		
	計	内材	外材	計	内材	外材	計	内材	外材	計	内材	外材
70	4,000	845	3,155	450	450	—	206	206	—	3,344	189	3,155
71	5,060	1,034	4,026	470	470	—	265	265	—	4,325	299	4,026
72	5,348	795	4,553	395	395	—	216	216	—	4,737	184	4,553
73	6,412	959	5,453	418	418	—	204	204	—	5,790	337	5,453
74	6,356	1,000	5,356	456	456	—	239	239	—	5,661	305	5,356
75	6,465	908	5,557	542	542	—	188	188	—	5,735	178	5,557
76	7,825	959	6,866	498	498	—	254	254	—	7,073	207	6,866
77	9,817	1,047	8,770	534	534	—	241	241	—	9,042	272	8,770
78	11,611	1,013	10,598	617	617	—	313	313	—	10,681	83	10,598
79	10,940	958	9,982	626	626	—	233	206	27	10,081	126	9,955
80	7,710	1,013	6,737	515	515	—	546	393	113	6,689	105	6,584
81	7,265	1,201	6,064	628	628	—	497	287	210	6,140	286	5,854
82	7,417	1,252	6,165	650	639	11	546	339	207	6,221	274	5,947
83	8,302	1,143	7,159	635	663	2	533	317	216	7,134	193	6,941
84	7,472	1,160	6,312	685	683	2	536	290	246	6,251	187	6,064
85	7,321	1,236	6,085	719	719	—	583	293	290	6,019	224	5,795
86	7,582	1,287	6,295	772	772	—	613	323	290	6,197	192	6,005
87	8,532	1,487	7,045	909	909	—	655	326	319	6,968	252	6,716
88	8,565	1,246	7,319	769	769	—	385	334	51	7,411	143	7,268
89	9,014	1,227	7,787	640	640	—	479	475	4	7,895	112	7,783

9. 主要山林 副產物 生產



	燃 料		農用資材		種 實		버 섯		纖維類原料	
	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額	物 量	金 額
	千 ^M /T	百萬원	千 ^M /T		M/T		M/T		M/T	
70	6,353	11,378	26,183	27,618	8,334	971	419	413	441	239
75	5,604	27,493	23,952	67,855	9,853	7,426	993	4,087	1,536	1,041
76	5,037	28,151	23,794	73,953	11,095	7,860	798	4,453	1,381	901
77	4,926	31,481	25,373	104,664	21,581	21,303	1,054	7,831	1,617	1,747
78	5,084	38,037	26,233	132,031	32,950	26,893	1,844	15,050	1,284	1,349
79	4,713	41,601	18,472	11,898	44,271	44,185	1,545	12,199	1,008	1,106
80	4,700	48,402	25,495	258,721	45,455	45,925	1,528	16,401	821	1,196
81	4,443	51,937	25,560	318,428	66,459	45,944	1,833	17,526	730	1,062
82	4,343	83,891	19,057	265,706	70,861	73,963	1,725	15,401	933	861
83	4,404	120,058	26,692	388,650	77,841	48,892	3,497	34,406	961	1,255
84	3,990	113,764	29,414	428,272	74,089	63,928	2,745	29,156	725	762
85	3,181	97,381	26,345	402,814	80,393	64,521	3,067	38,237	653	586
86	2,816	93,291	22,124	372,349	66,078	67,579	2,090	40,132	540	478
87	2,968	94,100	20,030	336,997	66,935	105,192	2,222	50,047	484	511
88	2,607	92,620	19,064	369,082	88,185	116,251	2,056	50,744	427	519
89	2,090	80,608	15,790	340,417	89,957	134,474	2,903	59,928	452	669

10. 林產物輸出入



年 度	輸 出		輸 入	
	計	合 板	計	木 材
70	110,130千\$	102,396	126,725千\$	125,451
71	150,581	138,724	162,139	160,995
72	197,027	175,236	132,629	131,223
73	352,041	286,439	285,410	283,590
74	270,272	188,888	315,572	312,572
75	293,666	228,754	271,253	269,190
76	459,914	347,589	417,997	415,298
77	549,218	389,000	540,039	533,375
78	656,864	411,954	670,750	660,795
79	737,588	447,928	1,047,386	1,036,526
80	629,036	352,199	912,086	899,155
81	630,972	391,645	706,205	686,169
82	400,701	210,126	697,545	673,541
83	353,413	109,857	629,263	666,266
84	300,428	66,579	705,211	667,229
85	263,564	39,807	615,708	580,459
86	332,813	57,103	624,252	596,570
87	460,934	56,017	843,755	809,800
88	541,853	32,549	1,304,661	1,254,696
89	643,894	30,886	1,533,706	1,463,250

정 오 표

페이지	쪽	오	정
76	上 6	'90. 4. 8 일	'89. 4. 8
76	上 8	'90. 4.28 에는	'89. 4.28 일에는
77	上 13	('90.12)	('89.12)

1990年度 農業動向에 관한 年次報告書

1990年 9月 日 印刷
 1990年 9月 日 發行

發行 : 大韓民國 農林水産部
 編輯 : 農林水産部 企劃管理室
 印刷 : 京津文化印刷株式會社

737-2101~5

〈非賣品〉